

前 沖 遺 跡

(主)太田大間々線(BP)地方特定道路整備事業並びに住宅宅地関連
公共施設整備促進事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 第2集

2 0 0 4

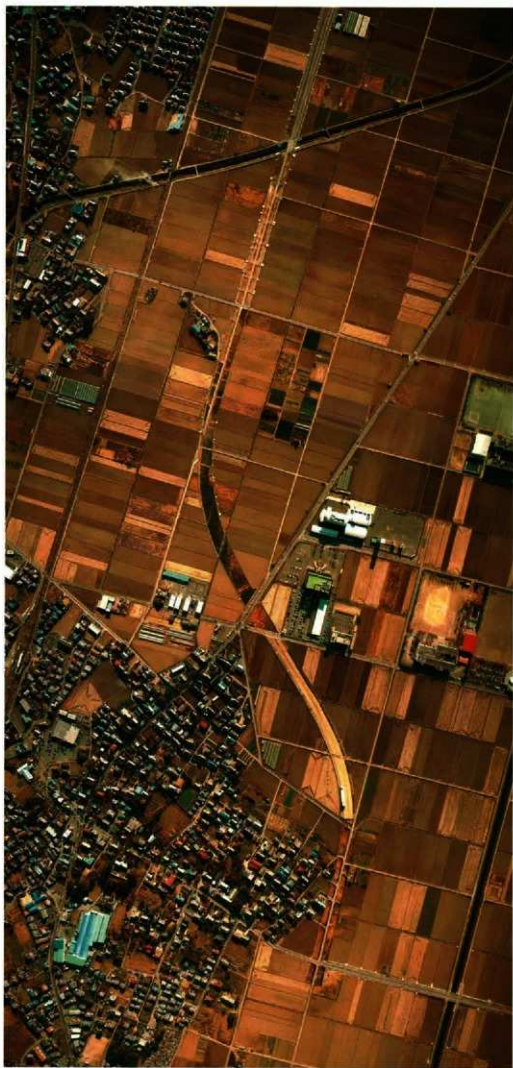
群 馬 県 土 木 部
財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団

前 沖 遺 跡

(主)太田大間々線(BP)地方特定道路整備事業並びに住宅宅地関連
公共施設整備促進事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 第2集

2 0 0 4

群 馬 県 土 木 部
財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団



口 1



序

前沖遺跡は、群馬県太田市西北部の大島町・鳥山下町に所在し、主要地方道太田大間々線の改築工事に伴い、群馬県土木部の委託を受け群馬県教育委員会の調整のもと、平成12～13年度に発掘調査が行われました。

主要地方道太田大間々線は、太田市に端を発し、藪塚本町・笠懸町・桐生市を通り大間々町を結ぶ県南東部の基幹的な地方道であります。近年の交通量の増加による慢性的な交通渋滞の発生と、併せて近接の太田市新野町に大規模住宅団地造成が計画されていることもあって、新たなバイパス道の建設計画が持ち上がりました。この第1期工事分の工事工程に合わせ、県土木部・県教育委員会・事業団による協議の結果、埋蔵文化財の発掘調査に着手することとなりました。

調査の結果、古墳時代～平安時代に至る集落跡や天仁元（1108）年の浅間山噴火に伴う火山灰で埋没した水田跡などの遺構と、これらに伴う多くの出土遺物が発見されました。特に水辺の祭祀跡を伴う古墳時代後期集落跡、また、後の新田荘開発につながる浅間火山灰下の水田跡などは貴重な資料の発見と言えます。

調査に続き、平成15年度には整理作業を実施し、ここに調査報告書の刊行と相成りました。

遺跡の発掘調査から本報告書の刊行に至るまでには、群馬県土木部道路建設課、太田土木事務所、群馬県教育委員会、太田市教育委員会をはじめとする諸機関並びに地元関係者の皆様に大変なご尽力を賜りました。ここに心から感謝申し上げますとともに、本報告書や調査資料が広く歴史の究明に活用されますことを念願し、序といたします。

平成16年3月

財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団

理事長 小野 宇三郎

例 言

1、本報告書は、平成12～14年度に行われた（主）太田大間々線（バイパス）の建設に伴う「前沖遺跡」の発掘調査報告であり、同事業に伴い調査された「年保遺跡」・「鳥山下遺跡」については、既に報告書が刊行されている。建設事業と発掘調査遺跡・調査区の関係については、後記別表を参照されたい。

2、遺跡は、群馬県太田市大島町・鳥山下町に所在する。

3、事業主体 群馬県土木部道路建設課、太田土木事務所

4、調査主体 財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団

5、調査期間 平成12年9月1日～平成14年3月31日（年保・鳥山下遺跡との並行調査）

6、調査組織

理事長 小野宇三郎（平成12・13年度）

常務理事 吉田 豊（平成12・13年度）、赤山容造（平成12年度事務局長兼任・平成13年度）

調査研究部長 能登 健（平成12・13年度）

調査研究第三課長 中東耕志（平成12年度）

東毛調査事務所 所長 水田 稔（平成13年度）

東毛調査事務所 調査研究部長 津金沢吉茂（平成13年度）

東毛調査事務所 調査研究第一課長 佐藤明人（平成13年度）

事務担当 小山健夫、笠原秀樹、須田朋子、吉田有光、柳岡良宏、森下弘美、片岡徳雄、田中賢一、

大沢友治、吉田恵子、並木綾子、今井もと子、内山佳子、佐藤美佐子、本間久美子、

北原かおり、狩野真子、若田 誠、松下次男、吉田 茂、藤原正義

調査担当 平成12年度 主幹兼専門員 新倉明彦、主任調査研究員 亀山幸弘

調査研究員 小林大悟 嘱託員 小宮山達雄

平成13年度 主幹兼専門員 新倉明彦、専門員 齊藤和之・庭山邦幸

調査研究員 田村 博

7、整理主体 財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団

8、整理期間 平成15年4月1日～平成16年3月31日

9、整理組織

理事長 小野宇三郎

常務理事 住谷永市

事業局長 神保佑史

調査研究部長 右島和夫 管理部長 萩原利通

資料整理課長 相京健史 総務課長 植原恒夫

事務担当 竹内 宏、高橋房雄、国定 均、須田朋子、吉田有光、阿久沢玄洋、田中賢一、

今井もと子、内山佳子、佐藤美佐子、本間久美子、北原かおり、狩野真子、若田 誠、

松下次男、吉田 茂

整理担当 専門員 新倉明彦

整理補助員 高橋順子、平林照美、茂木範子、千代谷和子、矢野純子、阿久津久子

器械実測 整理補助員 富沢スミ江、伊藤博子、岸 弘子、廣津真希子

木器処理 整理嘱託員 横倉知子、整理補助員 大野容子

保存処理 主幹 関 邦一、嘱託員 土橋まり子、整理補助員 小村浩一

10、本報告書の作成担当

編集・執筆	専門員 新倉明彦
遺物観察	縄文土器・石器 調査研究員 田村 博、その他 新倉明彦
遺物写真撮影	主幹 佐藤元彦
遺構写真撮影	前記発掘調査担当者
分析等委託	石材鑑定 群馬地質研究会 飯島静男 火山灰・プラントオパール分析 (株)古環境研究所 早田 勉 航空写真撮影 (株)パスコ、(株)シン技術コンサル 地上測量 小出測量設計事務所

11、出土遺物並びに測量図・写真等の記録類は、すべて群馬県埋蔵文化財調査センターに保管されている。今後、研究・教育等各面での幅広い活用が望まれる。

12、発掘調査時から本報告書作成に至る間、群馬県教育委員会・太田市教育委員会・群馬県土木部道路建設課・太田土木事務所をはじめ、関係機関の多大な協力をいただいた。また、宮田毅氏・天笠洋一氏(太田市教育委員会)、坂爪久純氏(境町教育委員会)には現地において検出遺構・出土遺物についてご指導・ご教示をいただいた。記して感謝の意を表したい。

また、猛暑・極寒の厳しい気候時においても発掘調査に従事していただいた発掘作業員各位に感謝の意を表したい。

遺跡・調査区・事業一覧表

遺跡名	年保遺跡				前沖遺跡				鳥山下遺跡				
所在地	群馬県太田市大島町				群馬県太田市大島町・鳥山下町				群馬県太田市鳥山下町				
事業名	(主)太田大間々線(BP)住宅地関連公共施設整備促進事業に伴う埋蔵文化財発掘調査				(主)太田大間々線(BP)地方特定道路整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査								
区	1区	2区	3区	5区	4区	6区	7区	8区	9区	10区			
表面積	900㎡	600㎡	900㎡	800㎡	4,035㎡	5,967㎡	4,018㎡	2,043㎡	2,664㎡	2,850㎡			
調査期間	平成12年9月1日～平成13年3月31日					平成13年4月1日～平成14年3月31日							
調査担当者	主幹兼専門員 新倉明彦 主任調査研究員 亀山幸弘 囑託員 小宮山達雄			主幹兼専門員 新倉明彦 主任調査研究員 亀山幸弘 調査研究員 小林大祐 囑託員 小宮山達雄		主幹兼専門員 新倉明彦 専門員 芳澤和之 鳥山邦幸 調査研究員 田村 博		主幹兼専門員 新倉明彦 調査研究員 田村 博		主幹兼専門員 新倉明彦 調査研究員 坂井 隆 調査研究員 斉藤幸男 調査研究員 田村 博 調査研究員 西原和久			
調査経緯	工事工程上、八瀬川放水路橋脚基礎工事を優先するため、放水路両岸にあたる1・2・3区を先行して調査			1～3区調査終了後に調査		一部用地の取用の都合から、本年度後半に調査		谷地部は湧水のため調査不可。試掘調査のみを実施		工事工程上、橋脚基礎工事の取付のため調査不可。試掘調査のみを実施		7区終了後に調査	縦断する現道にかかるとの遺構を一部、本工事時(平成14年5月)に追加調査
報告書	第321集「年保遺跡・鳥山下遺跡」			本報告書掲載							「年保遺跡・鳥山下遺跡」		

凡 例

1、遺構番号

本報告書に用いた遺構番号は、遺構測量原図・出土遺物注記等との整合性を保つために原則として発掘調査時に付した番号を踏襲したため、一部において欠番が生じた。また、逆に調査時の誤りにより重複した番号については、整理時に新たな番号を付し、()内に旧番号を記した。

2、主軸と方位

本報告書の遺構図・全体図に記された方位記号の示す北は、磁北ではなく座標上の真北を示し、主軸角度等の計算においてもこれを基準として用いた。

3、図の縮尺

本報告書に掲載の挿図の縮尺は、原則として下記のとおりとし、例外については挿図内に縮尺を記した。また、挿図に用いたトーンは下記を表す。

遺構実測図 竪穴住居跡 1:60 掘立柱建物跡 1:60 土坑・井戸跡 1:40
住居跡カマド跡 1:30 溝跡平面図 1:100 溝跡断面図 1:40・1:100



粘 土



焼 土



炭化物

遺物実測図 土 器 1:3 石製品 1:3 大型石製品 1:6
小型土・石製品 1:2 小型石製品 1:1



内黒土器



附着炭化物



磨り面

4、写真図版

遺物写真は、原則として1:4の縮尺とし、大型品は1:6、小型品は1:2・1:1の縮尺を用いた。

5、色 調

遺構土層断面および遺物観察表に記した色調表現は、農林水産省農林水産技術会議事務局・財団法人日本色彩研究所色票監修「新版標準土色帖」に拠った。

6、地形図

本報告書で使用した地形図は下記のとおりである。

国土地理院 地勢図 1/200,000 「宇都宮」
国土地理院 地形図 1/25,000 「桐生」「上野境」
太田市都市計画図 1/5,000

目 次

扉	
口絵1	
口絵2	
序	
例言	
凡例	
目次	
遺構別索引(挿図・図版目次)	
I発掘調査の経過	
1、調査に至る経緯	1
2、調査の経過	3
II調査の方法	
1、調査区の設定	6
2、遺構名称	6
3、調査の手順	6
4、基本土層	8
III周辺の環境	
1、地理的環境	9
2、歴史的環境	11
IV遺構と遺物	
1、遺跡の概要	17
2、遺構と遺物	
(1) 竪穴住居跡	19
(2) 掘立柱建物跡	158
(3) 井戸跡	159
(4) 土坑跡	169
(5) 溝跡・水田跡	190
(6) 遺構外出土遺物	
4区遺構外出土遺物	280
6区水辺祭祀跡	288
6区遺構外出土遺物	297
7区遺構外出土遺物	318
8区遺構外出土遺物	329
V自然科学分析	
1、火山灰分析	331
2、プラント・オパール	341
VIまとめ	
1、まとめ	353
報告書抄録	354
写真図版	
検出遺構	PL.1
出土遺物	PL.79
付 図 4・5・6・7・8区全体図	S=1/500

遺構別掲載頁一覧

竪穴住居跡

区	遺構名	本文	遺構実測図	遺物実測図	遺物観察表	遺構写真	遺物写真	備考
	1~20号住居跡	—	—	—	—	—	—	1~30(年保遺跡)
6区	21号住居跡	P19	P20	—	—	PL-16・17	—	
6区	22号住居跡	P19	P20	P21~22	P22~23	PL-16・17	PL-79・80	
6区	23号住居跡	P19	P20	P24~25	P25	PL-16~18	PL-80	
7区	24号住居跡	P26	P26~27	P27~28	P28	PL-23・24	PL-80・81	
7区	25号住居跡	P29	P29~30	P30	P30~31	PL-24・25	PL-81	
7区	26号住居跡	P31	P31~33	P34	P34	PL-25~26	PL-81	
7区	27号住居跡	P35	P35	P36	P36~37	PL-25~28	PL-81	
7区	28号住居跡	P37	P37~38	P38	P38	PL-27~28	PL-82	
7区	29号住居跡	P37	P37~38	P38	P38	PL-27~29	PL-82	
7区	30号住居跡	P38	P39~40	P40	P40	PL-29	PL-82	
7区	31号住居跡	P41~42	P41~42	P42~43	P43~44	PL-30・32	PL-82	
7区	32号住居跡	P44	P41~44~46	—	—	PL-30~32	—	
7区	33号住居跡	P46~47	P47~48	P49	P49~50	PL-31~33	PL-82	
7区	34号住居跡	P50	P51	P51	P52	PL-34	PL-83	
7区	35号住居跡	P52	P52~53	P53~54	P55	PL-34・35	PL-83	
7区	36号住居跡	P50	P51	—	—	PL-35	—	
7区	37号住居跡	P55	P56~57	P58	P58	PL-35・36	PL-83	
7区	38号住居跡	P74~75	P75	P76	P76	PL-36	PL-85	
7区	39号住居跡	P59	P59~60	P60	P61	PL-36	PL-84	
7区	40号住居跡	P61	P62	P63	P63~64	PL-36~38	PL-84	
7区	41号住居跡	P64	P64	P65	P65	PL-38	PL-84	
7区	42号住居跡	P65	P66	—	—	PL-38	—	
7区	43号住居跡	P67~68	P68~69	P70	P70~71	PL-37~39	PL-85	
7区	44号住居跡	P69	P68~69	P71	P71	PL-37~39	PL-85	
7区	45号住居跡	P72	P72~73	P73~74	P74	PL-39~41	PL-85	
7区	46号住居跡	P74	P75	P76	P76	PL-40~42	PL-85	
—	47号住居跡	—	—	—	—	—	—	欠番
7区	48号住居跡	P76~77	P77~78	P78~80	P80~81	PL-42・43	PL-86	
7区	49号住居跡	P81	P82	P82~83	P83~84	PL-43	PL-86・87	
7区	50号住居跡	P84	P84	—	—	—	—	
7区	51号住居跡	P69~70	P68	P71	P72	PL-43・44	PL-85	
7区	52号住居跡	P85	P85	—	—	PL-44	—	
7区	53号住居跡	P85	P86	—	—	PL-44	—	
7区	54号住居跡	P86	P86	—	—	PL-44	—	
7区	55号住居跡	P87	P87~88	P88~89	P90	PL-45	PL-87	
7区	56号住居跡	P90	P90	—	—	PL-45	—	
7区	57号住居跡	P91	P91	—	—	PL-45	—	
7区	58号住居跡	P91	P92~93	P93~95	P95~96	PL-45・46	PL-88	
7区	59号住居跡	P96	P97	—	—	PL-46	—	
7区	60号住居跡	P97	P98	P99~100	P100	PL-46	PL-89	
7区	61号住居跡	P101	P101~102	P102	P102	PL-37・46	PL-89	
7区	62号住居跡	P102	P103~104	P104	P104	PL-46・47	PL-89	
7区	63号住居跡	P104	P105	P105	P106	PL-47	PL-89	
7区	64号住居跡	P106	P106~107	P107	P108	PL-47	PL-89・90	
7区	65号住居跡	P108	P109~111	P111	P112	PL-47	PL-90	
7区	66号住居跡	P112~113	P113	P114	P115	PL-48	PL-90・91	
—	67号住居跡	—	—	—	—	—	—	欠番
7区	68号住居跡	P115	P116	P117	P117	PL-48	PL-91	
7区	69号住居跡	P116	P116	P117	P118	PL-48	PL-91	
7区	70号住居跡	P118	P118	P119	P119	PL-48	PL-91	
7区	71号住居跡	P119~120	P119~120	P120~122	P122~123	PL-49	PL-91・92	P124に重複関係模式図
7区	72号住居跡	P124	P125~128	P128~131	P131~133	PL-49~52	PL-92~94	P124に重複関係模式図
7区	73号住居跡	P133	P134~135	P135~136	P136~137	PL-52	PL-94・95	P124に重複関係模式図
7区	74号住居跡	P138	P139~140	—	—	PL-52	—	P124に重複関係模式図
7区	75号住居跡	P138	P139~140	P141~143	P143~144	PL-52	PL-95・96	P124に重複関係模式図
7区	76号住居跡	P144	P145~146	P146~147	P147~148	PL-53	PL-96	
7区	77号住居跡	P144	P145	P147	P148	—	PL-96	
—	78号住居跡	—	—	—	—	—	—	欠番
—	79号住居跡	—	—	—	—	—	—	欠番
—	80号住居跡	—	—	—	—	—	—	欠番
7区	81号住居跡	P148	P149~150	P150	P150	PL-53	PL-96	

遺構別掲載頁一覧

区	遺構名	本文	遺構実測図	遺物実測図	遺物観察表	遺構写真	遺物写真	備 考
7区	82号住居跡	P149	P149～150	P151	P152	PL-54・55	PL-96・97	
-	83号住居跡	-	-	-	-	-	-	欠番
-	84号住居跡	-	-	-	-	-	-	欠番
7区	85号住居跡	P101	P101～102	-	-	PL-37・46	-	
7区	86号住居跡	P152～153	P153～155	P156	P157	PL-55～57	PL-97	
-	90～111号住居跡	-	-	-	-	-	-	9・10区(鳥山下遺跡)

掘立柱建物跡

区	遺構名	本文	遺構実測図	遺物実測図	遺物観察表	遺構写真	遺物写真	備 考
-	1～6号掘立柱建物跡	-	-	-	-	-	-	1～3区(年保遺跡)
4区	7号掘立柱建物跡	P158	P158・213	-	-	PL-9	-	解図18
-	8～13号掘立柱建物跡	-	-	-	-	-	-	9・10区(鳥山下遺跡)

竪穴状遺構

区	遺構名	本文	遺構実測図	遺物実測図	遺物観察表	遺構写真	遺物写真	備 考
7区	1号竪穴状遺構	P157	P157	-	-	PL-58	-	
7区	2号竪穴状遺構	P65	P66	-	-	PL-58	-	42号住居跡同一平面図
7区	3号竪穴状遺構	P65～66	P66	P67	P67	PL-58	PL-84・85	
7区	4号竪穴状遺構	P66	P66	-	-	PL-38	-	

井戸跡

区	遺構名	本文	遺構実測図	遺物実測図	遺物観察表	遺構写真	遺物写真	備 考
-	1～3号井戸跡	-	-	-	-	-	-	1～3区(年保遺跡)
7区	4号井戸跡	P159	P93・159	P159	P159	PL-59	PL-98	
7区	5号井戸跡	P161	P161～162	P162～166	P166～167	PL-59	PL-98～100	
7区	6号井戸跡	P159	P159	P160	P160～161	PL-60	PL-98	
8区	7号井戸跡	P167	P167	-	-	PL-73	-	
8区	8号井戸跡	P168	P168	-	-	-	-	
-	9～12号井戸跡	-	-	-	-	-	-	9・10区(鳥山下遺跡)

土坑跡

区	遺構名	本文	遺構実測図	遺物実測図	遺物観察表	遺構写真	遺物写真	備 考
-	1～29号土坑跡	-	-	-	-	-	-	1～3区(年保遺跡)
7区	30号土坑跡	P169	P174	-	-	PL-60	-	
7区	31号土坑跡	P169	P174	-	-	PL-60	-	
7区	32号土坑跡	P169	P174	-	-	PL-60	-	
7区	33号土坑跡	P169	P174	-	-	PL-60	-	
7区	34号土坑跡	P169	-	-	-	PL-61	-	
7区	35号土坑跡	P169	P174	-	-	PL-61	-	
7区	36号土坑跡	P169	P174	-	-	PL-61	-	
-	37号土坑跡	-	-	-	-	-	-	欠番(25住柱穴に変更)
-	38号土坑跡	-	-	-	-	-	-	欠番(25住柱穴に変更)
7区	39号土坑跡	P169	P174	-	-	PL-61	-	
7区	40号土坑跡	P169	P174	-	-	PL-61	-	
7区	41号土坑跡	P169	P175	-	-	PL-61	-	
7区	42号土坑跡	P170	P175	-	-	PL-61	-	
7区	43号土坑跡	P170	P175	-	-	PL-61	-	
-	44号土坑跡	-	-	-	-	-	-	欠番(25住柱穴に変更)
7区	45号土坑跡	P170	P175	-	-	PL-62	-	
7区	46号土坑跡	P170	P175	-	-	PL-62	-	
7区	47号土坑跡	P170	P175	-	-	PL-62	-	
7区	48号土坑跡	P170	P175	-	-	PL-62	-	
7区	49号土坑跡	P170	P176	-	-	PL-62	-	
7区	50号土坑跡	P170	P176	-	-	PL-62	-	
7区	51号土坑跡	P170	P176	-	-	PL-62	-	
7区	52号土坑跡	P170	P176	-	-	PL-62	-	
7区	53号土坑跡	P170	P176	-	-	PL-63	-	
7区	54号土坑跡	P170	P176	-	-	PL-63	-	
7区	55号土坑跡	-	-	-	-	-	-	欠番
7区	56号土坑跡	P170	P176	-	-	PL-63	-	
-	57号土坑跡	-	-	-	-	-	-	欠番(37住柱穴に変更)
7区	58号土坑跡	P170	P177	-	-	PL-63	-	
7区	59号土坑跡	P170	P177	-	-	-	-	

遺構別掲載頁一覧

区	遺 構 名	本 文	遺構実測図	遺物実測図	遺物調査表	遺構写真	遺物写真	備 考
7K	60号土坑跡	--	--	--	--	--	--	欠番
7K	61号土坑跡	--	--	--	--	--	--	欠番
7K	62号土坑跡	P170	P177	--	--	--	--	
7K	63号土坑跡	P170	P177	--	--	--	--	
7K	64号土坑跡	P170	P177	--	--	--	--	
7K	65号土坑跡	P170	P177	--	--	--	--	
7K	66号土坑跡	P170	P177	--	--	--	--	
7K	67号土坑跡	P170	P177	--	--	--	--	
7K	68号土坑跡	P170	P177	--	--	--	--	
7K	69号土坑跡	P170	P177	--	--	--	--	
7K	70号土坑跡	P171	P177	--	--	--	--	
7K	71号土坑跡	P171	P178	--	--	PL-63	--	
7K	72号土坑跡	P171	P178	--	--	PL-63	--	
7K	73号土坑跡	--	--	--	--	--	--	24住田カマドに変更
7K	74号土坑跡	--	--	--	--	PL-63	--	
7K	75号土坑跡	--	--	--	--	PL-63	--	
7K	8176号土坑跡	--	--	--	--	PL-64	--	(櫛木版)
7K	77号土坑跡	P171	P178	--	--	PL-64	--	
7K	78号土坑跡	P171	P178	--	--	PL-64	--	
7K	79号土坑跡	P171	P178	P178	P178	PL-64	PL-100	
7K	80号土坑跡	P171	P179	--	--	PL-64	--	
7K	81号土坑跡	P171	P179	--	--	PL-64	--	
7K	82号土坑跡	P171	P179	--	--	PL-64	--	
7K	83号土坑跡	P171	P179	--	--	PL-64	--	
7K	84号土坑跡	P171	P179	--	--	PL-65	--	
7K	85号土坑跡	P171	P179	--	--	PL-65	--	
7K	86号土坑跡	P171	P179	--	--	PL-65	--	
7K	87号土坑跡	P171	P180	--	--	PL-65	--	
7K	88号土坑跡	P171	P180	P180	P180	PL-65	PL-100	
7K	89号土坑跡	P171	P180	--	--	PL-65	--	
7K	90号土坑跡	P171	P180	--	--	PL-65	--	
7K	91号土坑跡	P171	P181	--	--	PL-65	--	
7K	92号土坑跡	P171	P181	--	--	PL-65	--	
7K	93号土坑跡	P171	P181	--	--	PL-66	--	
7K	94号土坑跡	P171	P181	--	--	PL-66	--	
7K	95号土坑跡	P171	P181	--	--	PL-66	--	
7K	96号土坑跡	P171	P181	--	--	PL-66	--	
7K	97号土坑跡	P171	P98	--	--	PL-66	--	60号住居内
7K	98号土坑跡	P108 - 172	P109~111	P111	P112	PL-66	PL-100	65号住居内
--	99号土坑跡	--	--	--	--	--	--	欠番
7K	100号土坑跡	P172	P181	P181	P181	PL-66	PL-100	
7K	101号土坑跡	P172	P182	--	--	PL-66	--	
7K	102号土坑跡	P172	P182	--	--	PL-67	--	
7K	103号土坑跡	P172	P182	--	--	PL-67	--	
7K	104号土坑跡	P172	P182	--	--	PL-67	--	
7K	105号土坑跡	P172	P182	--	--	PL-67	--	
7K	106号土坑跡	P172	P182	--	--	PL-67	--	
7K	107号土坑跡	P172	P183	--	--	PL-67	--	
7K	108号土坑跡	P172	P183	--	--	PL-67	--	
7K	109号土坑跡	P172	P183	--	--	PL-67	--	
7K	110号土坑跡	P172	P183	P183	P183	PL-68	PL-100	
7K	111号土坑跡	P172	P183	--	--	PL-68	--	
7K	112号土坑跡	P172	P183	--	--	PL-68	--	
7K	113号土坑跡	--	--	--	--	PL-68	--	
7K	114号土坑跡	P172	P184	--	--	PL-68	--	
7K	115号土坑跡	P172	P184	--	--	PL-68	--	
7K	116号土坑跡	P172	P184	--	--	PL-68	--	
7K	117号土坑跡	P172	P184	P184	P184	PL-69	PL-100	
7K	118号土坑跡	P172	P184	--	--	PL-69	--	
7K	119号土坑跡	P172	P184	--	--	PL-69	--	
7K	120号土坑跡	P172	P184	--	--	PL-69	--	
7K	121号土坑跡	P172	P184	--	--	PL-69	--	
7K	122号土坑跡	P172	P185	P185	P185	PL-69	PL-101	

通構別掲載頁一覧

区	通 構 名	本 文	通構実測図	通物実測図	通物観察表	通構写真	通物写真	備 考
7区	123号土坑跡	P172	P186	-	-	PL-70	-	
7区	124号土坑跡	P172	P186	-	-	PL-70	-	
7区	125号土坑跡	P172	P186	-	-	PL-70	-	
7区	126号土坑跡	P173	-	-	-	PL-70	-	
7区	127号土坑跡	P173	P186	-	-	-	-	
7区	128号土坑跡	P173	P186	-	-	-	-	
7区	129号土坑跡	P173	P186	-	-	-	-	
7区	130号土坑跡	P173	P186	-	-	-	-	
7区	131号土坑跡	P173	P187	-	-	-	-	
7区	132号土坑跡	P173	P187	-	-	-	-	
7区	133号土坑跡	P173	P187	-	-	PL-70	-	
7区	134号土坑跡	P173	P187	P187	P187	PL-70	PL-101	
7区	135号土坑跡	P173	P187	-	-	PL-70	-	
7区	136号土坑跡	P173	P187	P187	P188	PL-70	PL-101	
-	137号土坑跡	-	-	-	-	-	-	欠番
8区	138号土坑跡	P173	P188	-	-	PL-73	-	
8区	139号土坑跡	P173	P188	-	-	PL-73	-	
8区	140号土坑跡	P173	P188	-	-	PL-73	-	
-	141～509号土坑跡	-	-	-	-	-	-	9・10区(鳥山下降跡)
7区	510号土坑跡	P173	P188	-	-	-	-	
7区	511号土坑跡	P173	P188	-	-	-	-	
7区	512号土坑跡	P173	P188	-	-	-	-	
7区	513号土坑跡	P173	P188	-	-	-	-	
7区	514号土坑跡	P173	P189	-	-	-	-	
7区	515号土坑跡	P173	P189	-	-	-	-	
7区	516号土坑跡	P173	P189	-	-	-	-	
7区	517号土坑跡	P173	P189	-	-	-	-	
7区	518号土坑跡	P173	P189	-	-	-	-	
7区	519号土坑跡	P173	P189	-	-	-	-	
7区	520号土坑跡	P173	P189	-	-	-	-	
7区	521号土坑跡	P173	P189	-	-	-	-	
7区	1号集石跡	P73	P72	-	-	PL-73	-	

溝跡

区	通 構 名	本 文	通構実測図	通物実測図	通物観察表	通構写真	通物写真	備 考
-	1～3号溝跡	-	-	-	-	-	-	1～3区(年保遺跡)
5区	4号溝跡	P190	P214	-	-	PL-14・15	-	割図19
5区	5号溝跡	-	P202	-	-	PL-14・15	-	割図7
5区	6号溝跡	P190	P202	-	-	PL-15	-	割図7
6区	7号溝跡	P190	P217～224	-	-	PL-18	-	割図21・22・24・26・27・28
4区	8号溝跡	P190	P196～199	P269	P269～270	PL-9・10	PL-101	割図1・2・3・4
4・6	9号溝跡	P190	P197～233	-	-	PL-9・10・19	-	割図2・3・4・35・37・
4区	10号溝跡	P190	P196～199	-	-	PL-9・10	-	割図1・2・3・4
4区	11号溝跡	P191	P196～199	P270	P271	PL-9・10	PL-101	割図1・2・3・4
6区	12号溝跡	P191	P230～233	-	-	PL-19・20	-	割図34・35・36・37
6区	13号溝跡	P191	P227～229	P270	P271	PL-19	PL-102・103	割図31・32・33
6区	14号溝跡	P191	P227～232	-	-	PL-19	-	割図31・32・33・34・35・36
6区	15号溝跡	P191	P227～230	-	-	PL-19・20	-	割図31・32・33・34
6区	16号溝跡	P191	P227～232	-	-	PL-19・20	-	割図31・32・33・34・35・36
6区	17号溝跡	P191	P232～233	-	-	PL-19	-	割図36・37
4区	18号溝跡	P191・192	P211～213	P271～273	P273～274	PL-10・12	PL-101・102	割図16・17・18
6区	19号溝跡	P192	P232～233	-	-	PL-20	-	割図36・37
6区	20号溝跡	P192	P230・232	-	-	PL-20	-	割図34・36
4区	21号溝跡	P192	P196	-	-	PL-10	-	割図1
4区	22号溝跡	P192	P196	-	-	PL-10	-	割図1
4区	23号溝跡	P192	P198～199	-	-	PL-10・11	-	割図3・4
4区	24号溝跡	P192	P198～200	-	-	PL-11	-	割図3・4・5
4区	25号溝跡	P192・193	P199～205	-	-	PL-11	-	割図4・5・6・8・9・10
4区	26号溝跡	P193	P201～205	-	-	PL-11	-	割図6・8・9・10
4区	27号溝跡	P193	P208	-	-	PL-11	-	割図13
4区	28号溝跡	P193	P208	-	-	PL-13	-	割図13
4区	29号溝跡	P193	P210～211	-	-	PL-12	-	割図15・16
4区	30号溝跡	P193	P210～211	-	-	PL-12	-	割図15・16

遺構別掲載頁一覧

区	遺構名	本文	遺構実測図	遺物実測図	遺物観察表	遺構写真	遺物写真	備	考
4K	31号溝跡	P193	P211~212	-	-	PL-12	-	割図16・17	
4K	32号溝跡	P193	P211	-	-	PL-12	-	割図16	
4K	33号溝跡	P193	P211~212	-	-	PL-12	-	割図16・17	
4K	34号溝跡	P194	P206~208	-	-	PL-12	-	割図11・12・13	
7E	35号溝跡	P234	P52-56-240	-	-	PL-35	-		
7E	36号溝跡	P234	P86・240	-	-	-	-		
7E	37号溝跡	P234	P87・240	-	-	-	-		
7E	38号溝跡	P234	P106-183-240	-	-	PL-46	-		
7E	39号溝跡	P234	P245・240	-	-	-	-		
7E	40号溝跡	P235	P235	P237	P237	PL-71	PL-103		
7E	41号溝跡	P239	P239	-	-	PL-71	-		
7E	42号溝跡	P235	P235	P238	P238	PL-71	PL-103		
7E	43号溝跡	P241	P241	P241~244	P244	PL-71・72	PL-103-104		
7E	44号溝跡	P241	P241	-	-	PL-72	-		
7E	45号溝跡	P239	P239	-	-	PL-72	-		
7E	46号溝跡	-	-	-	-	-	-		
7E	47号溝跡	-	-	-	-	-	-		
7E	48号溝跡	-	-	-	-	-	-		
7E	49号溝跡	-	-	-	-	-	-		
7E	大溝跡	P245	P245	-	-	PL-72	-		
8E	50号溝跡	P249	"P263,265"	-	-	PL-73	-	割図46・47	
8E	51号溝跡	P249	P260~265	-	-	PL-73・74	-	割図44・45・46・47	
8E	52号溝跡	P249	P260~265	-	-	PL-73・74	-	割図44・45・46・47	
8E	53号溝跡	P249	P260~266	P274	P275	PL-74	PL-104	割図44・45・46・47・48	
8E	54号溝跡	P249	P260~262	-	-	PL-74	-	割図44・45	
8E	55号溝跡	P249	P260~262	-	-	PL-74・75	-	割図44・45	
8E	56号溝跡	-	-	P275	P275	-	PL-105		
8E	57号溝跡	P249・250	P267	-	-	PL-75	-	割図49	
8E	58号溝跡	P250	P267	P275	P275	PL-75	PL-105	割図49	
8E	59号溝跡	P250	P267~268	P276	P276	-	PL-105	割図49・50	
8E	60号溝跡	P250	P267	-	-	PL-75	-	割図49	
8E	61号溝跡	P250	P263~266	P277	P277	PL-75・76	PL-105	割図46・47・48	
8E	62号溝跡	P250	P265~266	-	-	PL-75	-	割図47・48	
8E	63号溝跡	P251	P265~266	-	-	PL-75	-	割図47・48	
8E	64号溝跡	P251	P263~265	-	-	PL-75・76	-	割図46・47	
8E	65号溝跡	P251	P256~264	P278	P278	PL-76	PL-105	割図39・40・41・42・44・46	
8E	66号溝跡	P251	P256~257	-	-	PL-76	-	割図39・40・41	
8E	67号溝跡	P251	P254~255	-	-	PL-76	-	割図38・39	
8E	68号溝跡	P251	P254	-	-	PL-76	-	割図38	
8E	69号溝跡	P251・252	P254	-	-	PL-77	-	割図38	
8E	70号溝跡	P252	P254~257	-	-	PL-77	-	割図38・39・40・41	
8E	71号溝跡	P252	P256	-	-	PL-76	-	割図40	
8E	72号溝跡	P252	P256~256	-	-	PL-77	-	割図39・40	
8E	73号溝跡	P252	P258~260	-	-	PL-77	-	割図42・43・44	
8E	74号溝跡	P252	P258~260	-	-	PL-77	-	割図42・43・44・45	
8E	75号溝跡	P252	P258~262	-	-	PL-77	-	割図42・43・44・45	
8E	76号溝跡	P252	P258~264	P279	P279	PL-78	PL-105	割図42・44・46	
8E	77号溝跡	P252	P260~263	-	-	PL-78	-	割図44・46	
-	78号溝跡	-	-	-	-	-	-	欠番(76号溝と統合)	
-	79号溝跡	-	-	-	-	-	-	欠番	
-	80~117号溝跡	-	-	-	-	-	-	9・10区(島山下遺跡)	
6E	溝状侵入跡	-	P236	-	-	-	-	割図30	
5E	B軽石下面	-	P215	-	-	PL-15	-	割図20	

水田(畦畔)跡

区	遺構名	本文	遺構実測図	遺物実測図	遺物観察表	遺構写真	遺物写真	備	考
4E	水田跡	P194	200~203	-	-	PL-11・13	-	割図5・6・8	
4E	水田跡(大畔跡)	P194	P208	-	-	PL-11・13	-	割図13	
5E	水田跡(大畔跡)	P194	P209	-	-	-	-	割図14	
7E	水田跡	P247	P247~248	-	-	PL-72・73	-	浅間B軽石直下水田跡	
6E	水辺築堤	P288	P289	P290~293	P294~297	PL-20・21	PL-106-111		

I 発掘調査の経過

1、調査に至る経緯

主要地方道太田大間々線は、太田市に端を發し敷塚本町・笠懸町・桐生市を通り大間々町を結ぶ県南東部における南北方向の基幹的な地方道であり、地域住民が日常生活に利用する生活基盤道路である。本地域においても近年の交通量の増加による慢性的な交通渋滞の発生があり、併せて近接の太田市新野町に大規模住宅団地の造成が計画されていることもあり、新たなバイパス道の建設計画が持ち上がった。バイパスは第1期工事分として太田市西本町の前橋館林線合同庁舎東交差点から鳥山中町までの約3.6km間について建設を実施することとなった。

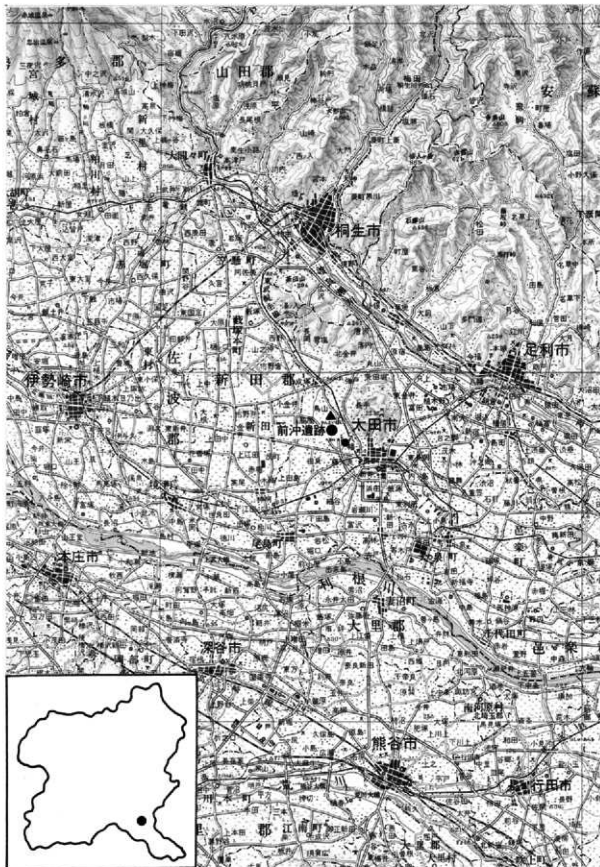
建設実施に先立ち、平成11年1月および平成12年2～3月に群馬県教育委員会文化財保護課（現文化スポーツ部文化課）が用地取用済である前橋館林線接続部から鳥山下町太田警察署東の農業用水路間での区間において埋蔵文化財試掘調査を実施したところ、この内の大鳥町地内八瀬川放水路以南・以北の約2,000㎡および市道以北から用水路間の約10,800㎡に古墳時代を中心とした集落跡が確認され、また、低地には水田跡が遺存する可能性が示唆されたため、協議の結果、発掘調査の実施が決定し、財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団が、これにあたることとなり、近接する水田地帯の引水が終える平成12年9月より調査の準備に着手し、翌10月より発掘調査を開始した。

その後、発掘調査と並行して鳥山下町・鳥山中町地内においても文化財保護課による試掘調査が実施され、鳥山竜舞線との交差地点周辺と鳥山中町地内においても遺跡の存在および範囲が確認されたため、当該区域についても継続して発掘調査を実施することとなった。



遺跡位置図

1 発掘調査の経過



前沖遺跡位置図

2、調査の経過

試掘調査の結果、発掘調査範囲は太田市大島町地内の①八瀬川放水路を挟む南北地点、②対象外区を挟み250m程北から太田警察署北間でこの区間、③さらに対象外区を挟み現鳥山の集落西の地点の大きく3カ所に分かれることが判明した。この3地点は微高地・低湿地・微高地と立地条件も異なることから、それぞれの地名を元に南から①「年保遺跡」、②「前沖遺跡」、③「鳥山下遺跡」と命名され調査されることとなった。調査対象外となった各遺跡間の多くの部分は、昭和40年代に行われた農地整備（圃場整備）事業による土取りのために、基盤シルト層に至るまで削平されているため、調査対象地より除外された。

調査に際し工事の工程上、用地を横断する八瀬川放水路の橋脚基礎工事が優先されるとのことから、協議の結果、放水路兩岸の「年保遺跡」（1～3区）を先行して平成12年9月上旬より調査することとした。

年保遺跡の調査を進める中で、北に位置する前沖遺跡の4・5・6区についても同年度内に調査を実施することとなり、用地の取用を終えていた5・6区より並行して表土掘削から調査へと至り、4区を含め年度内に調査を終えた。うち、6区低湿地部においては湧水が激しく、平面的な掘削が不可能との判断から、下面の試掘調査のみで断念した。

また、発掘調査中に7区分の試掘調査が文化財保護課により行われ、遺構が検出されたため、次年度において継続し調査をすることを前提に、年度内に当該区の表土掘削のみを進めた。

翌平成13年度には、4月より前沖遺跡7区の調査を開始したが、路線両脇の用水路・排水路新設工事を水田に水を入れる時期までに終えたいとの工事工程の都合上、この部分のみを先行して調査し、引き渡し。残りの7区調査を進める中で、8区（前沖遺跡）・9・10区（鳥山下遺跡）分の試掘調査が文化財保護課により行われ、遺構が検出されたため、同年度内に引き続き調査を実施することとなった。

調査日誌抄録

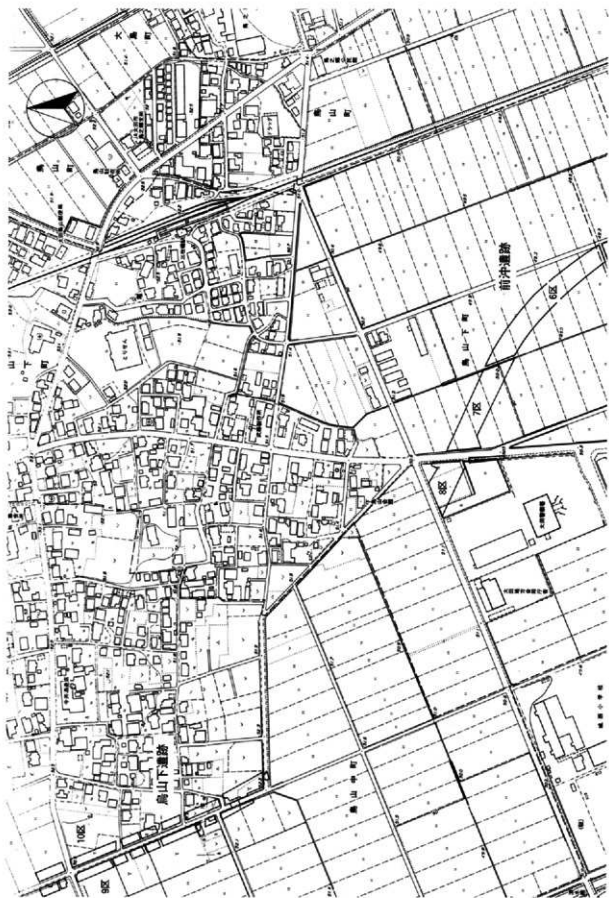
平成12年度

- 09/11 調査事務所用地整地～事務所設置
- 09/25 太田土木事務所立ち会ひの元、調査区現地確認
- 09/27 1区（年保遺跡）重機による表土除去を開始
- 10/10 発掘器材搬入～1区作業員導入
- 10/11 2区（年保遺跡）重機による表土除去を開始
- 10/16 3区（年保遺跡）重機による表土除去を開始
- 10/19 5区（前沖遺跡）重機による表土除去を開始
- 10/23 文化財保護課7区（前沖遺跡）試掘調査
- 11/07 6区（前沖遺跡）重機による表土除去を開始
- 11/28 1・2・3区（年保遺跡）5区（前沖遺跡）航空写真撮影
- 12/05 工程調整会議
- 12/07 1区（年保遺跡）埋め戻し作業開始
- 12/11 2区（年保遺跡）埋め戻し作業開始
- 12/14 5区（前沖遺跡）As-B下面深堀試掘調査
- 12/19 5区（前沖遺跡）埋め戻し作業開始
- 01/15 4区（前沖遺跡）重機による表土除去を開始
- 01/17 6区（前沖遺跡）航空写真撮影
- 01/25 6区（前沖遺跡）As-B下面深堀試掘調査
- 02/15 7区（前沖遺跡）重機による表土除去を開始
- 03/21 7区（前沖遺跡）As-B下水田跡、高所作業車による写真撮影
- 03/21 4～7区（前沖遺跡）プラントオパール分析サンプリング
- 03/29 4・6区（前沖遺跡）下面深堀試掘調査
- 03/31 4・6区（前沖遺跡）埋め戻し作業

平成13年度

- 04/09 作業開始
- 05/01 7区（前沖遺跡）先行調査部埋め戻し
- 05/24 10区（鳥山下遺跡）文化財保護課試掘調査
- 05/25 9区（鳥山下遺跡）文化財保護課試掘調査
- 05/28 8区（前沖遺跡）文化財保護課試掘調査
- 08/09 8区（前沖遺跡）重機による表土除去を開始
- 08/22 台風11号襲来
- 09/06 7区（前沖遺跡）航空写真撮影
- 09/07 7区（前沖遺跡）引き渡し
- 09/11 台風襲来
- 09/13 8区（前沖遺跡）調査開始
- 10/24 8区（前沖遺跡）航空写真撮影
- 10/25 9区（鳥山下遺跡）重機による表土除去を開始
- 11/06 8区（前沖遺跡）埋め戻し作業
- 11/19 10区（鳥山下遺跡）重機による表土除去を開始
- 11/27 9区（鳥山下遺跡）航空写真撮影
- 02/22 10区（鳥山下遺跡）航空写真撮影
- 03/14 出土遺物を移送

I 発掘調査の経過



2. 調査の経過



年保・前沖・島山下運路 調査区位置図 (S=1:5000)

II 調査の方法

1、調査区の設定

路線の工事工程や試掘調査の進展上、南に位置する年保遺跡から調査を開始したため、南端より調査区を設定した。

発掘調査区の設定にあたり、現有道路・水路を境に1～3区を「年保遺跡」に、4～8区を「前沖遺跡」に、9・10区を「鳥山下遺跡」に付した。各調査区は、道路建設用地であるため細長く、かつ現有の道・水路や隣接耕作地への馬入れを残して設定せざるを得ず、小区画に分割された調査となった。

- | | |
|------------|---------|
| 1・2・3区 | 「年保遺跡」 |
| 4・5・6・7・8区 | 「前沖遺跡」 |
| 9・10区 | 「鳥山下遺跡」 |

調査に際し、現有道路・水路下、隣接耕作地への出入り口下については、群馬県教育委員会文化財保護課との協議の結果、当面発掘調査を行わず、接する調査区内の調査結果に基づいて、当該地の調査が必要と判断された場合には、改めて協議を行うこととした。

また、グリッドの設定については、各遺跡・調査区間に調査対象外地を挟み、位置的に離れているため、遺構平面図化の照合が容易に読み取れるように国家座標軸第IX系を用い、名称には通常、グリッドとして設定するアルファベットと算用数字の組み合わせを用いた任意の範囲設定をせず、X・Y座標値をそのまま用いて打設した杭を呼称した。また、調査時に任意の範囲内において遺物を取り上げる必要が生じた際には、範囲の対角線2地点の座標値を併記することで、取り上げ範囲を明示した。

2、遺構名称

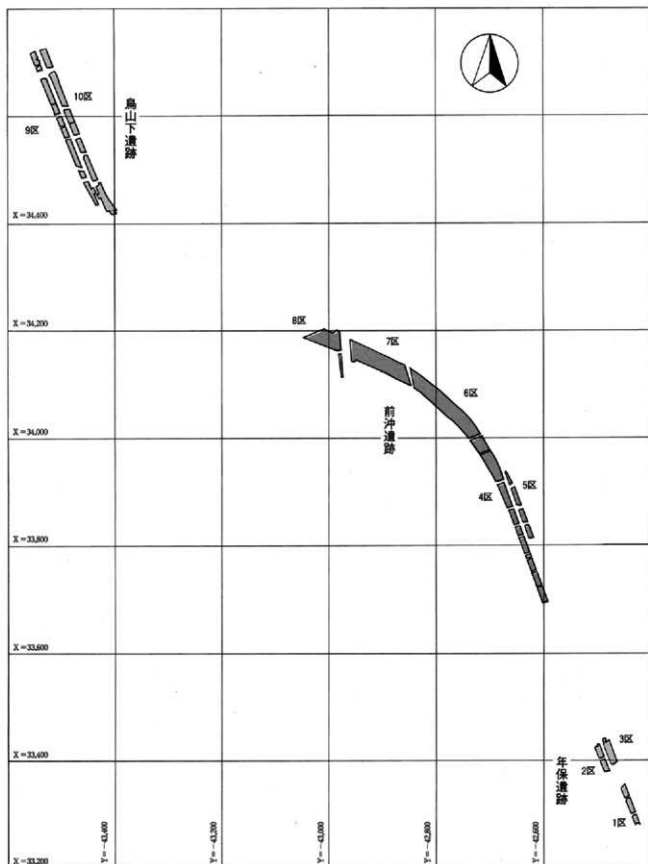
検出遺構の名称には、アルファベットを用いた略号を使用せず、○号住居跡・○号溝跡等の名称を用い、遺構番号は、太田大間々線関連の3遺跡を並行

して調査を進める都合上、遺跡間や調査区間での遺構番号の重複を避けるため、南端の1区から順番で付すこととし、さらに重複を避けるため、区番号と遺構番号を合わせて呼称した。

3、調査の手順

- 1)、表土の除去作業については、試掘調査の結果に基づき、遺構確認面と判断された深さまで、大型掘削機械を用いて表土除去を行った。
- 2)、表土の除去後、調査区内に記録用測量杭を前述の国家座標軸に沿って、測量会社に委託し打設した。
- 3)、遺構の掘削については、遺構確認面での検出の後、埋没土の観察用断面を残して、2～4分割の掘削を行い、掘削途上で出土する遺物については、遺構の時期・性格を判別するに至る遺物を残し、遺構単位で取り上げた。
- 4)、遺構の記録測量については、原則として堅穴住居跡・土坑跡・井戸跡・掘立柱建物跡等の平面を1/20、溝跡の平面および全体図は1/40、堅穴住居カマド跡は1/10の縮尺で電子測量機器を用いて図化を計った。遺構断面の図化に際しては平面図と同縮尺を用い、主に手作業で図化を計った。
- 5)、遺構記録写真の撮影については、6×7判・6×6判中型カメラと35mm一眼レフカメラでのモノクロネガ撮影、35mm一眼レフカメラでのカラーリバーサル撮影を行い、高高度よりの全体写真の撮影にはラジコンヘリコプターによる遠隔撮影と高所作業車を用いての撮影を行った。
- 6)、低湿地の調査において水田跡が検出されたため、水田跡を覆う火山灰の鑑定と、併せて水田下の畦畔を検出し得ない泥炭土内の水田耕作の可能性を知るために、植物珪酸体分析を専門業者に委託して行った。
- 7)、出土遺物については、調査現場において附着土の洗浄後、遺跡名・出土遺構名と取り上げ番号を白色顔料並びに黒色インクにて注記した。

1. 調査区の設定



調査区座標設定図

II 調査の方法

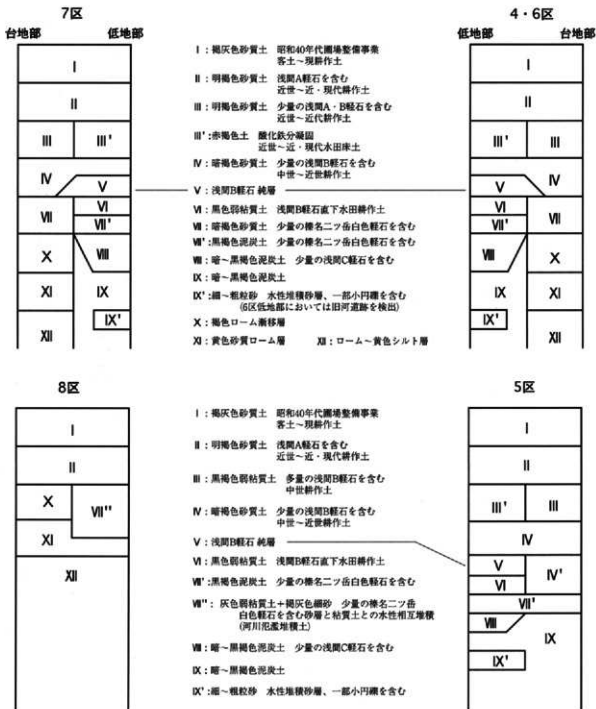
4、基本土層

遺跡調査区は、道路建設用地である関係で、概ね南北に細長く、また一部地形変換点に沿っているため、各調査区での堆積土壌も大きく変わる。

現在は、土地改良事業により、一面水田地帯である。各区の立地および概ねの旧土地利用は、4・6・7区が微高地上の古墳時代以降の集落から地形

変換点を経て低地水田域、5区は4・6区の東に位置し全域が低地、8区は台地端部で古墳時代に至るまでは河川氾濫を受け、以降は長期にわたり用水路の設置に利用される。下記に各区の基本的な堆積土層を記す。

また、検出の火山灰については、後掲V章の自然科学分析に詳しいので参照されたい。



Ⅲ 周辺の環境

1. 地理的環境

前沖遺跡は、群馬県太田市大島町・島山下町に所在する。太田市は群馬県の南東部に位置し、北東は渡良瀬川を挟んで栃木県足利市と南は利根川を挟んで埼玉県大里郡妻沼町と界境をなしている。地形的に観ると市域の大半は平坦な地形を成し、北側から茶臼山丘陵が張り出している。平坦部は、更新世の扇状地を含む洪積台地と沖積低地からなる地形となり、市域の北西から南東へと緩やかに傾斜している。遺跡付近の標高は49.0m程を測る。

遺跡地は太田市街地より北西3km程新田郡新田町に程近い、東武桐生線三枚橋駅西方の現島之郷地区に位置する。

付近は、昭和40年代に進められた圃場整備事業により長方形に区画された水田となっており、所々に畑として残る小さな高まりが点在している。

本遺跡地付近の地形を概観すると、北は大間々扇状地の先端部、東は八王子丘陵・金山丘陵、西は由良台地に囲まれた北西から南西に伸びる扇端低地となっている。現在では、金山丘陵の西端を八幡川が、由良台地の東端を蛇川が幅約1.5kmの川底低地を囲むようにして北西から南東方向へ流れている。

大間々扇状地は、渡良瀬川が更新世に形成した関東地方有数の大型扇状地である。大間々町を扇頂として太田市北西部から新田町、境町を経て伊勢崎市東部に至る海拔50～60m付近を扇端とする、南北約18km、扇端の幅約13kmの扇形の範囲に発達する。形成時代を異にする5つの地形面で構成される合成扇状地であるが、その中でも扇状地の西半分を占める棚原面と、ほぼ東半分を占める藪塚面が最も広く、本扇状地の主体を成している。

棚原面はAg-UP（赤城湖ノコテフラ）以上の中部および上部ローム層によっておおわれており、早川をはじめとする浸食谷によって樹脂状に浸食されている。

藪塚面は、扇頂から扇端まで連続して典型的な扇状地を形成する範囲と扇端の南方に広がる沖積低地（扇端低地）の中に島状に散在するものと二分出来る。前者には厚さ1m以下の薄い上部ローム層だけが堆積しており、面形成層の藪塚礫層の直上に上部ローム層基底の浅間板鼻褐色（群）テフラが存在する。一方後者は扇端以南で、藪塚面形成後関東ローム層が降下堆積している時に浸食し尽くされずに残った微高地という性格の地形面と考えられる。本面には、上部ローム層の一部または二次堆積（再堆積）の上部ローム層が見られ、明らかに沖積台地とは区別されるものである。

八王子丘陵は海拔200m強の標高をもつ山頂が連なり、分水界は北北東—南南西の方向に伸びていて、北半では稜線が市域の境となっている。

金山丘陵は、かつては八王子丘陵と一続きのものと考えられるが、今は吉沢字萩原のごく低い鞍部を境にして離れている。山頂部を中心とした孤立山塊としての地形が読みとれ、最高地点は235.8mであり、高度42～63mを測る周辺の麓との比高は160mないし180mとなる。主な山脚は北と東及び南西の方向に延びる。西部には長手の谷が入り込んでいる。

地質的には古生層を基盤としており、丘陵の東と北に馬蹄形に広がっている古生層の上を古第3紀の流紋岩質火砕岩類である金山流紋岩類が不整合に覆っており、さらに新第3紀の藪塚層類が不整合に覆っている。

金山丘陵の西辺に沿うように八瀬川が、由良台地の東側に沿うようには蛇川が大間々扇状地の末端から利根川方面へと流れている。両河川ともに現在のルートになるまでに流路の変遷を経てきたものと考えられている。その間に囲まれた地域は沖積低地になっており、北西から南東へと伸びている。

沖積低地では、藪塚礫層の上にさらに上流側の藪塚面上の火山灰が浸食されここに再堆積し、それが低湿な環境下で粘土化して沖積層になったものと考えられる。層厚は概ね1m前後で厚いところでも2m程である。シルト～粘土からなり、全体に腐食物

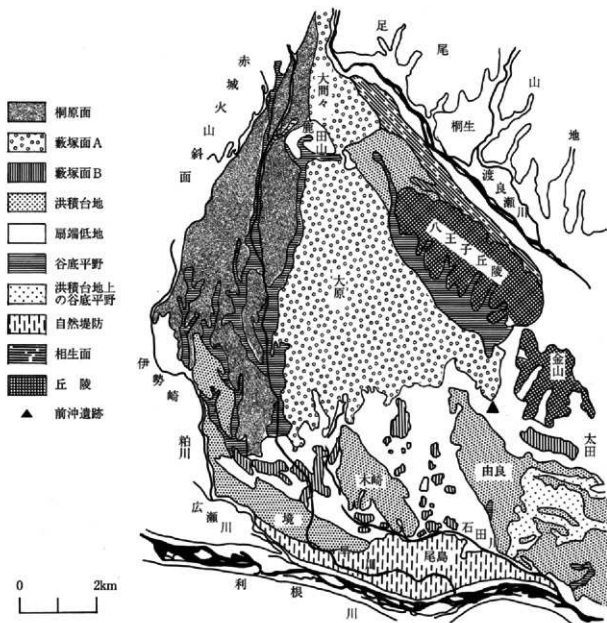
III 周辺の環境

を含んでいる。沖積層の堆積環境は全般に排出不良の低湿地で由良台地周辺には泥炭や黒泥が形成される湿原が分布していたと推定される。本地域では地表下に、完新世のうち弥生時代以前の堆積物は明瞭な地層として残存していないが、As-B、Hr-FP、Hr-FA、さらに下層にAs-Cと思われる軽石が認められることから沖積層の大部分は弥生時代以降の堆積物と考えられる。

参考文献

- 『太田市史』通史編 自然 太田市 1996
 『太田市史』通史編 原始古代 太田市 1996
 『新田町誌』第2巻資料編〔下〕 新田町誌刊行委員会 1987

※ 本誌は、同一事業調査報告書第1集「年保遺跡・鳥山下遺跡」掲載の亀山執筆文を、一部補遺し再掲したものである。



前沖遺跡周辺地形分類図

2、歴史的環境

前沖遺跡の立地は、北に大間々扇状地の扇端部、西に由良台地、東に金山に挟まれ、南に延びる低地の空間に存在している。現在の太田市市内の地区名で言うとう之郷地区にあたり、北は狭戸地区、南は太田地区と接している。周辺は古墳群の存在で知られる地域であり、前沖遺跡の位置する東武鉄道桐生線三枚橋駅の南西部一帯は平成三年改訂版発行の「太田市文化財地図」によれば、三枚橋南遺跡と命名される縄文土器・弥生土器・土師器を出土する包蔵地とされている。

近年、本地域でも開発に伴う発掘調査が徐々に実施され、その成果が公表されつつある。また、市史が編纂・刊行され、地域史の解明が行われている。本項では、これらの資料をもとに周辺の遺跡について時代毎に概観したい。なお、()内の数字は後掲の周辺遺跡図・周辺遺跡一覧表と対応しているので参照されたい。

旧石器時代

市域では、八王子丘陵・金山丘陵周辺と市街地南部の沖積低地内にのこるローム層低台地に遺跡が分布している。周辺では、金山丘陵南端の大鳥口遺跡(29)で刃器状剥片、八幡山遺跡(30)で茂呂型のナイフ型石器が発見されている。

縄文時代

草創期・早期の遺跡は金山丘陵、八王子丘陵周辺や平野部の台地部分に位置するものが多く、堂原遺跡(45)では貝殻痕文系の土器を出土している。前期の遺跡は竜舞台地をはじめ平野部の台地部分で遺跡が増加しており、周辺では由良台地状上に堂原遺跡がみられ、三枚橋駅の西方大間々扇状地の末端に舌状に南下する低台地の南端付近で諸磯期土器類が広く分布している。中期の遺跡は、前半では竜舞・大泉・由良台地などで遺物類が希薄分布を示すが、後半の加曾利E式期の遺跡は急激に増加している。

加曾利E式土器を出土する遺跡は由良台地では市立宝泉小学校南方の台地縁辺や新野町堂原地区、さらに成塚町成塚住宅団地遺跡(21)や上遺跡(11)鳥山・三枚橋駅西方に濃厚な分布が見られる。当時の集落は低地に面した台地の縁辺、あるいはそれに連続する微高地形を選定しており、その地は河川や湧水池などに近いところでもある。後期には、竜舞台地や大泉台地・由良台地・大間々扇状地末端台地などに分布する遺跡に充実したものが認められる。周辺では堂原遺跡(45)において後期前半の遺物が多く発見されている。晩期には市域における遺跡は極端に減少・衰退しており、周辺には遺跡の分布は認められない。

弥生時代

金山丘陵北東部の小丸山遺跡・高林の丘陵性台地付近に遺跡が分布しているが、市域における弥生時代の遺跡は極めて少ない。太田西部から南部の広大な平野地域にこの文化は進出することはなかったと考えられる。

古墳時代

本地域は県内でも有数の古墳が築造された地域として知られる。周辺には、市域で最も古い様相をもつ前方後円墳である八幡山古墳(58)・丘陵の突端を利用して占拠する寺山古墳(55)など4世紀代の築造とされる古墳が出現している。5世紀から6世紀前半にかけては良好な甲冑の出土で知られる鶴山古墳(51)、帆立貝型の亀山古墳(50)、市域で唯一周堀内に一對の中島をもつ鳥崇神社古墳(49)が築かれていく。さらに6世紀になると、八王子丘陵の南西方から金山丘陵の西方大間々扇状地末端に開けた沖積地を中心に成塚古墳群(53)、長手口古墳群(55)等の群集墳が発展した。

一方集落跡も前期から遺跡数の増大が見られる。石田川式土器を出土する遺跡としては屋敷内B遺跡(34)、成塚住宅団地遺跡(21)・堂原遺跡(45)・脇屋深町遺跡(46)・唐桶田遺跡(43)等があり、石

Ⅲ 周辺の環境

田川期の集落は低湿な沖積地内の微高地上に立地する傾向がある。和泉式土器の分布は成塚町や鳥山地区、また由良台地では新野堂原から臨崖にみられ、中期以降には周辺の高乾地へと集落は移動している。後期の集落遺跡の多くは広々とした沖積地内の小規模微高地を避けて、その周辺に広がる大間々扇状地の末端の台地や金山・八王子丘陵の台地、利根川左岸の高林台地などの周辺部に分布する傾向があり、堂原遺跡(45)・川壺遺跡などがみられる。また、市域で最も古い寺院跡と考えられる寺井庵寺(48)は7世紀後半には建立されたと推定されている。

奈良・平安時代

天良七堂遺跡(47)は礎石建物跡が一軒検出されており倉庫と考えられている。小金井入谷で発見された礎石や瓦屋根構造をもつ奈良朝の建物跡は奈良時代の官衙の性格をもつ建築群の一つと考えられている。焼ヶ谷戸は地方官衙の遺跡であったと推定されている。また、釣堂遺跡(44)は瓦類が発見され、寺院跡と考えられている。

金山西北方の大間々扇状地末端の市域の寺井・天良地域から新田町小金井・市野井にかけてこのような遺跡が分布し、七世紀後半から十世紀にかけて存続しており、しかも地方官衙の性格を示すものである。また、東山道に関連する遺構も検出されつつあり、この地域を通ったものと考えられている。

本地域は十世紀前半に編まれた『和名類聚抄』にみられる上野国14郡のうち、新田郡の南東部地域を占めると考えられ、新田郷に当てられている。

また、生産地としては、金山北東麓にある二の宮遺跡や太田市南部にも条里制水田が想定されているが、北関東自動車道に伴う発掘調査などにより浅間B層石に覆われた水田跡が検出されつつある。

市域における奈良・平安時代の村落社会は、基本的には前代の古墳時代を発展的に受け継いでいるが、集落分布のありかたは多様に展開している。

太田市史では七区域に区分できるとしているが、大間々扇状地末端地域では、八幡遺跡(10)、久保

遺跡(16)などの広範な範囲を占めて分布する奈良・平安時代の集落遺跡があり、寺井町から鳥山にかけての広範な地域に、奈良・平安時代の地方官衙とも関係する村落が形成されていたことが推定される。

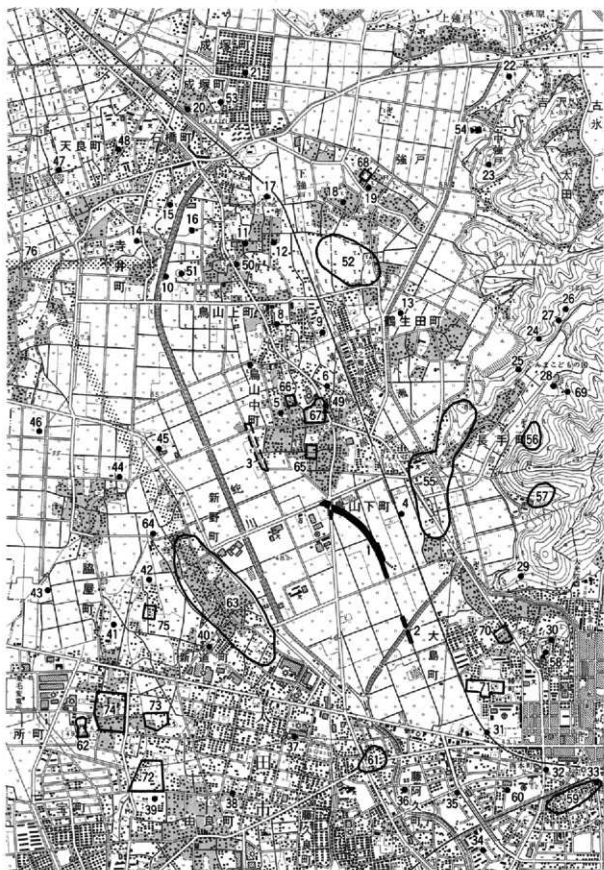
鎌倉・室町時代以降

本地域は、平安時代の終わり頃から新田庄の範囲に繰り込まれていき、嘉応二年(1170)の「新田御莊嘉応二年目録」には、大鳥郷が見られる。また、鎌倉時代には、新田氏の系譜に連なる里見氏から鳥山郷に鳥山氏大鳥郷に大鳥氏などが現れる。室町時代には、新田庄は岩松氏の治めるところとなり、大鳥郷・鳥山郷は、岩松氏、鳥山郷の一部は庶子の鳥山氏の所領となっている。室町時代のおわり戦国時代を迎える頃にはかつて新田庄を支配していた岩松氏とは別系統の岩松氏が文明元年(1469)戦国時代を通して太田・新田地方の象徴であった金山城を築城している。しかし、明応四年(1495)家臣の横瀬成繁に実権を奪われた。横瀬氏は由良姓を名乗り金山城の実権を掌握したが、上杉氏の関東進出、後北条氏の上野国進出に際してはその支配下に属した。

所謂中世城館跡を見ると典型的な山城である金山城をはじめ大鳥城・大鳥館・鳥山環濠遺構群がある。大鳥城(71)は、戦国期の金山城の山城であったと推定されている。大鳥館(70)は、北西一南東100m、北東一南西250mの外郭があったと推定されている大鳥氏の館跡である。鳥山環濠遺構群は、鳥山中・下町にあり、鳥山城(66)・鳥山館(67)・鳥山屋敷(65)の三カ所で、15・16世紀に存続したとされる鳥山城が鳥山氏の居館と考えられている。

やがて、江戸時代を迎えると新田郡鳥山村と大鳥村は館林城主となった榊原氏の所領となり、この地域も幕藩体制に繰り込まれていった。

※本稿は同一事業調査遺跡調査報告書第1集「年保遺跡・鳥山下遺跡」掲載の亀山執筆文を、一部補遺し、再掲したものである。



周辺遺跡分布図 (S=1:25000)

周辺遺跡一覧表

番号	遺跡名	所在地	遺跡概要	主な文献
1	前沖遺跡	太田市大島町・島山下町	本遺跡	
2	年保遺跡		古墳時代後期集落跡。	図：報告書
3	島山下遺跡	太田市島山中町	奈良・平安時代集落。大型掘立柱建物跡。	図：報告書
4	三枚橋南遺跡跡	太田市島山町	縄文(前期～後期)式土器、弥生(後期)、土師(前期～後期)を出土。	遺跡誌台帳
5	鳥ヶ谷戸遺跡	太田市島山中町	古墳時代。散布地。	文化財情報
6	観音遺跡	太田市島山中町	古墳時代。散布地。	文化財情報
7	島山宿願堂遺跡	太田市島山上町	縄文時代。散布地。	文化財情報
8	上泉岡戸遺跡	太田市島山中町	古墳時代。散布地。	文化財情報
9	中道遺跡	太田市島山上町	古墳時代。散布地。	文化財情報
10	八幡遺跡	太田市島山上町	縄文時代前期・中期・後期、古墳時代中期、飛鳥時代、白鳳時代、奈良時代、平安時代の集落。遺構は、竪穴住居27軒、掘立柱建物7軒、溝11条、井戸3基、円形土坑2基。主体は9世紀代の集落。	市史
11	上遺跡	太田市島山上町	古墳時代。散布地。	文化財情報
12	寺中遺跡	太田市島山上町	古墳時代。散布地。集落。	文化財情報
13	中妻遺跡	太田市鶴生田町	古墳時代。集落。古墳。	文化財情報
14	久保畑遺跡	太田市寺井町	古墳、奈良時代。集落。	文化財情報
15	鷲ノ宮遺跡	太田市寺井町	平安時代。散布地。	文化財情報
16	久保遺跡	太田市島山上町	奈良・平安時代集落。竪穴住居跡27軒、土坑46基。	市：『年報』1
17	寺裏遺跡	太田市島山上町	古墳時代後期を中心とした集落。古墳時代後期の住居址8軒以上。	市史
18	畑中遺跡	太田市強戸町	古墳時代。集落	文化財情報
19	強戸宮西遺跡	太田市強戸町	縄文、古墳時代。集落。	文化財情報
20	成塚石橋遺跡	太田市成塚町	主に古墳時代の集落と墓域。住居跡116軒、掘立柱建物1棟、古墳9基、円筒埴輪棺1基、旧河川跡、溝跡30条、土坑96基、井戸9基、道路状遺構2条。	市史
21	成塚住宅団地遺跡	太田市成塚町	縄文時代以降の複合遺跡。縄文時代中期後半、弥生時代後期、古墳時代前期・中期。	市史
22	基山遺跡	太田市強戸町	旧石器時代の石器。縄文時代草創期～後期の土器片、土師・須恵器片のほか、製鉄跡を思わせる鉄滓が散布する複合遺跡。	市史
23	強戸口塚遺跡	太田市強戸町	旧石器時代遺物包蔵地。採集資料は1点。	市史
24	高太郎Ⅰ遺跡	太田市長手町	古墳時代後期の須恵器遺跡5基、工房跡1軒。	図：『年報』13
25	高太郎Ⅱ遺跡	太田市長手町	製鉄跡3基、炭灰跡3基。10世紀前半。	市：『年報』1
26	高太郎Ⅲ遺跡	太田市長手町	古墳時代。生産遺跡。	文化財情報
27	鍛冶ヶ谷戸遺跡	太田市長手町	縄文、古墳、平安時代、中世の集落・生産遺跡。	文化財情報
28	山去・十八曲遺跡	太田市長手町	井戸跡1基、金山城跡関連の大堀切り。	図：『年報』12
29	大島口遺跡	太田市大島町	旧石器時代晚期、縄文時代草創期・早期・前期、古墳時代の遺物散布地。	市史
30	八幡山遺跡	太田市大島町	旧石器時代遺物包蔵地。採集資料、ナイフ形石器1点。	市史
31	三島本遺跡	太田市大島町	縄文、奈良時代～近世。竪穴住居1軒、掘立柱建物1棟、溝6条、土坑7基、ピット4基。	図：『年報』20
32	稲荷前遺跡	太田市本町	平安時代の竪穴住居1軒。近世溝1条、土坑1基。	図：『年報』20
33	浜町遺跡	太田市浜町	古墳時代前期から平安時代初期の集落遺跡。	市史
34	浜町屋敷内B遺跡	太田市浜町	4世紀後半の溝前方埴輪の周溝墓1基と6世紀代の円墳2基。中世末～江戸時代中期の溝跡、土坑墓、井戸跡等。	市史
35	舞台A・D遺跡	太田市西本町	6世紀初頭～7世紀中頃にかけた集落跡。65軒の住居跡。多量の炭化米が出土した土坑等。	市史
36	大道北遺跡	太田市藤久町	古墳時代。集落。	文化財情報
37	由良北原遺跡	太田市由良町	古墳時代。散布地。	文化財情報
38	天駒林遺跡	太田市由良町	縄文、古墳、平安時代。散布地。集落。	文化財情報
39	北之庄Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ遺跡	太田市由良町	古墳時代後期の住居跡2軒、平安時代の住居跡8軒、井戸跡1基、鍛冶工房1軒、瓦塔片1点。	図：『年報』13
40	下原遺跡	太田市藤原町	古墳時代。散布地。	文化財情報
41	岡原遺跡	太田市藤原町	古墳時代。散布地。	文化財情報

2. 歴史的環境

番号	遺跡名	所在地	遺跡概要	主な文献
42	脇屋中原遺跡	太田市脇屋町	古墳後期土坑1基。平安時代。散布地。	図：『年報』19
43	唐桶田遺跡	太田市脇屋町	古墳時代前期・中期の集落・周溝墓。竪穴住居跡18軒、掘立柱建物跡3軒、溝跡4条、方形周溝墓1基、土坑1基。板材や柱材・種子等出土。	報告書
44	釣堂庵寺	太田市脇屋町	寺院跡。集落内の一隅に営まれた小規模な寺院、あるいは仏堂である可能性が高い。8世紀中頃。	市史
45	堂原遺跡	太田市脇屋町	縄文・古墳時代中心の集落跡。縄文時代の土坑6基、埴土器1個体、古墳時代前期方形周溝墓3基、古墳時代後期住居跡1軒、中世の土坑数基、溝1条等。	市史
46	脇屋深町遺跡	太田市脇屋町	古墳時代前・中期。竪穴住居跡3軒、掘立柱建物跡1棟、方形周溝墓2基、円形周溝墓1基、溝跡71条。	市：『年報』1
47	天良七堂	新田郡新田町	古墳～平安時代の官衙・集落。礎石建物2棟、掘立柱建物2棟、住居跡5軒、溝13条。炭化米。	市史、報告書
48	寺井庵寺	太田市天良町	寺院跡。寺院主要部にかかわる遺構は未検出。7世紀後半～10世紀の古瓦の散布。	市史
49	鳥崇神社古墳	太田市鳥山中町	前方後円墳。くびれ部に左右一対の中鳥。全長推定66m。5世紀末～6世紀前半。	市史
50	亀山古墳	太田市鳥山上町	『総覧』には前方後円墳として掲載。径35mの円墳であった可能性も考えられる。墳頂と中段に円筒・朝顔形地輪の樹立が想定。5世紀第Ⅲ四半紀。	市史
51	鶴山古墳	太田市鳥山上町	前方後円墳。墳丘全長95m。主体部は竪穴式石室。良好な甲冑の資料が出土。5世紀後半。	市史
52	鶴生田・下強戸古墳群	太田市鶴生田町	横穴式石室を主体部に持ち、墳丘径20mを測る円墳群で構成。6世紀に築造されたものが多い。	市史
53	成塚古墳群	太田市成塚町	『総覧』によれば、成塚町地内に分布する古墳の総数は41基。6世紀中頃には形成され、6世紀後半に最盛期。	市史
54	寺山古墳	太田市強戸町	前方後円墳。全長56m。主体部は粘土層が推定される。4世紀代。	市史
55	長手口古墳群	太田市長手町	3基の前方後円墳を中核とする。ほとんど消滅。埴輪類、鉄器類、玉類、金銅類、馬具類。6世紀後半を主体に形成。	市史
56	武反田古墳群	太田市長手町	数基の円墳からなる。	市史
57	鳥芝塚古墳群	太田市長手町	約30基の円墳よりなる群集墳。6世紀後半。	市史
58	八幡山古墳	太田市大島町	前方後円墳。墳丘規模全長84m。竪穴式石室が推定される。4世紀前半。	市史
59	浜町古墳群	太田市浜町	古墳時代。古墳。	文化財情報
60	稲荷山古墳	太田市西本町	径約20mの円墳。人物埴輪（武人）。馬形埴輪の出土記録あり。	市史
61	藤阿久古墳群	太田市藤阿久町	直径15m内外の円墳が多く、横穴式石室施設したものが主体であったと推定する。太刀、刀子、鉄鏝。人物埴輪、飾り馬、円筒型。6世紀代に形成。	市史
62	別所茶臼山古墳	太田市別所町	前方後円墳。全長168m。5世紀前半。	市史
63	新野古墳群	太田市新野町	古墳時代。	文化財情報
64	脇屋古墳群	太田市脇屋町	『総覧』に6基の古墳が記載。群中のオクナム山古墳は径36mの円形で埴輪人物像、飾り馬等出土。6世紀後半。	市史
65	鳥山屋敷跡	太田市鳥山下町	堀。	埴輪跡
66	鳥山城	太田市鳥山中町	15・16世紀。鳥山氏。(堀、土居、戸口)。	埴輪跡
67	鳥山堀	太田市鳥山中町	堀。	埴輪跡
68	強戸の寄附	太田市強戸町	16世紀。強戸地衆。堀。	埴輪跡
69	長手口寄附	太田市長手町	中世。埴輪。	文化財情報
70	大島堀	太田市大島町	14世紀。大島氏(里見氏)。土居、戸口。	埴輪跡
71	大島堀	太田市八幡町	16世紀。堀。土居。	埴輪跡
72	由良の野	太田市由良町	14～16世紀。由良氏。(堀、土居、戸口)。	埴輪跡
73	山原氏堀	太田市由良町	14世紀。新田氏。	埴輪跡
74	新田堀	太田市別所町	14世紀。新田氏。堀。	埴輪跡
75	脇屋堀	太田市脇屋町	14世紀。脇屋義助。義助堀跡の碑。	埴輪跡
76	推定東山道		古代	企画展資料

- 県：群馬県教育委員会、市：太田市教育委員会、町：新田町教育委員会
 図：財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団、県博：群馬県立歴史博物館
 文化財情報：『群馬県文化財情報システムCD-ROM版』、埴輪跡：『群馬県の中世埴輪跡』

Ⅲ 周辺の環境

参考文献

- | | | |
|------------------------|-------------------|-------|
| 【群馬県文化財情報システムCD-ROM版】 | 群馬県教育委員会 | 2001年 |
| 【群馬県遺跡台帳東毛編】 | 群馬県教育委員会 | 1971年 |
| 【群馬県の中世城館跡】 | 群馬県教育委員会 | 1989年 |
| 【太田市史】—通史編原始古代編— | 太田市教育委員会 | 1996年 |
| 【群馬県史】—通史編1 原始古代1— | 群馬県史編さん委員会 | |
| 【群馬県史】—通史編2 原始古代2— | 群馬県史編さん委員会 | |
| 【群馬県史】—通史編3 中世— | 群馬県史編さん委員会 | |
| 【群馬県史】—資料編1 原始古代1— | 群馬県史編さん委員会 | |
| 【群馬県史】—資料編2 原始古代2— | 群馬県史編さん委員会 | |
| 【群馬県史】—資料編3 原始古代3— | 群馬県史編さん委員会 | |
| 【群馬県古城遺址の研究】上 | 群馬文化事業振興会 | 1972年 |
| 【埋蔵文化財発掘調査年報1】「久保遺跡」 | 太田市教育委員会 | 1991年 |
| 【埋蔵文化財発掘調査年報1】「高太郎Ⅱ遺跡」 | 太田市教育委員会 | 1991年 |
| 【年報13】「高太郎Ⅱ遺跡」 | 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 | 1994年 |
| 【埋蔵文化財発掘調査年報1】「藤屋深町遺跡」 | 太田市教育委員会 | 1991年 |
| 【藤屋深町遺跡発掘調査概報】 | 太田市教育委員会 | 1990年 |
| 【唐栴田遺跡発掘調査報告書】 | 太田市教育委員会 | 1999年 |
| 【成塚住宅団地遺跡】 | 太田市教育委員会 | 1990年 |
| 【成塚遺跡発掘調査報告書】 | 太田市教育委員会 | 1973年 |
| 【市内遺跡Ⅱ】 | 太田市教育委員会 | 1985年 |
| 【市内遺跡Ⅲ】「山去・十八曲り遺跡」 | 太田市教育委員会 | 1993年 |
| 【市内遺跡Ⅳ】「堀角神社古墳」 | 太田市教育委員会 | 2002年 |
| 【屋敷内B遺跡】 | 太田市教育委員会 | 1985年 |
| 【舞台A・D遺跡】 | 太田市教育委員会 | 1989年 |
| 【天良七堂遺跡・笠松遺跡】 | 新田町教育委員会 | 2000年 |
| 【太田市八幡遺跡】 | 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 | 1990年 |
| 【成塚石橋遺跡】 | 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 | 1988年 |
| 【成塚石橋遺跡Ⅱ】 | 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 | 1991年 |
| 【年報13】「北之Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ遺跡」 | 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 | 1994年 |
| 【年報19】「藤屋中原遺跡」 | 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 | 2000年 |
| 【年報20】「三島木遺跡・稲荷前遺跡」 | 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 | 2001年 |
| 【古代のみちーたんけん！東山道駅路Ⅰ】 | 群馬県立歴史博物館 | 2001年 |

IV 遺構と遺物

1. 遺跡の概要

旧石器時代

調査範囲内において、旧石器時代の遺構・遺物の検出はみられず、ローム台地部にあたる4区・6区の西端および7～8区におけるローム層下の地山堆積状況は、掘り込みの深い溝(7区大溝跡・8区65号溝等)や井戸跡などの遺構法面を見る限り、いずれも砂層を含む水性堆積土であり、暗色帯やテフラ層は検出されず、下位は砂礫層または粘土層に至る。このことから、当該期における当地の地理的環境は離水・安定せず、生活に適していなかったものと推察される。

縄文時代・弥生時代

調査範囲内よりの縄文時代・弥生時代の遺構と認められる検出は一例もなく、少量の縄文時代中期から後期にかけての表面採取の土器・石器があるのみ(後掲のP280～「遺構外出土遺物」参照)である。また、これらの遺物も上層の表土が土地改良時の移入であることから、近接の同一土地改良区内に当該期の遺跡の存在が想定されるものの、その地点は特定できない。

古墳時代

本遺跡検出の遺構・遺物の主体を成しており、全体では、堅穴住居跡58軒・井戸跡3基・溝跡21条・水辺祭祀跡等を検出する。

各区ごとに詳細を記すと、4区北東部～5区及び6区南端部にかけては、後述の浅間B軽石直下に水田遺構が検出されたものの、その下面においては降積テフラの純層堆積や氾濫層の堆積はみられず、よって水田遺構は検出されなかった。なお、水田耕作の可能性を模索しつつプラントオパール分析を行ったが、結果は榛名二ツ岳白色軽石下黒色粘質土中および浅間C軽石下黒色粘質土中よりイネの検出は

みられなかった。(後掲P 341「自然科学分析—プラントオパール」参照)

4区南端部～西端部では、地形的に台地部から低地部への地形変換点であることから、溝遺構のみが検出された。その走行は等高線に沿うように走るものが多い。検出の溝跡の中には、埋没土壌中に明らかに当該期の水流痕跡が認められ、古墳時代の水路と断定されるものも含まれる。

6区西端部の台地縁辺より、3軒の堅穴住居跡(21・22・23号住居跡)が検出された。上面の削平により遺存状態は良好ではないものの、出土遺物等からいずれも古墳時代後期と推定され、同時期の住居跡が密集する7区とは距離的に離れているため、別集落がこれより西側に広く展開することが想定される。

また、住居跡が検出された地点のほど近い台地縁辺下より、土器器完形品を主体とする多量の土器集中出土地点が検出された。出土遺物中には剣形や勾玉形の滑石製模造品、鈴鏡形土製模造品も含まれることから、これらは祭祀跡の献納遺物と考えられる。(後掲のP288「水辺祭祀跡」参照)

6区北～北東部は、浅間B軽石直下面においては、台地部よりの緩やかな傾斜面をもって低地部へと続いていたが、下面試掘調査(湧水が激しく、面的な掘削は不可能)の結果、調査区に沿うように4世紀代からの旧河道跡(砂礫層中より有段口線壺形土器片出土)が検出された。この旧河道跡周辺一帯は榛名山二ツ岳白色軽石混じりの黒色弱粘質土で覆われていることから、軽石の降下時には既に河道は別所に流路を移していたものと思われる。

7区は、北東部に隣接する6区よりの低地が展開するのみで、大半がローム台地となる。低地部と調査区南西コーナー部を除く台地上の帯状部分に堅穴住居跡を中心とした集落跡が展開される。集落は、堅

IV 遺構と遺物

穴住居跡の平面的形状および規模や主軸方位、カムド敷設位置などに個体差がみられ、また、住居跡どうしの重複も多いことから、集落の継続性が認められる。7区北西部には、一辺が6m以上を測る大型の竪穴住居跡どうしの複数重複が見られる。また、5号井戸跡の確認面から底面に至るまでの埋土中から、多量の土器の出土が見られる。

7区低地部には後記の浅間B軽石直下水田跡が検出されたものの、下面においては降積テフラの純層堆積や氾濫層の堆積はみられず、よって水田遺構は検出されなかった。また、他区同様に水田跡の存在を求めてプラントオパール分析を行ったが、結果は土壌中よりのイネの検出はなかった。

8区は調査区の大半を溝跡が占め、集落遺構の検出はなかった。溝跡の時期は多期に渡るが、出土遺物から古墳時代後期に特定できるものもあり、用途は水路跡と考えられる。溝の走行は南北軸に沿うものが多く、北側の延長線上には水源と想定される蛇川が流れる。

奈良・平安時代

4区北半西側～6区南端部および5区南端部にかけての地点と7区北東部の台地縁辺から緩やかに低地へ向かう部分に、浅間B軽石(天仁元(1108)年降下)の純層堆積が2～5cmほど確認され(後掲のP331「火山灰分析」参照)、その直下から水田畦畔跡が検出された。遺存状況は良好とは言えず、また、調査区が狭い範囲であることから水田域の一部を調査したに過ぎないが、調査時点では東毛隣接地域において同期水田跡の調査例としては所例となった。

検出水田面の土壌を分析した結果、イネのプラントオパールを検出したものの、火山灰直下の黒泥土壌よりの検出密度は低かった。逆にその下面の粘質土壌より高密度・広範囲のイネのプラントオパールが検出された。(後掲P 341「自然科学分析—プラントオパール」参照)

検出された良好な畦畔跡は、4区中央部と現有道を挟んだ5区南端部かけて、調査区に直交し、やや

蛇行し並走する2本のための畔跡が検出され、大畔跡と判断された。2本の畔間は、その形状から水路として利用されたものと考えられる。また、4区中央部北寄りに緩やかに蛇行する小畔跡が検出され、一部分岐するものの、調査区端にあるため、水田面の区画規模・形状を確認するには至らなかったが、この地点の西側路線外に水田域が広く展開するものと推察される。

7区北東部に面的に検出された水田跡は、中央部分の畦畔の遺存状況が悪いためにその全容は明らかではないが、北西端部の畔の様相を見る限り、水田区画は小規模・不定形と考えられ、この地点を南西限として北東～南東方向に広く水田域が展開されるものと推察される。

中・近世

この時期の検出遺構は少なく、7区において井戸跡が1基検出され、埋土内より五輪塔水輪・軟質陶器内耳鍋等が出土する。また、8区において検出された61・64・65号溝が近・現代遺物をも出土するものの、底部付近より板碑片を出土することから、中世期に造れ、使い続けられた溝跡と判断される。この溝跡は、埋土断面の観察からも通水の痕跡を残すことから、用水路としての機能を持つものであることは間違いないが、平面形状や規模を見る限り、直角に走行を変えていることから、中世館跡の外堀的な様相をもうかがわせる。

その他、近世～近代の遺物も表面採取遺物として取り上げたが、前述のとおり調査区を覆う上層土が、昭和期の土地改良事業による客土であるため、近隣他所からの移入で原位置性が薄いと判断により、掲載を割愛した。

2、遺構と遺物

(1) 竪穴住居跡

21号住居跡 (遺構写真P L16、遺物写真P L-)

位置: X=34027 Y=-42763

主軸方位: N-30° -W

規模・形状: 調査区南西端に接して検出され、床面までの残存深度は20cm弱を測る。平面形状は4mを測る住居北東壁のみの検出であるため、全容は明らかではない。

カマド: 住居北側に炭化材の散乱が見られるものの、調査範囲内においてカマドは検出し得なかった。

内部施設: 調査範囲内においては柱穴・貯蔵穴は検出し得なかった。

掘り方: 全体に5~10cmほどの掘り方を持つが、土坑状の掘り込みは有しない。

出土遺物: 埋土中より少量の土師器片を出土するのみである。

重複遺構: 22号住居跡・23号住居跡と重複し、遺構平面確認時点では確認できなかったが、埋土断面の状態から、重複する2軒より本住居跡の方が新しいものと判明した。

22号住居跡 (遺構写真P L16、遺物写真P L79)

位置: X=34028 Y=-42761

主軸方位: 不明

規模・形状: 調査区南西端に接して検出され、遺存状態は悪く、床面まで僅かに5cm弱を測るのみである。平面形状は周囲の重複により明らかではない。

カマド: 住居南側において検出されるもの、遺存状態は極めて悪く、僅かに粘土・焼土を残すのみである。

内部施設: 床面上より2穴の小ピットを検出するが、柱穴に成り得る規模ではない。

掘り方: 全体に5~10cmほどの掘り方を持つが、

土坑状の掘り込みは有しない。

出土遺物: 土師器坏 (No.1・2・3・5・8)、土師器高坏 (No.12)、土師器甕 (No.14・15・17・18・19・21・22) が床面直上よりの出土である。

重複遺構: 東側に7号溝跡と重複し、遺構平面確認時の状況より本住居跡の方が古いものと判明した。また、21号住居跡・23号住居跡と重複し、埋土断面の状態から、本住居跡は21号住居跡よりも古く、23号住居跡よりは新しいものと判明した。

23号住居跡 (遺構写真P L16、遺物写真P L80)

位置: X=34025 Y=-42760

主軸方位: 不明

規模・形状: 平面形状は調査区南西端に接して検出され、床面までの残存深度は20cm弱を測る。平面形状は周囲の重複も有り、住居南東壁の一部2mを測るのみの検出であるため、全容は明らかではない。

カマド: 一部の床面上に焼土の散乱が見られるものの、調査範囲内においてのカマド検出には至らなかった。恐らくは、欠失した北東壁側に有していたものと推察される。

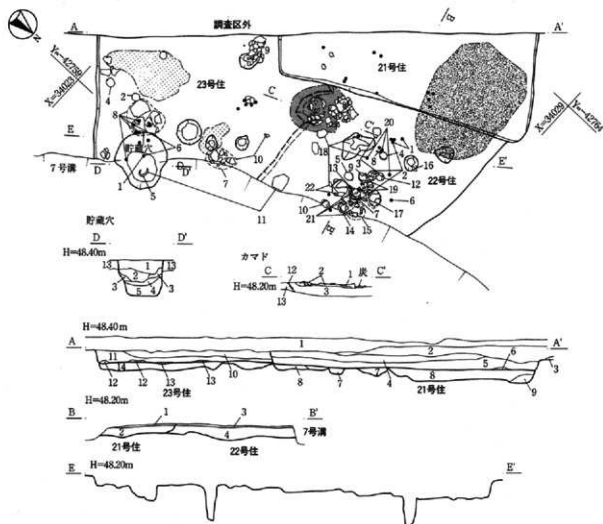
内部施設: 南東壁寄りの東に径80~90cm、深度50cmほどを測る貯蔵穴を1基検出する。

掘り方: 全体に5~20cmほどの掘り方を持つが、土坑状の掘り込みは有しない。

出土遺物: 土師器坏 (No.2・4)、土師器甕 (No.7・9・10) が住居床面直上より、また、土師器坏 (No.1・3・5・6) が貯蔵穴内より出土する。

重複遺構: 東側に7号溝跡と重複し、遺構平面確認時の状況より本住居跡の方が古いものと判明した。また、21号住居跡・22号住居跡と重複し、埋土断面の状態から、重複する両住居跡より本住居跡の方が古いものと判明した。

IV 遺構と遺物



21・23号住居跡 SP-A-A' 埋土

- 1: 灰黄褐色土 灰土
 - 2: にぶい黄褐色土 少量の雑名白色軽石を含む
 - 3: 褐色土 微量の雑名白色軽石を含む
- [21号住居跡 埋土]
- 4: にぶい黄褐色土 少量のローム粒子を含む
 - 5: にぶい黄褐色土 少量のローム小ブロックと微量の炭化物を含む
 - 6: 褐色土 炭化物を含む焼土
 - 7: にぶい赤褐色土 多量のロームブロックを含み、上面に炭化物を多く含む(床面・掘り方埋土)
 - 8: にぶい褐色土 少量のロームブロックを含む(掘り方埋土)
 - 9: にぶい赤褐色土 微量のロームブロックを含む(掘り方埋土)
- [23号住居跡 埋土]
- 10: にぶい赤褐色土 微量のローム粒子・焼土粒子を含む
 - 11: にぶい赤褐色土 少量のロームブロック・炭化物と微量の焼土粒子を含む
 - 12: 褐色土 焼土層
 - 13: にぶい褐色土 多量のローム粒子を含み、硬化する(床面)
 - 14: にぶい褐色土 多量のロームブロックを含む(掘り方埋土)

21・22号住居跡 SP-B-B' 埋土

- [21号住居跡]
- 1: にぶい赤褐色土 多量のロームブロックを含み、上面に炭化物を多く含む(床面・掘り方埋土)

21・22・23号住居跡 平・断面図

- 2: にぶい褐色土 少量のローム粒子・炭化物を含む(掘り方埋土)
- [22号住居跡]
- 3: にぶい黄褐色土 少量のローム粒子を含む
- 4: 明黄褐色土 少量のロームブロックを含む(掘り方埋土)

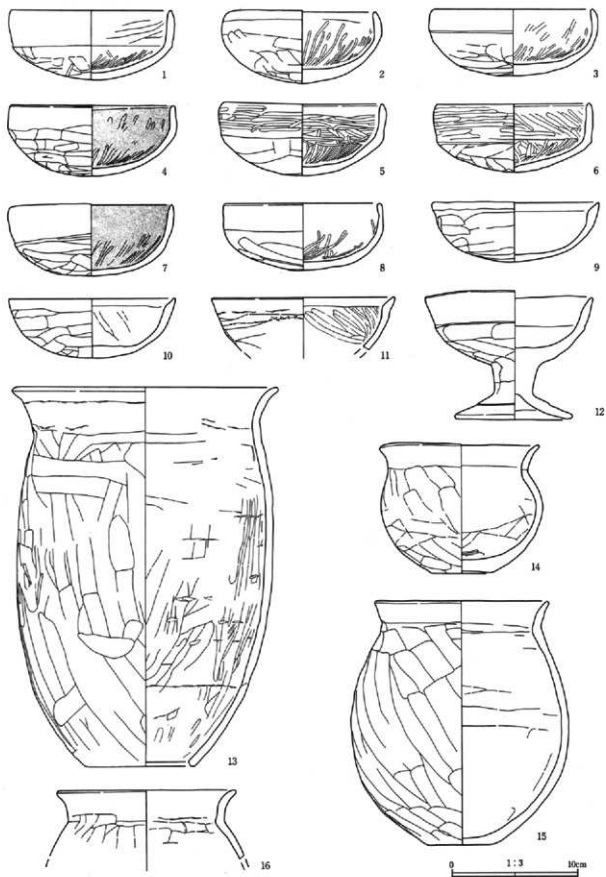
22号住居跡カマド SP-C-C' 埋土

- 1: 褐色土 少量のローム粒子・炭化物を含む
- 2: にぶい黄褐色土 多量の焼土粒子と少量のローム粒子・炭化物を含む
- 3: にぶい黄褐色土 22号住居跡り方埋土
- 13: にぶい褐色土 多量のローム粒子を含み、硬化する(23号住居跡床面)
- 14: にぶい褐色土 多量のロームブロックを含む(23号住居跡掘り方埋土)

23号住居跡貯蔵穴 SP-D-D' 埋土

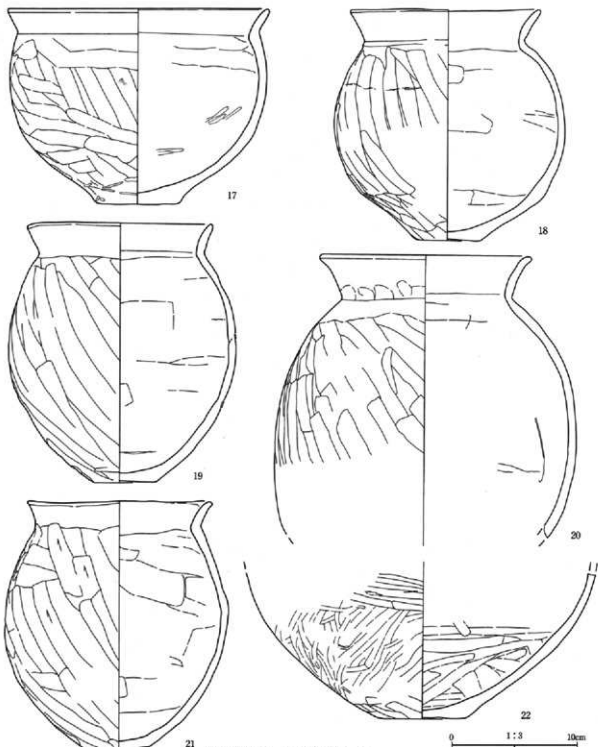
- 1: にぶい黄褐色土 少量のローム小ブロックと褐色土ブロックを含む
- 2: 灰黄褐色土 少量のローム粒子と微量の炭化物を含む
- 3: 灰黄褐色土 少量のロームブロック・炭化物を含む
- 4: 灰黄褐色土 微量のローム粒子・炭化物を含む
- 5: 灰黄褐色土 多量のロームブロックと微量の炭化物を含む
- 13: 褐色土 住居掘り方埋土 多量のロームブロックを含む

2. 遺構と遺物



22号住居跡 出土遺物図-1

IV 遺構と遺物



22号住居跡 出土遺物図-2

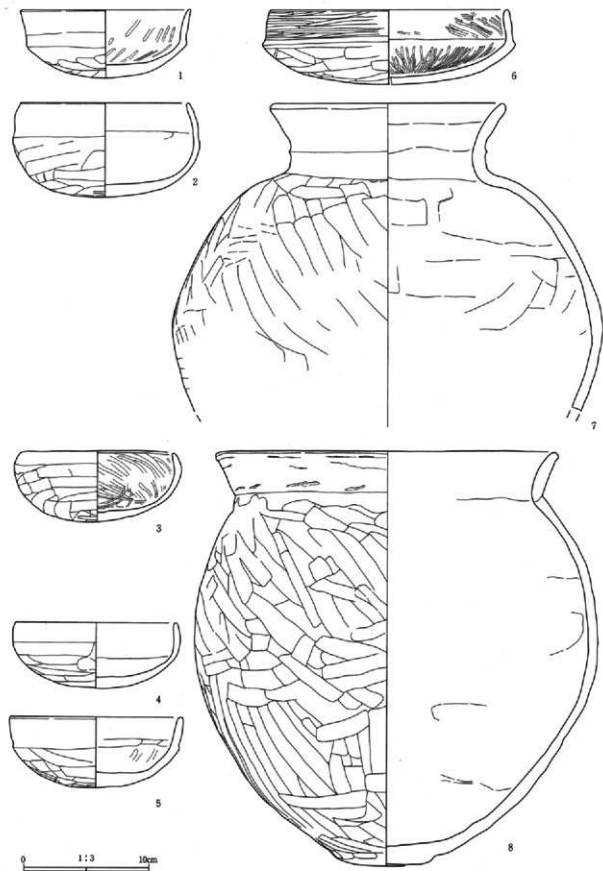
6区 22号住居跡 遺物観察表-1

遺構名 遺物番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考
22号住居 1	土師器 坏	床面直上 略宧形	口径 12.6 底径 - 高さ 5.9	①灰・細砂少 ②酸化塩、良好 ③にぶい赤褐色	外面=口縁部横ナデ、体部~底部ヘラ削り後に 丁寧なヘラナデ。内面=口縁部横ナデ、体~底 部ナデの後に粗いヘラ磨き。	
22号住居 2	土師器 坏	床面直上 略宧形	口径 11.8 底径 - 高さ 5.7	①灰・細砂少 ②酸化塩、良好 ③明赤褐色	外面=口縁部~体部下位ヘラ削り後に丁寧なヘラ ナデ、底部ヘラ削り。内面=全面ナデの後に粗い ヘラ磨き。	

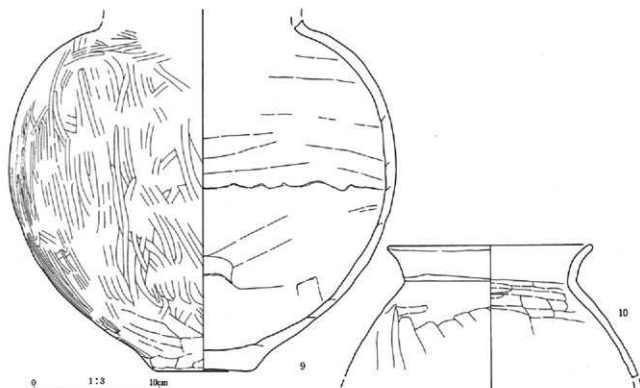
6区 22号住居跡 遺物観察票-2

遺構名 遺物番号	種別 器種	出土位置 残存状況	計測値 (cm)	①粘土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考
22号住居 3	土師器 坏	床面直上 2/3	口径 12.6 底径 - 高さ 5.2	①微・細砂少 ②酸化塩、良好 ③橙色	外面=口縁部-体部下位へう割りに後に丁寧なヘラナデ。底部へう割り。内面=全面ナデの後に軽いへう磨き。	
22号住居 4	土師器 坏	床面+4cm 宛形	口径 13.0 底径 - 高さ 5.5	①微・細・粗砂少 ②酸化塩、良好 ③橙色	外面=口縁部横ナデ、体部-底部へう割り後丁寧なヘラナデ。内面=口縁部横ナデ、体-底部ナデの後放射状へう磨き。内面=焼成時吸炭。	内黒土器
22号住居 5	土師器 坏	床面+2cm 宛形	口径 12.6 底径 - 高さ 5.6	①微・細砂少 ②酸化塩、良好 ③にぶい赤褐色	外面=口縁部ナデの後に横方向のへう磨き、体部-底部丁寧なヘラ割りに後に軽いヘラナデ。内面=全面ナデの後に丁寧なヘラ磨き。	
22号住居 6	土師器 坏	床面+4cm 宛形	口径 12.0 底径 - 高さ 5.3	①微・細・粗砂少 ②酸化塩、良好 ③明赤褐色	外面=口縁部横ナデ、体部-底部へう割り後にヘラナデ。内面=口縁部横方向のへう磨き、体-底部ナデの後に放射状へう磨き。	内黒土器
22号住居 7	土師器 坏	床面+5cm 宛形	口径 12.8 底径 - 高さ 5.7	①微・細・粗砂少 ②酸化塩、良好 ③橙色	外面=口縁部横ナデ、体部-底部丁寧なヘラ割り。内面=口縁部横ナデ、体-底部ナデの後に放射状へう磨き。内面=焼成時吸炭。	内黒土器
22号住居 8	土師器 坏	床面直上 略宛形	口径 12.4 底径 - 高さ 5.3	①微・細砂少・粗砂多 ②酸化塩、良好 ③赤褐色	外面=口縁部横ナデ、体部上位ナデにヘラナデ。内面=ナデの後に軽いへう磨き。内外面器面やや摩滅。	
22号住居 9	土師器 坏	床面+2cm 宛形	口径 13.0 底径 - 高さ 4.8	①微・細砂多 ②酸化塩、良好 ③にぶい赤褐色	外面=口縁部横ナデ、体部-底部へう割り。内面=口縁部横ナデ、体-底部ナデ。内外面共に器面摩滅。	
22号住居 10	土師器 坏	床面+5cm 3/5	口径 13.0 底径 - 高さ 4.7	①微・細・粗砂やや多 ②酸化塩、良好 ③明赤褐色	外面=口縁部横ナデ、体部-底部丁寧なヘラ割り。内面=口縁部横ナデ、体-底部ナデ。内外面共に器面摩滅。	
22号住居 11	土師器 坏	床面直上 口縁-体部	口径 14.4 底径 - 高さ -	①微・細・粗砂やや多 ②酸化塩、良好 ③明赤褐色	外面=口縁部横ナデ、体部丁寧なヘラ割り。内面=口縁部横ナデ、体部ナデ。内外面共に器面摩滅。	
22号住居 12	土師器 高坏	床面直上 脚一次	口径 13.3 底径 9.3 高さ 10.2	①微・細砂やや多 ②酸化塩、良好 ③赤褐色	外面=環口縁横ナデ、体部丁寧なヘラ割り。脚部ナデ。内面=環部ナデ、脚裏ナデ。環部内面=摩滅。	
22号住居 13	土師器 瓶 (1六)	床面+7cm 略宛形	口径 22.3 底径 8.6 高さ 29.8	①微・細・粗砂やや多 ②酸化塩、良好 ③にぶい黄褐色	外面=口縁部横ナデ、胴部へう割り。内面=口縁部横ナデ、胴部へう割り。	
22号住居 14	土師器 小型壺	床面-2cm 4/5	口径 12.6 底径 4.6 高さ 10.2	①微・細砂やや多 ②酸化塩、良好 ③にぶい赤褐色	外面=口縁部横ナデ、胴部へう割り。内面=口縁部横ナデ、胴部丁寧なナデ。	
22号住居 15	土師器 壺	床面+1cm 2/3	口径 13.8 底径 (5.2) 高さ 19.1	①微・細・粗砂多 ②酸化塩、良好 ③にぶい橙色	外面=口縁部横ナデ、胴部へう割り。内面=口縁部横ナデ、胴部ナデ。	
22号住居 16	土師器 壺	床面+3cm 口縁片	口径 (14.2) 底径 - 高さ -	①微・細砂少 ②酸化塩、良好 ③赤灰色	外面=口縁部横ナデ、胴部上位縦方向のヘラナデ。内面=口縁部横ナデ、胴部へう割り。	
22号住居 17	土師器 壺	床面直上 2/3	口径 (20.8) 底径 6.8 高さ 15.3	①微・細砂やや多 ②酸化塩、良好 ③橙色	外面=口縁部横ナデ、胴部へう割りに後に一部ヘラナデ。内面=口縁部横ナデ、胴部丁寧なナデ。	
22号住居 18	土師器 壺	床面+2cm 略宛形	口径 15.0 底径 5.1 高さ 18.0	①微・細・粗砂やや多 ②酸化塩、良好 ③にぶい橙色	外面=口縁部横ナデ、胴部縦方向の丁寧なヘラ割り。内面=口縁部横ナデ、胴部ナデ。	
22号住居 19	土師器 壺	床面直上 略宛形	口径 14.7 底径 4.9 高さ 20.5	①微・粗砂多 ②酸化塩、良好 ③にぶい橙色	外面=口縁部横ナデ、胴部へう割りに後に一部ヘラナデ。内面=口縁部横ナデ、胴部ナデ。外面=器面やや摩滅。	
22号住居 20	土師器 壺	床面+5cm 口-胴中	口径 16.7 底径 - 高さ -	①微・細・粗砂やや多 ②酸化塩、良好 ③にぶい橙色	外面=口縁部横ナデ、肩部ナデ、胴部縦方向の丁寧なヘラ割り。内面=口縁部横ナデ、胴部ナデ。	
22号住居 21	土師器 壺	床面直上 4/5	口径 14.7 底径 5.0 高さ 19.4	①微・細砂多 ②酸化塩、良好 ③にぶい橙色	外面=口縁部横ナデ、胴部へう割りに後に一部ヘラナデ。内面=口縁部横ナデ、胴部ナデ。外面=器面やや摩滅。	
22号住居 22	土師器 壺	床面+2cm 底部片	口径 - 底径 7.0 高さ -	①微・粗砂やや多 ②酸化塩、良好 ③黒褐色	外面=胴部下位へう割りに後に軽いヘラナデ。内面=底部付近ナデ。	

IV 遺構と遺物



23号住居跡 出土遺物図一



23号住居跡 出土遺物図-2

6区 23号住居跡 遺物観察表

遺構名 遺物番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①粘土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考
23号住居 1	土師器 坏	貯蔵穴 完形	口径 13.5 底径 - 高さ 5.3	①灰・細砂少、粗砂多 ②酸化焙、良好 ③橙色	外面=口縁部横ナデ、体~底部丁寧なヘラ削り。内面=ナデの後に粗いヘラ磨き。	
23号住居 2	土師器 坏	床面直上 4/5	口径 13.5 底径 - 高さ 7.5	①灰・細砂少、粗砂多 ②酸化焙、良好 ③橙色	外面=口縁部横ナデ、体~底部丁寧なヘラ削り。内面=全面ナデ。	
23号住居 3	土師器 坏	貯蔵穴 完形	口径 12.3 底径 - 高さ 5.6	①灰・細砂少 ②酸化焙、良好 ③橙色	外面=口縁部横ナデ、体~底部丁寧なヘラ削り。内面=ナデの後にやや粗いヘラ磨き。	
23号住居 4	土師器 坏	床面直上 完形	口径 12.9 底径 - 高さ 5.2	①灰・細砂少、粗砂多 ②酸化焙、良好 ③橙色	外面=口縁部横ナデ、体~底部丁寧なヘラ削り。内面=全面ナデ、器面やや摩滅。	
23号住居 5	土師器 坏	貯蔵穴 2/3	口径 (13.7) 底径 - 高さ 5.6	①灰・細砂やや多 ②酸化焙、良好 ③にぶい橙色	外面=口縁部横ナデ、体~底部丁寧なヘラ削り。内面=口縁部横ナデ、体部ナデ。	
23号住居 6	土師器 坏 (大型)	貯蔵穴 1/2	口径 (18.7) 底径 - 高さ 5.9	①灰・細・粗砂少 ②酸化焙、良好 ③赤褐色	外面=口縁部横ナデの後に横方向のヘラ磨き、体部上位ヘラナデ、下位~底部丁寧なヘラ磨き。内面=ナデ後に丁寧なヘラ磨き。	
23号住居 7	土師器 壺	床面直上 口~胴中	口径 18.5 底径 - 高さ -	①灰・細砂やや多 ②酸化焙、良好 ③橙色	外面=口縁部横ナデ、胴部ヘラナデ。内面=口縁部横ナデ、胴部ナデ。	
23号住居 8	土師器 壺	床面+3cm 4/5	口径 27.0 底径 7.5 高さ 32.5	①灰・細砂多 ②酸化焙、良好 ③にぶい黄褐色	外面=口縁部横ナデ、胴部ヘラ削り後ヘラナデ。内面=口縁部横ナデ、胴部全面ナデ。	
23号住居 9	土師器 壺	床面直上 胴~底部	口径 - 底径 8.0 高さ -	①灰・細砂やや多 ②酸化焙、良好 ③にぶい橙色	外面=胴部上位~中位ヘラ削り後に細かいヘラナデ。下位~底部ヘラ削り。内面=全面ナデ。	
23号住居 10	土師器 壺	床面直上 口~胴中	口径 (16.1) 底径 - 高さ -	①灰・細砂少 ②酸化焙、良好 ③灰黄褐色	外面=口縁部横ナデ、胴部ナデ、胴部中位以下丁寧なヘラ削り。内面=口縁部横ナデ、胴部丁寧なナデ。	

IV 遺構と遺物

24号住居跡 (遺構写真P.L.23、遺物写真P.L.80)

位置：X=34108 Y=-42865

主軸方位：N-34° - E

規模・形状：平面形状は4.9m×2.9mを測る主軸直交方向に長い隅丸長方形を呈し、床面までの残存深度は25cm程を測る。

カマド：北壁北東コーナー付近に検出。遺存状態は悪く、袖部の一部を残すのみ。燃焼部は壁から1mほど内側に位置し、煙道部も壁から突出しない。袖部は芯材を用いず粘土のみで構築される。また、掘り方調査の結果、南東壁中央北寄りの位置に土坑状の落ち込みを検出、当初重複遺構(73号土坑跡)と考えられたが、カマド造り替えに伴う旧カマドの掘

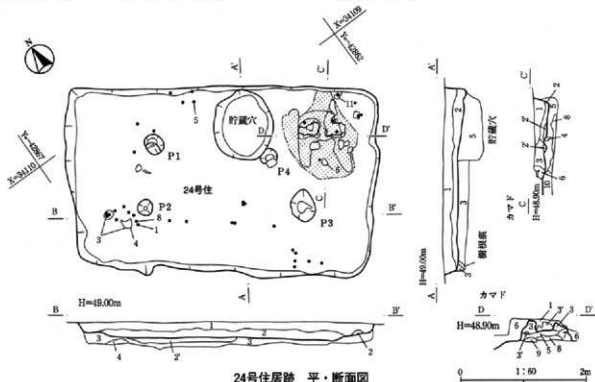
り方と判明。

内部施設：カマド北西部より径95cm×110cm・深度37cmを測る楕円形の貯蔵穴を一穴検出する。柱穴は床面段階では検出し得なかったが、掘り方調査段階で径25~37cm程・深度20~50cm程を測るピット5穴を検出する。内1穴(Pit5)はカマド袖部下にあり、カマドの造り替えに伴う柱穴の移設が考えられる。

掘り方：ほぼ全体に5~20cm程の掘り方をもつが、規則性はみられない。

出土遺物：手捏ね土器(No.1)が床面下から出土する。

重複遺構：なし。



24号住居跡 平・断面図

24号住居跡 埋土

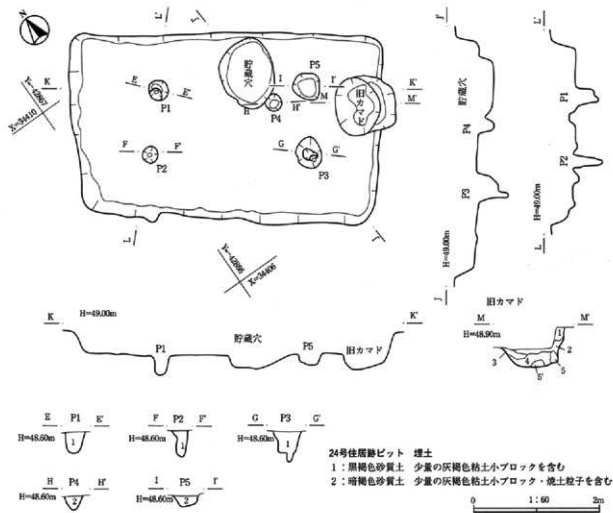
- 1：暗褐色砂質土 雑名白色軽石を含む
- 2：暗褐色砂質土 微量の炭化物を含む
- 2'：暗褐色砂質土 少量の砂質ローム土と炭化物を含む
- 3：黄色砂質土 砂質ローム土に少量の暗褐色土を含む(掘り方埋土)
- 4：黄色砂質土 砂質ローム土に少量のハードロームブロック・暗褐色土を含む(掘り方埋土)
- 5：暗褐色土 少量の灰白色粘土小ブロック・焼土粒子を含む

24号住居跡カマド 埋土

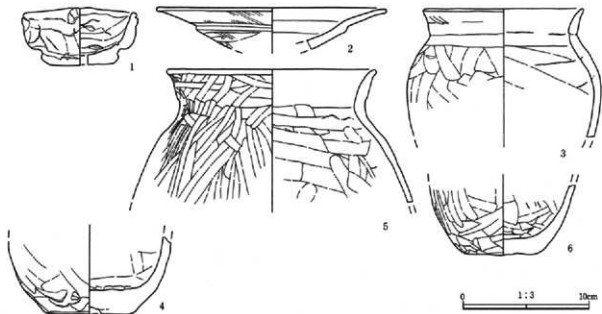
- 1：黒褐色砂質土 微量の焼土粒子を含む
- 2：黒褐色砂質土 少量の灰白色粘土小ブロックと微量の焼土粒子を含む

- 2'：黒褐色砂質土 少量の灰白色粘土小ブロックと多量の焼土粒子を含む
- 3：灰白色粘土 カマド袖材
- 3'：灰白色粘土 3層の崩落土
- 4：灰白色粘土
- 5：灰層 焼土粒子を含む(使用面)
- 6：暗褐色砂質土 少量の灰白色粘土小ブロックと微量の焼土粒子を含む
- 7：黒褐色土 少量の焼土粒子を含む(カマド掘り方埋土)
- 8：にぶい褐色土 ローム崩移層土(カマド掘り方埋土)
- 9：黒褐色土 少量のロームブロック・焼土粒子を含む(カマド掘り方埋土)
- 10：住居掘り方埋土

2. 遺構と遺物

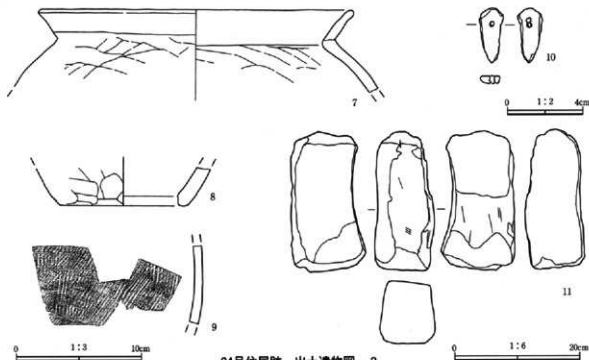


24号住居跡 掘り方平・断面図



24号住居跡 出土遺物図一

IV 遺構と遺物



24号住居跡 出土遺物図-2

7区 24号住居跡 遺物観察表

遺物番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考
24号住居 1	手捏ね 坏	床面-5cm 1/2	口径 8.9 底径 5.0 高さ 4.5	①灰・細・粗砂少 ②酸化塩、良好 ③褐色	手捏ね成形	
24号住居 2	土師器 高坏	埋土中 坏部口縁	口径(18.0) 底径 - 高さ -	①灰・細・粗砂やや多 ②酸化塩、良好 ③明赤褐色	外面=坏部口縁-中段ヘラ磨き、下段ヘラナデ。 内面=坏部器面形成のため整形痕不明。	
24号住居 3	土師器 甕	床面+4cm 上1/2	口径 12.6 底径 - 高さ -	①灰・細砂少 ②酸化塩、良好 ③褐色	外面=口縁部粗雑な横ナデ、胴部上位ヘラナデ。 内面=口縁部横ナデ、胴部ナデ。	
24号住居 4	土師器 甕	床面+4cm 底部片	口径 - 底径 7.0 高さ -	①灰・細砂少 ②酸化塩、良好 ③明赤褐色	外面=底部~胴部下端粗雑なヘラ削り。内面=ナデ。	
24号住居 5	土師器 甕	床面直上 口縁片	口径(16.5) 底径 - 高さ -	①灰・細砂やや多 ②酸化塩、良好 ③にぶい黄褐色	外面=口縁部ナデ、胴部ヘラ削りを若干残し細かいヘラナデ。内面=口縁部横ナデ、胴部ナデ。	
24号住居 6	土師器 甕	カマド 使用面+7cm 底部片	口径 - 底径 5.7 高さ -	①灰・細砂少 ②酸化塩、良好 ③にぶい褐色	外面=胴部下位ヘラナデ。内面=ナデ。	
24号住居 7	土師器 甕	埋土中 口縁片	口径(24.8) 底径 - 高さ -	①灰・細・粗砂やや多 ②酸化塩、やや良好 ③にぶい黄褐色	外面=口縁部横ナデ、胴部ヘラナデ。内面=口縁部横ナデ、胴部ヘラナデ。	
24号住居 8	土師器 甕 (一穴)	床面+14cm 底部破片	口径 - 底径(10.0) 高さ -	①灰・細・粗砂やや多 ②酸化塩、やや良好 ③褐色	厚さ1.1cm。孔一穴。径推定8.6cm。	
24号住居 9	須恵器 甕	掘方埋土 胴 破片	口径 - 底径 - 高さ -	①灰・細砂少 ②還元塩、良好 ③灰色	外面=胴部叩き肌。	
24号住居 10	滑石製 模造品	埋土中 完形	長さ 2.9 巾 1.3 厚さ 0.4	石材 滑石 重量 0.196g	孔径0.25cm。裏面上方の孔は未貫通。	
24号住居 11	砥石	カマド 使用面直上 略丸形	長さ 21.8 巾 8.9 厚さ 11.2	石材 砥石 重量 2.990g	長辺側4面使用。刃傷有り。	

25号住居跡 (遺構写真P.L24, 遺物写真P.L81)

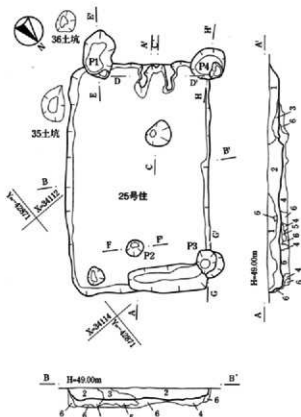
位置: X=34113 Y=-42873

主軸方位: N-44°-E

規模・形状: 平面形状は3.8m×2.3mを測る主軸方向に長い隅丸長方形を呈する。床面までの残存深度は20cm程を測る。

カマド: 南西壁の中央やや西寄りに位置し、煙道部は短く壁外に突出しない。袖部は芯材を用いず粘土のみで構築される。

内部施設: 北東壁下の東半に巾30~40cm、深度12cmを測る溝状の施設を検出するもの、用途は



25号住居跡 埋土

- 1: 暗褐色砂質土 礫名白色軽石と微量の炭化物を含む
- 2: 黒褐色砂質土 礫名白色軽石を含む
- 3: 黒褐色砂質土 少量の黄色砂質ローム土を含む
- 4: 黒褐色土 多量の黄色砂質ロームブロックを含む (掘り方埋土)
- 5: 黒褐色土 4層土+灰色砂質ローム土ブロック (掘り方埋土)
- 6: 黄褐色砂質土 黒褐色土・灰色砂質ロームブロックを含む (掘り方埋土)

25号住居跡ピット1 (旧37号土坑) 埋土

- 1: 暗褐色土 少量の礫名白色軽石・砂質ロームブロックを含む

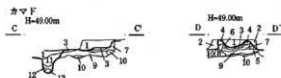
25号住居跡 平・断面図

不明。柱穴は当初、重複土坑 (37・38・44号土坑) として考えた各コーナー部壁にかかるピットが壁柱穴となるものと考えられる。

掘り方: 住居内の全体に5~15cm程の掘り方を有するもの、規則性はみられない。

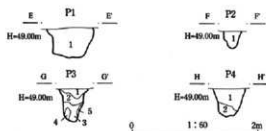
出土遺物: 土師器環 (No.2・3・5) がカマド埋土内より出土する。

重複遺構: なし。



25号住居跡カマド 埋土

- 1: 黒褐色土 多量の灰褐色粘土ブロック・焼土小ブロックを含む
- 2: 黒褐色土 灰褐色粘土小ブロック・ローム粒子を含む
- 3: 灰層 多量の炭化物と少量の焼土小ブロックを含む (使用面)
- 4: 灰褐色-黄白色粘土 袖部
- 5: 暗褐色砂質土 ローム層移層土・ローム小ブロックを含む
- 6: 灰褐色粘土ブロック
- 7: 黒褐色土 少量の砂質ロームブロックを含む
- 8: 黒褐色土 多量の砂質ロームブロック・ローム粒子を含む
- 9: 黄褐色砂質土 少量の黒褐色土を含む
- 10: 黄褐色土 ローム土に少量の黒褐色土を含む
- 11: 黒褐色土 微量のローム粒子・焼土粒子を含む
- 12: 黒褐色土 少量のローム粒子・焼土粒子を含む
- 13: 黒褐色土 少量のローム土を含む



25号住居跡ピット2 埋土

- 1: 黒褐色土 微量のローム粒子・焼土粒子を含む

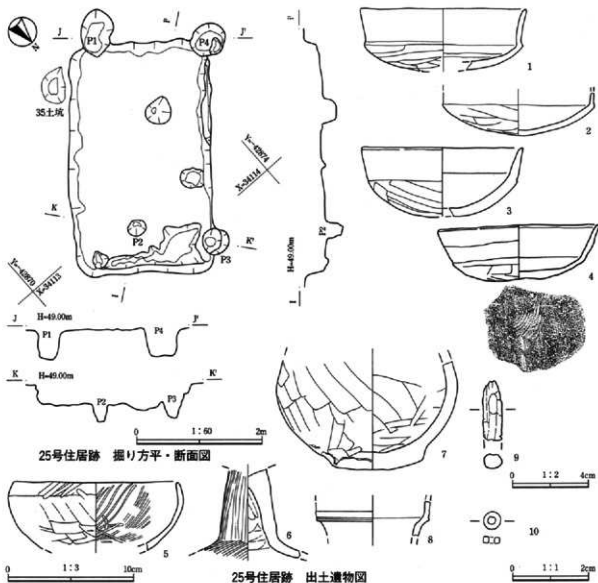
25号住居跡ピット3 (旧44号土坑) 埋土

- 1: 暗褐色土 多量の砂質ローム土と少量の礫名白色軽石を含む
- 2: 暗褐色土 少量の砂質ローム土・礫名白色軽石を含む
- 3: 暗褐色土 微量の砂質ローム土を含む
- 4: 黄褐色土 砂質ロームブロック
- 5: 黄褐色土 砂質ローム土に少量の暗褐色土を含む

25号住居跡ピット4 (旧38号土坑) 埋土

- 1: 暗褐色土 微量の砂質ローム粒子・礫名白色軽石を含む
- 2: 暗褐色土 多量の砂質ローム粒子を含む

IV 遺構と遺物



25号住居跡 掘り方平・断面図

25号住居跡 出土遺物図

7区 25号住居跡 遺物観察表-1

遺構名 遺物番号	種別 器種	出土位置 残存状況	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考
25号住居 1	土師器 杯	埋土中 1/5	口径 (13.0) 底径 - 高さ -	①灰・細砂少 ②酸化焙、良好 ③明赤褐色	外面=口縁部丁寧な横ナデ、体部丁寧なヘラナデ。内面=口縁部丁寧な横ナデ、体部丁寧なナデ。内面=赤色付着等。	
25号住居 2	土師器 杯	カマド埋土 1/4	口径 - 底径 - 高さ -	①灰・細砂少 ②酸化焙、良好 ③明赤褐色	外面=口縁部横ナデ、体部~底部ヘラ削り。内面=ナデ。	
25号住居 3	土師器 杯	カマド埋土 1/4	口径 (12.6) 底径 - 高さ -	①灰・細砂少、粗砂多 ②酸化焙、やや良好 ③明褐色	外面=口縁部横ナデ、体部ヘラ削り。内面=ナデ。器面摩滅のため整形不明瞭。	
25号住居 4	土師器 杯	埋土中 2/3	口径 12.6 底径 - 高さ 4.2	①灰砂少・粗砂やや多 ②酸化焙、良好 ③灰黄褐色	外面=口縁部横ナデ、体部粗いヘラ削り、底部回転ヘラ切り痕残る。内面=口縁部横ナデ、体部ナデ。	特異遺物
25号住居 5	土師器 杯	カマド埋土 口縁破片	口径 (13.0) 底径 - 高さ -	①灰・細・粗砂少 ②酸化焙、やや良好 ③明褐色	外面=口縁部細かいヘラナデ、体部丁寧なヘラ削り。内面=ナデの後にヘラ磨き。	
25号住居 6	土師器 高杯	カマド埋土 脚破片	口径 - 底径 - 高さ -	①灰・細砂少 ②酸化焙、良好 ③明赤褐色	脚部外面=ヘラ磨き。脚裏面ナデ。	

7区 25号住居跡 遺物観察表-2

遺構名 遺物番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考
25号住居 7	土師器 小型壺	カマド埋土 胴下半	口径 — 底径 7.0 高さ —	①微・細砂少、粗砂多 ②酸化磁、やや良好 ③にぶい赤褐色	外面=胴部下半粗いヘラナデ。内面=胴-底部ヘラナデ。	
25号住居 8	須恵器 鉢	埋土中 口縁破片	口径 — 底径 — 高さ —	①微・細砂少 ②還元磁、良好 ③暗灰色	ロクロ成・整形。	
25号住居 9	土製品	埋土中	長さ — 巾 1.0 厚さ —	①微・細砂少 ②酸化磁、やや良好 ③暗赤褐色	手捏ね成形。	
25号住居 10	滑石製 白玉	埋土中 完形	長さ 0.45 巾 0.45 厚さ 0.15	石材 総絞岩 重量 0.065g		

26号住居跡 (遺構写真P.L25、遺物写真P.L81)

位置：X=34121 Y=-42880

主軸方位：N-25°-E

規模・形状：平面形状は2.5m×2.45mを測る隅丸方形を呈し、床面までの残存深度は20cm程を測る。カマド：北東壁中央やや東寄りに位置し、芯材を用いず粘土のみで構築される。煙道端部は壁からあまり突出しない。

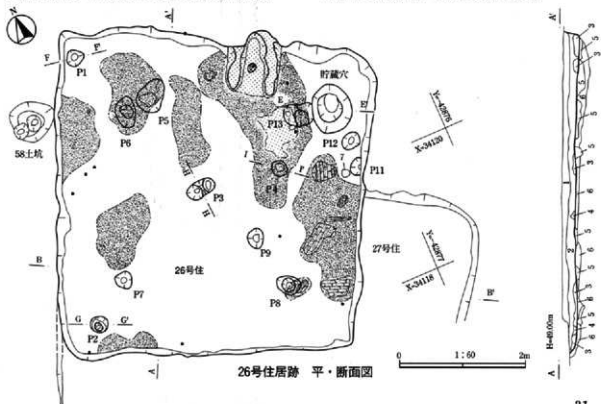
内部施設：東コーナー部より径60cm、深度43cm程の円形掘り鉢状の貯蔵穴を検出。また、柱穴は掘り方調査段階で明瞭に検出され、径22~25cm、深度24~35cmを測り、北側の4穴は共に建て替への痕跡を示す。

掘り方：カマド前庭部および住居中央部の2メートル四方をやや高く掘り残す。また、所々に溝状・土坑状の掘り込みを有す。

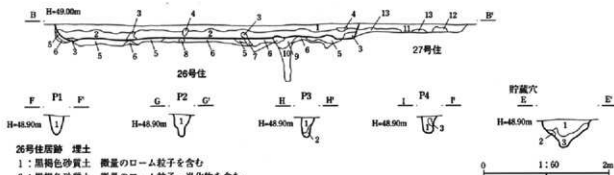
出土遺物：土師器坏(No.2・4)がカマド使用面付近より、土師器小型壺(No.7)が床面下より出土する。

また、住居内部の各所に炭化物が散逸し、特に東壁周辺からは炭化材が出土したが、床面上より間層を挿んだ状態であるため、本住居の焼失ではなく埋没途上での焚き火痕と考えられる。

重複遺構：南側において27号住居跡と重複。新旧関係は、遺構平面確認時および埋土断面の状況より本住居跡の方が新しいものと判断される。



IV 遺構と遺物



26号住居跡 埋土

- 1: 黒褐色砂質土 微量のローム粒子を含む
- 2: 黒褐色砂質土 微量のローム粒子・炭化物を含む
- 3: 黒褐色砂質土 多量のローム粒子・ブロックを含む
- 4: 黄褐色ロームブロック
- 5: 黒褐色土 少量のロームブロックを含む (掘り方埋土)
- 6: 淡黄褐色土 砂質ローム土に少量の黒褐色土を含む (掘り方埋土)
- 7: 淡褐色粘質土ブロック
- 8: 黒褐色土ブロック
- 9: 淡黄褐色土 6層土+7層土
- 10: 黄褐色土 ローム土に微量の黒褐色土を含む

27号住居跡 埋土

- 11: 暗褐色砂質土 少量の標名白色軽石と微量の炭化物を含む
- 12: 暗褐色砂質土 少量のローム土・標名白色軽石を含む
- 13: 暗褐色土 多量のロームブロックを含む

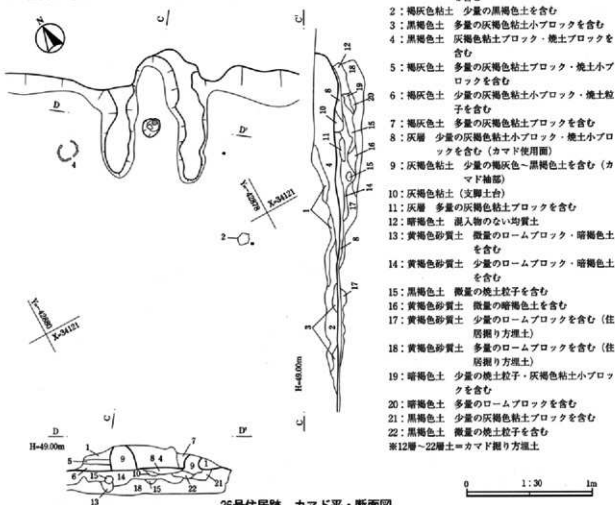
26号住居跡貯蔵穴 埋土

- 1: 黒褐色土 微量のローム粒子・焼土粒子・炭化物を含む
- 2: ロームブロック
- 3: 暗褐色土 少量のロームブロックを含む

26号住居跡ピット 埋土

- 1: 黒褐色土 少量の砂質ロームブロックを含む
- 2: 黒褐色土 多量のローム土を含む
- 3: 樹根攪乱土

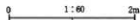
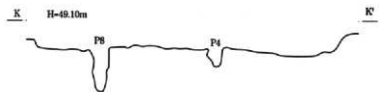
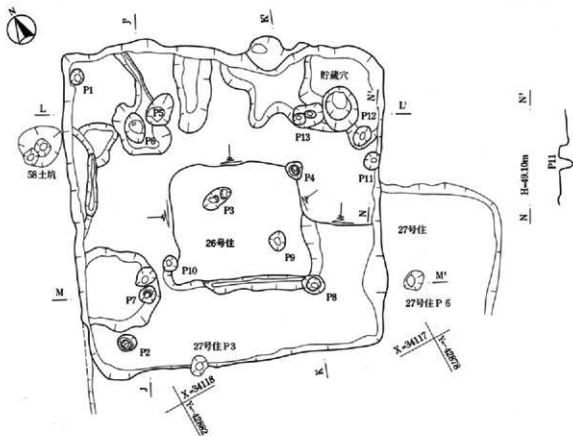
26号住居跡 断面図



26号住居跡カマド 埋土

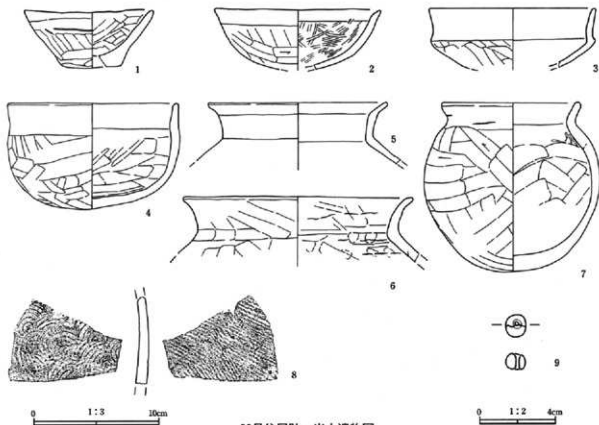
- 1: 褐灰色土 少量の褐灰色粘土ブロック・焼土粒子を含む
 - 2: 褐灰色粘土 少量の黒褐色土を含む
 - 3: 黒褐色土 多量の灰褐色粘土小ブロックを含む
 - 4: 黒褐色土 灰褐色粘土ブロック・焼土ブロックを含む
 - 5: 褐灰色土 多量の灰褐色粘土ブロック・焼土小ブロックを含む
 - 6: 褐灰色土 少量の灰褐色粘土小ブロック・焼土粒子を含む
 - 7: 褐灰色土 多量の灰褐色粘土ブロックを含む
 - 8: 灰層 少量の灰褐色粘土小ブロック・焼土小ブロックを含む (カマド使用面)
 - 9: 灰褐色粘土 少量の褐灰色・黒褐色土を含む (カマド軸部)
 - 10: 灰褐色粘土 (支脚土台)
 - 11: 灰層 多量の灰褐色粘土ブロックを含む
 - 12: 暗褐色土 掘入物のない均質土
 - 13: 黄褐色砂質土 微量のロームブロック・暗褐色土を含む
 - 14: 黄褐色砂質土 少量のロームブロック・暗褐色土を含む
 - 15: 黒褐色土 微量の焼土粒子を含む
 - 16: 黄褐色砂質土 微量の暗褐色土を含む
 - 17: 黄褐色砂質土 少量のロームブロックを含む (住居掘り方埋土)
 - 18: 黄褐色砂質土 多量のロームブロックを含む (住居掘り方埋土)
 - 19: 暗褐色土 少量の焼土粒子・灰褐色粘土小ブロックを含む
 - 20: 暗褐色土 多量のロームブロックを含む
 - 21: 黒褐色土 少量の灰褐色粘土ブロックを含む
 - 22: 黒褐色土 微量の焼土粒子を含む
- ※12層～22層土=カマド掘り方埋土

26号住居跡 カマド平・断面図



26号住居跡 掘り方平・断面図

IV 遺構と遺物



26号住居跡 出土遺物図

7区 26号住居跡 遺物観察表

遺構名 遺物番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考
26号住居 1	土師器 坏	カマド埋土 略完形	口径 10.0 底径 4.4 高さ 4.5	①灰・細砂やや多 ②酸化焙、良好 ③にぶい黄褐色	成形粗雑、口径狭み大。外面=粗雑なヘラ削り 後一部ヘラナデ。内面=ナデ。	
26号住居 2	土師器 坏	カマド 使用面+2cm 口縁片	口径 (13.0) 底径 - 高さ -	①灰・粗砂やや多 ②酸化焙、良好 ③明赤褐色	外面=口縁部横ナデ、体部ヘラ削り。内面=口縁 部横ナデ、体部ナデの後にヘラ磨き。	
26号住居 3	土師器 坏	カマド 口縁片	口径 (13.0) 底径 - 高さ -	①灰・細砂少 ②酸化焙、良好 ③にぶい黄褐色	外面=口縁部横ナデ、体部丁寧なヘラ削り。内 面=口縁部横ナデ、体部ナデ。	
26号住居 4	土師器 鉢	カマド 使用面直上 略完形	口径 13.5 底径 - 高さ 8.3	①灰・細砂やや多 ②酸化焙、良好 ③にぶい褐色	外面=口縁部横ナデ、体部~底部ヘラ削り後一 部ヘラナデ。内面=口縁部横ナデ、体部ナデ。	
26号住居 5	土師器 蓋	埋土中 口縁片	口径 (14.0) 底径 - 高さ -	①灰・細砂少 ②酸化焙、良好 ③にぶい褐色	外面=口縁部横ナデ、胴部横ナデ。内面=口縁部 横ナデ、体部上位ヘラナデ。	
26号住居 6	土師器 甕	埋土中 口縁片	口径 (18.1) 底径 - 高さ -	①灰・細砂やや多 ②酸化焙、良好 ③にぶい褐色	外面=口縁部ナデ、胴部上位ヘラ削り。内面=口 縁部ヘラナデ、胴部上位ヘラナデ、指置痕跡残 る。	
26号住居 7	土師器 小型甕	床面-6cm 2/3	口径 (10.8) 底径 - 高さ 13.3	①灰・細砂やや多 ②酸化焙、良好 ③にぶい褐色	外面=口縁部横ナデ、胴部ヘラ削り後一部ヘラ ナデ。内面=口縁部横ナデ、胴部ヘラナデ。	
26号住居 8	須恵器 甕	埋土中 破片	口径 - 底径 - 高さ -	①灰・細砂やや多 ②還元焙、良好 ③オリーブ黒色	外面=叩き肌。内面=当て具肌。	
26号住居 9	木製 丸玉 (なつめ玉)	埋土中 完形	長さ 1.15 巾 1.05 厚さ 0.8	重量 0.945g	加工は穿孔のみ。	

27号住居跡 (遺構写真P.L25, 遺物写真P.L81)

位置: X=34418 Y=-42880

主軸方位: N-40° -E

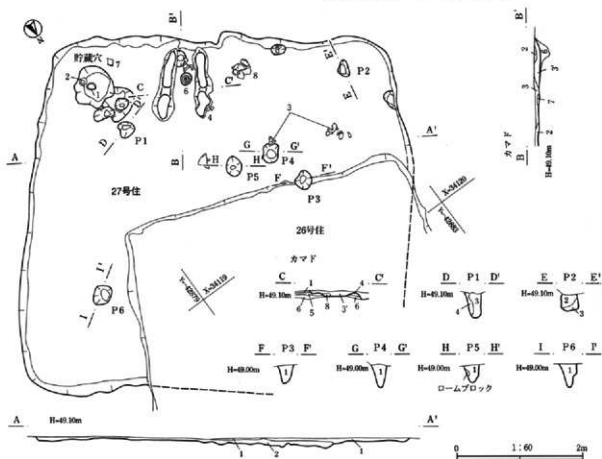
規模・形状: 平面形状は5.9m×5.5mを測る隅丸方形状を呈し、床面までの残存深度は上面の削平により、僅か5cm程を測るのみである。

カマド: 南西壁中央やや東寄り位置し、燃焼部は壁から1mほど内側に在り、煙道部も壁から突出しない。袖部は芯材を用いず粘土のみで構築される。

内部施設: 南コーナー部より径65cm、深度40cm程を測る円形の貯蔵穴を検出。柱穴は7穴検出され径25~30cm、深度25~40cmを測る。

掘り方: 部分的に5~10cm程度の浅い掘り込みを有するのみで、掘り方は持たない。

出土遺物: 貯蔵穴内より土師器環2点 (No.1・2) が、土師器高坏 (No.3) が床面直上より出土する。重複遺構: 北側にて26号住居跡と重複し、新旧関係は遺構平面確認時および埋土断面の状況より、本住居跡の方が古いものと判断される。



27号住居跡 平・断面図

27号住居跡 埋土

- 1: 暗褐色砂質土 少量の浅間C軽石・ローム粒子・焼土粒子を含む
2: 暗~黒褐色砂質土 多量のロームブロックと少量の浅間C軽石を含む (掘り方埋土)

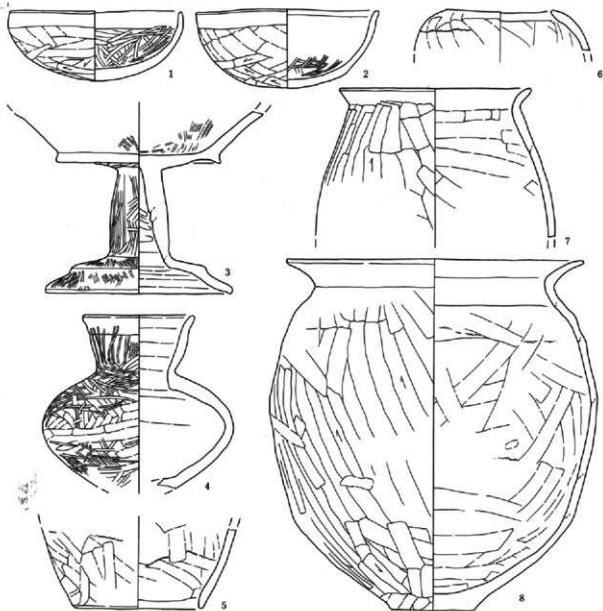
27号住居跡ビット 埋土

- 1: 黒褐色砂質土 少量のロームブロックを含む
2: 黒褐色砂質土 少量の浅間C軽石を含む
3: 黒褐色砂質土 砂質ロームブロックを含む
4: 黒灰色砂質土 少量の黒褐色土を含む

27号住居跡カマド 埋土

- 1: 暗褐色砂質土 多量のローム粒子・ローム小ブロックを含む (住居掘り方埋土)
2: 暗褐色砂質土 少量のローム粒子・ローム極小ブロックを含む (住居掘り方埋土)
3: 暗褐色砂質土 多量のロームブロック・焼土ブロック・灰・炭化物を含む
3': 暗褐色砂質土 3層土に類似し、混入物やや少、粒も小さい
4: 灰色粘質土 白色軽石を含む灰色粘土 (袖部材)
5: 暗褐色土 多量の淡黄色シルト土を含む (袖部)
6: 黒褐色土 少量のローム小ブロックを含む (袖部)
7: 明赤褐色土 焼土ブロック (天井部崩落土)
8: 3'層土+5層土 (天井部崩落土)

IV 遺構と遺物



27号住居跡 出土遺物図

7区 27号住居跡 遺物観察表-1

遺構名 遺物番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考
27号住居 1	土師器 杯	貯蔵穴 底+23cm 完形	口径 13.6 底径 - 高さ 5.4	①灰・細・粗砂やや多 ②酸化焙、良好 ③にぶい黄褐色	外面=口縁部横ナデ、体部上位ヘラナデ、下位 ~底部ヘラ削り。内面=口縁部横ナデ、体部ナ デの後にヘラ磨き。器面やや摩滅。	
27号住居 2	土師器 杯	貯蔵穴 底+27cm 完形	口径 14.4 底径 - 高さ 6.2	①灰・細・粗砂やや多 ②酸化焙、良好 ③にぶい黄褐色	外面=口縁部横ナデ、体部上位ヘラナデ、下位 ~底部ヘラ削り。内面=口縁部横ナデ、体部ナ デの後にヘラ磨き。内面=器面摩滅甚大。	
27号住居 3	土師器 高杯	床面直上 1/4	口径 - 底径 (14.7) 高さ -	①灰・細砂少 ②酸化焙、良好 ③褐色	外面=杯部ナデ、脚部ナデの後ヘラ磨き。内面= 杯部ナデの後に粗いヘラ磨き、脚裏ナデ。	
27号住居 4	土師器 埴 壇	床面+5cm 底部欠	口径 8.8 底径 - 高さ -	①灰・細砂少 ②酸化焙、良好 ③明褐色	外面=口縁~頸部横方向のナデの後に粗いヘラ 磨き、体部ナデの後に粗いヘラ磨き。内面=口 縁部横ナデ、体部輪縁み直を残し粗いナデ。	
27号住居 5	土師器 瓶 (一穴)	南方掘土 底部破片	口径 - 底径 (10.2) 高さ -	①灰・細・粗砂やや多 ②酸化焙、良好 ③にぶい黄褐色	底部付近内外面共にヘラナデ。	

7区 27号住居跡 遺物調査表-2

遺構名 遺物番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①粘土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考
27号住居 6	土師器 甕	カマド 使用面+5cm 口縁片	口径 8.3 底径 - 高さ -	①微・細砂やや多 ②酸化弱、良好 ③明褐色	内外面ナデ。	
27号住居 7	土師器 甕	床面+4cm 口~胴部片	口径 (15.1) 底径 - 高さ -	①微・細・粗砂やや多 ②酸化弱、良好 ③褐色	外面=口縁部横ナデ、胴部上位縦方向のへう削り、内面=口縁部~胴部上位ナデ。	
27号住居 8	土師器 甕	床面+11cm 1/4	口径 (23.5) 底径 6.5 高さ 27.5	①微・細砂やや多 ②酸化弱、良好 ③明褐色	外面=口縁部ナデ、胴部丁寧なへう削り後一部へうナデ。内面=口縁部横ナデ、胴部へうナデ。	

28号住居跡 (遺構写真P.L.27、遺物写真P.L.82)

位置：X=34118 Y=-42886

主軸方位：N-45° -E

規模・形状：北東壁長3.2m、残存深度15cm程を測るが、調査区端に位置し全体を調査していないため、全容は不明。

カマド：調査区内においては未検出。

内部施設：径18~35cm、深度20~47cmを測るビット4穴が北東壁寄りから検出されるが、相対位置に整合性が無く、柱穴とは断定出来ない。

掘り方：床面全体に5~10cmほど掘り込まれるが、規則性は見られない。

出土遺物：出土遺物は少なく、いずれも埋土中よりの小破片のみの出土である。

重複遺構：南西部において29号住居跡と重複し、新旧関係は、埋土の状況より本住居の方が新しいものと判断される。

29号住居跡 (遺構写真P.L.27、遺物写真P.L.82)

位置：X=34119 Y=-42889

主軸方位：N-38° -E

規模・形状：北東壁長4.5m、残存深度21cm程を測るが、調査区端に位置し、全体を調査していないため、全容は不明。

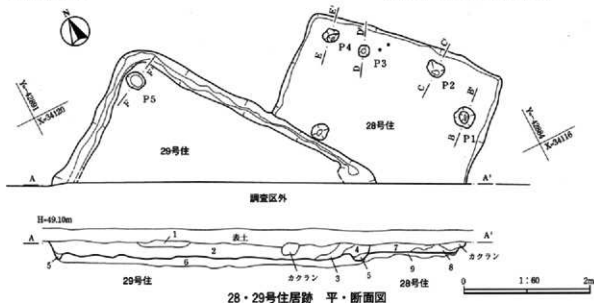
カマド：調査区内においては未検出のため不明。

内部施設：調査区内の北東・北西壁下には壁溝を持つ。また、北西コーナー部において径30cm、深度15cmを測るビット1穴を検出する。

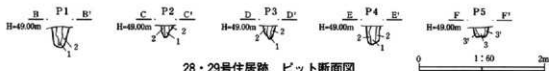
掘り方：床面全体に10~15cmほど掘り込まれるが、規則性は見られない。

出土遺物：出土遺物は少なく、いずれも埋土中よりの小破片のみの出土である。

重複遺構：北東部において28号住居跡と重複し、新旧関係は、埋土断面の状況より本住居の方が新しいものと判断される。



IV 遺構と遺物



28・29号住居跡 ビット断面図

28・29号住居跡 埋土

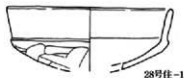
表土：明褐色砂質土 昭和40年代土壌改良時客土

- 1：暗褐色土 少量の砂質ロームブロック・焼土粒子・炭化物を含む
- 2：暗褐色土 微量の砂質ローム小ブロック・焼土粒子・炭化物を含む
- 3：暗褐色土 焼土粒子・炭化物を含む
- 4：暗褐色土 微量の砂質ローム粒子・焼土粒子・炭化物を含む
- 5：暗褐色土 少量の砂質ローム粒子・焼土粒子・炭化物を含む
- 6：暗褐色土 多量の砂質ローム小ブロック・炭化物を含みしめる。(住居掘り方埋土)
- 7：暗褐色土 少量の砂質ローム小ブロック・炭化物を含む
- 8：暗褐色土 少量の砂質ローム小ブロック・炭化物を含む

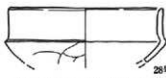
- 9：暗褐色土 多量の砂質ローム小ブロック・炭化物を含む
- ※1～6層土=29号住居跡埋土、7～9層土=28号住居跡埋土

28・29号住居跡ビット 埋土

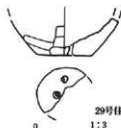
- 1：暗褐色土 微量の砂質ローム小ブロックを含む
- 2：暗褐色土 少量の砂質ローム小ブロックを含む
- 3：暗褐色土 微量の砂質ローム小ブロック・焼土粒子・炭化物を含む
- 3'：暗褐色土 3層土に類似し、締まり強



28号住-1



28号住-2



29号住-1

28・29号住居跡 出土遺物図

7区 28号住居跡 遺物観察表

遺構名 遺物番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考
28号住居 1	土師器 坏	埋土中 1/4	口径 (13.0) 底径 - 高さ -	①灰・粗砂少 ②酸化塩、良好 ③にぶい黄褐色	外面=口縁部横ナデ、体=底部ヘラナデ。内面=口縁~体部ナデ。	
28号住居 2	土師器 坏	埋土中 口縁破片	口径 (12.2) 底径 - 高さ -	①灰・粗砂少 ②酸化塩、良好 ③にぶい黄色	外面=口縁部横ナデ、体=底部ヘラナデ。内面=口縁~体部ナデ。器面やや磨滅。	

7区 29号住居跡 遺物観察表

遺構名 遺物番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考
29号住居 1	土師器 瓶	埋土中 底部破片	口径 - 底径 (4.4) 高さ -	①細・粗砂やや多 ②酸化塩、良好 ③残黄色	多穴。外面=底部ヘラ削り。内面=ナデ。	

30号住居跡 (遺構写真P.L.29、遺物写真P.L.82)

位置：X=34135 Y=-42920

主軸方位：N-42° -E

規模・形状：平面形状は3.8m×2.7mを測る主軸直交方向に長い隅丸長方形を呈する。上面の攪乱を受け、床面までの残存深度は21cm程を測る。

カマド：南東コーナー部に位置し、遺存状態は悪く、袖部と崩落天井部の一部を残す。芯材を用いず、粘土のみで構築される。また、袖材の粘土内や掘り方埋土中に焼土ブロックや灰が散在するため、幾度かの修復が行われたものと考えられる。

内部施設：カマド両端部および北西壁下を除く壁下

に壁溝を検出する。柱穴は4穴検出され、径20～35cm、深度15～23cm、柱穴間120×160cmを測り、カマド前部を避け住居中心よりやや南西寄りの配置となる。

掘り方：中央部北西寄りをやや高く掘り残し、全体を5～15cmほど掘り窪め、所々に径15～80cm、深度5～40cmを測る土坑状の掘り込みを有す。

出土遺物：出土遺物は少なく、いずれも埋土中よりの小破片のみの出土である。

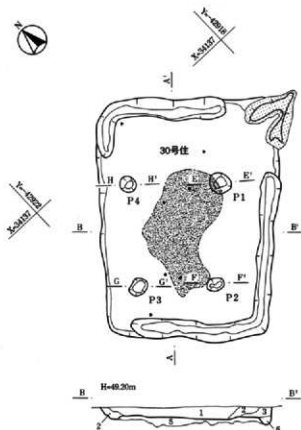
また、中央部より炭化物の散布がみられる。

重複遺構：重複はないものの、西コーナー部にあって31号住居に近接する。

2. 遺構と遺物

30号住居跡 埋土

- 1: 暗褐色砂質土 多量の標名白色軽石と少量のローム小ブロック・炭化物を含む
 - 1': 暗褐色砂質土 1層土に類似、標名白色軽石の混入少量
 - 2: 灰褐色砂質土 少量の標名白色軽石・ローム小ブロック・炭化物を含む
 - 3: 暗褐色砂質土 多量のローム小ブロック・炭化物と少量の標名白色軽石を含む
 - 4: 暗褐色砂質土 多量の灰とローム小ブロックを含む
 - 5: 黒褐色土 多量のロームブロックと少量の標名白色軽石を含む (掘り方埋土)
 - 5': 黒褐色土 5層土+ローム粒子
 - 6: 暗褐色土 微量の標名白色軽石・ローム粒子を含む
 - 7: 明褐色土 ローム漸移層土
 - 8: 明褐色土 7層土+ローム粒子
- ※7・8層土は明らかに掘り方埋土とは異質であり、重複の古い遺構埋土と考えられる。

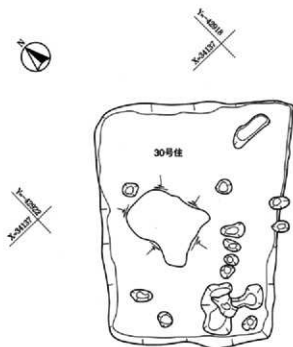


30号住居跡 平・断面図



30号住居跡柱穴 埋土

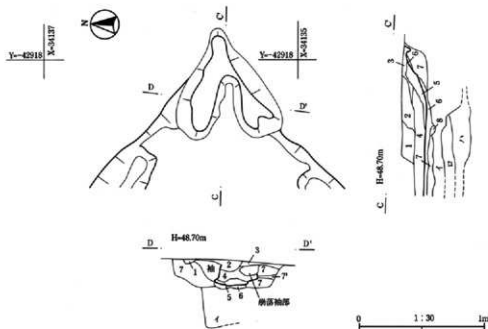
- 1: 暗褐色土 少量の砂質ローム粒子・標名白色軽石を含む
- 2: 暗褐色土 少量の砂質ロームブロック・焼土粒子・炭化物・標名白色軽石を含む
- 3: 暗褐色土 多量の砂質ロームブロック・焼土粒子・炭化物・標名白色軽石を含む



30号住居跡 掘り方平面図

0 1:60 2m

IV 遺構と遺物



30号住居跡 カマド平・断面図

30号住居跡カマド 埋土

- 1: 暗褐色砂質土 多量の礫名白色軽石・ローム粒子を含む
 2: 暗褐色砂質土 少量の礫名白色軽石・ローム小ブロック・炭化物を含む
 3: 暗褐色砂質土 多量のローム小ブロックと少量の礫名白色軽石・炭化物を含む
 4: 暗褐色土 少量の礫名白色軽石・ローム小ブロックを含む
 5: 淡黄色粘土+焼土ブロック (天井部崩落土)
 6: 灰層 少量の焼土小ブロックを含む (カマド使用面)
 袖部: 淡黄色粘土に少量の焼土ブロックを含む
 7: 暗褐色土 少量の礫名白色軽石・焼土小ブロック・ローム粒子を含む (カマド廻り方埋土)

7': 7層土+多量の焼土小ブロック (カマド廻り方埋土)

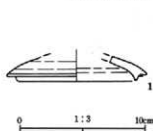
8: 7層土+灰

イ: 暗褐色土 多量のハードロームブロックを含む

ロ: 黒褐色土 少量のローム粒子を含む

ハ: 灰褐色土 多量のローム粒子・ハードロームブロックを含む

※イ〜ハはカマド直下にあるが、明らかにカマド廻り方埋土とは異質であり、重複の古い遺構埋土と考えられる。



30号住居跡 出土遺物図

7区 30号住居跡 遺物観察表

遺構名 遺物番号	種別 器種	出土位置 埋存状態	計測値 (cm)	①粘土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考
30号住居 1	須恵器 蓋	埋土中 破片	口径 (9.4) 底径 (11.0) 高さ (1.9)	①凝砂少 ②還元焼、良好 ③灰色	ロクロ成・整形。	
30号住居 2	須恵器 甕	床面+12cm 破片	口径 (12.2) 底径 - 高さ -	①凝砂少 ②還元焼、良好 ③灰色	ロクロ成・整形。	
30号住居 3	滑石製 模造品 勾玉?	埋土中 完形	長さ 2.65 巾 1.90 厚さ 3.00	石材 蛇紋岩 重量 3.124g	穿孔一箇所	

31号住居跡 (遺構写真P.L.30, 遺物写真P.L.82)

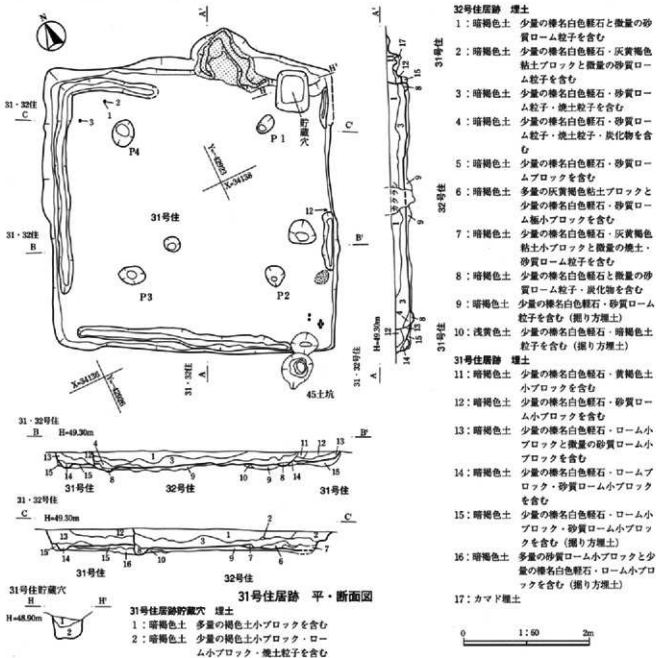
位置: X=34138 Y=-42923

主軸方位: N-25° - E

規模・形状: 平面形状は4.6m×4.6mを測る隅丸方形状を呈し、床面までの残存深度は25cm程を測る。カマド: 北壁中央やや東寄り位置し、重複住居により袖部端を削平される。燃焼部はほぼ壁のライン上に位置し、煙道は短い。残存する両袖粘土内から芯材として逆位に設置された土師器髹が出土する。内部施設: 重複遺構のため一部不明瞭だが、南西・

南東・北東のコーナー部を除く各壁下に壁溝が設けられる。また、カマド脇の北東コーナー部付近より50cm×65cm、深度40cmを測り隅丸方形状を呈する貯蔵穴が1基検出される。柱穴は南西部を除く3穴が検出された。

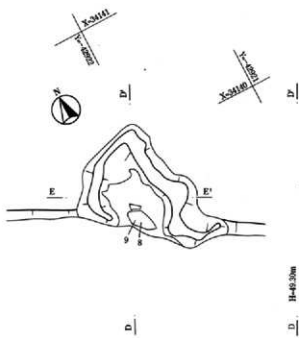
掘り方: 全体に3~15cmほど掘り込まれ、北西壁下の中央付近より間仕切りと考えられる小ピットと溝状の掘り込みが検出された。また、カマド煙道部は壁外に40cmほど突出した掘り方をもつ。



IV 遺構と遺物

出土遺物：土師器坏（No.1・2・3）が床面付近、土師器鉢（No.5）が掘り方埴土中よりの出土である。

重複遺構：住居内に収まる形で32号住居跡が重複。新旧関係は埴土断面の状況より本住居の方が古いものと判断される。

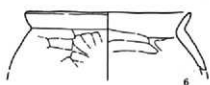
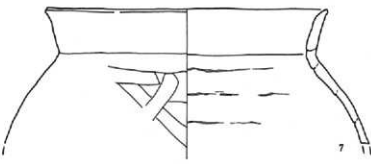
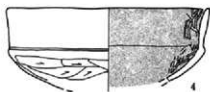
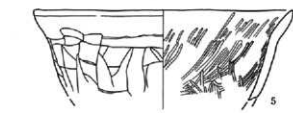


31号住居跡カマド 埴土

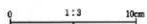
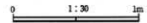
- 1：黒褐色土 多量の明灰褐色粘土小ブロックと浅間C軽石を含む
- 2：暗褐色土 少量の浅間C軽石・ローム粒子を含む
- 3：明灰褐色粘土 少量の焼土粒子・黒褐色土ブロックを含む（天井部崩落土）
- 4：明灰褐色粘土 多量の焼土ブロックと少量の黒褐色土ブロックを含む（天井部崩落土）
- 5：暗褐～黒褐色土 多量のロームブロックを含み、上部部に灰化物を含む灰層を有する（使用面～掘り方埴土）
- 6：明灰褐色粘土 袖～天井部壁 端部は焼土化する
- 7：黒褐色土 多量のロームブロックと礫石白色軽石を含む（カマド掘り方埴土）
- 8：明褐色土 多量の砂質ローム小ブロック・砂質ローム粒子を含む（カマド掘り方埴土）
- 9：黒褐色土 多量のローム漸移層土を含む（カマド掘り方埴土）
- 10：黒褐色土 多量の明灰褐色粘土ブロックを含む（袖下部）
- 11：浅黄色土 砂質ロームブロック



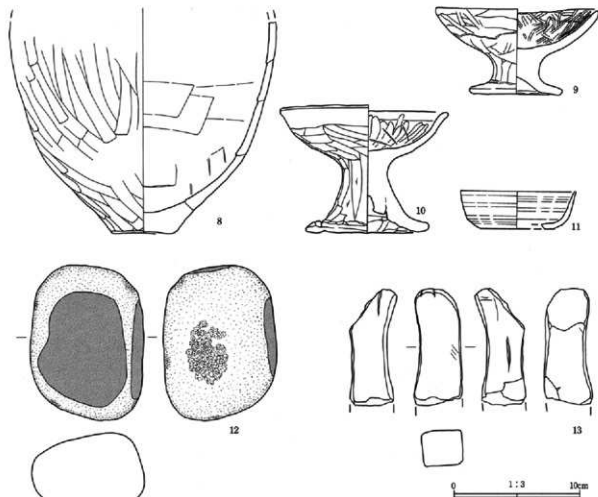
31号住居跡 カマド平・断面図



31号住居跡 出土遺物図一 1



2. 遺構と遺物



31号住居跡 出土遺物図-2

7区 31号住居跡 遺物観察表-1

遺構名 遺物番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考
31号住居 1	土師器 杯	床面+2cm 1/5	口径 12.2 底径 - 高さ - (4.6)	①灰・細砂少 ②酸化緑、良好 ③にぶい橙色	外面=口縁部ナデ、体~底部へう削り。内面=口縁部~底部ナデ。	
31号住居 2	土師器 杯	床面+2cm 4/5	口径 2.5 底径 - 高さ 5.0	①灰・細・粗砂少 ②酸化緑、良好 ③にぶい赤褐色	口縁部内斜。外面=口縁部ナデ、体部へうナデ、底部へう削り。内面=口縁部ナデ、体部やや粗いへう磨き、底部ナデ。	
31号住居 3	土師器 杯	床面直上 掘方埋土 4/5	口径 14.9 底径 - 高さ 5.2	①灰・粗・細砂少 ②酸化緑、良好 ③橙色	口縁部内斜。外面=口縁部横ナデ、体部へうナデ、底部へう削り。内面=口縁部横ナデ、体部~底部へう磨き。	
31号住居 4	土師器 杯	埋土中 1/3	口径 16.0 底径 - 高さ -	①灰・粗・細砂少 ②酸化緑、良好 ③橙色・黒褐色	外面=口縁部横ナデ、体~底部へう削り。内面=口縁部~体部ナデの後粗いへう磨き。	
31号住居 5	土師器 鉢	掘方埋土 1/6	口径 20.4 底径 - 高さ -	①灰・細砂少 ②酸化緑、良好 ③にぶい赤褐色	外面=口縁部横ナデ、体部へう削り、へうナデ。内面=口縁部横ナデの後やや粗いへう磨き、体部やや粗いへう磨き。	
31号住居 6	土師器 小型壺	埋土中 口縁破片	口径 (13.0) 底径 - 高さ -	①灰・細砂少 ②酸化緑、良好 ③にぶい橙色	口縁部内外面横ナデ。	
31号住居 7	土師器 壺	カマド直上 口縁片	口径 (22.2) 底径 - 高さ -	①灰・細砂少 ②酸化緑、良好 ③にぶい橙色	外面=口縁部横ナデ、胴部上位へう削り。内面=口縁部から胴部上位ナデ。胴部内面=輪痕み痕残る。	
31号住居 8	土師器 壺	カマド 胴~底部	口径 - 底径 5.4 高さ -	①灰・細砂少 ②酸化緑、良好 ③にぶい赤褐色	胴部外面=へう削り。内面=ナデ。	

IV 遺構と遺物

7区 31号住居跡 遺物観察表-2

遺構名 遺物番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考
31号住居 9	土師器 高坏	カマド 3/4	口径 12.6 底径 (7.2) 高さ 6.8	①微・細砂少 ②酸化焙、良好 ③にぶい赤褐色	成形やや粗雑。外面=坏部-脚部ヘラナデ。坏部内面=ナデの後粗いヘラ磨き。脚部裏面ヘラナデ。器面荒れる。	
31号住居 10	土師器 高坏	埋土中 4/5	口径 13.0 底径 9.8 高さ 10.0	①微・細砂・粗砂少 ②酸化焙、良好 ③褐色	脚部の成・整形やや粗雑。坏部外面=やや粗いヘラナデ。内面=ヘラナデ。脚部外面=粗いヘラ磨り。裏面ヘラ磨り。	
31号住居 11	須恵器 坏	埋土中 破片	口径 (9.0) 底径 (5.7) 高さ (3.0)	①微・細砂少 ②酸化焙、良好 ③灰色	ロクロ成・整形。	
31号住居 12	掘り石	床面+4cm 完形	長さ 12.0 巾 8.9 厚さ 6.0	石材 粗粒輝石安山岩 重量 1,100g	5面に掘り跡。一面に取付痕。	
31号住居 13	砥石	掘方埋土	長さ 9.1 巾 3.8 厚さ 2.8	石材 デイサイト 重量 188g	4面を使用。頂部・使用面に刃傷有り。	

32号住居跡 (遺構写真P.L30、遺物写真P.L-)

位置: X=34138 Y=-42923

主軸方位: N-40° - E

規模・形状: 平面形状は3.6m×3.4mを測る主軸方向にやや長い隅丸長方形形状を呈する。床面までの残存深度は25~30cm程を測る。

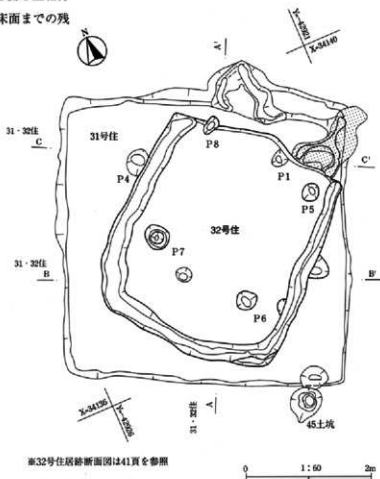
カマド: 住居北東コーナー部に位置し、残存状態はあまり良好ではない。袖部は芯材を用いず粘土のみで構築される。掘り方埋土内に多量の焼土ブロック・炭化物を含むため、使用時に修復・作り直しが行われたものと推察される。

内部施設: カマドのある北壁を除く壁下に、20~40cmとやや幅広い壁溝がコの字状に巡る。柱穴は径20~40cm、深度20~40cmを測るビットが4穴検出されるが、貯蔵穴は検出されなかった。

掘り方: 全体に3~10cmほど掘り窪め、中央北東寄りに長方形の高まりを残す。

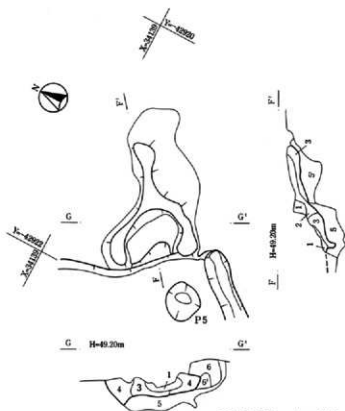
出土遺物: 特筆すべき遺物の出土はみられない。

重複遺構: 本住居の外縁に31号住居が重複。埋土断面の状況より、本住居の方が新しいものと判明。



32号住居跡 平面図

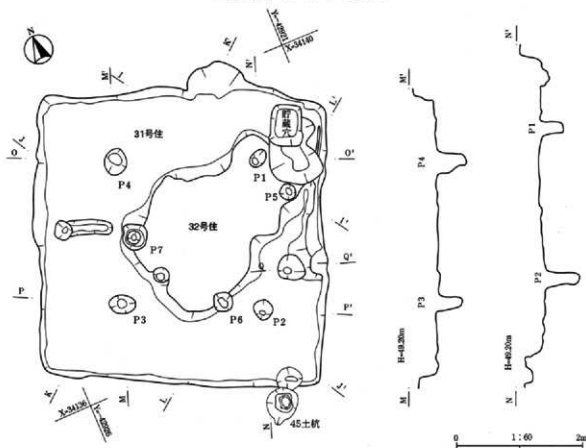
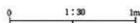
2. 遺構と遺物



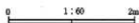
32号住居跡 カマド平・断面図

32号住居跡カマド 埋土

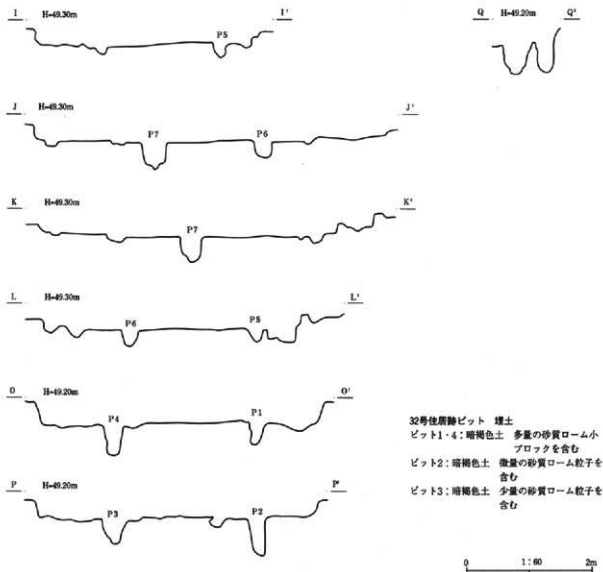
- 1: 黒褐色土 多量の明灰褐色粘土ブロック・焼土ブロックを含む
- 2: 明褐色土 少量のローム小ブロック・焼土小ブロックを含む
- 3: 明褐色土 多量の焼土ブロックを含む(天井部崩落土)
- 4: 明灰褐色粘土 少量の焼土ブロックを含む(天井部崩落土)
- 5: 暗褐色土 少量のハードローム小ブロック・軽名白色軽石を含み上面に灰層を有する(使用面～掘り方埋土)
- 5': 明褐色土 5層土+多量のローム粒子(カマド掘り方埋土)
- 6: 暗褐色土 少量の焼土粒子・炭化物を含む(カマド掘り方埋土)
- 6': 暗褐色土 多量の焼土粒子・焼土小ブロック・炭化物を含む(カマド掘り方埋土)



31・32号住居跡 掘り方平・断面図



IV 遺構と遺物



31・32号住居跡 掘り方断面図

33号住居跡 (遺構写真P.L.31、遺物写真P.L.82)

位置：X=34123 Y=-42894

主軸方位：N-40° -E

規模・形状：平面形状は4.6m×4.4mを測る隅丸方形を呈し、床面までの残存深度は40cm程を測る。カマド：北壁中央東寄り位置し、使用面も残り遺存状態は比較的良好。芯材を用いず粘土のみで袖部～天井部を構築する。燃焼部から煙道部にかけては緩やかな勾配を持ち、煙道部は壁よりあまり突出せず、急峻な立ち上がりとなり、壁の焼土化が著しい。また、使用面下の掘り方堀土内に灰・焼土を多く含む層があり、これらは修復を行った痕跡と考えられる。

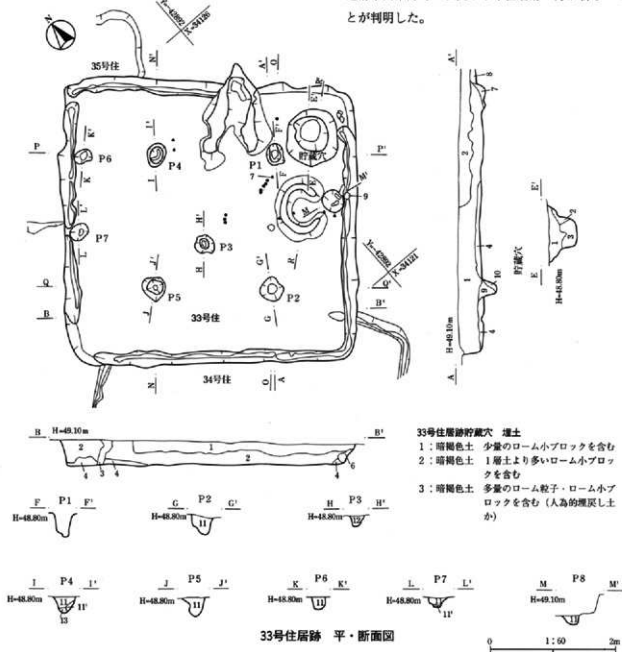
内部施設：北東コーナー部及び南西コーナー部を除く壁下に周溝を検出。北東コーナー付近に貯蔵穴を検出し、径78～88cm、深度47cmを測る隅丸方形を呈し、中位に段を有する。柱穴は5穴（ビット1～5）検出され、径30～38cm、深度15～30cmを測る。西壁中央やや北よりの壁下に径30cm程、深度30cm程を測るビット2穴（ビット6・7）が120cmの間隔で並び検出された。位置的に見て入り口施設と考えられる。また、貯蔵穴南の壁際より床面が5～6cmほど馬蹄形の堤状に高まる施設が検出され、何らかの作業工房跡かと推察される。（34号住居跡にも同様の施設あり）

掘り方：カマド下に僅かに掘り込みが検出されたのみで、掘り方をもたず、床面は地山ローム土が硬化する。前記の馬蹄形高まりも住居造営段階より企画され、地山を掘り残り造り出される。

出土遺物：土師器坯（No.1）がカマド使用面直上

よりの出土である。

重複遺構：南側で34号住居跡と重複し、新旧関係は埋土断面の状況から本住居跡の方が新しいものと判明。また、北西コーナー部に35号住居跡と重複し、遺構平面確認時の状況から本住居跡の方が新しいことが判明した。



33号住居跡貯蔵穴 埋土

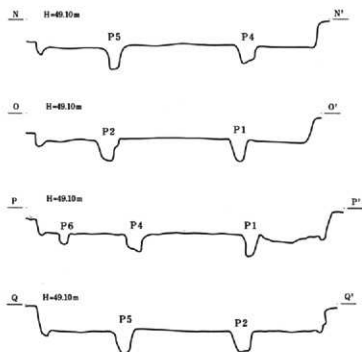
- 1：暗褐色土 少量のローム小ブロックを含む
- 2：暗褐色土 1層土より多いローム小ブロックを含む
- 3：暗褐色土 多量のローム粒子・ローム小ブロックを含む（人為的埋戻し土か）

33号住居跡 埋土

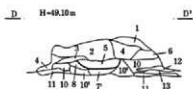
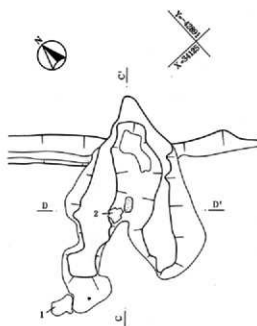
- 1：黒褐色土 多量の白色小粒軽石と少量の炭化物を含む（埋戻土）
- 2：にぶい黄褐色土 黒色土・ローム漸移層土と白色小粒軽石を含む
- 3：灰白色砂質土 噴砂
- 4：にぶい黄褐色土 少量の黒色土・ローム漸移層土と白色小粒軽石を含む
- 6：にぶい黄褐色土 多量のロームブロックを含む（壁の崩落土）

- 8：にぶい黄褐色土 ローム土・漸移層土を多く含む
- 9：にぶい黄褐色土 多量のローム漸移層土を含む
- 10：黒褐色砂質土 ローム粒子を含む
- ※ 5層・7層は34号住居跡埋土
- 11：暗褐色土 少量のローム小ブロックを含む
- 11'：暗褐色土 ロームブロックを含む
- 12：黒褐色土 様白色軽石を含む
- 13：暗褐色土 多量のロームブロックを含む

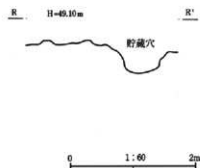
IV 遺構と遺物



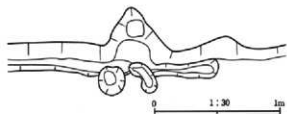
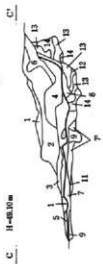
33号住居跡 断面図



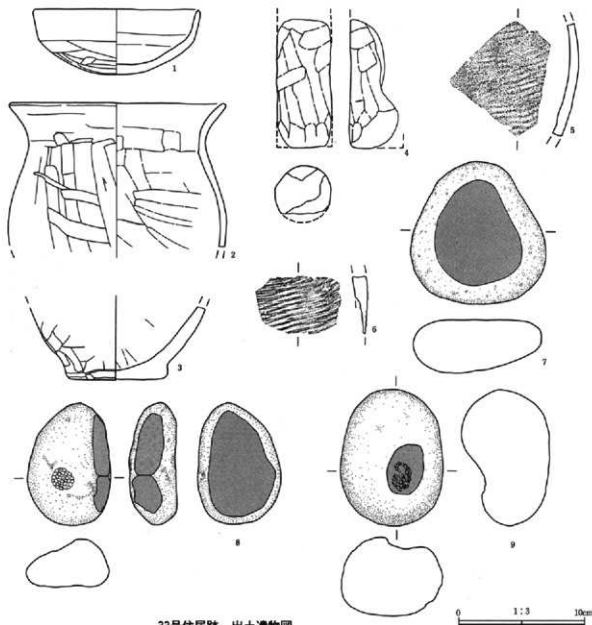
33号住居跡 カマド平・断面図



- 33号住居跡カマド 埋土
- 1: 暗褐色砂質土 多量のローム小ブロック・焼土
粒土・両ブロック・粘土ブロックを含む
 - 2: 灰白～浅黄色粘土 少量の焼土ブロックを含む
(天井部崩落土)
 - 3: 灰白～浅黄色粘土 多量の焼土ブロックを含む
(天井部崩落土)
 - 4: 黒褐色砂質土 多量のローム・粘土小ブロック
+少量の焼土小ブロックを含む
 - 5: 灰白～浅黄色粘土 少量の焼土ブロックを含む
(天井部崩落土)
 - 6: 黒褐色砂質土 少量のローム・粘土小ブロック
+少量の焼土小ブロックを含む
 - 7: 灰層 少量の焼土小ブロックを含む(使用面)
 - 7': 灰層 多量の焼土ブロックを含む
 - 8: 赤～橙色 焼土化粘土層(袖・煙道部粘土の焼
土化)
 - 9: 黄色土 少量の焼土小ブロックを含む
 - 10: 灰白～浅黄色粘土(袖部構築材)
 - 10': 灰白～浅黄色粘土 少量の焼土小ブロック+黒
褐色土を含む(袖部構築材)
 - 11: 黒褐色砂質土 砂質ローム土を含む(住居掘り
方埋土)
 - 12: 灰層 少量の焼土小ブロックを含む(修理前使
用時灰)
 - 13: 浅黄色土 砂質ロームに少量の黒褐色土を含む
(住居掘り方埋土)
 - 14: 暗褐～黒褐色土 少量のローム小ブロックを
含む(カマド掘り方埋土)



33号住居跡 カマド掘り方平面図



33号住居跡 出土遺物図

7区 33号住居跡 遺物観察表-1

遺構名 遺物番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①粘土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考
33号住居 1	土師器 坏	カマド 使用面直上 1/2	口径 13.0 底径 — 高さ —	①微・細砂少・粗砂多 ②酸化焰、良好 ③明赤褐色	器面擦れ著しい。外面=口縁部横ナゲ、体部ヘラ削り。内面=口縁部横ナゲ、体部ナゲ。	
33号住居 2	土師器 甕	カマド 使用面+3cm 口へ刷上片	口径 (17.0) 底径 — 高さ —	①微・細砂少 ②酸化焰、良好 ③にぶい黄褐色	外面=口縁部横ナゲ、胴部上位口縁部に高たる縦方向のヘラ削り。内面=口縁部横ナゲ、胴部上位ヘラナゲ。	
33号住居 3	土師器 甕	カマド埋土 底部破片	口径 — 底径 8.0 高さ —	①細砂少・粗砂多 ②酸化焰、良好 ③明赤褐色	外面=胴部ヘラ削り、底部表面ヘラナゲ。内面=胴部～底部ヘラナゲ。	
33号住居 4	土製品 支脚	埋土 破片	口径 — 底径 — 高さ —	①微・細砂少・粗砂多 ②酸化焰、やや不良 ③にぶい黄褐色	手捏ね成形。指頭痕跡残る。	
33号住居 5	須恵器 甕	埋土中 破片	口径 — 底径 — 高さ —	①微・細砂多 ②還元焰、良好 ③褐灰色	外面=叩き痕	

IV 遺構と遺物

7区 33号住居跡 遺物観察表-2

遺構名 遺物番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考
33号住居 6	須恵器 甕	埋土中 破片	口径 - 底径 - 高さ -	①微・細砂少 ②還元焼、良好 ③灰黄色	外面=叩き痕	
33号住居 7	摺り石	床面+5cm 完形	長さ 巾 厚さ	11.2 10.7 4.3	石材 粗粒輝石安山岩 重量 670g	平坦面に摺り痕。
33号住居 8	摺り石	カマド埋土 完形	長さ 巾 厚さ	9.5 6.5 3.7	石材 粗粒輝石安山岩 重量 310g	平坦側面に摺り痕。上面に敲打痕。
33号住居 9	台石	床面+9cm 完形	長さ 巾 厚さ	10.7 8.0 6.9	石材 粗粒輝石安山岩 重量 840g	中央窪み部に敲打痕。

34号住居跡 (遺構写真P.L.34、遺物写真P.L.83)

位置：X=34121 Y=-42896

主軸方位：N-59° -E

規模・形状：南壁が調査区外にかかり推定ではあるが、平面形状は5m+a×4.2mを測る隅丸長方形形状を呈するものと思われ、床面までの残存深度は20cmほどを測る。

カマド：重複する34号住居に切られ消失か。貯蔵穴との位置関係から、恐らくは北壁中央やや東寄りに位置していたものと思われる。北西部床面上に焼土を検出するが遺構には至らなかった。

内部施設：検出壁下の全てに周溝を確認。北東コーナー付近に径65×85cm、深度60cm程を測り隅丸長方形形状を呈する貯蔵穴を検出。柱穴は中央北寄りに径25cm、深度30cmを測るピット1基のみを検出。また、33号住居跡と同様に、貯蔵穴南側に床面が周堤状に高まる施設を確認する。これは地山の掘り残しによる成形であり、住居構築時より設計されていたものと考えられる。

掘り方：なし。床面は貼り床を持たず、地山ローム土が硬化する。

出土遺物：土師器坏 (No.2) が床面直下より出土する。

重複遺構：北側に33号住居跡と重複し、新旧関係は掘土断面の状況より本住居跡の方が古いものと判明。また、南側に36号住居跡と重複し、36号住のカマド残存状況より本住居跡の方が新しいものと判断される。

36号住居跡 (遺構写真P.L.35、遺物写真P.L.-)

位置：X=34121 Y=-42897

主軸方位：N-35° -E

規模・形状：カマド部以外の住居本体は調査区外に位置し、その規模・形状共に不明。

カマド：34号住居跡床面に焼土・粘土・灰の集中を検出し、重複住居のカマド残骸と判断。34号住居の掘削時に破壊され、形状を留めず。

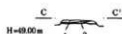
内部施設：不明

掘り方：不明

出土遺物：なし。

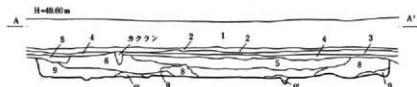
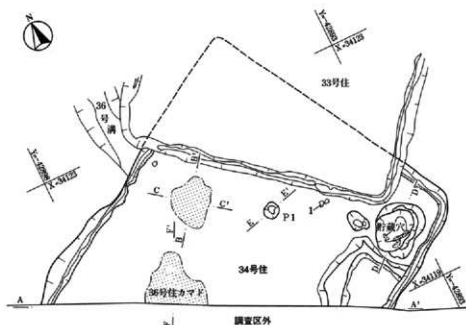
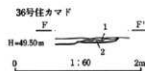
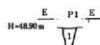
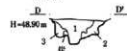
重複遺構：北側に34号住居跡と重複。新旧関係はカマドの残存状況より、本住居跡の方が古いものと推察される。

2. 遺構と遺物



- 34号住居跡床面焼土 埋土
- 1: 灰黄褐色粘質土 多量の焼土粒子・灰を含む
 - 2: 黒褐色土 少量の焼土粒子を含む
 - 3: 灰黄褐色粘土

貯蔵穴



34号住居跡 埋土

- 1: 褐灰色砂質土 現耕作土 (昭和40年代土地改良後)
- 2: 明褐色砂質土 少量の浅間A軽石を含む 近世~近代耕作土
- 3: 明褐色砂質土 多量の浅間A軽石を含む 近世~近代耕作土
- 4: 暗褐色砂質土 暗褐色砂質土・棕色白色軽石を含む 近世耕作土
- 5: 暗褐色砂質土 少量の浅間A軽石+微量のローム粒子・棕色白色軽石を含む 近世耕作土
- 6: 暗褐色土 多量のロームブロック+少量の棕色白色軽石・ローム漸移層土を含む (人為的埋め戻し土か)
- 7: 暗褐色土 少量のロームブロック・焼土粒子・棕色白色軽石を含む
- 8: にぶい黄褐色土 少量のロームブロック・漸移層土・焼土粒子を含む
- 9: にぶい黄褐色土 少量のロームブロック・ローム漸移層土・黒色土を含む
- 9': にぶい黄褐色土 9層土+焼土粒子・炭化物

34・36号住居跡 平・断面図

34号住居跡貯蔵穴 埋土

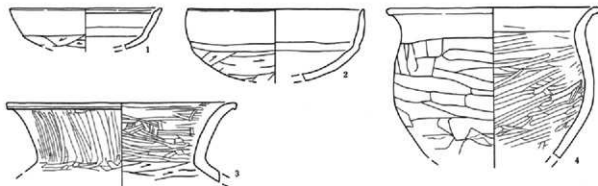
- 1: 黒褐色土 少量のロームブロックを含む
- 2: 灰黄褐色土 微量のローム小ブロックを含む
- 3: 灰黄褐色土 少量のロームブロックを含む

34号住居跡ピット1 埋土

- 1: 黒褐色土 少量のロームブロックを含む

36号住居跡カマド 埋土

- 1: 黒褐色土 焼土小ブロック・灰を含む
- 2: 黒褐色土 ロームブロックを含む



34号住居跡 出土遺物図

IV 遺構と遺物

7区 34号住居跡 遺物観察表

遺構名 遺物番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考
34号住居 1	土師器 坏	堀土中 3/4	口径 12.0 底径 - 高さ -	①微・細砂少 ②酸化焙、良好 ③黒褐色	外面=口縁部横ナデ、体部へラ削り。内面=口縁部横ナデ、体部ナデ。	
34号住居 2	土師器 坏	床面-2cm 1/3	口径 14.0f 底径 - 高さ -	①微・細砂少 ②酸化焙、良好 ③褐色	外面=口縁部横ナデ、体部へラ削り。内面=口縁部横ナデ、体部ナデ。	
34号住居 3	土師器 壺	堀土中 口縁片	口径 (18.2) 底径 - 高さ -	①微・細砂少 ②酸化焙、良好 ③褐色	口縁部内外面ナデの後にへラ磨き。	
34号住居 4	土師器 壺	堀土中 口~胴部片	口径 (16.7) 底径 - 高さ -	①微・細砂少 ②酸化焙、良好 ③灰黄色	外面=口縁部横ナデ、体部へラ削り一部へラナデ。内面=口縁部横ナデ、体部低いへラ磨き。	

35号住居跡 (遺構写真P.L34、遺物写真P.L83)

位置：X=34126 Y=-42894

主軸方位：N-32° -E

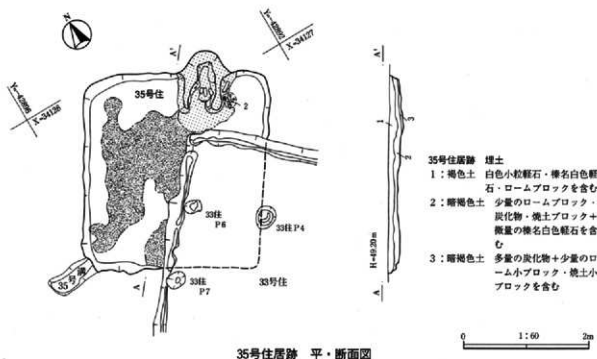
規模・形状：南東コーナー部を逸するが、平面形状は3.1m×2.9mを測り、南北にやや長い隅丸長方形状を呈する。床面までの残存深度は20cm程を測る。カマド：比較的遺存状態は良く、使用面も良好に残る。芯材を用いず粘土のみで袖部～天井部を構築し、煙道部は壁からあまり突出しない。燃焼部より土師器壺下半部が使用面に接して出土、使用時の残存か。使用面下の掘り方堀土に灰・焼土ブロックを含む層が有り、修復の痕跡と考えられる。

内部施設：カマド右袖部の南側より径30cm程、深度40cmを測るピット一基のみを検出。

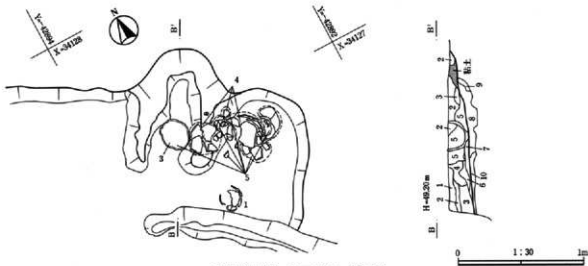
掘り方：住居西半部は掘り込みを有さず、北東コーナーおよび南西壁下中央部に僅かな掘り込みが検出された。

出土遺物：土師器坏 (No.1)・土師器壺 (No.3・4・5) がいずれもマカド内よりの出土である。

重複遺構：南東部にて33号住居跡と重複。新旧関係は遺構確認時の平面状況より、本住居跡の方が古く、33号住居掘削により南東コーナー部を逸する。



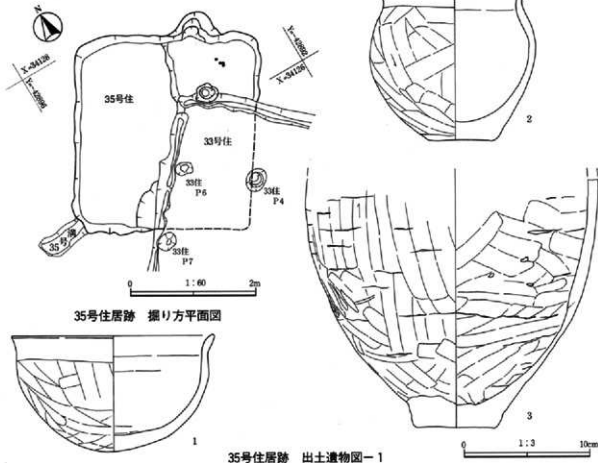
35号住居跡 平・断面図



35号住居跡 カマド平・断面図

35号住居跡カマド 遺土

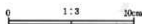
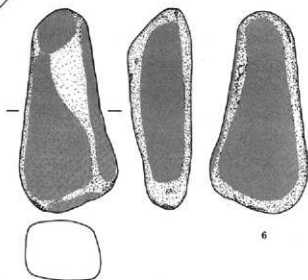
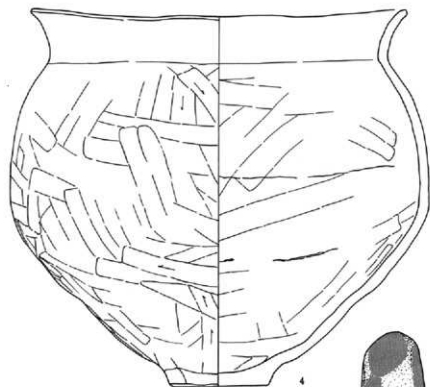
- 1: 暗褐色砂質土 多量の白色小粒軽石+少量の標名白色軽石・ローム粒子を含む
- 2: 黒褐色砂質土 少量の白色小粒軽石・標名白色軽石+ローム漸移層土を含む
- 3: 黒褐色土 ローム漸移層土を底に含み、少量の焼土粒子を含む
- 4: 暗褐色土 少量の標名白色軽石+焼土粒子・炭化物を含む
- 5: 暗褐色土 多量の淡黄褐色粘土ブロック+焼土粒子・炭化物を含む(崩落天井部)
- 6: 暗褐色土 多量の淡黄褐色粘土ブロック+少量の焼土小ブロックを含む(崩落天井部)
- 7: 灰層 焼土粒子・炭化物を含む(使用面)
- 8: 暗褐色土 砂質ローム+焼土ブロック(掘り方遺土)
- 9: 灰黄褐色粘土(カマド構築材)
- 10: 暗褐色土 灰・焼土ブロック・ロームブロックを含む



35号住居跡 掘り方平面図

35号住居跡 出土遺物図-1

IV 遺構と遺物



35号住居跡 出土遺物図-2

7区 35号住居跡 遺物観察表

遺構名 遺物番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考
35号住居 1	土師器 坏	カマド 使用面-5cm 3/4	口径 16.0 底径 - 高さ 9.1	①微・細砂やや多 ②酸化燻、良好 ③にぶい橙色	器内外面揃れる。外面=口縁部横ナデ、体部 上位ヘラナデ、下位ヘラナデ。内面=口縁部横 ナデ、体部ナデ。	
35号住居 2	土師器 小型壺	カマド 略定形	口径 10.1 底径 5.4 高さ 12.0	①微・細砂やや多 ②酸化燻、良好 ③にぶい橙色	器内外面揃れる。外面=口縁部横ナデ、胴部 ヘラナデ。内面=口縁部横ナデ、体部ナデ。	
35号住居 3	土師器 壺	カマド 使用面直上 下半部	口径 - 底径 6.5 高さ -	①微・細砂やや多 ②酸化燻、良好 ③灰黄褐色	外面=胴部腹方向のヘラナデ、内面=胴部ヘラナ デ。	
35号住居 4	土師器 壺	カマド 使用面-7cm 1/2	口径 (29.6) 底径 7.8 高さ 29.6	①微・細砂やや多 ②酸化燻、良好 ③にぶい橙色	外面=口縁部横ナデ、胴部ヘラナデを僅か残し ヘラナデ。内面=口縁部横ナデ、胴部腹・ヘラ ナデ。	
35号住居 5	土師器 壺 (丹形)	カマド 使用面-7cm 3/4	口径 17.6 底径 7.5 高さ 28.0	①微・細砂少 ②酸化燻、良好 ③にぶい黄褐色	胴部歪み甚大。成・整形粗雑。外面=口縁部横 ナデ、胴部ヘラナデ。内面=ヘラナデ。外面=口 縁-胴部の一部に赤色彩色(ベンガラ)残る。	
35号住居 6	指石	カマド覆土 定形	長さ 15.9 巾 7.6 厚さ 4.8	石材 滑結凝灰岩 重量 830g	4面に磨り痕有り。	

37号住居跡 (遺構写真P.L.35、遺物写真P.L.83)

位置：X=34125 Y=-42904

主軸方位：N-50° - E

規模・形状：住居南西部が調査区外にかかり、全容は不明。北東壁長が4.5m、床面までの残存深度31cm程を測る。

カマド：北東壁中央やや東寄り位置し、天井部は崩落するが、遺存状態は比較的良好。燃焼部は壁から60cmほど内側に位置し、土製支脚 (No.6) が据えられたまま出土する。煙道部は急峻に立ち上がり、壁からあまり突出しない。袖部は芯材を用いず粘土のみで構築される。

内部施設：調査範囲内より径30cm、深度34~37cmを測る柱穴を2穴、東コーナー部付近より径50×67cm、深度42cmを測る楕円形の貯蔵穴1基を検出する。

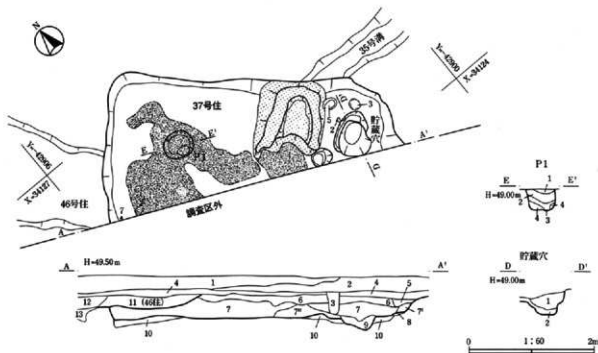
掘り方：全体に2~10cmほどの不定形な掘り込みを確認する。カマド燃焼部~煙道部下については床・壁共に掘り込みを有しない。

出土遺物：土師器壺 (No.2・5) が床面下掘り方よりの出土である。

また、北西コーナー部からカマド前にかけて炭化物の散乱が見られたが、床面との間に埋土が認められるため、住居埋没過程での焚き火痕等と考えられる。

重複遺構：南西部にて46号住居跡と重複。埋土断面の状況より、本住居の方が古いと判断するが、46号住居の掘削深度が浅いため、下方には本住居の壁・床面が残る。

IV 遺構と遺物



37号住居跡 平・断面図

37号住居跡 埋土

- 1: 褐灰色砂質土 混雑作土 (昭和40年代土地改良後)
- 2: 明褐色砂質土 浅間A層石を含む 近世~近代耕作土
- 3: 暗褐色砂質土 近世土坑跡か
- 4: 暗褐色砂質土 少量の浅間A層石を含む 近世耕作土
- 5: 暗褐色土 微量のローム粒子・標名白色軽石を含む
- 6: 暗褐色土 少量のローム粒子・小ブロック・標名白色軽石を含む
- 7: 褐色土 多量のローム粒子・ブロック・黒褐色土ブロックを含む
- 7': 褐色土 7層に類似、ロームブロック混入少
- 7'': 褐色土 7層土+少量の焼土小ブロック
- 8: 暗褐色土 少量のローム粒子を含む
- 9: 暗褐色土 7層に類似、ロームブロック混入少
- 10: 黒褐色土 多量のロームブロックを含む (掘り方埋土)
- 11: 明褐色土 少量の標名白色軽石・ローム粒子を含む (46号住居跡埋土)

- 12: 暗褐色土 ローム小ブロック・焼土粒子・炭化物・標名白色軽石を含む (38号住居跡埋土)

- 13: 暗~黒褐色土 多量のロームブロックを含む (38号住居跡掘り方埋土)

37号住居跡貯蔵穴 埋土

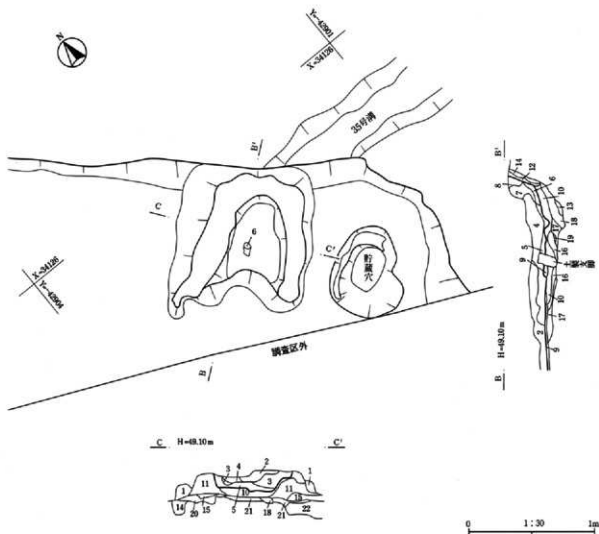
- 1: 暗褐色土 多量のロームブロック・淡黄色粘土ブロック・焼土ブロックを含む
- 2: 暗褐色土 少量のローム小ブロックを含む

37号住居跡柱穴 (旧57号土成) 埋土

- 1: 暗褐色砂質土 ローム新移層土と標名白色軽石を含む
- 2: 暗褐色砂質土 1層土+炭化物・焼土粒子
- 3: 暗褐色土 ローム小ブロック・標名白色軽石を含む
- 4: 暗褐色土 少量の標名白色軽石を含む



37号住居跡 掘り方平面図

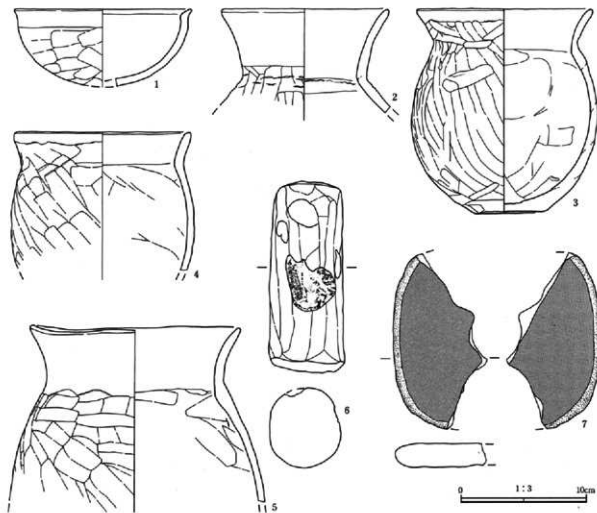


37号住居跡 カマド平・断面図

37号住居跡カマド 埋土

- | | |
|--|--|
| 1: 淡黄色粘土 暗褐色～黒褐色土を含む(雑・天井部崩落土) | 16: 淡黄色砂質ローム土 少量の暗褐色土を含む |
| 2: 暗褐色土 ローム粒子・焼土粒子を含む | 17: 黒褐色土 多量の砂質ローム小ブロックを含む |
| 3: 暗褐色土 多量の焼土ブロック+少量の炭化物・灰を含む
(天井部崩落土) | 18: 暗褐色土 多量の砂質ロームブロック・焼土ブロック |
| 4: 灰白～淡黄色粘土(天井部崩落土) | 19: 明赤褐色土 焼土ブロック |
| 5: 明赤褐色土 焼土ブロック(天井部崩落土) | 20: 暗褐色土 少量のローム小ブロック・焼土小ブロックを含む |
| 6: 明褐色土 多量の灰白色粘土ブロック+少量の焼土ブロック
(天井部崩落土) | 21: 黒色土 微量のローム粒子を含む(カマド掘り方埋土) |
| 7: 暗褐色土 少量のローム粒子・標名白色軽石を含む | ※13層～21層土=カマド掘り方埋土 |
| 8: 暗褐色土 7層土+焼土粒子 | 22: 褐～明褐色土 多量の砂質ローム粒子・ブロックを含む(住居掘り方埋土) |
| 9: 灰層 少量の焼土粒子・炭化物を含む(使用面) | |
| 10: 明赤褐色土 焼土化面+灰層(使用面) | |
| 11: 淡黄色粘土 カマド基部 | |
| 12: 灰白色粘土 煙道部貼りつけ土 | |
| 13: 黒褐色土 多量のロームブロックを含む(カマド掘り方埋土) | |
| 14: 暗褐色土 少量の灰白色粘土小ブロックを含む | |
| 15: 黒色土 微量のローム粒子を含む | |

IV 遺構と遺物



37号住居跡 出土遺物図

7区 37号住居跡 遺物観察表

通称名 遺物番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考
37号住居 1	土師器 坏	埋土中 1/5	口径 14.0 底径 - 高さ -	①胎・細砂少 ②酸化焰、良好 ③にぶい黄褐色	外面=口縁部横ナデ、体部上位ヘラナデ、下位 ~底部ヘラ削り。内面=口縁横ナデ、体部ナ デ。	
37号住居 2	土師器 甕	床面-6cm 口縁破片	口径 13.2 底径 - 高さ -	①胎・細砂少、粗砂多 ②酸化焰、やや良好 ③にぶい黄褐色	外面=口縁部横ナデ、体部上位縦方向のヘラ削 り。内面=口縁横ナデ、体部上位横ナデ。	
37号住居 3	土師器 小型甕	床面+4cm 略兜形	口径 13.8 底径 5.6 高さ 18.0	①胎・細砂少 ②酸化焰、やや良好 ③明赤褐色	外面=口縁部横ナデ、口縁下位~胴・底部丁 寒なヘラナデ。内面=口縁部横ナデ、胴部ナ デ。	
37号住居 4	土師器 小型甕	カマド埋土 口~胴上片	口径 14.0 底径 - 高さ -	①胎・細砂多 ②酸化焰、やや良好 ③にぶい黄褐色	外面=口縁部横ナデ、口縁下位~胴・底部粗 雑なヘラナデ。内面=口縁部横ナデ、胴部ナ デ。	
37号住居 5	土師器 甕	床面-6cm 口~胴上片	口径 16.7 底径 - 高さ -	①胎・細砂多 ②酸化焰、やや良好 ③にぶい藍色	外面=口縁部横ナデ、体部上位ヘラナデ。内面= 口縁横ナデ、体部ナデ。	
37号住居 6	土製品 支脚	カマド 使用面-10cm 略兜形	長さ 15.0 巾 6.0 厚さ 6.3	①胎・細・粗砂多 ②酸化焰、やや良好 ③にぶい黄褐色	手捏ね成形、瓶いヘラナデ。剥離部下に布目眞 残る。	
37号住居 7	磨り石	床面-13cm 1/3	長さ 13.0 巾 - 厚さ 1.9	石材 石英閃緑岩 重量 230g	平ら面裏表2面使用。	

39号住居跡 (遺構写真P.L.36、遺物写真P.L.84)

位置: X=34129 Y=-42911

主軸方位: N-40° -E

規模・形状: 住居南半が調査区外にかり、全容は不明。後記のカマドの存在から北東壁長は5.5m程を測るものと思われる。

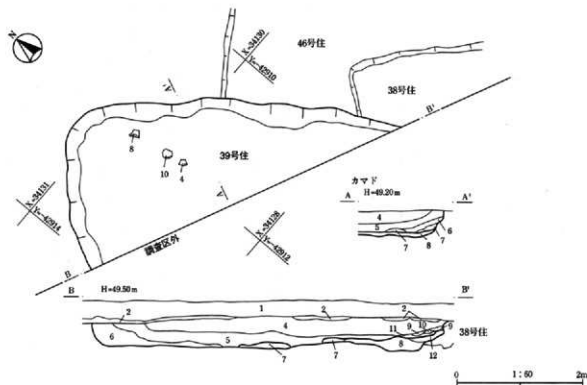
カマド: 平面的には検出し得なかったが、調査区南端壁面に住居埋土と共に粘土・焼土層を確認し、カマドの一部と推察される。位置は住居南東壁の北寄りとなる。

内部施設: 調査区内においては柱穴・貯蔵穴などは検出し得なかった。

掘り方: 一部を残し全体に僅か1~6cm程下がり、北西コーナー付近より径15~40cm、深度3~10cm程の浅い落ち込みと北東壁下に径28cm、深度57cmを測るビット1穴を確認した。

出土遺物: 床面直上あるいは床面下よりの遺物出土はなく、埋土中もしくは床面から5~8cmの間層を挟んでの出土である。また、埋土内より須恵器横瓶片が出土する。

重複遺構: 住居北東部に28号・46号の2軒の住居跡と重複する。新旧関係は埋土断面の状態から本住居跡の方がいずれの住居跡よりも新しいものと判断される。



39号住居跡 平・断面図

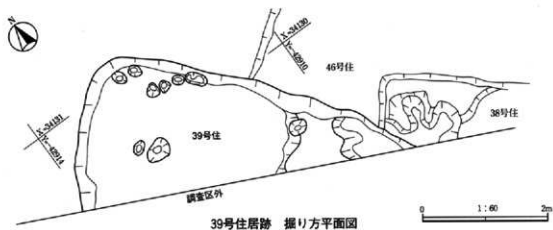
39号住居跡 埋土

- 1: 暗褐色砂質土 現耕作土
 2: 明褐色砂質土 多量の浅間A軽石を含む近世~近代耕作土
 4: 暗褐色砂質土 多量の焼土粒子・炭化物+雑名白色軽石+ローム小ブロックを含む
 5: 暗褐色砂質土 少量のローム小ブロック・焼土粒子・炭化物+微量の雑名白色軽石を含む
 6: 暗褐色土 多量のローム小ブロック+少量の雑名白色軽石・焼土粒子を含む
 7: 黒褐色土 少量のローム小ブロックを含む
 8: 明褐色土 上端に薄く5mm程の黒色土硬化層(床面)、下方は多量のロームブロックを含む(住居掘り方埋土)

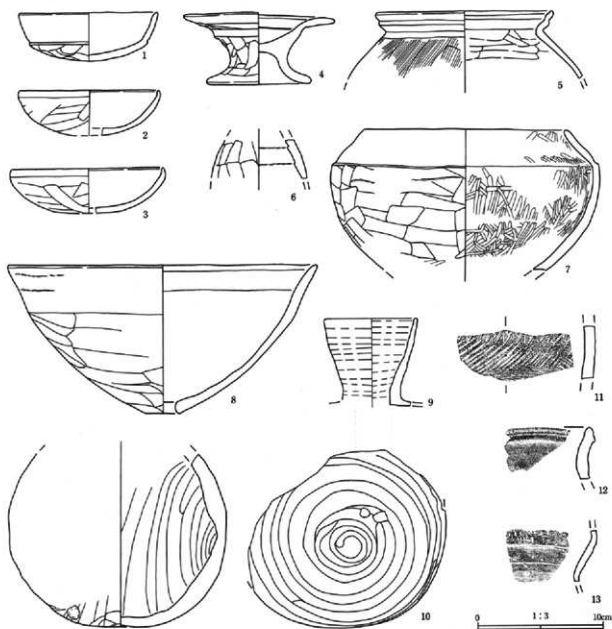
39号住居跡カマド 埋土

- 9: 淡黄~灰白色粘土 微量の焼土粒子を含む(天井部の崩落土)
 10: 暗褐色土 少量のローム小ブロックを含む
 11: 灰層 少量の焼土粒子・炭化物を含む(カマド使用面)
 12: 淡黄~灰白色粘土 上面の所々焼土化

IV 遺構と遺物



39号住居跡 掘り方平面図



39号住居跡 出土遺物図

7区 39号住居跡 遺物観察表

遺物名 遺物番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①粘土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考
39号住居 1	土師器 坏	埋土中 1/2	口径 (11.0) 底径 - 高さ 3.8	①微・細砂やや多 ②酸化結、やや良好 ③にぶい黄褐色	器面擦れ荒れる。外面=口縁部横ナデ、体部~ 底部へう削り。内面=ナデ。	
39号住居 2	土師器 坏	埋土中 1/4	口径 (11.0) 底径 - 高さ 3.5	①微・細砂少 ②酸化結、良好 ③橙褐色	器面擦れ荒れる。外面=口縁部横ナデ、体部~ 底部へう削り。内面=ナデ。	
39号住居 3	土師器 坏	埋土中 口~体部片	口径 (12.0) 底径 - 高さ 3.5	①微・細砂少 ②酸化結、良好 ③赤褐色	器面擦れ甚大。外面=口縁部横ナデ、体部へう 削り?。内面=ナデ。	
39号住居 4	土師器 高坏	床面+8cm 3/4	口径 11.9 底径 (8.9) 高さ 5.6	①微・細砂やや多 ②酸化結、やや良好 ③浅黄色	外面=坏部口縁横ナデ、脚部へう削り。内面=坏 部ナデ。脚裏面ナデ。	
39号住居 5	土師器 台付甕	埋土中 口縁破片	口径 (14.0) 底径 - 高さ -	①微・細砂少 ②酸化結、良好 ③暗灰黄色	S字状口縁台付甕。横線なし。外面=口縁部横ナ デ、胴部肩刷毛目調整。内面=横ナデ。	
39号住居 6	土師器 台付甕	埋土中 脚部片	口径 - 底径 - 高さ -	①微・細砂やや多 ②酸化結、良好 ③にぶい黄褐色	脚部外面=へう削り。内面=未調整、輪轆み残 す。	
39号住居 7	土師器 鉢	埋土中 口~体部片	口径 (16.0) 底径 - 高さ -	①微・細砂少 ②酸化結、良好 ③にぶい橙褐色	外面=口縁部横ナデ。体部へう削り。内面=口縁 横ナデ、体部ナデの後にへう磨き。	
39号住居 8	土師器 瓶	床面+5cm 1/4	口径 (24.3) 底径 (2.5) 高さ 11.6	①微・細砂やや多 ②酸化結、やや良好 ③灰黄色	外面=口縁部横ナデ、体部へう削り。内面=口縁 部横ナデ、体部ナデ。	
39号住居 9	須恵器 瓶	埋土中 口~胴部片	口径 (7.3) 底径 - 高さ -	①微・細砂少 ②還元結、良好 ③灰色	ロクロ成・整形。内面全面および外面の半分 に自然釉塗れ。	
39号住居 10	須恵器 横瓶	床面+5cm 破片	口径 - 底径 - 高さ -	①微・細砂少 ②還元結、良好 ③灰白色	ロクロ成・整形。外面=回転へう削り・へう調 整。内面=器面免泡。外面上部及び内面底部 中央に自然釉塗れ。	
39号住居 11	須恵器 甕	埋土中 胴部破片	口径 - 底径 - 高さ -	①微・細砂少 ②還元結、良好 ③灰色	ロクロ成・整形。外面=波状紋、敷き直。自然 釉塗れ。	
39号住居 12	須恵器 甕	埋土中 口縁破片	口径 - 底径 - 高さ -	①微・細砂少 ②還元結、良好 ③灰色	器厚0.9cm。ロクロ成・整形。	
39号住居 13	土師器 小型甕	埋土中 口縁破片	口径 - 底径 - 高さ -	①微・細砂少 ②酸化結、良好 ③灰黄褐色	器厚0.6cm。内外面胴部横ナデ。	

40号住居跡 (遺構写真P.L36、遺物写真P.L84)

位置: X=34156 Y=-42913

主軸方位: N-43° - E

規模・形状: 平面形状は3.5m×4.4~5.0mを測る隅丸
台形状を呈し、床面までの残存深度は45cm程を測る。
カマド: 北東壁東寄りになつたと思われるが、破壊
され、付近に4~5cm程の焼土・粘土の高まりが
残るのみで原形を留めない。

内部施設: 北東コーナー部に径50×75cm、深度
59cmを測る隅丸長方形形状を呈する貯蔵穴1基、径
20~30cm、深度10~25cmを測る柱穴4穴が検出さ

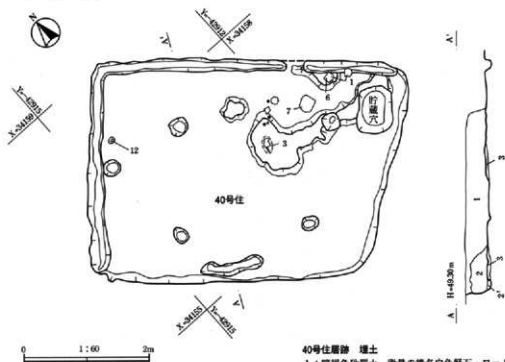
れる。また、北西壁・北東壁下および南西壁下の一
部に壁溝が検出される。

掘り方: 住居中央部を除く壁寄りの一部が5~
15cmほど浅く窪む。

出土遺物: 土師器小型甕 (No.3) が床面直上より
出土する。

重複遺構: 南側において61号住居跡と重複し、遺構
確認段階及び埋土断面の状況より、本住居跡の方が
新しいものと判断される。また、北西部において41
号住居跡と近接する。

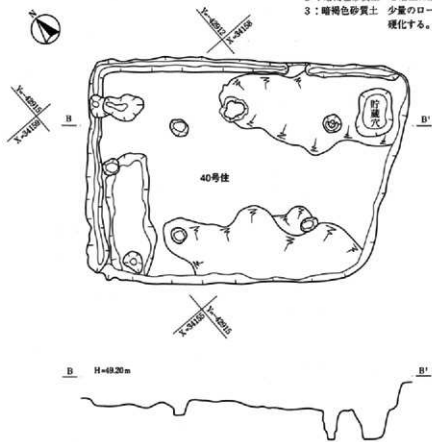
IV 遺構と遺物



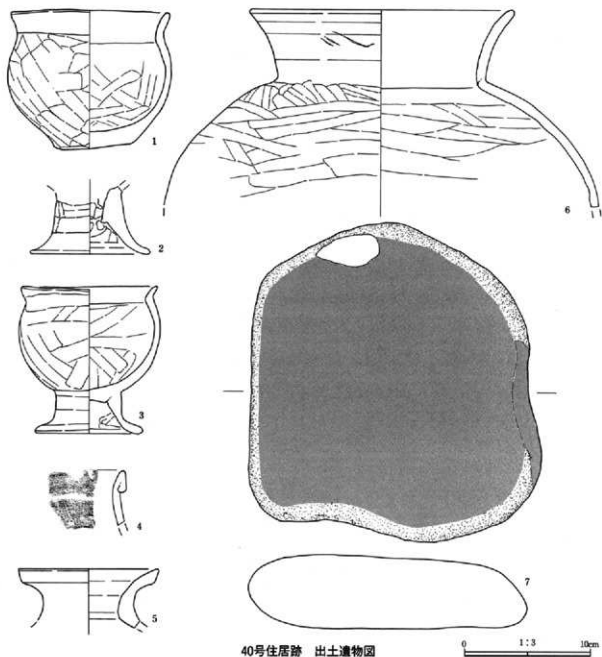
40号住居跡 平・断面図

40号住居跡 埋土

- 1: 暗褐色砂質土 微量の楕名白色軽石・ローム粒子・焼土粒子・炭化物を含む
- 2: 暗褐色砂質土 少量の楕名白色軽石・ローム粒子・炭化物を含む
- 2': 暗褐色砂質土 2層土に類似し硬化する。
- 3: 暗褐色砂質土 少量のローム小ブロック・楕名白色軽石を含み、硬化する。(貼り床土)



40号住居跡 掘り方平・断面図



40号住居跡 出土遺物図

7区 40号住居跡 遺物観察表-1

遺構名 遺物番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①粘土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考
40号住居 1	土師器 小型壺	床面直上 4/5	口径 12.5 底径 6.0 高さ 10.9	①微・細砂やや多 ②酸化焙、やや良好 ③にぶい赤褐色	外面=口縁部横ナデ。胴部器面縮減・割離者大のため整形痕不明瞭、ヘラナデか。内面=口縁部横ナデ、胴部下平ナデ。	
40号住居 2	土師器 台付壺 (小型)	埋土中 脚部	口径 - 底径 9.4 高さ -	①微・細砂少 ②酸化焙、良好 ③にぶい黄褐色	外面=脚上部ヘラナデ、下位横ナデ。脚裏面ナデ、裏は棒状工具による刺。	
40号住居 3	土師器 台付壺 (小型)	床面+16cm 完形	口径 10.7 底径 8.5 高さ 11.5	①微・細砂やや多 ②酸化焙、やや良好 ③橙色	外面=口縁部横ナデ、胴部ヘラ削り後に一部ヘラナデ。脚部下位横ナデ。内面=口縁部横ナデ、胴部ナデ。脚部表面粗雑ナデ。	
40号住居 4	土師器 壺	埋土中 口縁片	口径 - 底径 - 高さ -	①微・細砂少 ②酸化焙、やや良好 ③橙色	折り返し口縁。外面=裏部粗い刷毛目。内面=口縁部ナデ。	

IV 遺構と遺物

7区 40号住居跡 遺物観察表-2

遺構名 遺物番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考
40号住居 5	土師器 壺	床面+6cm 口~胴片	口径 20.8 底径 - 高さ -	①敷・縹・粗砂少 ②酸化焙、やや良好 ③灰白色	外面=口縁部横ナデ、胴部~胴部上位丁軍ナデ、丹形痕。内面=口縁部横ナデ、胴部ナデ、器面割離。	
40号住居 6	須恵器 壺	埋土中 口縁片	口径 (11.0) 底径 - 高さ -	①敷・細砂少 ②還元焙、良好 ③灰色	ロクロ成・整形。	
40号住居 7	掘り石	床面+2cm 完形	長さ 24.4 巾 23.2 厚さ 5.5	石材 粗粒輝石安山岩 重量 5,950g	平坦表裏面及び4箇所に研磨使用痕跡。	

41号住居跡 (遺構写真P.138、遺物写真P.184)

位置: X=34160 Y=-42916

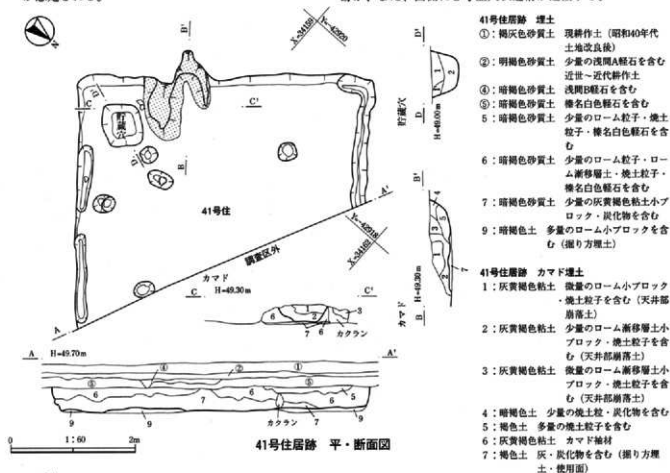
主軸方位: N-50° - E

規模・形状: 調査区北端部に接し北半が調査区外にかかる為、全容は不明。調査範囲内において南西壁長4.5m程、床面までの残存深度38cmほどを測る。カマド: 南西壁中央東寄りに検出され、遺存状態は不良。煙道は壁より40cmほど突出し、袖部等は芯材を用いず粘土のみで構築される。袖部下の掘り方土の中にも焼土・灰が見られることから、作り直しが想定される。

内部施設: 床面上より径25~35cm、深度30~40cmを測るビット5穴が検出され、内3穴が主柱穴跡と考えられる。貯蔵穴は南コーナー部において検出され、65×55cm、深度45cmを測る隅丸形状を呈する。また、壁溝は全周せず、一部途切れる。掘り方: 住居中央部の床面を残し、壁際をドーナツ状に10cmほど掘り込む。

出土遺物: 土師器杯2点 (No.1・2) が床面下掘り方よりの出土である。

重複遺構: 重複する遺構は無いが、東側に40号住居跡が、また、西側に2号壑穴状遺構が近接する。



2. 遺構と遺物

41号住居跡貯蔵穴 埋土

1: 暗褐色土 少量のローム粒子・炭化物を含む

1': 暗褐色土 1層土に比べ締まりなし

2: 暗褐色土 微量のローム粒子を含む



41号住居跡 出土遺物図

0 1:3 10cm

7区 41号住居跡 遺物調査表

遺構名 遺物番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①粘土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考
41号住居 1	土師器 坏	床面-4cm 底部欠	口径 12.8 底径 - 高さ -	①微・細・粗砂やや多 ②酸化焙、良好 ③明赤褐色	外面=口縁部横ナデ、体部へう磨り。内面=器面摩滅・剥落のため整形不明。	
41号住居 2	土師器 坏	埋方埋土 1/3	口径 (13.8) 底径 - 高さ 6.0	①微・細・粗砂やや多 ②酸化焙、良好 ③にぶい黄褐色	外面=口縁部横ナデ、体部へう磨り。内面=口縁部横ナデ、体部ナデの後にへう磨き。内面=吸炭黒色。	
41号住居 3	土師器 壺	埋土中 口縁破片	口径 (25.2) 底径 - 高さ -	①微・粗砂少 ②酸化焙、良好 ③にぶい黄褐色	口縁部内外に折り返し。外面=口縁粗い刷毛目を残す。内面=口縁部ナデの後に粗いへう磨き。	

42号住居跡 (遺構写真P.L38、遺物写真P.L-)

位置: X=34164 Y=-42925

主軸方位: N-26° - E

規模・形状: 調査区北端部に位置し、北半が調査区外にかかり、かつ重複遺構に切除されるため、形状等の全容は不明。調査範囲内において、南西壁長4.2m、床面までの残存深度は16cmを測る。

カマド: 調査範囲内においては検出されなかったが、埋土断面の北東部土層中に焼土・粘土ブロックが含まれているため、付近にカマドの存在が想定される。

内部施設: 径25cm、深度40cmを測るピットが1穴検出される。

掘り方: なし。

出土遺物: 出土遺物は極めて少なく、いずれも埋土中よりの出土である。

重複遺構: 南東コーナー部において4号竪穴状遺構と、東壁において3号竪穴状遺構とそれぞれ重複し、埋土断面の状況から、本住居跡の方が両遺構より古いものと判断される。

2号竪穴状遺構 (遺構写真P.L58、遺物写真P.L-)

位置: X=34161 Y=-42921

主軸方位: N-26° - E

規模・形状: 調査区北端部に位置し、北半部が調査区外にかかるため全体形状は不明。東西長1.8m程、残存深度10~20cm程を測る。

内部施設: なし。掘り方: なし。

出土遺物: 出土遺物は少なく、いずれも埋土中より小破片のみの出土である。

重複遺構: 重複はないものの3号竪穴状遺構・41号住居跡と近接する。

3号竪穴状遺構 (遺構写真P.L58、遺物写真P.L84)

位置: X=34163 Y=-42923

主軸方位: N-28° - E

規模・形状: 調査区北端部に位置し、北半部が調査区外にかかるため全体形状は不明。東西長2.6m程、残存深度10~20cm程を測る。

内部施設: なし。掘り方: なし。

IV 遺構と遺物

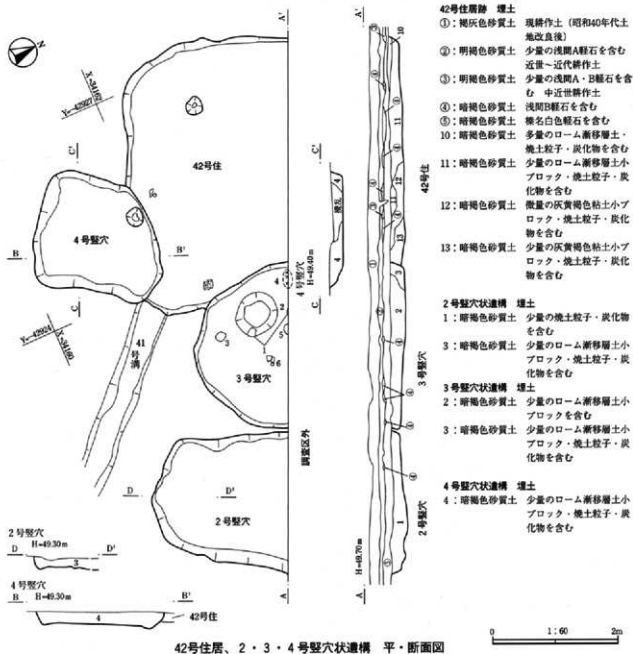
出土遺物：出土遺物は少なく、いずれも埋土中より小破片のみの出土である。

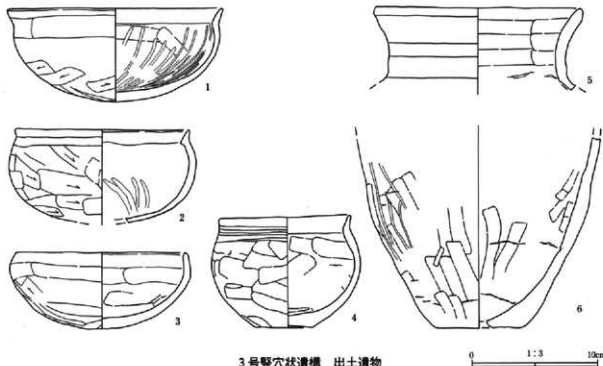
重複遺構：西側で42号住居跡と重複し、埋土断面の状況から本遺構の方が新しいものと判断される。また、遺構内において72号土坑跡と重複するが、その新旧関係は明らかではない。

4号竪穴状遺構（遺構写真P.L.38、遺物写真P.L-）

位置：X=34161 Y=-42925

主軸方位：N-29° -E





3号竪穴状遺構 出土遺物

7区 3号竪穴状遺構 遺物観察表

遺構名 遺物番号	種別 器種	出土位置 残存状況	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考
3号竪穴 1	土師器 坏	床面直上 5/6	口径 17.0 底径 - 高さ 7.4	①灰・細・粗砂やや多 ②酸化塩、良好 ③赤色	外面=口縁部~体部上位横ナデ、体部下~底部 丁寧なヘリ削り。内面=全面ナデの後にヘリ磨 き。	
3号竪穴 2	土師器 坏	床面+10cm 坏	口径 13.8 底径 - 高さ -	①灰・細・粗砂やや多 ②酸化塩、良好 ③明赤褐色	外面=口縁部~体部上位横ナデ、体部下~底部 丁寧なヘリ削り。内面=全面ナデの後にヘリ磨 き。	
3号竪穴 3	土師器 坏	床面+4cm 5/6	口径 13.3 底径 - 高さ 6.0	①灰・細・粗砂やや多 ②酸化塩、良好 ③明赤褐色	外面=口縁部~体部上位横ナデ、体部下~底部 ヘリ削り。内面=全面ナデ。器面やや荒れ る。	
3号竪穴 4	土師器 小型壺	床面+4cm 略定形	口径 10.4 底径 4.7 高さ 8.6	①灰・細・粗砂少 ②酸化塩、良好 ③赤褐色	外面=口縁部横ナデ、胴部丁寧なヘリ削り。内 面=口縁部横ナデ、胴部ナデ。	
3号竪穴 5	土師器 壺	床面+3cm 口縁部	口径 16.4 底径 - 高さ -	①灰・細・粗砂少 ②酸化塩、良好 ③にぶい褐色	内外面口縁部横ナデ。	
3号竪穴 6	土師器 壺	床面+5cm 底部	口径 (6.7) 底径 - 高さ -	①灰・細・粗砂やや多 ②酸化塩、良好 ③にぶい褐色	外面=胴部下位ヘリ削り後に粗いヘリナデ、底 部縁取り。内面=全面ヘリナデ。	

43号住居跡 (遺構写真P.L37、遺物写真P.L85)

位置：X=34125 Y=-42885

主軸方位：N-49°-E

規模・形状：平面形状は3.8m×4.5mを測る隅丸長方形
形状を呈し、床面までの残存深度は20cmほどを測る。カマド：北東壁の南コーナー寄りに位置し、遺存状
態は悪く、全長が80cmほどと短い。芯材は用いず
粘土のみで構築される。内部施設：床面上に小ピット6穴を検出するが、内
1穴(P4)は重複する44号住居跡のものと考えら
れ、残る5穴の配置は不均等である。

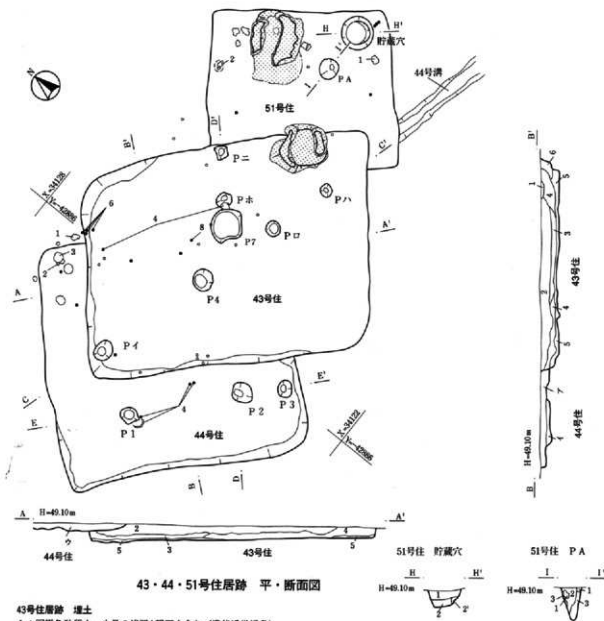
掘り方：全体に浅い掘込を有する。

出土遺物：土師器高坏(No.4)は床面直上より、
土師器須恵器蓋(No.9)・土師器壺(No.8)は床
面下掘り方よりの出土である。

IV 遺構と遺物

重複遺構：北東側において51号住居跡と、南西側において44号住居跡と重複する。新旧関係は遺構平面

確認時および埋土断面の状況より、二軒の住居跡より本住居跡の方が新しいものと判断される。



43号住居跡 埋土

- 1: 明褐色砂質土 少量の浅褐色A軽石を含む (溝状近世埋土)
- 2: 暗褐色砂質土 少量の棕色白色軽石・ロームブロックを含む
- 3: 暗褐色砂質土 少量のロームブロックを含む
- 4: 暗褐色砂質土 少量の棕色白色軽石・ローム粒子・焼土粒子を含む
- 5: 黒褐色土 多量のロームブロックと少量の棕色白色軽石を含む (掘り方埋土)
- 6: 暗褐色砂質土 少量の棕色白色軽石・ローム粒子を含む

44号住居跡 埋土

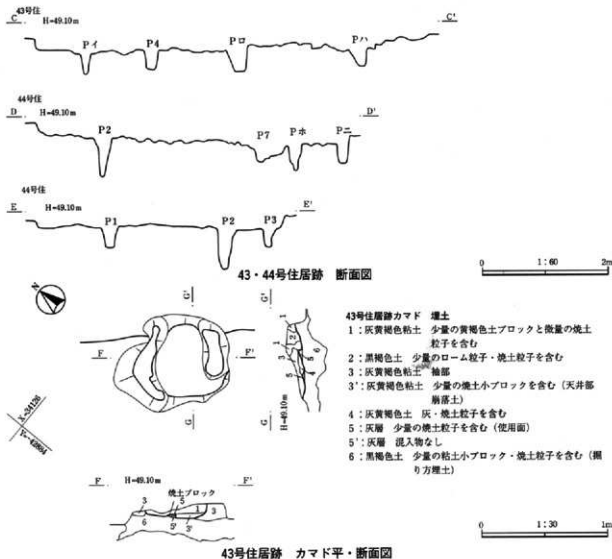
- ア: 暗褐色砂質土 ローム漸移層土を底状に含み、少量の白色小粒軽石 (浅褐色C軽石か) を含む
- イ: 黒褐色土 多量のロームブロックを含む (掘り方埋土)
- ウ: 暗褐色砂質土 多量の浅褐色A軽石・ローム粒子と少量の棕色白色軽石を含む (近世埋土)

51号住居跡柱穴 埋土

- 1: 灰黄褐色粘土ブロック
- 2: 暗褐色土 少量のローム粒子を含む
- 3: 黄褐色土 ローム漸移層土+ローム小ブロック

51号住居跡貯蔵穴 埋土

- 1: 黒褐色土 少量の黄白色粘土小ブロックを含む
- 2: 暗褐色土 少量の黄白色粘土小ブロックと微量の炭化物を含む
- 2': 暗褐色土 2層土+粘土ブロック



44号住居跡 (遺構写真P L37、遺物写真P L85)

位置: X=34124 Y=-42887

主軸方位: N-41°-E

規模・形状: 平面形状は、3.8m×3.9mを測る隅丸形状を呈し、床面までの残存深度は10cmほどを測る。カマド: 不明。恐らくは重複により失われた北東半に位置していたものと考えられる。

内部施設: 床面上に検出された3穴のピット中のP1・2、及び重複する43号住居内に検出されたP4が主柱穴になると思われるが、残る北側の1穴は検出されなかった。

掘り方: 一部に不定形の浅い掘り込みを有するのみである。

出土遺物: 土師器環 (No.2)・土師器高杯

(No.3)・土師器甕 (No.4)は床面直上よりの出土である。

重複遺構: 北東側において43号住居跡と重複し、新旧関係は遺構平面確認時及び埋土断面の状況より、本住居跡の方が古いものと判断される。

51号住居跡 (遺構写真P L43、遺物写真P L85)

位置: X=34126 Y=-42882

主軸方位: N-42°-E

規模・形状: 平面形状は2.5m×2.9mを測る小型の隅丸形状を呈するものと思われるが、上面の削平のため壁が残存せず、全容は不明。

カマド: 北壁側やや西寄りに位置し、遺存状態は不良。芯材を用いず粘土のみで構築される。

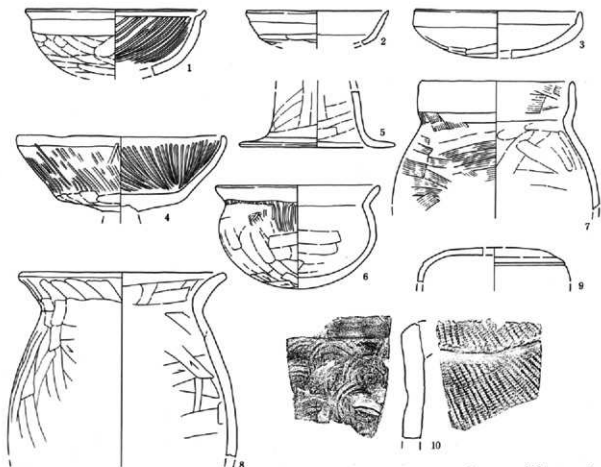
IV 遺構と遺物

内部施設：中央部やや北東寄りに径30cm程、深度50cmを測るピットを1穴のみを検出し、深度から柱穴と考えられる。

掘り方：なし。

出土遺物：土師器坏 (No.1)・土師器高坏 (No.2)は、いずれも床面下掘り方よりの出土である。

重複遺構：南西側にて43号住居跡と重複し、43号住居のカマド跡が本住居内に在ることから、本住居跡の方が古いものと判断される。



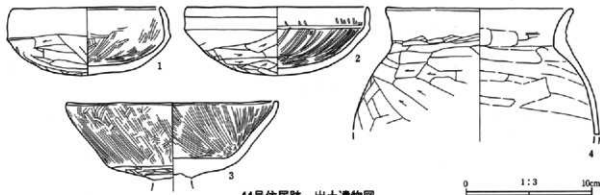
43号住居跡 出土遺物図

7区 43号住居跡 遺物観察表-1

遺構名 遺物番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考
43号住居 1	土師器 坏	埋土中 1/5	口径 (14.2) 底径 - 高さ -	①微・細砂少 ②酸化焰、良好 ③にぶい褐色	外面=口縁部横ナゲ、体部ヘラナゲ。内面=口唇部横ナゲ。体部ナゲの後に丁寧なヘラ磨き。	
43号住居 2	土師器 坏	埋土中 1/3	口径 (11.2) 底径 - 高さ -	①微・細砂少 ②酸化焰、良好 ③にぶい褐色	外面=口縁部横ナゲ、体部ヘラ削り。内面=口縁部横ナゲ。	
43号住居 3	土師器 坏	埋土中 口縁破片	口径 (13.0) 底径 - 高さ -	①微・細・粗砂やや多 ②酸化焰、良好 ③にぶい黄褐色	器面摩滅甚大。外面=口縁部横ナゲ、体部ヘラ削り。内面=口縁部横ナゲ。	
43号住居 4	土師器 高坏	床面直上 坏部	口径 16.0 底径 - 高さ -	①微・細砂少 ②酸化焰、良好 ③明赤褐色	坏外面=口縁部横ナゲ、体部横ナゲ後にヘラ磨き。内面=ナゲの後にヘラ磨き。	
43号住居 5	土師器 高坏	埋土中 脚部片	口径 - 底径 (12.3) 高さ -	①微砂少 ②酸化焰、良好 ③褐色	脚内外面丁寧なナゲ。丹影か。	

7区 43号住居跡 遺物観察表-2

遺構名 遺物番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考
43号住居 6	土師器 小型甕	床面+13cm 3/4	口径 (13.0) 底径 - 高さ 8.2	①微・細・粗砂やや多 ②酸化焙、良好 ③赤褐色	外面=口縁部横ナデ、胴部ナデ、底部ヘラ削り。内面=口縁部横ナデ、胴部ナデ。内面=黒色。	
43号住居 7	土師器 甕	掘方埋土 口~胴片	口径 (12.0) 底径 - 高さ -	①微・細・粗砂やや多 ②酸化焙、良好 ③にぶい褐色	外面=口縁部横ナデ、胴部刷毛目。内面=口縁部横ナデ、胴部指ナデ。	
43号住居 8	土師器 甕	床面+7cm 掘方埋土 口~胴片	口径 (16.5) 底径 - 高さ -	①微・細・粗砂やや多 ②酸化焙、良好 ③褐色	外面=口縁部~胴部上位ヘラ削り一部ヘラナデ。内面=口縁部横ナデ、胴部ヘラ削り。	
43号住居 9	須恵器 甕	掘方埋土 破片	口径 - 底径 - 高さ -	①微・細砂少 ②還元焙、良好 ③灰色	ロクロ成・整形。	
43号住居 10	須恵器 大甕	埋土中 破片	口径 - 底径 - 高さ -	①微・細砂少 ②還元焙、良好 ③灰色	胴部上位肩部破片。表面格子叩き目、胴部接合の割離部下にも叩き目。内面=波状あて具痕。	



44号住居跡 出土遺物図

7区 44号住居跡 遺物観察表

遺構名 遺物番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考
44号住居 1	土師器 坏	4/5	口径 12.0 底径 - 高さ 5.4	①微・細・粗砂やや多 ②酸化焙、良好 ③明赤褐色	外面=口縁部横ナデ、体部ヘラ削り。内面=ナデの後にヘラ磨き。	
44号住居 2	土師器 坏	床面直上 2/3	口径 (14.5) 底径 - 高さ 5.4	①微・細・粗砂やや多 ②酸化焙、良好 ③にぶい赤褐色	外面=口縁部横ナデ、体部ヘラ削り。内面=ナデの後にヘラ磨き。	
44号住居 3	土師器 高坏	床面直上 坏部	口径 16.8 底径 - 高さ -	①微・細砂少 ②酸化焙、良好 ③褐色	坏部外面=胴部ナデの後に丁寧なヘラ磨き、底面ヘラナデ。坏部内面=ナデの後に全面丁寧なヘラ磨き。	
44号住居 4	土師器 甕	床面直上 口~胴部片	口径 14.8 底径 - 高さ -	①微・細・粗砂やや多 ②酸化焙、良好 ③にぶい赤褐色	外面=口縁部横ナデ、胴部ヘラ削り。内面=口縁部横ナデ、胴部ヘラナデ。	



51号住居跡 出土遺物図

IV 遺構と遺物

7区 51号住居跡 遺物観察表

遺構名 遺物番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考
51号住居 1	土師器 坏	床面-3cm 1/4	口径 底径 高さ	- - - ①灰・細砂少 ②酸化塩、良好 ③にぶい赤褐色	外面=口縁部横ナデ、体部=底部へう削り。内面=口縁=底部丁寧ナデ。	
51号住居 2	土師器 高坏	床面-3cm 坏部破片	口径 底径 高さ	- - - ①灰・細砂少 ②酸化塩、やや良好 ③褐色	外面=坏部下面へうナデか。内面=坏部ナデの後にへう磨きか。器面摩滅甚大。	

45号住居跡 (遺構写真P.L.39、遺物写真P.L.85)

位置：X=34131 Y=-42906

主軸方位：N-23° -W

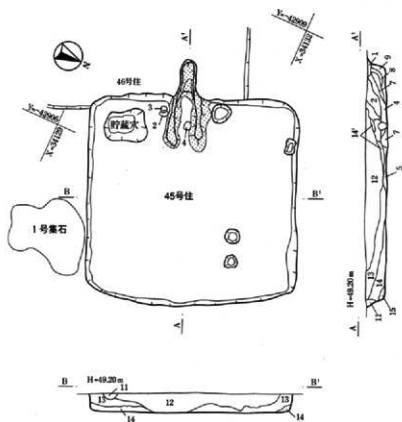
規模・形状：平面形状は3.2m×3.3mを測る隅丸正方形形状を呈し、床面までの残存深度は30cmほどを測る。内部施設：床面は貼り床を持たず、地山ローム土が硬化する。南コーナー部に平面形状が隅丸長方形を呈し、45cm×65cm、深度55cmを測る貯蔵穴を検出する。床面上に幾つかのピットを検出するも深度・位置より柱穴と断定できるものは無かった。

カマド：南西壁の中央部に位置し、煙道部は壁から

60cmほど突出する。掘り方や芯材を持たず、粘土のみで構築される。燃焼部には土師器甕が逆位で据えられ、支脚として利用されたものと考えられる。掘り方：なし。

出土遺物：前記の土師器甕 (No.4) がカマド内より出土の他、土師器坏 (No.2)・土師器台付甕 (No.3) はカマド使用面直上よりの出土である。

重複遺構：南西部にて46号住居跡と重複し、新旧関係は本住居のカマドが46号住居内に在ることから、本住居の方が新しいと判明。



45号住居跡 埋土

- 11: 暗褐色砂質土 少量のローム粒子・棕色白色軽石を含む
- 12: 暗褐色砂質土 多量のハードロームブロックと少量の棕色白色軽石を含む
- 13: 黒褐色土 少量のローム小ブロック・棕色白色軽石を含む
- 14: 明褐色土 多量のローム小ブロックと少量の棕色白色軽石・炭化物を含む
- 14': 明褐色土 14層土+焼土粒子・焼土小ブロック
- 15: 暗褐色土 少量のローム小ブロックを含む

45号住居跡・1号集石跡 平・断面図

0 1:60 2m

2. 遺構と遺物

1号集石跡 (遺構写真PL73、遺物写真PL-)

位置: X=34130 Y=-42905

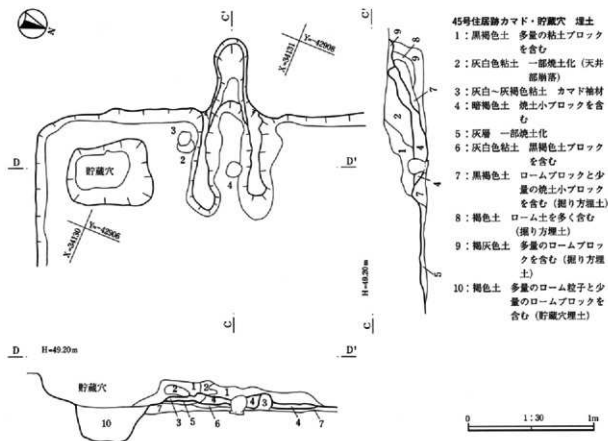
方位: N-24°-E

規模・形状等: 平面形状は1.2m×1.2mを測る不定形を呈するものの下部は土坑状の掘り込みが検出さ

れず、平坦面に大小の礫が集中するのみである。礫は焼けてはおらず、人為的な遺構ではあるが、その用途等は不明である。

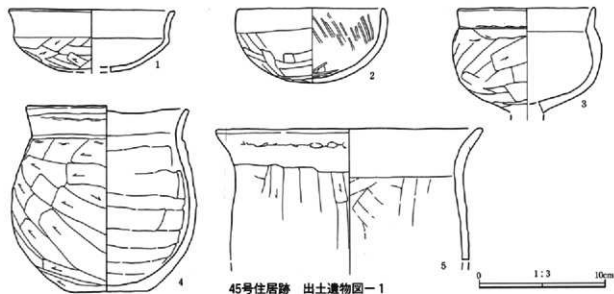
出土遺物: なし。

重複遺構: 重複はないが、45号住居跡が近接する。



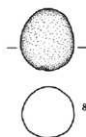
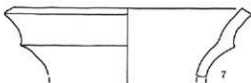
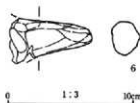
- 45号住居跡カマド・貯蔵穴 埋土
- 1: 黒褐色土 多量の粘土ブロックを含む
 - 2: 灰白色粘土 一部焼土化 (天井部崩落)
 - 3: 灰白～灰褐色粘土 カマド袖材
 - 4: 暗褐色土 焼土小ブロックを含む
 - 5: 灰層 一部焼土化
 - 6: 灰白色粘土 黒褐色土ブロックを含む
 - 7: 黒褐色土 ロームブロックと少量の焼土小ブロックを含む (掘り方埋土)
 - 8: 褐色土 ローム土を多く含む (掘り方埋土)
 - 9: 褐灰色土 多量のロームブロックを含む (掘り方埋土)
 - 10: 褐色土 多量のローム粒子と少量のロームブロックを含む (貯蔵穴埋土)

45号住居跡 カマド平・断面図



45号住居跡 出土遺物図一

IV 遺構と遺物



45号住居跡 出土遺物図-2

7区 45号住居跡 遺物観察表

遺構名 遺物番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考
45号住居 1	土師器 坏	カマド埋土 1/5	口径 (13.0) 底径 - 高さ (4.9)	①微・細砂少 ②酸化焙、良好 ③赤褐色	外面=口縁部横ナデ、体部~底部へラ削り。内面=口縁部横ナデ、体部~底部ナデ。	
45号住居 2	土師器 坏	カマド 使用面直上 略丸形	口径 11.8 底径 - 高さ 5.8	①微・細砂少、粗砂多 ②酸化焙、良好 ③にぶい赤褐色	器面擦れて荒れる。外面=口縁部横ナデ、体部~底部へラ削り。内面=ナデの後に全面へラ磨き。	
45号住居 3	土師器 台付壺	カマド 使用面直上 脚部欠	口径 10.8 底径 - 高さ -	①微・細砂少、粗砂多 ②酸化焙、やや不良 ③にぶい赤褐色	器面擦れて荒れる。外面=口縁部横ナデ、体部へラ削り。内面=口縁部横ナデ、体部ナデ。	
45号住居 4	土師器 小型壺	カマド 使用面直上 完形	口径 13.0 底径 6.5 高さ 14.6	①微・細砂少 ②酸化焙、良好 ③褐色	外面=口縁部横ナデ、胴部丁寧なへラ削り。内面=口縁部横ナデ、胴部ナデ。	
45号住居 5	土師器 壺	埋土中 口~胴破片	口径 (21.0) 底径 - 高さ -	①微・細砂少 ②酸化焙、良好 ③にぶい褐色	外面=口縁部横ナデ、胴部縦方向のへラ削り。内面=口縁部横ナデ、胴部へラナデ。	
45号住居 6	土師器 瓶?	埋土中 取手	長さ 6.6 巾 3.7 厚さ 2.6	①微・細砂少 ②酸化焙、良好 ③にぶい褐色	瓶取手か? 手ねね成形。へラ削り後に一部へラナデ。	
45号住居 7	土師器 釜 (有段口縁)	埋土中 口縁破片	口径 (19.4) 底径 - 高さ -	①微・細砂少 ②酸化焙、良好 ③褐色	口縁部内外面横ナデ。	
45号住居 8	磨り石	カマド脚方	長さ 4.8 巾 4.2 厚さ 3.9	石材 根粒輝石安山岩 重量 100g	全面磨減。	

46号住居跡 (遺構写真P.L40、遺物写真P.L85)

位置: X=34129 Y=-42902

主軸方位: N-67° -E

規模・形状: 5.5m四方以上の規模を測ると思われるが、調査区端に位置し、かつ重複遺構が多いため、規模・形状の全容は不明。

カマド: 調査範囲内には検出し得なかった。

内部施設: 調査範囲内において床面上に径28~34cm、深度17~55cmを測るピットが8穴検出されるが、住居との相対関係が明らかではないため、いづれも主柱穴とは認められない。

掘り方: なし。

出土遺物: 土師器壺 (No.1・2) は床面付近よりの出土である。

重複遺構: 南東部において37号住居跡と重複し、埋土断面の状況より本住居跡の方が新しく、北東部において45号住居跡と重複し、45号住居跡のカマドの存在から本住居跡の方が古く、南西部において38・39号住居跡と重複し、遺構平面確認時および埋土断面の状況から本住居跡の方が古いものとそれぞれ判断される。(新 39住+38住+45住+46住+37住 古)

38号住居跡 (遺構写真P.L36、遺物写真P.L85)

位置: X=34128 Y=-42909

主軸方位: N-40° -E

規模・形状: 住居南西部の大半が調査区外にかかり、検出された唯一の北東壁長は4.1m程、床面までの残存深度は27~40cm程を測る。

2. 遺構と遺物

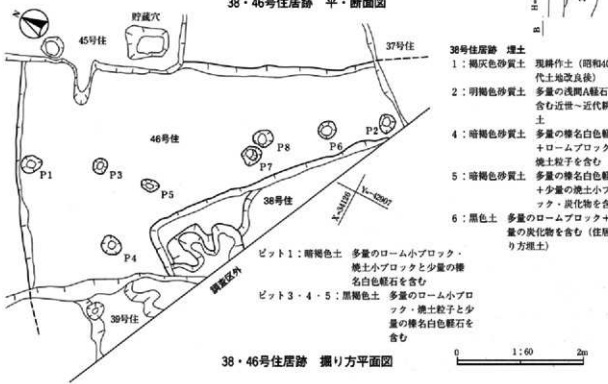
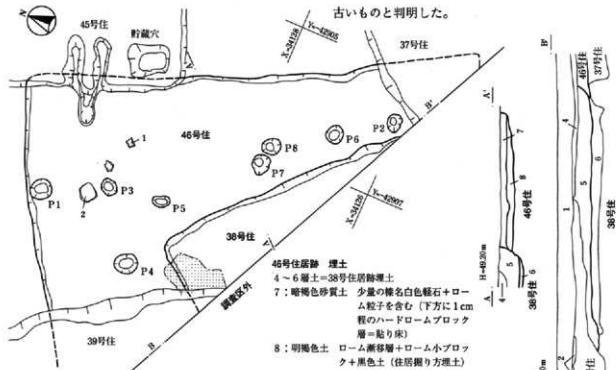
カマド：検出されておらず、調査区外に残る各壁のいづれかに位置するものと考えられる。

内部施設：調査区内の部分よりは、柱穴・貯蔵穴等を検出し得なかった。

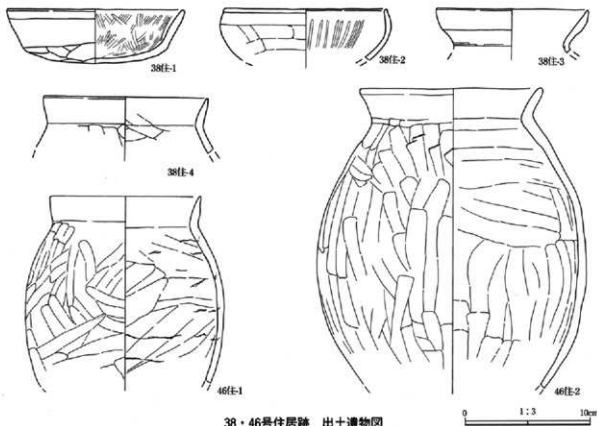
掘り方：北西コーナー付近で5～15cmの不定形の掘り込みを確認した。

出土遺物：出土遺物は少なく、いずれも埋土中より小破片のみの出土である。

重複遺構：北側で46号住居跡と重複し、新旧関係は埋土断面の状況より、本住居跡の方が新しいものと判明。また、西側において39号住居跡と重複し、この新旧関係は、埋土断面の状況より本住居跡の方が古いものと判明した。



IV 遺構と遺物



38・46号住居跡 出土遺物図

7区 38号住居跡 遺物観察表

遺構名 遺物番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考
38号住居 1	土師器 坏	埋土中 1/4	口径 (14.0) 底径 - 高さ (4.2)	①微・粗砂少 ②酸化塩、良好 ③にぶい黄褐色	外面=口縁部横ナデ、体~底部へラ削り。内面=口縁部~体部ナデの後へラ書き。	
38号住居 2	土師器 坏	埋土中 口縁片	口径 (13.0) 底径 - 高さ -	①微・粗砂少 ②酸化塩、良好 ③明赤褐色	口縁部内湾。外面=口縁部横ナデ、体部上位へラナデ。内面=口縁~体部ナデの後粗いへラ書き。	
38号住居 3	土師器 小型壺	埋土中 口縁片	口径 (12.0) 底径 - 高さ -	①細・粗砂多 ②酸化塩、良好 ③橙色	口縁部内外面に横ナデ。	
38号住居 4	土師器 小型壺	埋土中 口縁片	口径 (13.0) 底径 - 高さ -	①微・粗砂やや多 ②酸化塩、良好 ③橙色	外面=口縁部横ナデ、胴部上位へラ削り。内面=口縁部ナデ、胴部上位へラナデ	

7区 46号住居跡 遺物観察表

遺構名 遺物番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考
46号住居 1	土師器 甕	床面~2cm 口~胴2/3	口径 12.0 底径 - 高さ -	①微・粗・粗砂少 ②酸化塩、良好 ③橙色	外面=口縁部横ナデ、胴部上位へラ削り後にへラナデ、下位へラ削り。内面=口縁部横ナデ、胴部輪積み痕を残しへラナデ。	
46号住居 2	土師器 甕	床面+2cm 口~胴4/5	口径 14.4 底径 - 高さ -	①微・粗砂少、粗砂多 ②酸化塩、良好 ③にぶい赤褐色	外面=口縁部横ナデ、胴部上位へラ削り後に一部へラナデ、下位へラ削り。内面=口縁部横ナデ、胴部へラナデ。粗粒底物欠落穴多。	

48号住居跡 (遺構写真P.L42、遺物写真P.L86)

位置：X=34150 Y=-42908

主軸方位：N-46°-W

規模・形状：平面形状は5.7m×5.9mを測る正方形

を呈し、床面までの残存深度は35~40cmほどを測る比較的大型の住居跡である。

カマド：南東壁北寄りに位置し、全長は1.2m程と短く、煙道端は急峻に立ち上がり、壁よりあまり突

2. 遺構と遺物

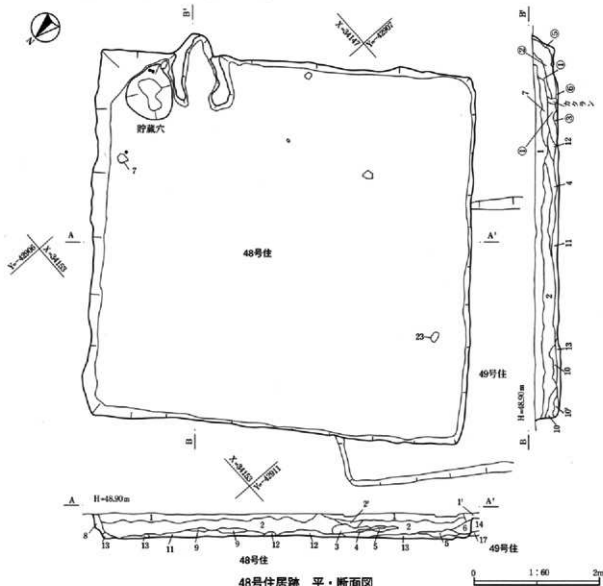
出ししない。芯材を用いず粘土のみで構築され、煙道部壁にも粘土を貼りつける。

内部施設：北東コーナー部に径75～85cm、深度35cmを測る楕円形の貯蔵穴を検出。床面は貼り床を持たず地山ローム土が硬化する。また、6m四方の住居でありながら屋内に柱穴は検出されていない。床面の一部よりベンガラ塊が圧着し検出される。

掘り方：なし。

出土遺物：土師器高坏 (No.10)・土師器瓶 (No.18) はいずれもカマド使用面直上よりの出土である。

重複遺構：西側にて49号住居跡と重複し、その新旧関係は遺構平面確認時および埋土断面の状況より本住居跡の方が新しいものと判断される。



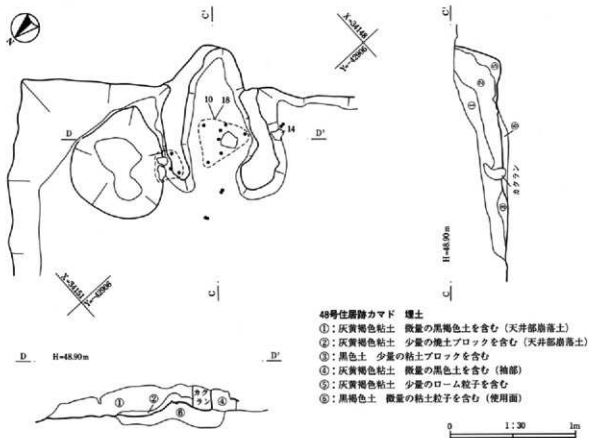
48号住居跡 平・断面図

48号住居跡 埋土

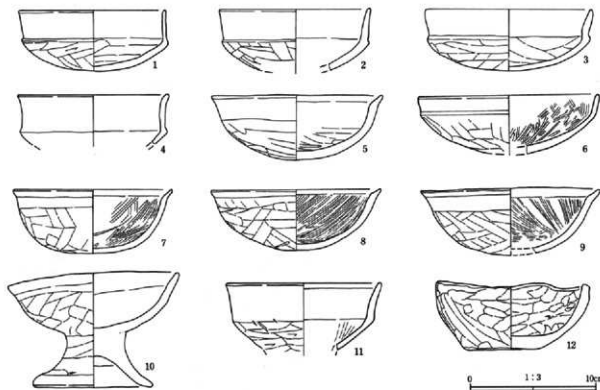
- 1：黒褐色砂質土 多量の楕名白色軽石と微量のローム小ブロックを含む
 1'：黒褐色砂質土 1層土に類似、軽石の混入少
 2：黒褐色砂質土 少量の楕名白色軽石・ロームブロックを含む
 2'：黒褐色砂質土 2層土に類似、ロームブロック混入やや多
 3：黒褐色砂質土 多量のロームブロックを含む
 4：黒褐色土 微量の焼土粒子を含む
 5：黒褐色土 混入物なし
 6：黒褐色土 微量のローム小ブロック・炭化物を含む

- 7：暗褐色土 少量のロームブロック・粘土ブロック・焼土粒子を含む
 8：明褐色土 壁の前落土
 9：黒褐色土 少量のローム小ブロックを含む
 10：暗褐色土 少量のロームブロックを含む
 10'：暗褐色土 10層よりロームブロックやや多
 11：黒褐色土 微量のロームブロックを含む
 12：黒褐色土 焼土粒子・炭化物を含む
 13：灰黄褐色土 多量のロームブロックを含む

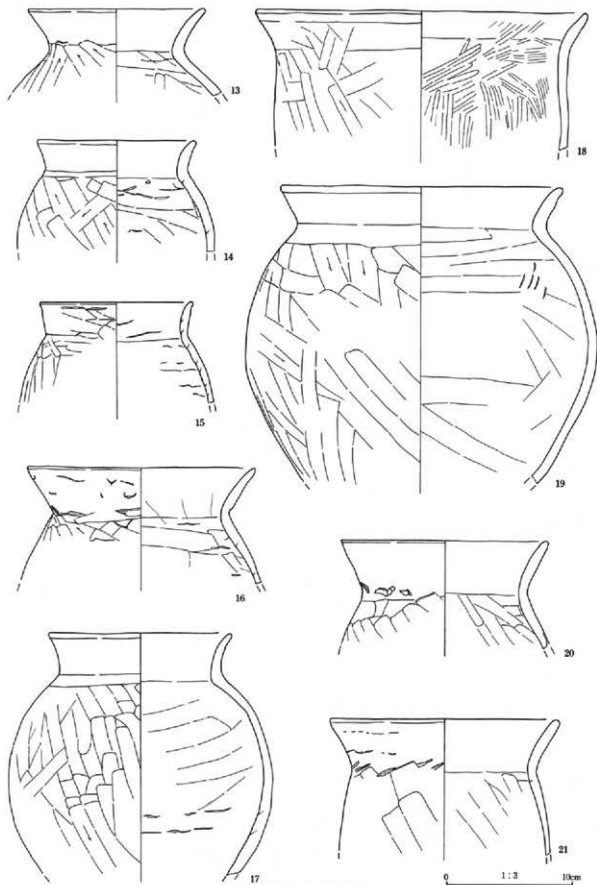
IV 遺構と遺物



48号住居跡 カマド平・断面図

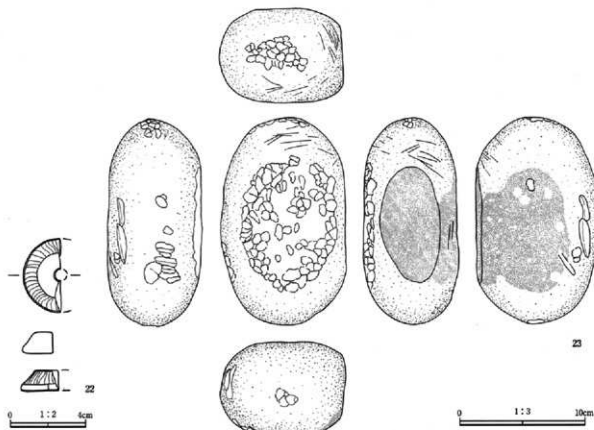


48号住居跡 出土遺物図-1



48号住居跡 出土遺物図-2

IV 遺構と遺物



48号住居跡 出土遺物図-3

7区 48号住居跡 遺物観察表-1

遺構名 遺物番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考
48号住居 1	土師器 坏	埋土中 完形	口径 11.6 底径 - 高さ 4.8	①胎・細砂少 ②酸化焰、良好 ③にぶい橙色	外面=口縁部横ナダ、体部丁寧なヘラナダ。内面=口縁部-体部丁寧な横ナダ。	
48号住居 2	土師器 坏	埋土中 1/3	口径 12.0 底径 - 高さ -	①胎・細砂少 ②酸化焰、良好 ③橙色	外面=口縁部横ナダ、体部ヘラナダ。内面=口縁部横ナダ、体部ヘラナダ。	
48号住居 3	土師器 坏	埋土中 略完形	口径 13.2 底径 - 高さ 4.9	①胎・細砂少 ②酸化焰、良好 ③橙色	外面=口縁部横ナダ、体部丁寧なヘラナダ。内面=口縁部横ナダ、体部丁寧なヘラナダ。	
48号住居 4	土師器 坏	埋土中 口縁破片	口径 (12.0) 底径 - 高さ -	①胎・細砂少、粗砂多 ②酸化焰、良好 ③橙色	外面=口縁部横ナダ、体部ヘラナダ。内面=口縁部横ナダ。器面光る。	
48号住居 5	土師器 坏	埋土中 2/3	口径 13.4 底径 - 高さ 5.1	①胎・細砂少、粗砂多 ②酸化焰、良好 ③明赤褐色	口縁内斜。外面=口縁部横ナダ、体部上位ヘラナダ、下位-底部ヘラナダ。内面=口縁部横ナダ、体部-底部ナダの後に丁寧なヘラナダ。	
48号住居 6	土師器 坏	埋土中 1/4	口径 14.0 底径 - 高さ -	①胎・細砂少 ②酸化焰、良好 ③にぶい橙色	外面=口縁部横ナダ、体部上位ヘラナダ、下位-底部ヘラナダ。内面=口縁部横ナダ、体部-底部ナダの後に丁寧なヘラナダ。	
48号住居 7	土師器 坏	床面+6cm 2/3	口径 12.5 底径 - 高さ 5.0	①胎・細砂少、粗砂多 ②酸化焰、良好 ③橙色	口縁内斜。外面=口縁部横ナダ、体部上位ヘラナダ、下位-底部ヘラナダ。内面=口縁部横ナダ、体部-底部ナダの後に丁寧なヘラナダ。	
48号住居 8	土師器 坏	埋土中 2/3	口径 13.4 底径 - 高さ 4.8	①胎・細砂少、粗砂多 ②酸化焰、良好 ③明赤褐色	口縁内斜。外面=口縁部横ナダ、体部上位ヘラナダ、下位-底部ヘラナダ。内面=口縁部横ナダ、体部-底部ナダの後に丁寧なヘラナダ。	
48号住居 9	土師器 坏	埋土中 略完形	口径 14.0 底径 - 高さ 5.2	①胎・細砂少、粗砂多 ②酸化焰、良好 ③明赤褐色	口縁内斜。外面=口縁部横ナダ、体部-底部ヘラナダ。内面=口縁部横ナダ、体部-底部ナダの後に丁寧なヘラナダ。	

7区 48号住居跡 遺物観察要一2

遺構名 遺物番号	種別 器種	出土位置 残存状況	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考
48号住居 10	土師器 高坏	カマド 使用面直上 略定形	口径 13.6 底径 9.4 高さ 9.0	①微・細・粗砂少 ②酸化焰、良好 ③橙色	外面=口縁部横ナデ、坏体部=脚部ヘラナデ。 坏部内面=全面ナデ、焼成時吸炭黒色。脚裏全 面ナデ。	
48号住居 11	土師器 高坏	埋土中 坏部1/2	口径 12.2 底径 - 高さ -	①微・粗砂少、粗砂多 ②酸化焰、良好 ③明赤褐色	外面=口縁部横ナデ、体部丁寧なヘラ削り。内 面=口縁部横ナデ、体部丁寧なヘラナデ。	
48号住居 12	土師器 鉢	カマド 完形	口径 12.0 底径 5.6 高さ 5.0	①微・粗砂少 ②酸化焰、良好 ③にぶい赤褐色	手捏ぬ粗成形。全体に重み、口縁波打つ。整形 は外面に成形痕を残し、粗雑なヘラナデ。内 面=全面ナデ。	
48号住居 13	土師器 壺	埋土中 口縁破片	口径 (16.4) 底径 - 高さ -	①微・細・粗砂やや多 ②酸化焰、良好 ③橙色	外面=口縁部ナデ、ヘラによる僅有り、胴部ヘ ラ削り。内面=口縁部ナデ、胴部ヘラナデ。	No.21と 同一個体 か
48号住居 14	土師器 小型壺	カマド 使用面+7cm 口~胴部片	口径 (12.6) 底径 - 高さ -	①微・粗砂やや多 ②酸化焰、良好 ③にぶい黄褐色	外面=口縁部ナデ、胴部上位ヘラナデ。内面= 口縁部横ナデ、胴部上位ナデ。	
48号住居 15	土師器 壺	埋土中 口縁破片	口径 (12.0) 底径 - 高さ -	①微・細・粗砂やや多 ②酸化焰、良好 ③明赤褐色	外面=口唇部ナデ、口縁部~胴部ヘラ削り。内 面=口縁部~胴部縦ナデナデ。	
48号住居 16	土師器 壺	埋土中 口縁片	口径 (14.0) 底径 - 高さ -	①微・細・粗砂やや多 ②酸化焰、良好 ③にぶい橙色	外面=口縁部ナデ、胴部上位ヘラナデ。内面=口 縁部横ナデ、胴部上位ナデ。	
48号住居 17	土師器 壺	埋土中 上半部	口径 14.4 底径 - 高さ -	①微・粗砂少 ②酸化焰、良好 ③にぶい橙色	外面=口縁部ナデ、胴部上位ヘラナデ、下半部方 向のヘラ削り。内面=口縁部横ナデ、胴部ナデ。	
48号住居 18	土師器 甕?	カマド 使用面直上 口縁片	口径 (13.2) 底径 - 高さ -	①微・細・粗砂やや多 ②酸化焰、良好 ③橙色	外面=口縁部横ナデ後ヘラナデ。胴部上位ヘラ ナデ。内面=細かいヘラナデで一部ヘラ磨き状 型。	
48号住居 19	土師器 壺	埋土中 上半部	口径 22.2 底径 - 高さ -	①微・粗砂少、粗砂多 ②酸化焰、良好 ③にぶい橙色	外面=口縁部ナデ、胴部ヘラ削り、一部ヘラナ デ。内面=口縁部横ナデ、胴部ナデ。	
48号住居 20	土師器 壺	埋土中 口縁片	口径 (18.0) 底径 - 高さ -	①微・細・粗砂少 ②酸化焰、良好 ③にぶい橙色	外面=口縁部ナデ、胴部上位ヘラ削り。内面= 口縁部横ナデ、胴部上位ナデ。	
48号住居 21	土師器 壺	埋土中 口~胴部片	口径 - 底径 - 高さ -	①微・細・粗砂やや多 ②酸化焰、良好 ③橙色	外面=口縁部ナデ、ヘラによる僅有り、胴部ヘ ラ削り。内面=口縁部ナデ、胴部ヘラナデ。	No.13と 同一個体 か
48号住居 22	石製 紡錘車	埋土中 1/2	長さ 3.90 孔径 0.65 厚さ 1.10	石材 凝灰岩 重量 11.49g	丁寧な研磨。	
48号住居 23	砥石	床面+4cm 完形	長さ 16.4 巾 9.9 厚さ 7.4	石材 砥沢石 重量 1.710g	二面研磨痕跡あり、三面に敲打痕あり。	

49号住居跡 (遺構写真P.L43、遺物写真P.L86)

位置：X=34149 Y=-42912

主軸方位：N-54°-W

規模・形状：平面形状は4.2m×4.2mの正方形を呈

し、床面までの残存深度は35~40cmほどを測る。

カマド：残存範囲内には検出されておらず、重複住居により削平されている東コーナー部付近に存在していたものと推察される。

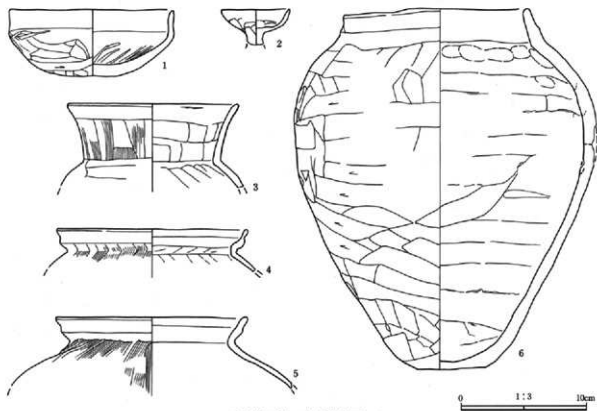
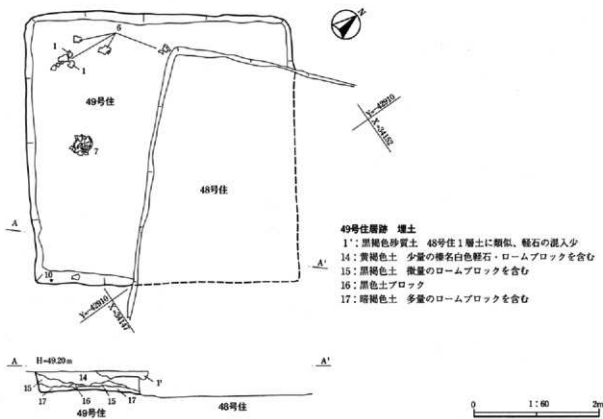
内部施設：床面は貼り床を持たない地山ロームの硬化面。柱穴・貯蔵穴は検出されていない。

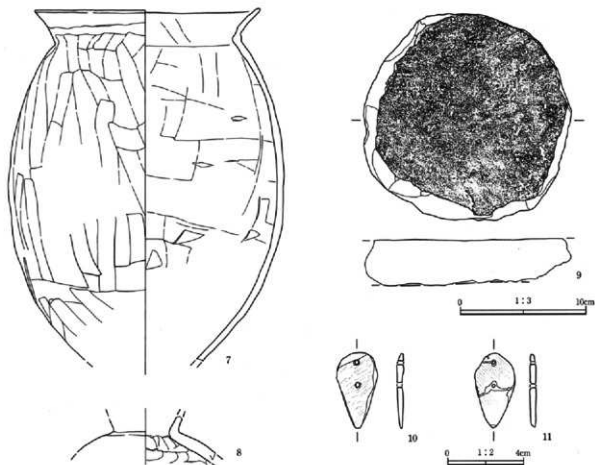
掘り方：なし。

出土遺物：土師器壺 (No.6・7) は床面直上よりの出土である。

重複遺構：北東半部において48号住居跡と重複し、その新旧関係は遺構平面確認時および埋土断面の状況より、本住居跡の方が古いものと判断される。

IV 遺構と遺物





49号住居跡 出土遺物図-2

7区 49号住居跡 遺物観察表-1

遺構名 遺物番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考
49号住居 1	土師器 環	床面+3cm 3/4	口径 13.0 底径 - 高さ 5.2	①黄・細砂少 ②酸化焰、良好 ③明赤褐色	外面=口縁部横ナデ、体部~底部粗いヘラ削り。内面=口縁部横ナデ、体部~底部ナデの後に粗い放射状ヘラ削り。底部内厚。	
49号住居 2	ミナユ? 高坏?	埋土中 坏部	口径 5.4 底径 - 高さ -	①黄・細砂少 ②酸化焰、良好 ③明褐色	手捏ね成・整形。内薄。	
49号住居 3	土師器 壺	埋土中 口縁片	口径 (13.4) 底径 - 高さ -	①黄砂少・細砂多 ②酸化焰、良好 ③にぶい黄褐色	外面=口縁部横ナデ、頸部腹方向の刷毛目、肩部ヘラナデ。内面=口~頸部横ナデ、肩部指ナデ。	
49号住居 4	土師器 台付甕	埋土中 口縁部破片	口径 (15.0) 底径 - 高さ -	①黄・細砂少 ②酸化焰、良好 ③灰黄褐色	S字状口縁台付甕。口縁部内外面横ナデ。胴部外面=刷毛目調整。内面=ナデ。	
49号住居 5	土師器 台付甕	埋土中 口縁部片	口径 (15.0) 底径 - 高さ -	①黄・細砂少 ②酸化焰、良好 ③にぶい黄褐色	S字状口縁台付甕。口縁部内外面横ナデ。胴部外面=刷毛目調整横線なし。内面=ナデ。口縁部に黒色付着物。	
49号住居 6	土師器 甕	床面直上 胴一部欠損	口径 14.6 底径 5.4 高さ 28.2	①黄・細砂少、粗砂多 ②酸化焰、やや良好 ③にぶい黄褐色	器形やや歪。外面=口縁部粗い横ナデ胴部横方向の粗いヘラ削り。内面=口縁部横ナデ、胴部ヘラナデ。	
49号住居 7	土師器 甕	床面直上 底部欠損	口径 17.8 底径 - 高さ -	①黄・細砂少、粗砂多 ②酸化焰、良好 ③にぶい黄褐色	外面=口縁部横ナデ、胴部ヘラ削り後に丁寧なヘラナデ。内面=口縁部横ナデ、胴部丁寧なヘラナデ。	
49号住居 8	土師器 甕	埋土中 頸部破片	口径 - 底径 - 高さ -	①黄・細砂やや多 ②酸化焰、良好 ③赤褐色	外面=頸部~肩部ナデ。内面=頸部ナデ、肩部指頭圧痕。	

IV 遺構と遺物

7区 49号住居跡 遺物観察表-2

遺構名 遺物番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考
49号住居 9	石製品 白石	床面+3cm	長さ 15.7 巾 14.8 厚さ 3.6	石材 ひん岩 重量 1.730g	円盤形に成形。	
49号住居 10	滑石製 織造品 銅形	床面+28cm 完形	長さ 4.00 巾 2.22 厚さ 0.35	石材 蛇紋岩 重量 4.383g	孔2穴穿孔。径0.2cm	
49号住居 11	滑石製 織造品 銅形	壁土中 完形	長さ 3.90 巾 2.10 厚さ 0.40	石材 蛇紋岩 重量 5.442g	孔2穴穿孔。	

50号住居跡 (遺構写真P L-, 遺物写真P L-)

位置: X=34135 Y=-42915

主軸方位: N-90° -W

規模・形状: 上面を削平され掘り方の一部を残すのみであり、かつ南側を重複により欠失しているため、平面形状は不明。東西方向に4.7mを測り、残存深度は2~20cmを測る。

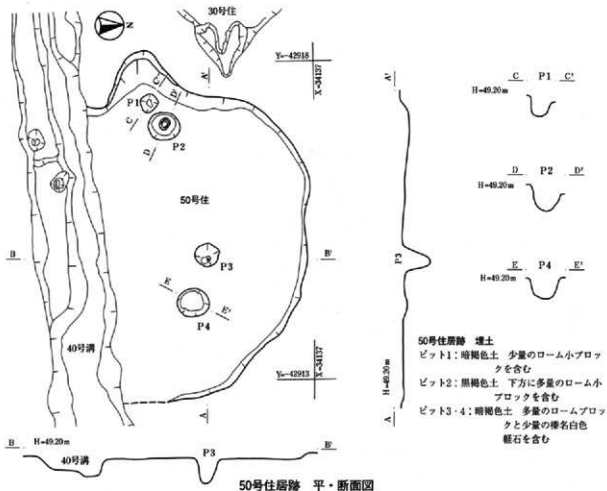
カマド: 西側壁の凸部がカマド煙道部の掘り方にあたるものと推察される。

内部施設: 径30~50cm、深度30~40cmを測るピット4穴を検出する。

掘り方: 床面を欠失しているため、掘削深度は明らかではないが、大きな凹凸はなく全体に平坦。

出土遺物: 出土遺物は極めて少なく、いずれも埋土中より小破片のみの出土である。

重複遺構: 南側に40号溝と重複し、遺構平面確認時の状況より、本住居跡の方が古いものと判断される。



52号住居跡 (遺構写真PL44, 遺物写真PL-)

位置: X=34133 Y=-42891

主軸方位: N-15° -E

規模・形状: 平面形状は3.1m×4.0mを測る隅丸長方形形状を呈するが、上面の削平により床面までの残存深度は僅かに6~13cmを測るのみである。

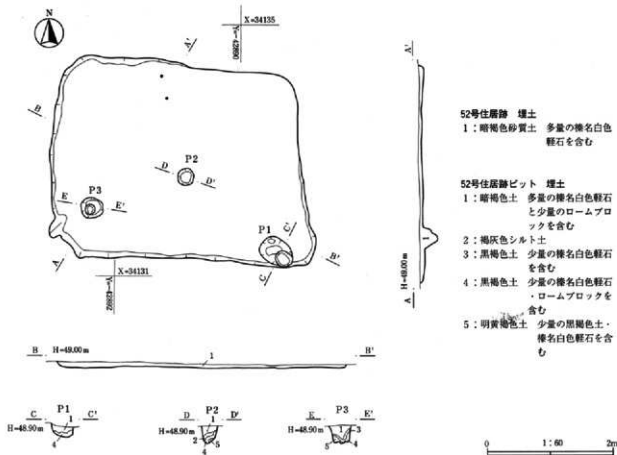
カマド: 削平のため未検出。

内部施設: ビット3穴のみを検出し、径27~55cm、深度22~28cmを測る。

掘り方: なし。

出土遺物: 出土遺物は極めて少なく、いずれも埋土中より小破片のみの出土である。

重複遺構: なし。



53号住居跡 (遺構写真PL44, 遺物写真PL-)

位置: X=34134 Y=-42901

主軸方位: N-49° -W

規模・形状: 後世の削平や重複遺構により大半を欠失し、全体形状は不明。残存深度は僅かに3~8cmを測るのみである。

カマド: 削平のため未検出。

内部施設: 径25~60cm、深度10~30cmを測るビット3穴を検出するのみ。

掘り方: なし。

出土遺物: 出土遺物は極めて少なく、いずれも埋土中より小破片のみの出土である。

重複遺構: 北側において40号溝、中央部において36号・40号溝と重複し、その新旧関係は遺構平面確認時や埋土断面の状況より本住居跡の方が古いものと考えられる。また、北東半部にて54号住居跡と重複し、その新旧関係は遺構平面確認時の状況より本住居跡の方が古いものと判断される。

IV 遺構と遺物

54号住居跡 (遺構写真PL44、遺物写真PL-)

位置：X=34136 Y=-42899

主軸方位：N-32°-W

規模・形状：平面形状は4.8～5.0m×3.7～4.2mを測る、やや歪な隅丸長方形形状を呈する。上面の削平により、残存深度はわずかに5～10cmを測るのみである。

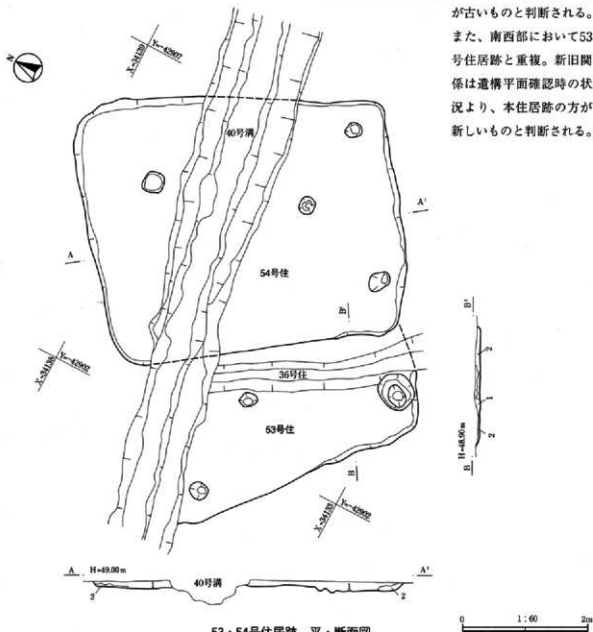
カマド：削平のため未検出。

内部施設：径25～35cm、深度15～36cmを測るピットを4穴検出するのみ。

掘り方：なし

出土遺物：出土遺物は極めて少なく、いずれも埋土中より小破片のみの出土である。

重複遺構：住居中央部にて40号溝跡と重複。その新旧関係は遺構平面確認時の状況より、本住居の方が古いものと判断される。また、南西部において53号住居跡と重複。新旧関係は遺構平面確認時の状況より、本住居の方が新しいものと判断される。



54号住居跡 埋土 (A-A')

- 1：黒褐色土 少量の暗褐色小ブロックを含む
- 2：暗褐色土 微量の明黄褐色シルトブロックを含む

53号住居跡 埋土 (B-B')

- 1：暗褐色土 少量の浅間C軽石とローム漸移層ブロックを含む
- 2：褐色土 ローム漸移層土に少量のローム小ブロックを含む

2. 遺構と遺物

55号住居跡 (遺構写真PL45、遺物写真PL87)

位置: X=34201 Y=-42906

主軸方位: N-56°-E

規模・形状: 平面形状は4.2m×4.5mを測るやや歪な隅丸形状を呈し、床面までの残存深度は32cmほどを測る。

カマド: 住居東コーナー部に位置し、全長は短く燃焼部から煙道部にかけて緩やかに立ち上がり、煙道は壁より突出しない。遺存状態は比較的良好。燃焼部中央には礫を据えて支脚とする。構築は粘土をもって造られるが、左袖部には芯材として円礫を据え粘土を貼り付ける。

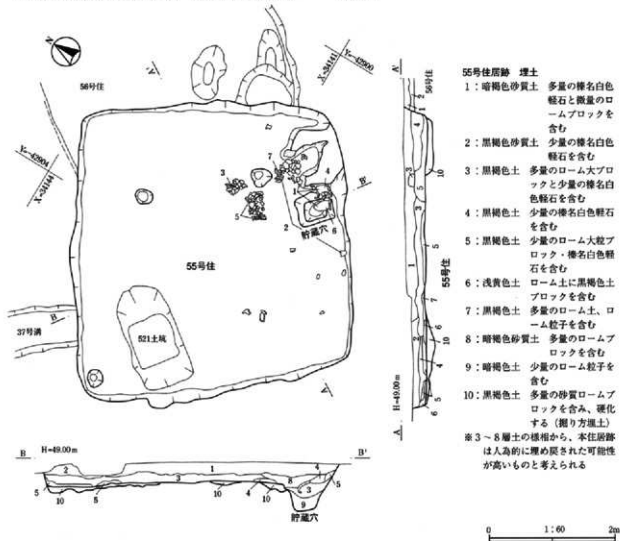
内部施設: カマド右脇に50cm×60cm、深度40cmを測る貯蔵穴1基を検出する。また、床面段階では

明瞭ではなかった柱穴が掘り方調査段階で3穴検出され、径25~30cm、深度18~35cmを測る。

掘り方: 住居中央部を床面のまま方形に掘り残し、周囲を掘状に窪め、貼り床をする。また、貯蔵穴から南方向に壁に沿い壁溝に似た掘り込みを有す。

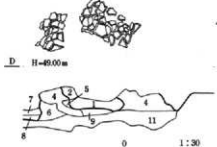
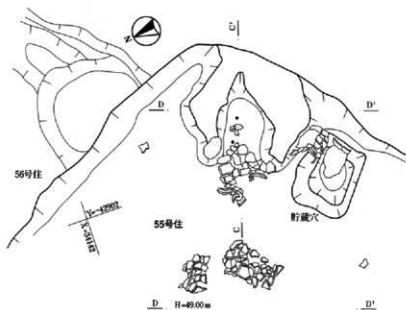
出土遺物: 土師器器坏 (No.1)・土師器小型甕 (No.3)・土師器甕 (No.4) は床面直上より、土師器甕 (No.6) は床面下掘り方よりの出土である。

重複遺構: 住居内南西部に521号土坑と重複。新旧関係は住居床面を破壊していることから、本住居の方が古いものと判断される。また、北東壁に接し56号住居跡と重複。新旧関係は遺構平面確認時や堀土断面の状況から、本住居跡の方が新しいものと判断される。



55号住居跡 平・断面図

IV 遺構と遺物



55号住居跡 カマド平・断面図



55号住居跡 掘り方平面図

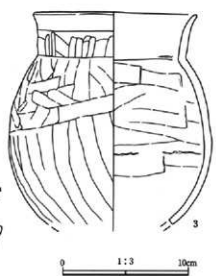


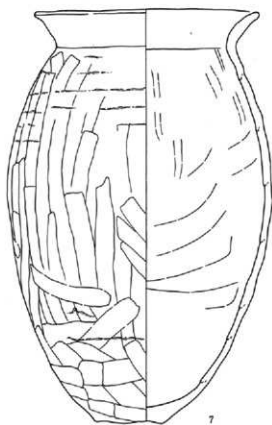
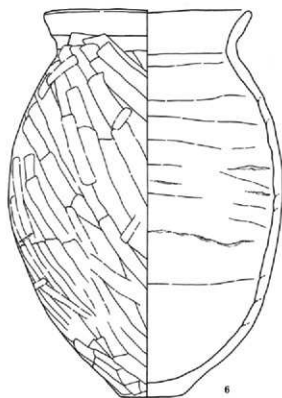
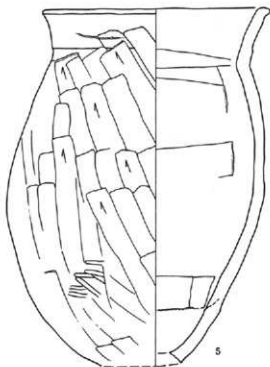
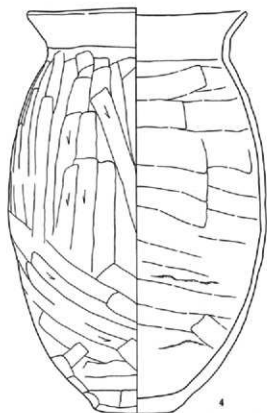
55号住居跡 出土遺物図-1



55号住居跡カマド 埋土

- 1: 暗褐色土 多量の黄白色粘土ブロックと焼土ブロックを含む (天井部崩落土)
- 2: 黄白色粘土 少量の焼土ブロックを含む (天井部崩落土)
- 3: 暗褐色土 少量の焼土粒子・炭化物を含む
- 4: 黄白色粘土 袖部
- 5: 赤~橙色粘土 4層土の焼土化
- 6: 暗褐色土 多量の黄白色粘土小ブロックを含む (掘り方埋土)
- 7: 黒褐色土 少量の黄白色粘土小ブロックを含む
- 8: 黒褐色土 少量の黄白色粘土小ブロック・灰・炭化物を含む
- 9: 灰層 多量の灰・炭化物と少量の焼土粒子を含む (使用面)
- 10: 黄色砂質ローム土 少量の黄白色粘土小ブロックを含む (掘り方埋土)
- 11: 黒褐色土 多量の砂質ロームブロックを含む (住居掘り方埋土)





0 1:3 10cm

55号住居跡 出土遺物図-2

IV 遺構と遺物

7区 55号住居跡 遺物観察表

遺構名 遺物番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考
55号住居 1	土師器 坏	床面直上 3/4	口径 12.0 底径 - 高さ 5.5	①微・細・粗砂やや多 ②酸化焰、やや良好 ③明赤褐色	器面表面磨れる。外面=口縁部ナデ、体部上位ナデ。下位へラ削り。内面=ナデの後に放射状へラ磨き。	
55号住居 2	土師器 坏	床面+2cm 略宛形	口径 13.4 底径 - 高さ 4.6	①微・細砂少 ②酸化焰、やや良好 ③にぶい褐色	器面表面磨れる。外面=口縁部横ナデ、体部上位ナデ。下位へラ削り。内面=ナデの後に放射状へラ磨き。	
55号住居 3	土師器 小型壺	床面直上 底部欠損	口径 12.8 底径 - 高さ -	①微・細砂少、粗砂多 ②酸化焰、良好 ③にぶい褐色	外面=口縁部横ナデ、下部側面へ抜く縦方向へラ削り、胴部へラ削り後へラナデ。内面=口縁部横ナデ、胴部ナデ。	
55号住居 4	土師器 壺	床面直上 宛形	口径 17.4 底径 5.8 高さ 31.6	①微・細砂少、粗砂多 ②酸化焰、良好 ③にぶい褐色	外面=口縁部粗雑な横ナデ、胴部縦方向のへラ削り。内面=口縁部横ナデ、胴部へラナデ。	
55号住居 5	土師器 壺	床面+2cm 底部欠損	口径 18.0 底径 - 高さ -	①微・細砂少、粗砂多 ②酸化焰、良好 ③にぶい褐色	胴部器形小なり歪む。外面=口縁部粗雑な横ナデ、胴部縦方向のへラ削り。内面=口縁部横ナデ、胴部へラナデ。	
55号住居 6	土師器 器	床面-16cm 宛形	口径 16.4 底径 5.0 高さ 30.2	①微・細砂少、粗砂多 ②酸化焰、良好 ③にぶい赤褐色	外面=口縁部横ナデ、下部側面へ抜く縦方向へラ削り、胴部へラ削り後一部へラナデ。内面=口縁部横ナデ、胴部へラナデ。	
55号住居 7	土師器 壺	床面+2cm 略宛形	口径 17.6 底径 5.0 高さ 32.1	①微・細砂少、粗砂多 ②酸化焰、良好 ③にぶい褐色	外面=口縁部横ナデ、胴部へラ削り後へラナデ。内面=口縁部横ナデ、胴部へラナデ。	

56号住居跡 (遺構写真P.L45、遺物写真P.L-)

位置: X=34144 Y=-42901

主軸方位: N-30° -E

規模・形状: 上面の削平と重複により遺存状態は悪く、全容は不明瞭である。床面までの残存深度は僅か0~10cmを測り、平面形状は3.8m×4.3m程の隅丸方形状を呈すと思われる。

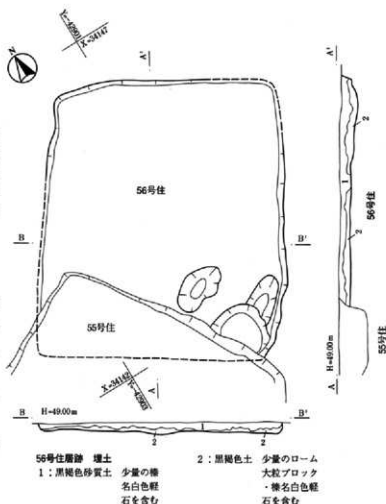
カマド: 削平のためか検出されず。

内部施設: 未検出。

掘り方: 調査時において既に床面を欠失し、掘り方の一部を残すのみ。住居南コーナー部にて残存深度5~11cmを測る浅い土坑状の落ち込みを検出する。

出土遺物: 出土遺物は極めて少なく、いざれも埋土中よりの出土である。

重複遺構: 南西壁部において55号住居跡と重複。新旧関係は埋土断面の状況より本住居跡の方が古いものと判断される。



56号住居跡 平・断面図

57号住居跡 (遺構写真P.L45、遺物写真P.L-)

位置: X=34139 Y=-42909

主軸方位: N-38° - E

規模・形状: 平面形状は3.4m×3.7mを測る隅丸方形状を呈し、上面は削平を受けているため床面を逸する。掘り方底面までの残存深度は僅かに3~5cmを測るのみである。

カマド: 北東壁中央東寄り位置するが、僅かに掘り方の一部を残すのみである。



57号住居跡 平・断面図

58号住居跡 (遺構写真P.L45、遺物写真P.L88)

位置: X=34142 Y=-42915

主軸方位: N-46° - W

規模・形状: 平面形状は4.9m×5.1mを測る隅丸方形状を呈し、床面までの残存深度は20cmほどを測る。

カマド: 南西壁の中央南寄りに位置し、燃焼部は壁より1mほど内側に在り、煙道部にかけては緩やかな勾配で立ち上がり、煙道部は壁外にあまり突出しない。芯材は用いずに粘土のみで構築される。カマド独自の掘り方は持たず、住居掘り方に伴う。

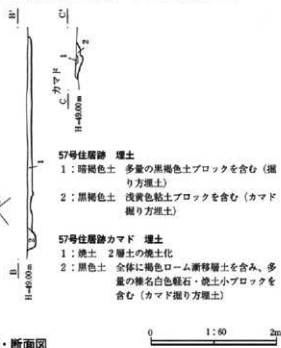
内部施設: 柱穴は床面調査段階では明瞭に検出し得なかったが、掘り方調査段階で径25~30cm、深度17~51cmを測る2穴のピットを検出した。位置的に柱穴跡と考えられるが、相対する2穴は検出され

内部施設: 未検出。

掘り方: 床面を失っているため、掘削深度は明らかではないが、全体に掘り方埋土が認められ、土坑状の掘り込みはない。

出土遺物: 出土遺物は極めて少なく、いずれも埋土中より小破片のみの出土である。

重複遺構: 住居内に土坑が3基 (100・101・102号土坑跡) 重複し、遺構平面確認時の状況から、いずれも本住居跡より新しいものと判断される。



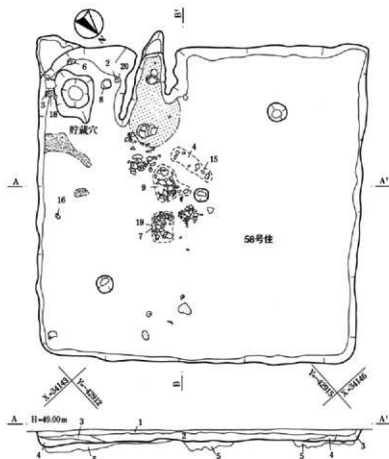
ていない。また、南コーナー部において隅丸方形状を呈し、径60cm、深度45cmを測る貯蔵穴を検出する。

掘り方: 住居中央部3m四方ほどを掘り残し、周囲壁際を10cmほど掘り穿める。

出土遺物: 土師器高坏 (No.2)・土師器小型壺 (No.3)・土師器甕 (No.7・8・9・15・16)・土師器瓶 (No.19・20) は、いずれも床面直上より、土師器甕 (No.5・10・14・17) はカマド使用面直上より、土師器甕 (No.11・12・13) はカマド使用面下よりそれぞれ出土している。

重複遺構: 住居内カマド下において4号井戸跡と重複する。新旧関係はカマド袖部下より検出されているため、本住居より古いものと判断される。また、重複はないものの、北コーナー部に59号住居跡が近接する。

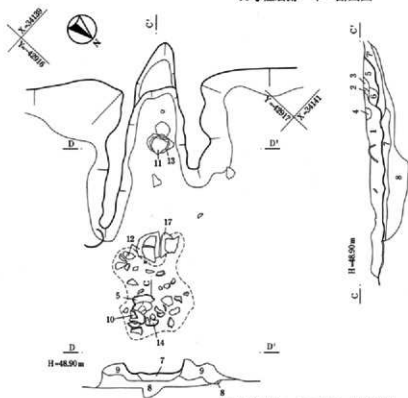
IV 遺構と遺物



56号住居跡 平・断面図

56号住居跡 埋土

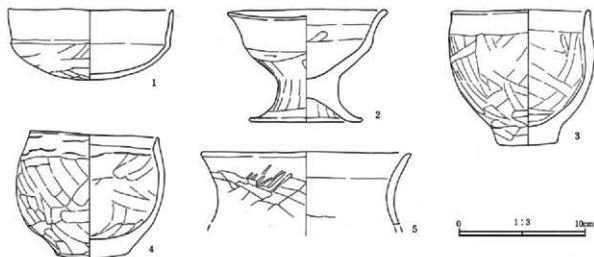
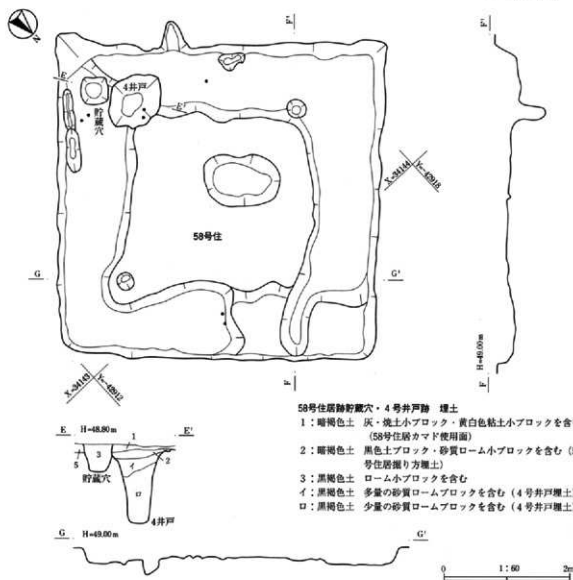
- 1: 暗褐色砂質土 多量の緑名白色軽石を含む
- 2: 暗褐色土 多量のロームブロックを含む
- 3: 黒褐色土 ロームブロックと少量の炭化物・緑名白色軽石を含む
- 4: 黒褐色土 ローム小ブロックを含む
- 5: 暗褐色土 多量の黄色砂質ロームブロック・黒色土ブロックを含む(掘り方埋土)



58号住居跡 カマド平・断面図

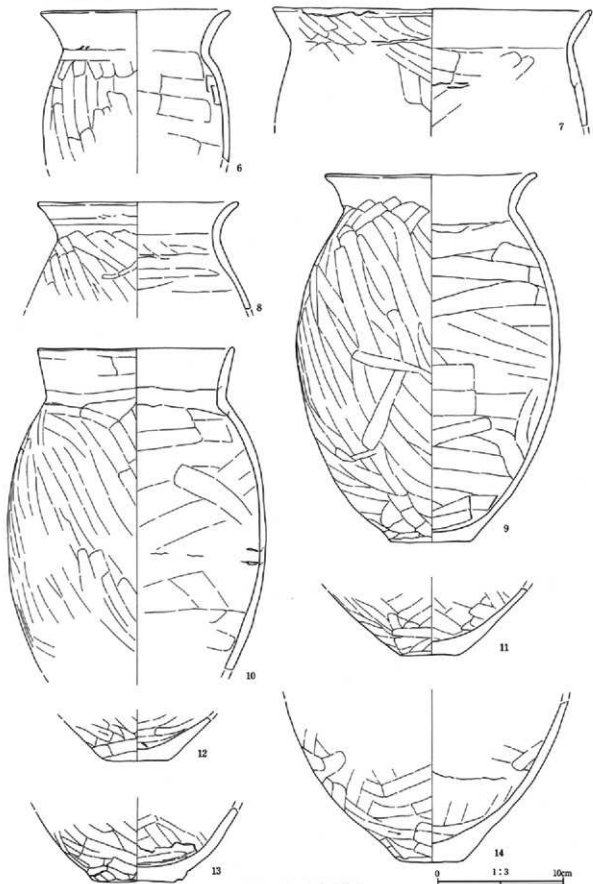
58号住居跡カマド 埋土

- 1: 暗褐色土 多量の黄白色粘土ブロックと少量の焼土小ブロック・炭化物を含む
 - 2: 黄白色粘土
 - 3: 暗灰褐色土 多量の焼土小ブロックを含む
 - 4: 暗灰褐色土 少量の黄白色粘土小ブロックを含む
 - 5: 暗灰色土 多量の黄白色粘土小ブロック・焼土粒子・灰を含む
 - 6: 暗灰色土 多量の焼土小ブロックを含む
 - 7: 灰層 多量の焼土粒子を含む(使用面)
 - 7': 灰層 多量の焼土粒子・粘土小ブロックを含む(使用面)
 - 8: 黒色土 多量の砂質ロームブロックを含む(掘り方埋土)
 - 9: 黄白色粘土 袖部
- ※カマド横断面は掘り方調査時に設定

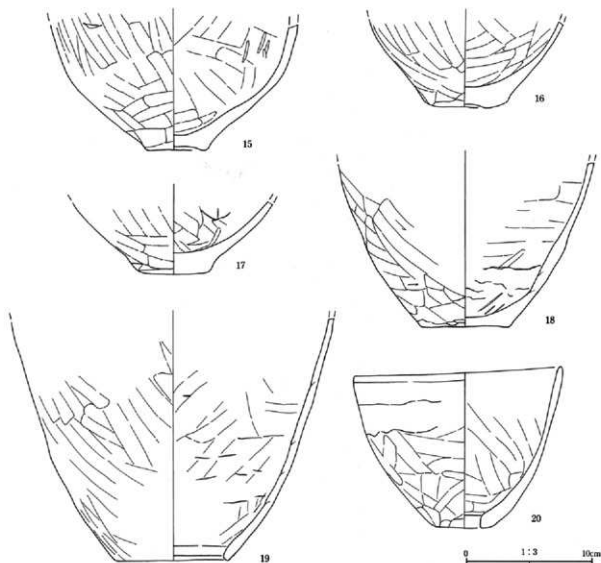


58号住居跡 出土遺物図-1

IV 遺構と遺物



58号住居跡 出土遺物図-2



58号住居跡 出土遺物図-3

7区 58号住居跡 遺物観測表-1

遺構名 遺物番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考
58号住居 1	土師器 坏	埋土中 2/3	口径 13.0 底径 - 高さ 5.6	①微・細・粗砂少 ②酸化塩、良好 ③橙色	外面=口縁部横ナデ、底部ヘラ削り。内面=口縁部~底部ナデ。	
58号住居 2	土師器 高坏	床面直上 略完形	口径 12.6 底径 9.0 高さ 8.8	①微・細・粗砂やや多 ②酸化塩、良好 ③明赤褐色	外面=坏部口縁横ナデ、底部~脚部ヘラ削り後にヘラナデ。内面=坏部口縁横ナデ、坏内部器面割離差大、脚裏面ヘラナデ。	
58号住居 3	土師器 小型壺	床面直上 4/5	口径 10.9 底径 4.4 高さ 10.6	①微・細・粗砂やや多 ②酸化塩、良好 ③灰褐色	器形やや歪。外面=口縁部横ナデ、胴部~底部ヘラ削り後に雑なヘラナデ。内面=口縁部横ナデ、胴部ナデ。	
58号住居 4	土師器 小型壺	床面+3cm 略完形	口径 10.2 底径 5.0 高さ 9.8	①微・細・粗砂やや多 ②酸化塩、良好 ③にぶい赤褐色	器形歪。輪積み痕を残す。外面=口縁部横ナデナデ、胴部~底部ヘラ削り後に粗雑なヘラナデ。内面=口縁部横ナデ、胴部ナデ。	
58号住居 5	土師器 壺	カマド 使用面直上 口縁片	口径 (16.4) 底径 - 高さ -	①微・細・粗砂やや多 ②酸化塩、良好 ③橙色	外面=口縁部横ナデ、胴部上位ヘラ削り。内面=口縁部横ナデ。	
58号住居 6	土師器 壺	床面+8cm 口~胴上片	口径 (14.8) 底径 - 高さ -	①微・細・粗砂やや多 ②酸化塩、良好 ③にぶい赤褐色	外面=口縁部横ナデ、胴部上位縦方向のヘラ削り。内面=口縁部横ナデ、胴部上位ヘラナデ。	

IV 遺構と遺物

7区 58号住居跡 遺物観察表-2

遺構名 遺物番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①粘土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考
58号住居 7	土師器 罍	床面直上 口縁片	口径 25.0 底径 - 高さ -	①微・細・粗砂やや多 ②酸化焙、良好 ③褐色	外面=口縁部-胴部上位へう割り後へうラナデ。 内面=口縁部横ナデ、胴部上位指ナデ。	
58号住居 8	土師器 罍	床面直上 口-胴上片	口径 15.8 底径 - 高さ -	①微・細砂少、粗砂多 ②酸化焙、良好 ③褐色	外面=口縁部横ナデ、胴部上位口縁に至るへう 割り。内面=口縁部横ナデ、胴部上位へうラ ナデ。	
58号住居 9	土師器 罍	床面直上 2/3	口径 16.6 底径 6.2 高さ 28.8	①微・細砂少、粗砂多 ②酸化焙、良好 ③にぶい褐色	外面=口縁部複雑な横ナデ、胴部縦から斜方向 のへう割り、底部表面へう割り。内面=口縁部 横ナデ、胴部へうラナデ。	
58号住居 10	土師器 罍	カマド 使用面直上	口径 15.4 底径 - 高さ -	①微粒砂少・粗砂多 ②酸化焙、良好 ③淡黄色	口唇部横ナデ。外面=口縁部へうラナデ、胴部縦 方向のへう割り。内面=口縁部横ナデ、胴部へ うラナデ。	
58号住居 11	土師器 罍	カマド 使用面-4cm 底部破片	口径 - 底径 4.6 高さ -	①微・細砂少、粗砂多 ②酸化焙、良好 ③にぶい褐色	外面=胴部下位へう割り一部へうラナデ。内面=胴 部下位-底部へうラナデ。	
58号住居 12	土師器 罍	カマド 使用面-2cm 底部破片	口径 - 底径 4.6 高さ -	①微・細・粗砂やや多 ②酸化焙、良好 ③にぶい褐色	外面=胴部下位へう割り。内面=底部へうラナデ。	
58号住居 13	土師器 罍	カマド 使用面-4cm 底部破片	口径 - 底径 6.4 高さ -	①微・細砂少、粗砂多 ②酸化焙、良好 ③褐色	外面=胴部下位へう割り、底部表面へう割り。 内面=胴部下位-底部へうラナデ。	
58号住居 14	土師器 罍	カマド 使用面直上 胴-底片	口径 - 底径 4.6 高さ -	①微・細・粗砂やや多 ②酸化焙、良好 ③にぶい褐色	外面=胴部下位へう割り、一部へうラナデ。内面= 胴部下位-底部へうラナデ。	
58号住居 15	土師器 罍	床面直上 胴-底片	口径 - 底径 4.6 高さ -	①微・細・粗砂やや多 ②酸化焙、良好 ③にぶい褐色	外面=胴部下位へう割り、一部へうラナデ。内面= 胴部下位-底部へうラナデ。	
58号住居 16	土師器 罍	床面直上 底部破片	口径 - 底径 5.6 高さ -	①微・細・粗砂やや多 ②酸化焙、良好 ③にぶい赤褐色	外面=胴部下位-底部縦方向のへう割り。内面= 胴部下位-底部へうラナデ。	
58号住居 17	土師器 罍	カマド 使用面直上 底部破片	口径 - 底径 5.0 高さ -	①微・細砂少、粗砂多 ②酸化焙、良好 ③にぶい褐色	外面=胴部下位へう割り、底部表面へう割り。 内面=胴部下位-底部へうラナデ。	
58号住居 18	土師器 罍	床面+2cm 胴-底片	口径 - 底径 6.8 高さ -	①微・細・粗砂やや多 ②酸化焙、良好 ③にぶい褐色	外面=胴部下位へう割り、底部表面へう割り。 内面=胴部下位-底部へうラナデ。	
58号住居 19	土師器 甗 (一穴)	床面直上 T1/4	口径 - 底径 8.8 高さ -	①微・細砂少、粗砂多 ②酸化焙、良好 ③にぶい褐色	外面=胴部下位へう割り一部へうラナデ。内面=胴 部下位-底部へうラナデ。底部穴周囲ナデ。	
58号住居 20	土師器 甗 (一穴)	床面直上 4/5	口径 16.5 底径 4.8 高さ 12.2	①微・細砂少、粗砂多 ②酸化焙、良好 ③にぶい褐色	穴径2.8cm。口唇部横ナデ。体部内外へうラナ デ。	

59号住居跡 (遺構写真P.L46、遺物写真P.L-)

位置：X=34147 Y=-42918

主軸方位：N-85°-E

規模・形状：平面形状は4.1m×3.7mを測る隅丸方形状を呈すると思われるが、上面の削平により壁も全周せず、深度も僅かに3~10cmを測り、掘り方の一部を残すのみである。

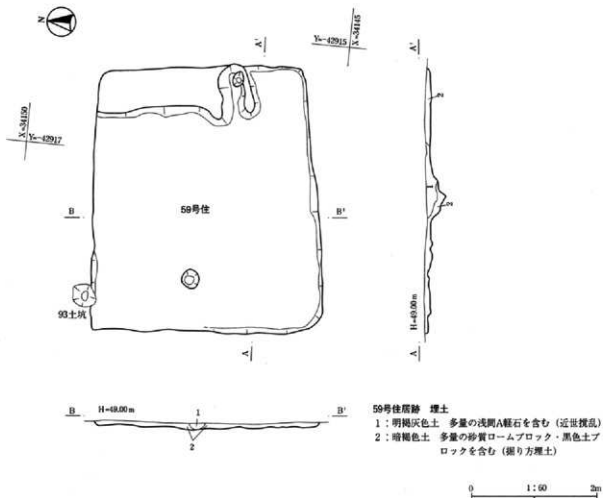
カマド：掘り方の一部が東壁中央南寄りに検出される。全長は90cmほどと短く、煙道部は壁外に突出しない。

内部施設：ピット状の掘り込みを検出するも、深度が浅く柱穴とは断定出来ない。

掘り方：カマド北側の壁寄りを僅かに高くするのみで、全体には規則性を持たず全面を掘り窪める。

出土遺物：出土遺物は極めて少なく、いずれも埋土中より小破片のみの出土である。

重複遺構：北西コーナー部において93号土坑跡と重複するが、この部位の壁の残存が少なく、新旧関係は明らかではない。



59号住居跡 掘り方平・断面図

60号住居跡 (遺構写真P L.46, 遺物写真P L.89)

位置: X=34152 Y=-42919

主軸方位: N-82°-W

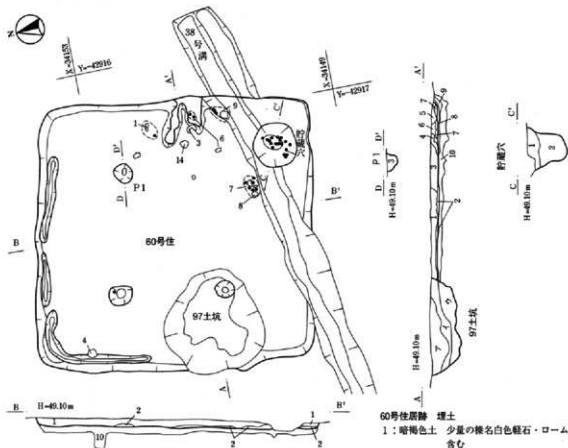
規模・形状: 平面形状は4.2m×4.4mを測る隅丸方形状を呈し、床面までの残存深度は5~11cmを測る。カマド: 東壁中央やや南寄りに位置する。全長は短く、煙道部は壁外に突出しない。芯材は用いず、粘土のみで構築される。遺存状態は悪く、カマド周囲に焼土・粘土・炭化物が散逸していたことから、住居廃棄時にカマドの破壊行為が行われた可能性がある。内部施設: 南東コーナー部に径70cm、深度60cmを測る円形の貯蔵穴が検出される。また、床面調査時には不明瞭であった柱穴3穴が掘り方調査段階で検出され、径22~35cm、深度25~50cmを測る。

掘り方: 全体に5~10cmほど掘り窪められ、北東部・南東部は階段状に掘られるが、その比高差はあまりない。

出土遺物: 土師器坏 (No.1)・土師器器台 (No.3) が床面直上より、土師器小型甕 (No.5)・土師器甕 (No.8・13) が貯蔵穴内より、土師器小型甕 (No.4・9)・土師器甕 (No.6) が床面下掘り方よりの出土である。

重複遺構: 住居南東部に38・41号溝と重複し、遺構平面確認時の状況から、両溝跡より本住居跡の方が古いものと判断される。また、住居内西壁に接し97号土坑跡と重複し、土坑が住居掘り方調査段階に検出されたことから、本住居跡の方が新しいものと判断される。

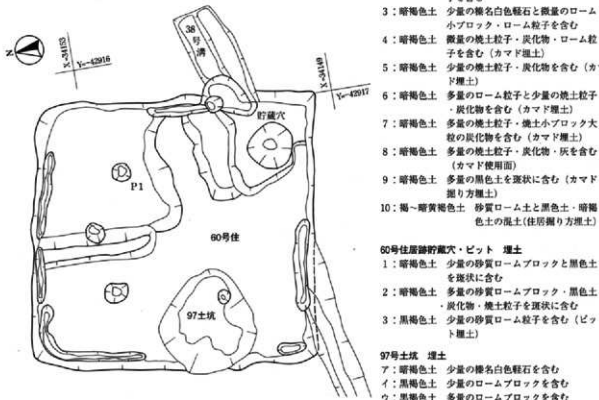
IV 遺構と遺物



60号住居跡・97号土坑 平・断面図

60号住居跡 埋土

- 1: 暗褐色土 少量の燻名白色軽石・ローム粒子を含む
- 2: 黒褐色土 微量のローム小ブロック・ローム粒子を含む
- 3: 暗褐色土 少量の燻名白色軽石と微量のローム小ブロック・ローム粒子を含む
- 4: 暗褐色土 微量の焼土粒子・炭化物・ローム粒子を含む(カマド埋土)
- 5: 暗褐色土 少量の焼土粒子・炭化物を含む(カマド埋土)
- 6: 暗褐色土 多量のローム粒子と少量の焼土粒子・炭化物を含む(カマド埋土)
- 7: 暗褐色土 多量の焼土粒子・焼土小ブロック大粒の炭化物を含む(カマド埋土)
- 8: 暗褐色土 多量の焼土粒子・炭化物・灰を含む(カマド使用面)
- 9: 暗褐色土 多量の黒色土を珪状に含む(カマド掘り方埋土)
- 10: 褐~暗黄褐色土 砂質ローム土と黒色土・暗褐色土の混土(住居掘り方埋土)



60号住居跡・97号土坑 掘り方平面図

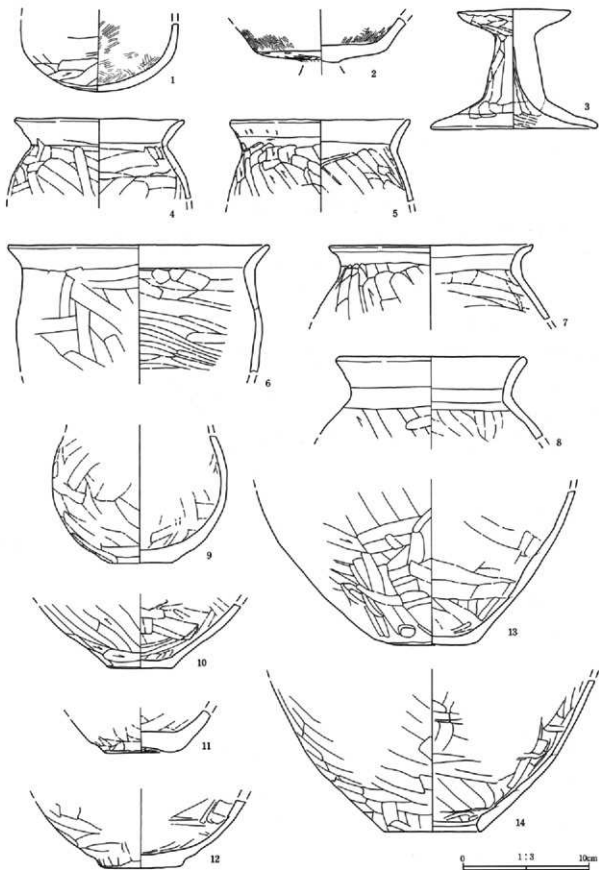
60号住居跡貯蔵穴・ビット 埋土

- 1: 暗褐色土 少量の砂質ロームブロックと黒色土を珪状に含む
- 2: 暗褐色土 多量の砂質ロームブロック・黒色土・炭化物・焼土粒子を珪状に含む
- 3: 黒褐色土 少量の砂質ローム粒子を含む(ビット埋土)

97号土坑 埋土

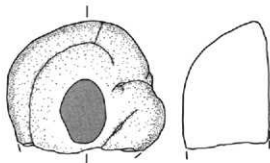
- A: 暗褐色土 少量の燻名白色軽石を含む
 I: 黒褐色土 少量のロームブロックを含む
 U: 黒褐色土 多量のロームブロックを含む

2. 遺構と遺物



60号住居跡 出土遺物図-1

IV 遺構と遺物



15

60号住居跡 出土遺物図-2

7区 60号住居跡 遺物観察表

遺構名 遺物番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考
60号住居 1	土師器 坏	床面直上 体部破片	口径 - 底径 - 高さ -	①胎・細・粗砂少 ②酸化塩、やや良好 ③褐色	外面=体部上位横ナデ、下位~底部ヘラ削り。 内面=ナデの後に軽いヘラ磨き。	
60号住居 2	土師器 高坏	埋土中 坏部破片	口径 - 底径 - 高さ -	①胎・細砂少 ②酸化塩、良好 ③明赤褐色	外面=坏体部ナデの後ヘラ磨き、底部指ナデ。 内面=全面ヘラ磨き。	
60号住居 3	土師器 器台?	床面直上 略完形	口径 8.8 底径 13.0 高さ 9.4	①胎・細砂少 ②酸化塩、良好 ③褐色	外面=上面ヘラナデ、下面指ナデ、脚部丁寧な ヘラナデ。脚裏面丁寧なナデ。	特異遺物
60号住居 4	土師器 小型壺	床面-4cm 口~肩部	口径 13.2 底径 - 高さ -	①胎・細砂少 ②酸化塩、良好 ③にぶい褐色	外面=口縁部横ナデ、胴部上位丁寧なヘラナ デ。内面=口縁部横ナデ、胴部指ナデ。	
60号住居 5	土師器 小型壺	貯蔵穴 口~体部上	口径 (14.2) 底径 - 高さ -	①胎・細砂少、粗砂多 ②酸化塩、良好 ③にぶい褐色	口縁やや波打ち進む。外面=口縁部粗雑なナ デ、胴部上位口縁に当たるヘラ削り。内面=口 縁部横ナデ、胴部ヘラナデ。	
60号住居 6	土師器 壺	床面-4cm 口~胴上片	口径 (20.6) 底径 - 高さ -	①胎・細砂、粗砂多 ②酸化塩、やや良好 ③明褐色	胴部歪む。外面=口縁部横ナデ、胴部上位ヘ ラ削り。内面=口縁部横ナデ、胴部上位ヘラナ デ。	
60号住居 7	土師器 壺	床面+5cm 口縁片	口径 (16.0) 底径 - 高さ -	①胎・細砂少、粗砂多 ②酸化塩、良好 ③明赤褐色	口唇部稜をもつ。外面=口縁部横ナデ、胴部上 位口縁に当たるヘラ削り。内面=口縁部横ナ デ、胴部ヘラナデ。	
60号住居 8	土師器 壺	貯蔵穴 口~胴上片	口径 (15.0) 底径 - 高さ -	①胎・細砂少、粗砂多 ②酸化塩、良好 ③明赤褐色	外面=口縁部横ナデ、胴部上位丁寧なヘラ削 り。内面=口縁部横ナデ、胴部上位ヘラナデ。	
60号住居 9	土師器 小型壺 胴部片	床面-4cm 胴部片	口径 - 底径 5.0 高さ -	①胎・細砂少 ②酸化塩、やや良好 ③明赤褐色	外面=ヘラ削り後一部ヘラナデ。内面=ヘラナ デ。	
60号住居 10	土師器 壺	埋土中 底部片	口径 - 底径 (5.3) 高さ -	①胎・細砂、粗砂多 ②酸化塩、やや良好 ③黒褐色	外面=胴部下位ヘラ削り。内面=胴部下位ヘラナ デ。	
60号住居 11	土師器 壺	埋土中 底部片	口径 - 底径 6.1 高さ -	①胎・細砂、粗砂少 ②酸化塩、良好 ③にぶい褐色	外面=底部中央窪む。外面=胴部下位ヘラ削り。 内面=底部ナデ。	
60号住居 12	土師器 壺	床面+5cm 底部	口径 - 底径 6.4 高さ -	①胎・細砂、粗砂少 ②酸化塩、やや良好 ③にぶい赤褐色	外面=胴部下位ヘラ削り。内面=胴部下位~底部 ナデ。	
60号住居 13	土師器 壺	貯蔵穴 胴~底部	口径 - 底径 6.8 高さ -	①胎・細砂、粗砂多 ②酸化塩、やや良好 ③にぶい黄褐色	外面=胴部下位~底部ヘラ削り。内面=胴部下位 ~底部ヘラナデ。	
60号住居 14	土師器 瓶 (一穴)	掘り方 胴~底部	口径 - 底径 (7.5) 高さ -	①胎・細砂、粗砂多 ②酸化塩、やや良好 ③にぶい褐色	外面=体部ヘラ削り。内面=体部下位輪積み肌を 残すやや粗雑なヘラナデ。	
60号住居 15	台石	掘り方埋土	長さ 12.6 巾 10.4 厚さ 6.9	石材 溶結凝灰岩 重量 1.220g	上面に掘り面有り。	

2. 遺構と遺物

61号住居跡 (遺構写真P.L.46、遺物写真P.L.89)

位置: X=34154 Y=-42914

主軸方位: N-41°-E

規模・形状: 平面形状は3.9m×5.0mを測る隅丸長方形を呈すると思われるが、重複遺構により北東壁を失っているため明らかではない。床面までの残存深度は35cmほどを測る。

カマド: 残存する壁には検出されず、恐らくは失った北東壁に位置していたものと推察される。

内部施設: 南西側の柱穴2穴を検出し、径30~45cm、深度42cmほどを測る。

掘り方: 南西壁・南東壁の南コーナー付近に、深度10~20cmほどの浅い楕円形の掘り込みを有す。

出土遺物: 土師器小型甕 (No.2) は、掘り方埋土内からの出土である。

重複遺構: 北東側において40号住居跡と重複し、新

旧関係は遺構平面確認時の状況より本住居跡の方が古く、また、南西側では85号住居跡と重複し、新旧関係は遺構平面確認時および埋土断面の状況より本住居跡の方が古いものと判断される。

85号住居跡 (遺構写真P.L.37、遺物写真P.L.-)

位置: X=34153 Y=-42915

主軸方位: N-17°-W

規模・形状: 平面形状は2.6m×3.5mを測る隅丸長方形を呈し、床面までの残存深度は20cmほどを測る。

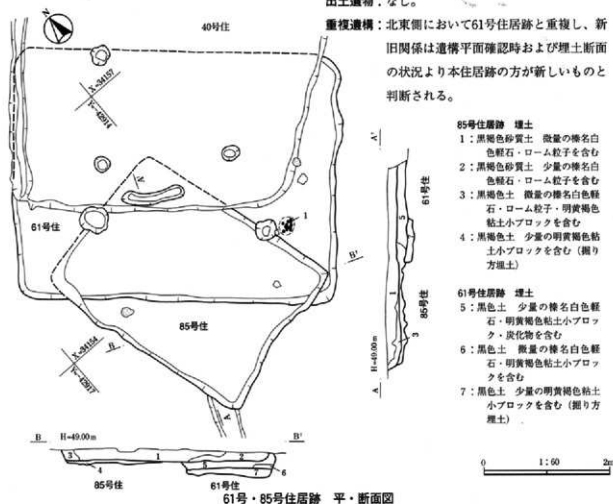
カマド: 残存する壁には検出されず、恐らくは失った北東コーナー部に位置していたものと推察される。

内部施設: 残存部分においては未検出。

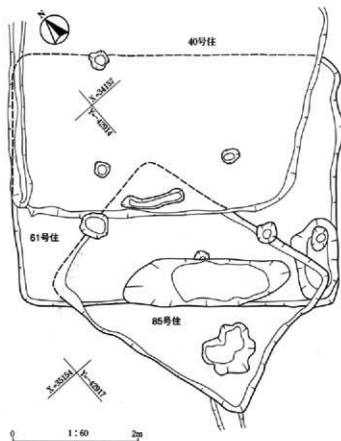
掘り方: 全体に10cmほど掘り窪め、南コーナー部に径80cmほど、深度10cmほどの不定形掘り込みを検出する。

出土遺物: なし。

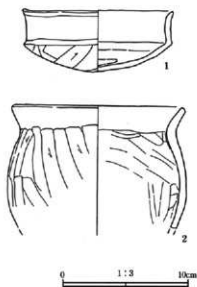
重複遺構: 北東側において61号住居跡と重複し、新旧関係は遺構平面確認時および埋土断面の状況より本住居跡の方が新しいものと判断される。



IV 遺構と遺物



61号・85号住居跡 掘り方平面図



61号住居跡出土遺物図

7区 61号住居跡 遺物調査表

遺構名 遺物番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考
61号住居 1	土師器 杯	床面+13cm 3/4	口径 (12.0) 底径 - 高さ 4.9	①胎・細・粗砂やや多 ②酸化焙、やや良好 ③橙色	外面=口縁部横ナゲ、体部へう削り。内面=口縁部横ナゲ、体部ナゲ。	
61号住居 2	土師器 小型甕	壁方埋土 口~胴部片	口径 (13.6) 底径 - 高さ -	①胎・細砂やや多 ②酸化焙、やや良好 ③にぶい赤褐色	外面=口縁部縦線な横ナゲ、胴部へう削り。内面=口縁部横ナゲ、胴部ヘラナゲ。	

62号住居跡 (遺構写真P.L46、遺物写真P.L89)

位置: X=34154 Y=-42923

主軸方位: N-49° -E

規模・形状: 平面形状は3.0m×3.6mを測る主軸方向に長い隅丸長方形を呈し、床面までの残存深度は10~20cmを測る。比較的小型の住居跡である。

カマド: 北東壁中央部に位置し、全長は比較的最く1.8mほどを測り、煙道端部は壁外に90cmほど突出する。芯材を用いず粘土のみで構築され、袖部粘土下にも焼土・灰がみられることから、改修が行われたものと考えられる。

内部施設: 柱穴・貯蔵穴・壁溝等の内部施設は検出されなかった。

掘り方: やや規則性をもち、住居中央部を帯状に残し、両側を10~15cmほど掘り窪める。

出土遺物: 土師器甕 (No.3) は、カマド使用面直上よりの出土である。

重複遺構: 南壁部において64号住居と壁を接するように重複する。新旧関係は出土遺物の年代観より本住居跡の方が新しいものと推察される。

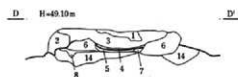
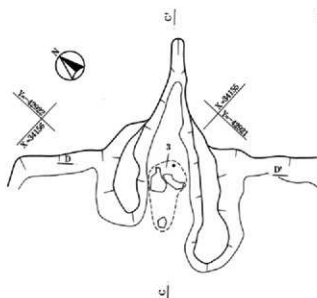


62号住居跡 埋土

- 1: 褐灰色砂質土 雑名白色軽石とローム小ブロックを含む
- 2: 暗灰色土 少量の雑名白色軽石・ローム小ブロック・焼土粒子・炭化物を含む
- 3: 黒褐色土 少量のローム粒子・ロームブロックを含む
- 4: 明褐色土 多量のローム粒子と少量の焼土粒子・炭化物を含む
- 5: 暗褐色土 少量のローム小ブロック・ローム粒子を含む
- 6: 暗褐色土 多量のローム小ブロックを含む
- 7: 暗褐色土 少量の雑名白色軽石・ローム粒子を含む
- 8: 黒色土 多量の砂質ロームブロックを含む (掘り方埋土)

0 1:60 2m

62号住居跡 平・断面図



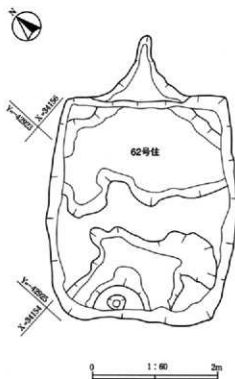
62号住居跡カマド 埋土

- 1: 褐灰色土 少量の雑名白色軽石・砂質ローム粒子・黄白色粘土小ブロックを含む
- 2: 褐灰色土 少量の雑名白色軽石・黄白色粘土小ブロック・焼土粒子・炭化物を含む
- 3: 黄白色粘土 多量の焼土粒子と少量の褐灰色土を含む (天井部崩落土)
- 4: 焼土ブロック 3層土の焼土化 (天井部崩落土)
- 5: 灰層 少量の焼土粒子・炭化物を含む (使用面)
- 6: 黄白色粘土 袖部
- 7: 灰層 (使用面)
- 8: 褐灰色弱粘質土 少量の焼土粒子・灰・炭化物を含む (掘り方埋土)
- 9: 淡赤褐色土 半焼土化～焼土化粘土 (運道天井部崩落土)
- 10: 黒褐色土 多量の焼土粒子と少量の黄白色粘土小ブロックを含む
- 11: 黄白色粘土 少量の使用面粒子を含む
- 12: 黒褐色土 少量の焼土粒子を含む (運道部よりの流入土)
- 13: 暗褐色土 多量のローム小ブロックを含む (カマド掘り方埋土)
- 14: 黒～黒褐色土 多量の太～小砂質ロームブロックを含む (住居掘り方埋土)

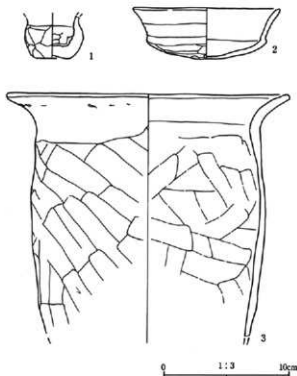
0 1:30 1m

62号住居跡 カマド平・断面図

IV 遺構と遺物



62号住居跡 掘り方平面図



62号住居跡 出土遺物図

7区 62号住居跡 遺物調査表

遺構名 遺物番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考
62号住居 1	ミニチュア 壺	カマド 略定形	口径 - 底径 3.0 高さ -	①灰・細砂少 ②酸化塩、良好 ③橙色	手捏ね成・整形。外面=口縁部横ナデ。	
62号住居 2	土師器 杯	埋土中 3/5	口径 11.6 底径 - 高さ 4.0	①灰・細砂少 ②酸化塩、良好 ③黒灰色	外面=口縁部横ナデ、体部~底部へう割り。内面=口縁部横ナデ、底部へうナデ。	
62号住居 3	土師器 壺	カマド 使用面直上 3/4	口径 22.3 底径 - 高さ -	①灰・細砂多 ②酸化塩、良好 ③にぶい橙色	外面=口縁部横ナデ、胴部へう割り。内面=口縁部横ナデ、胴部へうナデ。	

63号住居跡 (遺構写真P.L47、遺物写真P.L89)

位置：X=3415 Y=-42928

主軸方位：N-14°-E

規模・形状：平面形状は2.7m×3.8mを測る主軸方向に長い隅丸長方形を呈す。床面までの残存深度は15cmほどを測る。

カマド：北壁東コーナー付近に位置し、煙道部は壁外にあまり突出しない。構造は芯材を用いず粘土のみで構築される。使用面は二面あり、天井部の崩落後それを除去せずに再構築したものと考えら

れる。

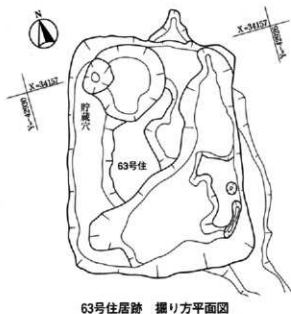
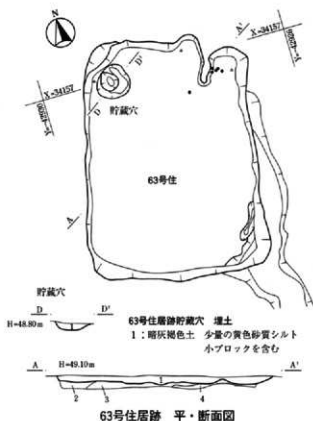
内部施設：北西コーナー部において径50cm、深度10cmほどの貯蔵穴1穴を検出するのみで、柱穴については検出されず、掘り方面に至っても痕跡が認められなかった。

掘り方：住居中央の一部を除き、10cmほどの高低差をもって不定形に掘り窪められる。

出土遺物：土師器杯 (No.1) がカマド掘り方、土師器瓶 (No.3) が住居掘り方埋土内より出土する。

重複遺構：なし。

2. 遺構と遺物

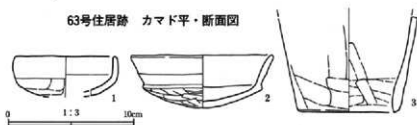
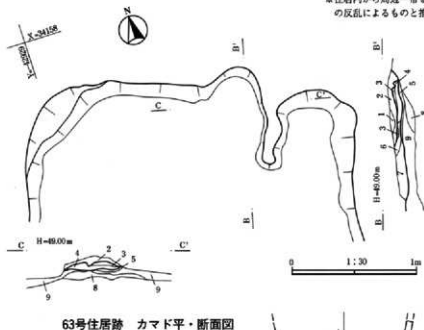


63号住居跡 埋土

- 1: 灰褐色砂質土 多量の礫名白色礫石と水性堆積粗粒砂を含む
- 2: 黒褐色砂質土 少量の礫名白色礫石・砂質ローム小ブロック・細砂粒を含む
- 3: 黒褐色砂質土 多量の砂質ローム小ブロック・細砂粒を含む
- 4: 黒褐色砂質土 多量の砂質ローム小ブロックと少量の黄白色粘土ブロックを含む

※住居内から周辺一部を水性堆積砂層で覆われる。西側の大溝跡の反乱によるものと推察される

0 1:60 2m



63号住居跡 出土遺物図

63号住居跡カマド 埋土

- 1: 暗褐色土 少量の黄白色粘土小ブロックを含む
- 2: 暗褐色土 多量の黄白色粘土ブロック・焼土小ブロックを含む (第二天井部崩落土)
- 3: 灰層 少量の焼土粒子を含む (第二使用面)
- 4: 焼土ブロック層 大粒炭化物を含む (第一崩落天井部)
- 5: 灰層 少量の粘土・砂質ローム小ブロックを含む (第一使用面)
- 6: 暗褐色土 少量の黄白色粘土小ブロック・砂質ローム小ブロックを含む
- 7: 黒褐色土 少量の砂質ローム粒子を含む
- 8: 黄色土 多量の砂質ローム土+少量の暗褐色土 (掘り方埋土)
- 9: 黒褐色土 多量の砂質ロームブロックを含む (掘り方埋土)

※第一使用面 (5層) 使用時に崩落 (4・6層) があり、それを除去せずに継続使用 (3層) したものと考えられる。

IV 遺構と遺物

7区 63号住居跡 遺物観察表

遺構名 遺物番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①粘土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考
63号住居 1	土師器 坏	カマド前方	口径 08.0 底径 - 高さ -	①灰・細砂少 ②酸化塩、良好 ③褐色	外面=口縁部横ナデ、体部ナデ。内面=口縁部横ナデ、体部ナデ。	
63号住居 2	土師器 坏	埋土中	口径 11.2 底径 - 高さ 4.1	①灰・細砂少 ②酸化塩、良好 ③黒褐色	外面=口縁部横ナデ、体部ヘラ削り。内面=口縁部横ナデ、体部ナデ。	
63号住居 3	土師器 甗 (一穴)	南方埋土 底部破片	口径 08.0 底径 - 高さ -	①灰・細砂少 ②酸化塩、良好 ③赤褐色	外面=底部付近ヘラ削りにヘラナデ。内面=底部付近ナデ。	

64号住居跡 (遺構写真P.L47、遺物写真P.L89)

位置: X=34150 Y=-42925

主軸方位: N-33° -W

規模・形状: 平面形状は4.0m×4.8mを測る隅丸長方形を呈すると思われるが、重複により南西壁側を欠失しているため明らかではない。また、上面の削平を受け床面を欠失し、掘り方底面までの残存深度も2~10cmを測るのみである。

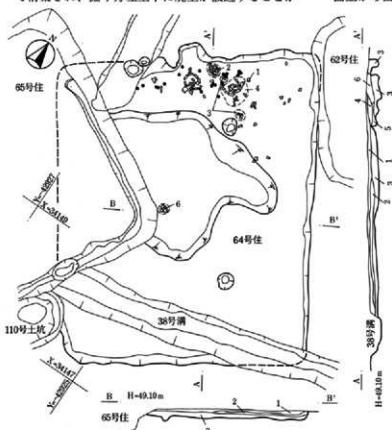
カマド: 北西壁のほぼ中央部に位置する。使用面を欠失し、掘り方のみが残る。芯材を用いず粘土のみで構築され、掘り方埋土中に焼土が散逸することか

ら使用時の修復が想定される。煙道部は壁からあまり突出しない。

内部施設: 住居東半より径22~26cm、深度30~55cmを測るビット2穴が検出され、位置・深度より柱穴跡と考えられるが、相対する2穴は検出し得なかった。

掘り方: 床面を逸しているため比高差は明らかではないが、全体を掘削した上で中央部カマド寄りをさらに10cmほど土坑状に掘り窪ませる。

出土遺物: 僅かに土師器坏 (No.3) がカマド使用面上から出土である。



64号住居跡 掘り方平・断面図

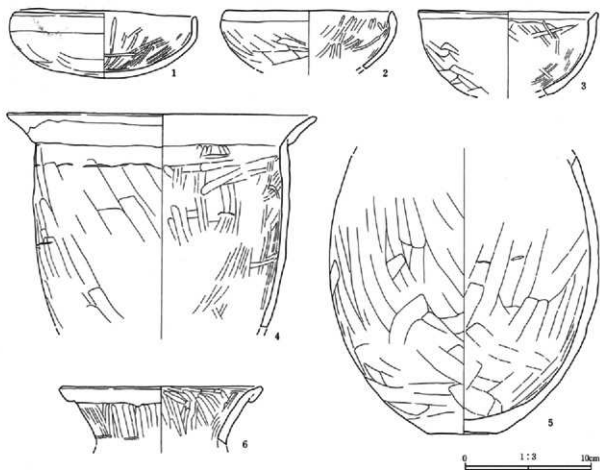
重複遺構: 西コーナー部において65号住居跡、北東コーナー部において62号住居跡、南東部にて38号溝、南西コーナー部において110号土坑とそれぞれ重複する。これらとの新旧関係は遺構平面確認時の状況より、本住居跡がいずれの遺構よりも古いものと判断された。

64号住居跡 埋土

- 1: 暗褐色土 少量の砂質ローム粒子・小ブロックを含む (掘り方埋土)
- 2: 暗褐色土 多量の砂質ロームブロック・黒色土ブロックを含む (掘り方埋土)
- 3: にぶい黄褐色土 多量の砂質ロームブロック・黒色土ブロックを含む (掘り方埋土)
- 4: 暗褐色土 少量の砂質ローム粒子・焼土粒子を含む
- 5: 黄色砂質ロームブロック
- 6: 灰黄褐色粘土 カマド軸材



64号住居跡 カマド平・断面図



64号住居跡 出土遺物図

IV 遺構と遺物

7区 64号住居跡 遺物観察表

遺構名 遺物番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考
64号住居 1	土師器 坏	カマド 使用面+15cm 1/3	口径 13.0 底径 - 高さ -	①微・細砂少 ②酸化焰、やや良好 ③橙色	口縁部内湾。外面=口縁部横ナデ。体~底部へラ削り後一部ヘラナデ。内面=口縁部横ナデ、体部粗いヘラ磨き。	内外面油 煙付着
64号住居 2	土師器 坏	床面+10cm 略定形	口径 14.4 底径 - 高さ 5.3	①微・細砂やや多 ②酸化焰、やや良好 ③明赤褐色	口縁部内湾。外面=口縁部横ナデ、体部粗いヘラナデ。底部へラ削り。内面=口縁部横ナデ、体~底部へラ磨き。	外面=油 煙付着
64号住居 3	土師器 坏	カマド 使用面直上 1/3	口径 14.0 底径 - 高さ -	①微・細砂少 ②酸化焰、やや良好 ③明赤褐色	外面=口縁部横ナデ、体部上位ヘラナデ、体部下位~底部へラ削り。内面=口縁部横ナデ、体部やや粗いヘラ磨き。	
64号住居 4	土師器 甕	床面+18cm 1/2	口径 24.4 底径 - 高さ -	①微・細砂やや多 ②酸化焰、やや良好 ③にぶい橙色	外面=口縁部横ナデ、胴部縦方向へラ削り。内面=口縁部横ナデ、胴部粗いヘラナデ。	
64号住居 5	土師器 甕	埋土中 1/2	口径 - 底径 5.6 高さ -	①微・細砂やや多 ②酸化焰、やや良好 ③にぶい橙褐色	外面=胴部へラ削り。内面=ヘラナデ。	
64号住居 6	土師器 甕	床面+4cm 口縁破片	口径 (16.0) 底径 - 高さ -	①微・細砂少 ②酸化焰、良好 ③にぶい橙褐色	折り返し口縁。外面=口縁部横ナデ、頸部へラ磨き。内面=口縁~頸部へラ磨き。	

65号住居跡 (遺構写真P.L47, 遺物写真P.L90)

位置：X=34149 Y=-42928

主軸方位：N-60° -E

規模・形状：平面形状は4.0m×4.1mを測る隅丸方形状を呈し、床面までの残存深度は20cmほどを測る。

カマド：北西壁中央やや北寄りに位置し、遺存状態はあまり良好ではない。煙道部は壁外にあまり突出せず、芯材を用いずに粘土のみで構築される。掘り方土内にも焼土が散逸することから、使用時の修復が想定される。

内部施設：床面上においてはビット1穴しか検出し得なかった。

掘り方：カマド前から住居中央部にかけてを残し、壁際をコの字状に掘り窪める。また、径20~55cmほどのビット状の掘り込みを検出するも、相対関係が揃わず、いずれも主柱穴跡とは断定できない。

出土遺物：土師器坏 (No.2)・土師器甕 (No.9) が床面直上より、土師器坏 (No.4) がカマド掘り方内より出土する。

重複遺構：住居内において98号土坑と重複し、98号土坑が本住居跡埋没途上に掘削されていることから、新旧関係は本住居跡の方が古いものと判断される。また、北東部において64号住居跡と重複し、そ

の新旧関係は遺構平面確認時の状況より、本住居跡の方が新しいものと判断される。

98号土坑跡 (遺構写真P.L66, 遺物写真P.L22)

位置：X=34149 Y=-42929

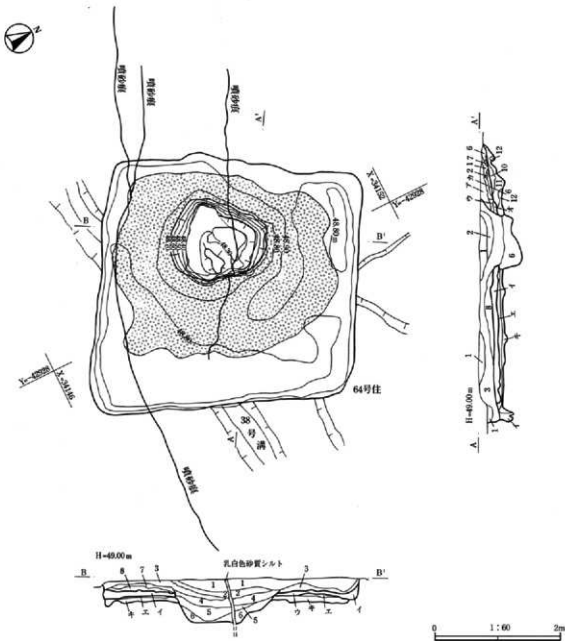
主軸方位：N-32° -E

規模・形状：平面形状は1.1m×1.5mほどを測る楕円形を呈し、深度は55cmほどを測る。

本土坑跡は、65号住居跡内に位置し、65号住居の埋没途上の窪地に掘削され、その掘削時の排土は周壁状に土坑周囲に盛り上げられる。

出土遺物：出土量は少なく、埋土内より内面黒色処理を施した土師器坏 (No.1) が出土する。

重複遺構：前述のとおり65号住居跡と重複し、確認の状態から本土坑跡の方が新しいものと判断される。また、本土坑跡の廃棄・埋没後に地震に伴うと考えられる噴砂跡が確認された。



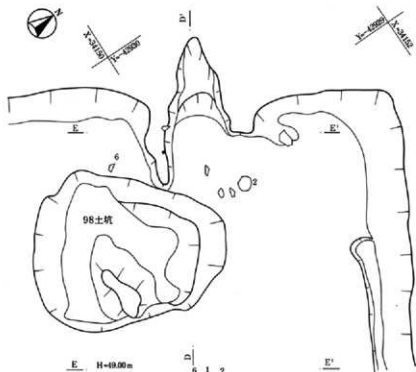
65号住居跡内98号土坑掘削排土平・断面図

65号住居跡・98号土坑跡 埋土

- 1: 暗褐色砂質土 緑名白色軽石と少量のローム粒子を含む
 2: 暗褐色砂質土 多量のローム粒子・ローム小ブロックを含む
 3: 暗褐色砂質土 少量のローム粒子・ローム小ブロックを含む
 4: 暗褐色砂質土 少量のローム小ブロックを含む
 5: 暗褐色砂質土 微量のローム小ブロックを含む
 6: 黒褐色砂質土 多量のローム小ブロックを含む
 ※1~6層土=98号土坑廃棄後の自然埋没土
 7: 黒褐色砂質土 多量の砂質ローム小ブロックを含む
 8 黄色砂質ローム土 少量の黒褐色土ブロックを含む
 ※7・8層土=98号土坑掘削時排土
 ア: 暗褐色土 多量のローム小ブロックを含む
 イ: 黒褐色土 少量のローム小ブロックを含む

- ウ: 暗褐色土 多量のローム小ブロック・黄白色粘土ブロックを含む (カマド埋土)
 エ: 褐~明褐色土 上部部に焼土・炭化物・灰の薄い硬化面を持ち (床面)、全体に多量のローム粒子・ローム小ブロックを含む (掘り方埋土)
 オ: 灰層+粘土・焼土ブロック (カマド埋土)
 カ: 粘土+黄色砂質ロームブロック (カマド埋土)
 キ: 黒褐色土 多量の黄~黄白色砂質ロームブロックを含む (住居掘り方埋土)

IV 遺構と遺物



65号住居跡 カマド平・断面図

0 1:30 1m



98号土坑

H=40.00m



65号住居跡カマド 埋土

1: 暗褐色土 多量の黄白色粘土ブロック・砂質シルト粒子を含む

2: 黄色砂質シルト土 少量の暗褐色土を含む

3: 暗褐色土 多量の黄白色粘土ブロック・砂質シルトブロックを含む

※1~3層土=98号土坑掘削時排土

4: 暗褐色土 少量の黄白色粘土小ブロックと微量の焼土粒子を含む

5: 暗褐色土 少量の粘土小ブロック・焼土ブロックを含む

6: 黄白色粘土 (天井部崩落土)

7: 赤褐色土 6層土の焼土化 (天井・袖部崩落土)

8: 黄白色粘土 (天井部崩落土)

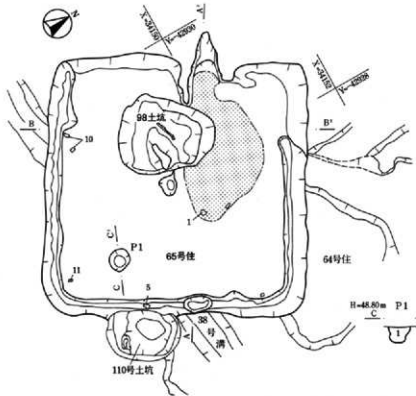
9: 黄白色粘土 袖部

10: 灰層 多量の炭化物と少量の焼土小ブロックを含む (使用面)

11: 黒褐色土 多量の炭化物・焼土ブロック・砂質ローム小ブロックを含む (カマド掘り方埋土)

12: 黒褐色土 少量の砂質ロームブロックを含む (住居掘り方埋土)

13: 黄白色砂質ローム土 少量の黒色土を含む (住居掘り方埋土)



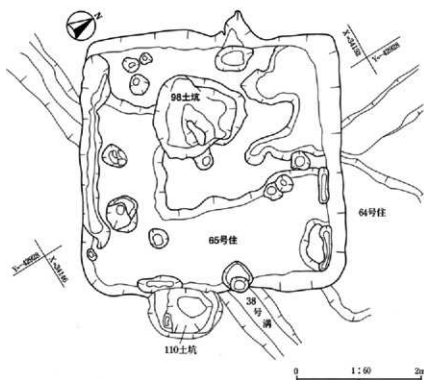
65号住居跡・98号土坑 平・断面図

0 1:60 2m

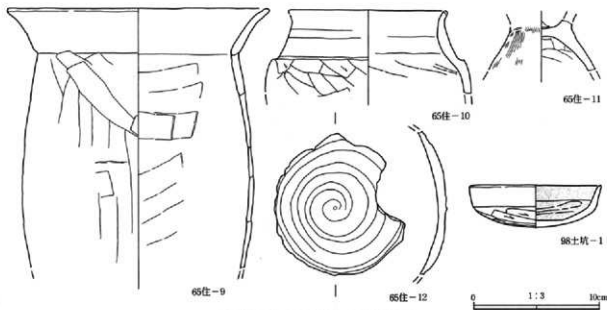
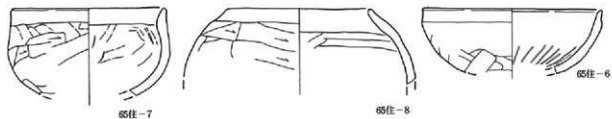
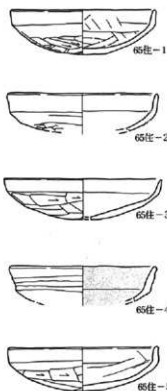
65号住居跡ピット 埋土

1: 黒褐色土 少量の砂質ローム小ブロックを含む

2. 遺構と遺物



65号住居跡・98号土坑 掘り方平面図



65号住居跡・98号土坑 出土遺物図

IV 遺構と遺物

7区 65号住居跡 遺物観察表

遺構名 遺物番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考
65号住居 1	土師器 坏	床面+8cm 宛形	口径 11.4 底径 - 高さ 3.5	①微・細砂少 ②酸化焰、良好 ③にぶい橙色	外面=口縁部横ナデ、体部へう削り。内面=口縁部横ナデ、体部、全面ナデ。	No.5と胎土酷似
65号住居 2	土師器 坏	床面直上 1/2	口径 11.8 底径 - 高さ -	①微・細砂少 ②酸化焰、良好 ③にぶい橙色	外面=口縁部横ナデ、体部~底部へう削り。内面=口縁部横ナデ、体部横ナデ。	
65号住居 3	土師器 坏	埋土中	口径 (12.4) 底径 - 高さ -	①微・細砂少 ②酸化焰、良好 ③にぶい橙色	外面=口縁部横ナデ、体~底部へう削り。内面=ナデ。	
65号住居 4	土師器 坏	カマド下方 口縁破片	口径 (11.4) 底径 - 高さ -	①微・細砂少 ②酸化焰、良好 ③にぶい橙色	外面=口縁工具による横ナデ、体部へう削り。内面=口縁部横ナデ。	
65号住居 5	土師器 坏	床面+14cm 宛形	口径 11.8 底径 - 高さ 13.4	①微・細砂少 ②酸化焰、良好 ③にぶい橙色	外面=口縁部横ナデ、体部へう削り。内面=口縁部横ナデ、体部、全面ナデ。	No.1と胎土酷似
65号住居 6	土師器 坏	床面+5cm 1/3	口径 14.0 底径 - 高さ -	①微・細砂少 ②酸化焰、良好 ③明赤褐色	外面=口縁部横ナデ、体部~底部へう削り。内面=体部~底部ナデの後に放射状へう巻き。	
65号住居 7	土師器 坏	埋土中 1/6	口径 (12.2) 底径 - 高さ -	①微・細砂少、粗砂多 ②酸化焰、やや良好 ③にぶい橙色	外面=口縁部横ナデ、体~底部へう削り。内面=口縁~体部上位横ナデ、下位ナデ。	
65号住居 8	土師器 壺	埋土中 口縁破片	口径 (11.6) 底径 - 高さ -	①微・細砂やや多 ②酸化焰、良好 ③灰黄褐色	外面=口縁部横ナデ、胴部上位へう削り。内面=口縁部~胴部上位横ナデ。	
65号住居 9	土師器 壺	床面直上 口~胴破片	口径 (10.8) 底径 - 高さ -	①微・細・粗砂多 ②酸化焰、やや良好 ③橙褐色	外面=口縁部横ナデ、胴部縦方向のへう削り。内面=口縁部横ナデ、胴部へうナデ。	
65号住居 10	土師器 壺	床面+9cm 口縁破片	口径 (12.6) 底径 - 高さ -	①微・細砂やや多 ②酸化焰、良好 ③灰黄褐色	外面=口縁部横ナデ、胴部上位へう削り。内面=口縁部~胴部上位横ナデ。	
65号住居 11	土師器 台付壺	床面+20cm 脚部片	口径 - 底径 - 高さ -	①微・細砂少 ②酸化焰、良好 ③橙褐色	外面=縦方向の粗い磨毛目、表面ナデ。	
65号住居 12	須恵器 横板	埋土中 破片	口径 - 底径 - 高さ -	①微・細砂少 ②酸化焰、良好 ③黄灰色	ロクロ成・整形。体部外面面回転へう削り。体部内側面指ナデ。	

7区 98号土坑出土 遺物観察表

遺構名 遺物番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考
98号土坑 1	土師器 坏	埋土中 1/2	口径 10.4 底径 - 高さ 3.3	①微・細砂少 ②酸化焰、良好 ③にぶい橙色	外面=口縁部横ナデ、体部丁寧へう削り。内面=口縁部横ナデ、体部指ナデ。	

66号住居跡 (遺構写真P.L48、遺物写真P.L90)

位置：X=34144 Y=-42925

主軸方位：N-68°-E

規模・形状：平面形状は3.0m×3.3~3.5mを測る隅丸方形を呈し、北東コーナー部分がやや外側に開く。床面までの残存深度は20cmほどを測る。

カマド：東壁の中央やや南寄りに位置し、全長は80cmほどと短く、煙道部は突端部で急峻に立ち上がり壁外にあまり突出しない。袖部内は芯材を用いず粘土のみで構築されるが、天井部崩落土中に土師

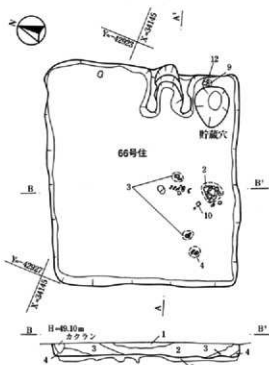
器破片が多く出土することから、天井部芯材として土師器が使われた可能性が高い。また、支脚として土師器高坏 (No.6) を逆位に据える。

内部施設：床面上においては南東コーナー部に径55cm×60cm、深度40cmを測る楕円形の貯蔵穴1基を検出したのみで、柱穴については検出し得なかった。

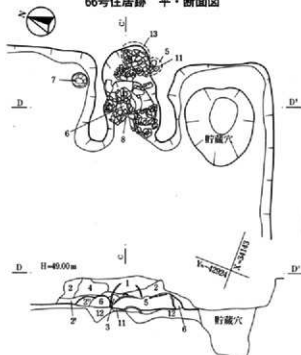
掘り方：カマド前から北西コーナー部にかけて帯状に残して5~10cmほど掘り進ませる。また、掘り方調査時に床面では検出し得なかった壁溝の一部と

共に径20~50cm、深度20~30cmを測るピット4穴を確認したが、位置的に主柱穴とは考えにくい。
出土遺物：土師器杯 (No.1・2)が床面直上から、土師

器环 (No.5)・土師器鉢 (No.8)・土師器甕 (No.11)・土師器瓶 (No.13)がカマド使用面直上から出土する。
重複遺構：なし。



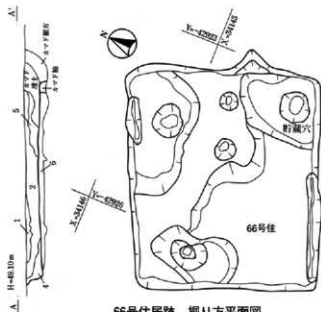
66号住居跡 平・断面図



66号住居跡 カマド平・断面図

66号住居跡カマド 埋土

- 1: 褐色土 多量の燻名白色軽石・黄白色粘土小ブロック・ローム粒子を含む
- 2: 褐色土 少量の黄白色粘土小ブロック・ローム粒子を含む



66号住居跡 掘り方平面図

66号住居跡 埋土

- 1: 暗褐色土 全体に灰褐色土を塊状に含み、微量の燻名白色軽石を含む
- 2: 褐色土 微量の燻名白色軽石・砂質ローム小ブロックを含む
- 3: 褐色土 多量の砂質ローム小ブロックを含む
- 4: 褐色土 少量の砂質ローム小ブロックを含む
- 5: 褐色土 多量の砂質ローム小ブロック・焼土粒子・炭化物を含む
- 6: 暗褐色土 多量の砂質ローム小ブロックを含む (掘り方埋土)
- 2': 褐色土 少量のローム粒子・黒色土を含む
- 2'': 褐色土 多量のローム粒子と炭化物を含む
- 3: 褐色土 多量の大型炭化物・焼土ブロックを含む
- 4: 褐色土 多量の黄白色粘土小ブロック・ローム粒子と少量の焼土粒子を含む
- 5: 黄白色粘土 少量の焼土ブロックを含む (天井部崩落土)
- 6: 黄白色粘土 袖部
- 7: 灰層 焼土粒子・炭化物を含む

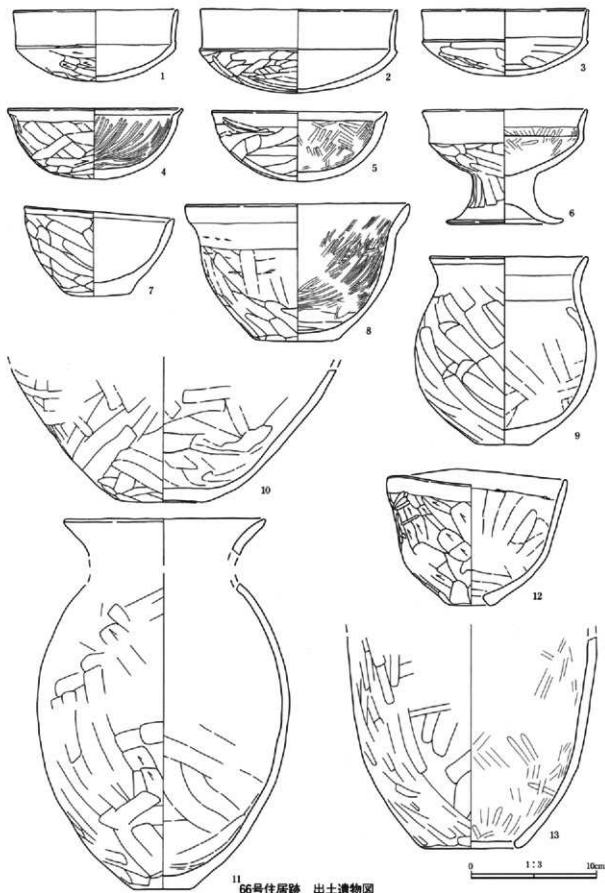
0 1:60 2m

- 8: 黄白色粘土 暗褐色土小ブロックを含む (天井部崩落土)
- 9: 黄白色粘土 少量の焼土小ブロックを含む (天井部崩落土)
- 10: 暗褐色土 多量の砂質ローム小ブロックと少量の焼土粒子・炭化物を含む
- 11: 灰層 多量の焼土小ブロック・炭化物・黄白色粘土ブロックを含む
- 12: 暗褐色土 多量の砂質ローム小ブロック・黒色土ブロックを含む (住居掘り方埋土)

※貯蔵穴埋土については、調査時の湧水が激しく断面実測が不可能であった

0 1:30 1m

IV 遺構と遺物



11 66号住居跡 出土遺物図

7区 66号住居跡 遺物観察表

遺構名 遺物番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考
66号住居 1	土師器 坏	床面直上 1/3	口径 (13.1) 底径 - 高さ 5.6	①微・細砂少 ②酸化塩、良好 ③にぶい橙色	外面=口縁部横ナデ、体部~底部へう割り。内面=口縁部横ナデ、体部ナデ。	
66号住居 2	土師器 坏	床面直上 変形	口径 15.4 底径 - 高さ 6.6	①微・細砂少 ②酸化塩、良好 ③にぶい橙色	外面=口縁部横ナデ、体部~底部へう割り後に丁寧なへう割り。内面=口縁部横ナデ、体部丁寧なナデ。底部表面の一部剥落。	
66号住居 3	土師器 坏	床面+1cm 坏	口径 13.0 底径 - 高さ 5.2	①微・細砂少 ②酸化塩、良好 ③にぶい橙色	外面=口縁部横ナデ、体部~底部丁寧なへう割り。内面=口縁部横ナデ、体部丁寧なナデ。	
66号住居 4	土師器 坏	床面+5cm 変形	口径 13.8 底径 - 高さ 5.5	①微・細・粗砂少 ②酸化塩、良好 ③明赤褐色	外面=口縁部横ナデ、体部上位へう割り、下位から底部へう割り。内面=口縁部横ナデ、体部ナデ後にへう磨き。	
66号住居 5	土師器 坏	カマド 使用面直上	口径 13.8 底径 - 高さ 5.5	①微・細砂少 ②酸化塩、やや不良 ③にぶい橙色	口縁部内傾。外面=口縁部横ナデ、体部上位へう割り、体部下位~底部へう割り。内面=口縁部横ナデ、体部ナデ後にへう磨き。	
66号住居 6	土師器 高坏	カマド 使用面-8cm	口径 13.0 底径 (9.2) 高さ 9.0	①微・細・粗砂やや多 ②酸化塩、良好 ③明赤褐色	外面=口縁部横ナデ、体部丁寧なへう割り、胴部ナデ。内面=口縁部横ナデ、体部ナデ、脚部ナデ。坏内面露れる。	
66号住居 7	土師器 小型鉢	カマド 使用面+4cm	口径 12.0 底径 4.6 高さ 6.7	①微・細砂多 ②酸化塩、良好 ③にぶい赤褐色	外面=口縁部横ナデ、体部~底部へう割り。内面=口縁部横ナデ、体部ナデ。	
66号住居 8	土師器 鉢	カマド 使用面直上	口径 17.6 底径 6.0 高さ 10.8	①微・細・粗砂やや多 ②酸化塩、良好 ③にぶい橙色	外面=口縁部横ナデ、体部上位へう割り、下位から底部へう割り。内面=口縁部横ナデ、体部ナデ後にへう磨き。	
66号住居 9	土師器 小型壺	床面-3cm 4/5	口径 12.4 底径 4.0 高さ 14.7	①微・細・粗砂やや多 ②酸化塩、良好 ③にぶい黄褐色	外面=口縁部横ナデ、胴部へう割り。内面=口縁部横ナデ、胴部へう割り。内面=黒色付着物。	
66号住居 10	土師器 壺	床面+8cm 底部	口径 - 底径 6.0 高さ -	①微・細・粗砂やや多 ②酸化塩、良好 ③にぶい橙色	外面=胴部下位へう割り後にへう割ラナデ。内面=ナデ。	
66号住居 11	土師器 壺	カマド 使用面直上	口径 (16.0) 底径 4.6 高さ -	①微・細・粗砂やや多 ②酸化塩、良好 ③にぶい橙色	外面=口縁部横ナデ、胴部へう割り。内面=口縁部横ナデ、胴部ナデ。	同一個体の口縁部有り
66号住居 12	土師器 飯 (一穴)	床面+4cm 略変形	口径 14.0 底径 2.0 高さ 10.6	①微・細砂少 ②酸化塩、やや不良 ③にぶい黄褐色	穿孔一穴。口縁部打つ。外面=口縁部横ナデ体部上位棒状工具削り、下位へう割り。内面=口縁~体部上位横ナデ、下位ナデ。	
66号住居 13	土師器 飯 (一穴)	カマド 使用面直上	口径 - 底径 7.0 高さ -	①微・細・粗砂やや多 ②酸化塩、良好 ③浅黄色	外面=胴部へう割り。内面=へうナデ。	

68号住居跡 (遺構写真P.L48、遺物写真P.L91)

位置：X=34162 Y=-42931

主軸方位：N-46°-E

規模・形状：南東壁長で3.5mを測るが、西半を重複により欠失しているため形態の全容は明らかではない。また、上面を削平され床面を逸しているため、掘り方底面までの残存深度20cmを測るのみである。カマド：調査範囲内にはカマドが検出されず、南コーナーに貯蔵穴が在ることから、欠失した南西壁に位置していたものと考えられる。

内部施設：南コーナー部に45cm×50cmの長方形を呈し、深度60cmを測る貯蔵穴1基、東コーナー付

近に径35cm、深度10~40cmを測るビット2穴をそれぞれ検出する。

掘り方：床面を逸しているため比高差は明らかではないが、南東壁中央がやや高く、東コーナー部が5~10cmほど低く窪む。

出土遺物：出土遺物は全て床面から距離を測るの出土である。

重複遺構：北西半を大溝跡と重複し、新旧関係は遺構平面確認時の状態から本住居跡の方が古く、また、南東側に69号住居跡と重複し、本住居跡の方が新しいものと判断される。

IV 遺構と遺物

69号住居跡 (遺構写真P.L48、遺物写真P.L91)

位置：X=34159 Y=-42931

主軸方位：N-60°-E

規模・形状：南西壁長3.2m、南東壁長3.5mを測るが、北東壁は大きく外反し、かつ壁長も長いので、不定形を呈すると思われるが、北西部を重複で欠失しているため全体の形状は不明である。また、上面も削平を受け、床面までの深度は僅かに10~15cmを測るのみである。

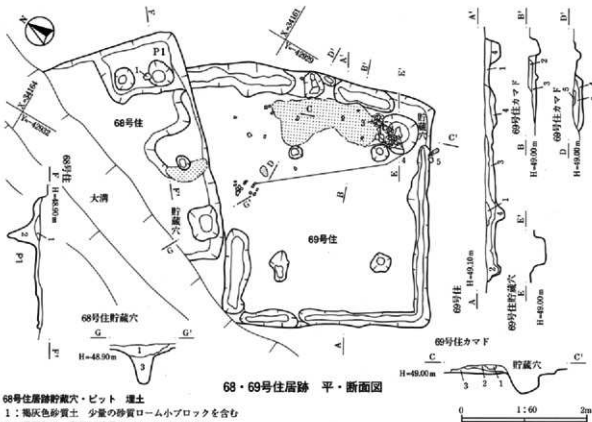
カマド：貯蔵穴の北側に焼土・炭化物の集中を確認し裁断を試みたが、明瞭な袖部或使用面を確認するには至らなかった。しかしながら多量の焼土・炭化物の堆積が認められることから、この位置にカマドが存在していた可能性が高いものと考えられる。

内部施設：南東コーナーを除く壁下に壁溝が巡り、南東コーナー部に径60cm、深度23cmを測る円形の貯蔵穴を1基、径20~45cm、深度6cmから50cmを測る柱穴跡が4穴検出された。

掘り方：掘削に規則性は見られず、全体的に3~10cmほど掘り進ませる。

出土遺物：土師器甕 (No.4) が貯蔵穴内より、土師器坏 (No.1)・土師器片 (No.3) が床面下掘り方より出土する。

重複遺構：北西部において68号住居跡と重複し、新旧関係は遺構の平面確認時の状況より、本住居跡の方が古いものと判断される。



68・69号住居跡 平・断面図

68号住居跡貯蔵穴・ピット 埋土

- 1: 褐灰色砂質土 少量の砂質ローム小ブロックを含む
- 2: 黒褐色土 多量の砂質ロームブロックを含む
- 3: 暗褐色土 多量の砂質ローム小ブロックを含む

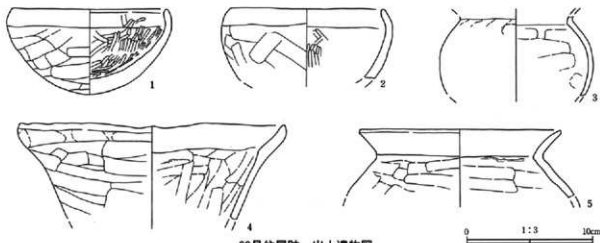
69号住居跡 埋土

- 1: 褐灰色砂 水性堆積の細粒~粗粒砂
- 2: 暗褐色砂質土 細粒砂と少量の砂質ローム土を混状に含む
- 2': 暗褐色砂質土 細粒砂と多量の砂質ローム土を混状に含む
- 3: 黒褐色砂質土 多量の砂質ロームブロックを含む
- 4: 明黄褐色砂質土 多量の砂質ローム土を含む

69号住居跡カマド 埋土

- 1: 褐灰色土 少量の焼土粒子・炭化物を含む
- 2: 暗褐色土 多量の焼土粒子・焼土小ブロック・砂質ローム小ブロックを含む
- 3: 黒褐色土 多量の砂質ロームブロックと少量の焼土粒子・黒色土ブロックを含む
- 4: 暗黄褐色砂質土 多量の黒色土ブロック・砂質ロームブロックを含む (住居跡方埋土)
- 5: 黄褐色砂質土 微量の焼土粒子を含む

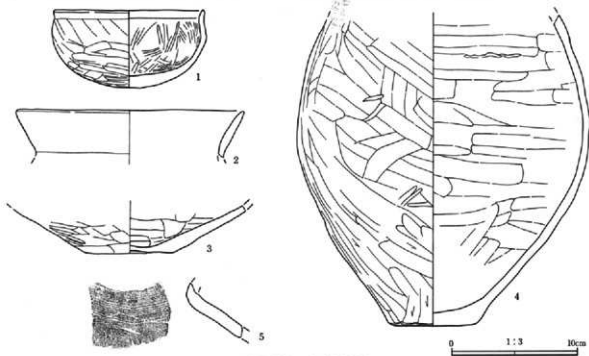
2. 遺構と遺物



68号住居跡 出土遺物図

7区 68号住居跡 遺物観察表

遺構名 遺物番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①粘土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考
68号住居 1	土師器 杯	床面+14cm 2/3	口径 (12.0) 底径 - 高さ 6.7	①微・細・粗砂やや多 ②酸化塩、良好 ③浅黄褐色	体~底部内厚。外面=口縁部横ナデ、体~底部 ヘラ削り後に一部ヘラナデ。内面=口縁部横ナ デ、体~底部ナデの後ヘラ磨き。	
68号住居 2	土師器 杯	埋土中 口~体上片	口径 (12.0) 底径 - 高さ -	①微・細・粗砂少 ②酸化塩、良好 ③褐色	外面=口縁部横ナデ、体~底部ヘラナデ。内面= 口縁部横ナデ、体~底部ナデの後ヘラ磨き。	
68号住居 3	土師器 小型壺	埋土中 胴部破片	口径 - 底径 - 高さ -	①微・細・粗砂少 ②酸化塩、良好 ③にぶい黄褐色	体部内外面共にナデ。	
68号住居 4	土師器 壺?	埋土中 口縁片	口径 (20.9) 底径 - 高さ -	①微・細・粗砂やや多 ②酸化塩、良好 ③にぶい褐色	口縁部歪で波打つ。外面=口縁部指任・指ナ デ、胴部上位横方向のヘラ削り。内面=口縁部 横ナデ。体部上位ヘラ削り後に粗雑なヘラナデ。	
68号住居 5	土師器 壺	埋土中 口縁片	口径 (15.9) 底径 - 高さ -	①微・細・粗砂少 ②酸化塩、良好 ③灰褐色	口縁部内外面横ナデ、胴部上位内外面共にヘラ ナデ。	



69号住居跡 出土遺物図

IV 遺構と遺物

7区 69号住居跡 遺物観察表

遺構名 遺物番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考
69号住居 1	土師器 坏	床面-4cm 1/2	口径 (11.8) 底径 - 高さ 6.1	①微・細砂やや多 ②酸化焰、良好 ③にぶい藍色	外面=口縁部横ナデ、体部上位ヘラナデ、体部下位~底部ヘラ削り。内面=口縁部横ナデ、体部ナデの後継いヘラ磨き。	
69号住居 2	土師器 甕	埋土中 口縁破片	口径 (18.0) 底径 - 高さ -	①微・細砂少 ②酸化焰、良好 ③にぶい黄褐色	口縁部内外両面に横ナデ。	
69号住居 3	土師器 甕	床面-7cm 底部片	口径 - 底径 7.0 高さ -	①微・細砂やや多 ②酸化焰、良好 ③にぶい藍色	外面=胴部下位~底部ヘラ削り、内面=胴部下位~底部ヘラナデ。	
69号住居 4	土師器 甕	貯蔵穴内 1/3	口径 - 底径 6.6 高さ -	①微・細砂やや多 ②酸化焰、良好 ③にぶい赤褐色	外面=胴部上位削り後ナデ、下位ヘラ削り。内面=胴部全面ナデ。	
69号住居 5	土師器 甕	床面+13cm 屑破片	口径 - 底径 - 高さ -	①微・細砂少 ②酸化焰、良好 ③明赤褐色	外面=胴部に磨きさの崖状文と流状文。内面=ナデ。	

70号住居跡 (遺構写真P.L48、遺物写真P.L91)

位置：X=34157 Y=-42946

主軸方位：N-43°-E

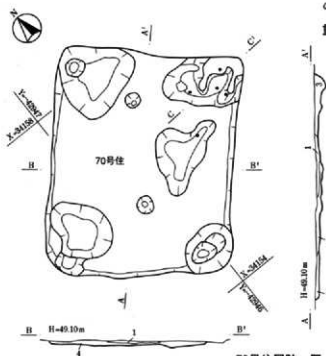
規模・形状：平面形状は2.85m×3.6mを測る隅丸長方形形状を呈する。上面の削平により床面を欠失し、掘り方を残すのみである。掘り方の底面までの深度は3~30cmを測る。

カマド：北東コーナー部に検出され、全長は60cm弱と短く、煙道部は壁から突出しない。

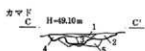
内部施設：住居北東-南西中心軸上に柱穴跡と思われる径22~26cm、深度16~30cmを測るピット2穴を検出。また、北西・南東のコーナー部に径30~40cm、深度28~39cmを測るピット2穴を検出する。掘り方：床面を欠失しているため床面との比高差は明らかではないが、カマドのある北東コーナー部を除く各コーナー付近に、径80~110cm、深度20cmを測る土坑状の掘り込みを検出する。

出土遺物：出土遺物はすべて埋土内より小破片のみの出土である。

重複遺構：なし。



70号住居跡 平・断面図

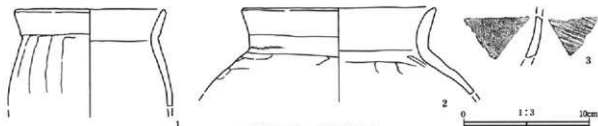


- 70号住居跡カマド 埋土
- 1: 黒褐色土 少量の焼土粒子を含む
 - 2: 黒褐色土 少量の明黄褐色粘土ブロック・焼土粒子を含む
 - 3: 黒褐色土 少量の明黄褐色粘土ブロック・焼土粒子を含む
 - 4: 黒褐色土 微量の明黄褐色粘土小ブロックを含む
 - 5: 黒褐色土 少量の明黄褐色粘土ブロックを含む

- 70号住居跡 埋土
- 1: 褐色土 少量の炭化物・焼土ブロックを含む
 - 2: 褐色土 少量の明黄褐色粘土ブロックを含む
 - 3: 褐色土 微量の明黄褐色粘土小ブロックを含む
 - 4: 明黄褐色粘土 少量の褐色土ブロックを含む

0 1:60 2m

2. 遺構と遺物



70号住居跡 出土遺物図

7区 70号住居跡 遺物観察表

遺構名 遺物番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①粘土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考
70号住居 1	土師器 小型甕	埋土中 口緣片	口径 (12.0) 底径 - 高さ -	①微・細砂やや多 ②酸化焙、良好 ③橙色	外面=器面摩滅大。外面=口緣部横ナデ、胴部上位へラ削り後ナデ。内面=口緣部横ナデ、胴部ナデ。	
70号住居 2	土師器 甕	埋土中 口緣片	口径 (15.3) 底径 - 高さ -	①微・細砂やや多 ②酸化焙、良好 ③灰白色	外面=口緣部横ナデ、胴部上位横方向のへラ削り。内面=口緣部横ナデ、胴部ナデ。	
70号住居 3	須恵器 甕	埋土中 破片	口径 - 底径 - 高さ -	①微・細砂少 ②還元焙、良好 ③灰黄褐色	外面=叩き目。内面=当て具痕とナデ。	

71号住居跡 (遺構写真P.L.49, 遺物写真P.L.91)

位置: X=34163 Y=-42946

主軸方位: N-35° -E



規模・形状: 遺構平面確認時に床面は既に削平されて大半が欠失し、僅かにカマド・貯蔵穴付近に床面が残るのみであった。平面揭示用は5.6m×5.6mを測る正方形を呈する。掘り方底面までの残存深度は15cmほどを測る。

IV 遺構と遺物



71号住居跡 断面図

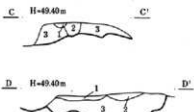
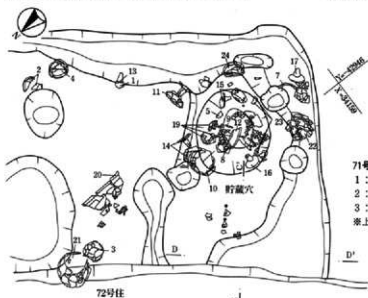
カマド：南西壁中央東寄りに位置するが、上面の削平に加え、後記の重複遺構により西側の大半を失う。掘り方埋土中に焼土・炭化物が散逸することから、使用時の修復・造り替えが想定される。

内部施設：南東コーナー部に径70cmほど、深度30cmを測る貯蔵穴を1基検出する。

掘り方：住居中央部を残し周囲を掘り窪めるが掘り込みは不定形で、深い所で24cmほどを測る。

出土遺物：土師器坏(No.2)・土師器高坏(No.11)・土師器甕(No.22)が床面直上より、土師器坏(No.5)・土師器高坏(No.8・9・12・15)・土師器甕(No.19・23)が貯蔵穴内よりそれぞれ出土する。

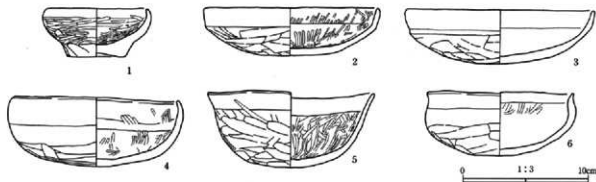
重複遺構：西側において72号住居跡と重複し、新旧関係は遺構平面確認時と埋土断面の状況から、本住居跡の方が古いものと判断される。(124頁掲載の重複関係図を参照)



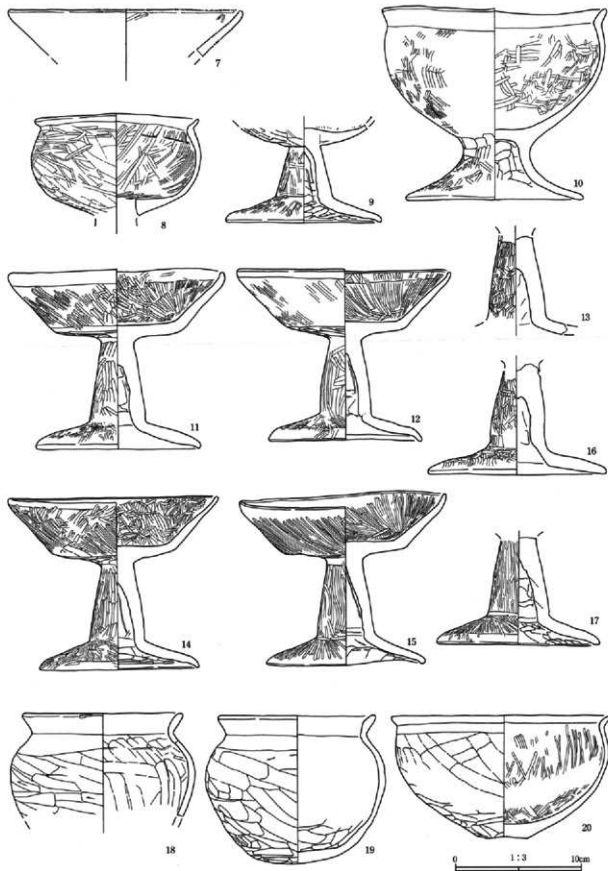
71号住居跡カマド 埋土

- 1：赤褐～橙色土 粘土ブロック・焼土ブロック層
 - 2：灰白～黄白色粘土 袖・天井材
 - 3：褐色土 黄白色粘土ブロック・焼土・炭化物を含む
- ※上面の削平により使用面を欠失する

71号住居跡 カマド平・断面図

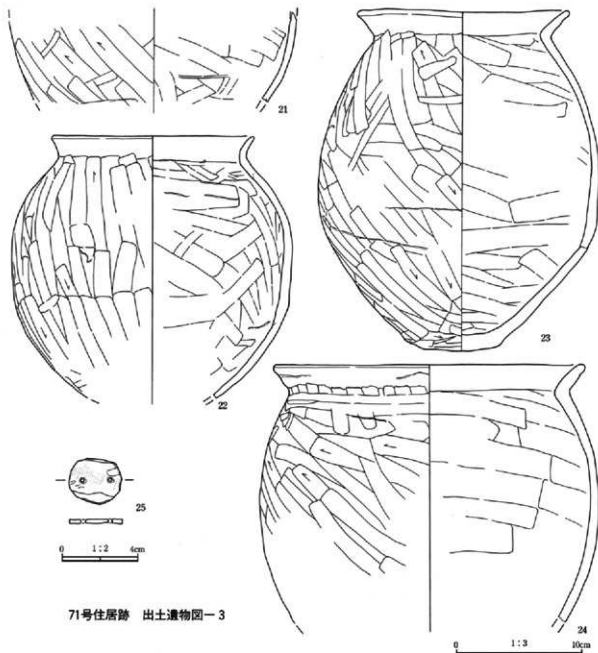


71号住居跡 出土遺物図一 1



71号住居跡 出土遺物図-2

IV 遺構と遺物



71号住居跡 出土遺物図-3

7区 71号住居跡 遺物観察表-1

遺構名 遺物番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考
71号住居 1	土師器 小型杯	床面+2cm 2/3	口径 8.0 底径 4.6 高さ 3.8	①微・細砂少 ②酸化焰、良好 ③橙色	外面=口縁横ナデ、体部ナデ後ヘラ磨き、底部 手捏ね。内面=全面ナデ後ヘラ磨き。	
71号住居 2	土師器 杯	床面直上 完形	口径 13.8 底径 - 高さ 3.8	①微・細砂少 ②酸化焰、良好 ③橙色	外面=口縁丁寧な横ナデ、体~底部丁寧なヘラ ナデ。内面=器面の割落のため整形痕不明。	
71号住居 3	土師器 杯	床面+6cm 3/4	口径 14.9 底径 - 高さ 4.2	①微・細砂やや多 ②酸化焰、やや良好 ③橙色	外面=口縁丁寧な横ナデ、体~底部丁寧なヘラ ナデ。内面=全面丁寧なナデ後にヘラ磨き。	
71号住居 4	土師器 杯	床面-5cm 完形	口径 13.8 底径 - 高さ 5.4	①微・細砂少 ②やや良好 ③橙色	外面=口縁部~体部上位横ナデ、下位丁寧なヘ ラ削り。内面=全面ナデ後にヘラ磨き。	
71号住居 5	土師器 杯	貯蔵穴 床面-26cm 完形	口径 13.1 底径 - 高さ 6.0	①微・細砂少 ②酸化焰、良好 ③にぶい橙色	外面=口縁部横ナデ、体部ヘラナデ、底部ヘラ 削り。内面=口縁部横ナデ、体部ナデ後放射状 ヘラ磨き。	

7区 71号住居跡 遺物観察表-2

遺構名 遺物番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①粘土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考
71号住居 6	土師器 坏	埋土中 2/3	口径 11.5 底径 - 高さ 5.0	①微・細砂やや多 ②酸化塩、やや良好 ③橙色	外面=口縁部~体部上位横ナデ、下位へラ削り。内面=全面ナデ後に軽いへラ磨き。	
71号住居 7	土師器 高坏	床面+8cm 坏部片	口径 (18.4) 底径 - 高さ -	①微・細砂やや多 ②酸化塩、やや良好 ③明赤褐色	内外面口縁部ナデ後にへラ磨き。下位は器面の荒れのため整形不明。	
71号住居 8	土師器 高坏	貯蔵穴 床面-17cm 坏部	口径 12.9 底径 - 高さ -	①微・細・粗砂やや多 ②酸化塩、良好 ③橙色	外面=口縁部横ナデ、坏部ナデ後へラ磨き。内面=口縁部横ナデ、体部ナデ後へラ磨き。	No.201に 胎土層似
71号住居 9	土師器 高坏	貯蔵穴 床面-30cm 脚部	口径 - 底径 12.3 高さ -	①微・細砂少 ②酸化塩、やや良好 ③明赤褐色	外面=坏部下面へラナデ、脚部へラ磨き。内面=坏底部へラ磨き、脚部横ナデ。	
71号住居 10	土師器 高坏	床面-3cm 4/5	口径 17.0 底径 14.0 高さ 15.3	①微・細砂やや多 ②酸化塩、良好 ③明赤褐色	外面=口縁部横ナデ、坏部及び脚部ナデ後へラ磨き。内面=口縁部横ナデ、坏部体部ナデ後へラ磨き、脚部裏へラナデ。	
71号住居 11	土師器 高坏	床面直上 1/2	口径 (17.0) 底径 6.4 高さ 14.1	①微・細砂少 ②酸化塩、良好 ③橙色	外面=口縁部横ナデ、坏部及び脚部ナデ後へラ磨き、坏底部ナデ。内面=坏部全面ナデ後丁寧なへラ磨き、脚部裏へラナデ。	
71号住居 12	土師器 高坏	貯蔵穴 床面-22cm 完形	口径 16.8 底径 12.1 高さ 13.4	①微・細砂少 ②酸化塩、良好 ③明赤褐色	外面=口縁部横ナデ、坏部及び脚部ナデ後へラ磨き、坏底部ナデ。内面=坏部全面ナデ後丁寧なへラ磨き、脚部裏へラナデ。	
71号住居 13	土師器 高坏	床面+2cm 脚部片	口径 - 底径 - 高さ -	①微・細砂少 ②酸化塩、良好 ③にぶい褐色	外面=ナデの後へラ磨き。脚部裏へラナデ。	
71号住居 14	土師器 高坏	床面-3cm 2/3	口径 16.6 底径 12.1 高さ 13.5	①微・細砂少 ②酸化塩、良好 ③橙色	外面=口縁部横ナデ、坏部及び脚部ナデ後へラ磨き、坏底部ナデ。内面=坏部全面ナデ後丁寧なへラ磨き、脚部裏へラナデ。	
71号住居 15	土師器 高坏	貯蔵穴 床面-12cm 完形	口径 16.3 底径 12.1 高さ 13.3	①微・細砂少 ②酸化塩、良好 ③橙色	外面=口縁部横ナデ、坏部及び脚部ナデ後へラ磨き、坏底部ナデ。内面=坏部全面ナデ後丁寧なへラ磨き、脚部裏へラナデ。	
71号住居 16	土師器 高坏	床面-9cm 脚部	口径 - 底径 14.0 高さ -	①微・細砂少 ②酸化塩、良好 ③赤褐色	外面=ナデの後へラ磨き。脚部丁寧なへラナデ。	
71号住居 17	土師器 高坏	床面+7cm 脚部	口径 - 底径 12.8 高さ -	①微・細砂やや多 ②酸化塩、良好 ③明赤褐色	外面=丁寧なへラ磨き。底部裏面へラナデ、横ナデ。	
71号住居 18	土師器 小型壺	埋土中 口~胴上片	口径 (12.7) 底径 - 高さ -	①微・細砂やや多 ②酸化塩、良好 ③橙色	外面=口縁部横ナデ、胴部細かい丁寧なへラ削り。内面=口縁部横ナデ、胴部ナデ。	
71号住居 19	土師器 小型壺 (丸底)	貯蔵穴 床面-17cm 完形	口径 12.4 底径 - 高さ 11.6	①微・細砂やや多 ②酸化塩、良好 ③にぶい褐色	外面=口縁部横ナデ、肩部へラナデ。胴部~底部へラ削り。内面=口縁部横ナデ、胴部へラナデ。	
71号住居 20	土師器 鉢	床面+6cm 3/4	口径 17.1 底径 4.1 高さ 9.6	①微・細・粗砂やや多 ②酸化塩、良好 ③橙色	外面=口縁部横ナデ体部上位へラナデ、下位~底部へラ削り。内面=口縁部横ナデ、体部ナデ後へラ磨き。	No.8に胎 土層似
71号住居 21	土師器 壺	床面+12cm 胴部片	口径 - 底径 - 高さ -	①微・細・粗砂やや多 ②酸化塩、良好 ③橙色	外面=胴部へラ削り。内面=胴部ナデ。	
71号住居 22	土師器 壺	床面直上 口~胴部片	口径 (16.0) 底径 - 高さ -	①微・細砂やや多 ②酸化塩、良好 ③橙色	外面=口縁部横ナデ、胴部丁寧な縦方向のへラ削り。内面=口縁部横ナデ、胴部ナデ。	
71号住居 23	土師器 壺	貯蔵穴 床面-30cm 略定形	口径 16.7 底径 5.5 高さ 26.8	①微・細・粗砂やや多 ②酸化塩、良好 ③浅黄褐色	外面=口縁部横ナデ、胴部へラ削り後に一部へラナデ。内面=口縁部横ナデ、胴部ナデ。底部丸みを帯びて不安定。	
71号住居 24	土師器 壺	床面+6cm 口~胴部片	口径 (24.5) 底径 - 高さ -	①微・細・粗砂やや多 ②酸化塩、良好 ③にぶい褐色	外面=口縁部横ナデ、胴部へラ削り後に一部へラナデ。内面=口縁部横ナデ、胴部ナデ。	
71号住居 25	滑石製 模造品 鏡形	埋土中 完形	長さ 2.80 巾 2.40 厚さ 0.25	石材 蛇紋岩 重量 3.749g	2穴穿孔。	

IV 遺構と遺物

72号住居跡 (遺構写真P.L.49、遺物写真P.L.92)

位置：X=34163 Y=-42950

主軸方位：N-52° -W

規模・形状：本住居跡は検出された塋溝や柱穴の様相から、一度の拡張(増築)を行っていることが判明し、その規模と形状は、拡張前が6.0m×6.2mを測る隅丸形状を呈し、拡張後は6.9m×6.9mの隅丸形状を呈する。床面までの残存深度は共に14cmほどを測る。

カマド：北西端ほぼ中央に位置し、他所にカマドの痕跡が無いこととカマド掘り方堀土中に焼土・粘土が散逸することから、拡張前も同位置にカマドが存在していたものと考えられる。拡張後のカマドは住居規模に比例して大きく、堀土断面3層土に見えるカマド構築粘土が住居内床面に広く散逸していることから、住居廃絶時のカマド破壊行為が想定される。カマドは粘土主体として構築されるが、掘り方堀土中に土師器底部が確認されることから、芯材の一部として土器が用いられた可能性が高い。

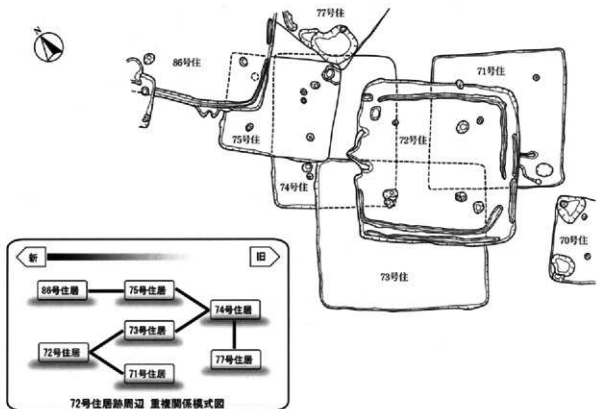
内部施設：北東コーナー付近カマド脇に貯蔵穴を1基検出し、径44cm×56cm、深度16cmを測るが、住居

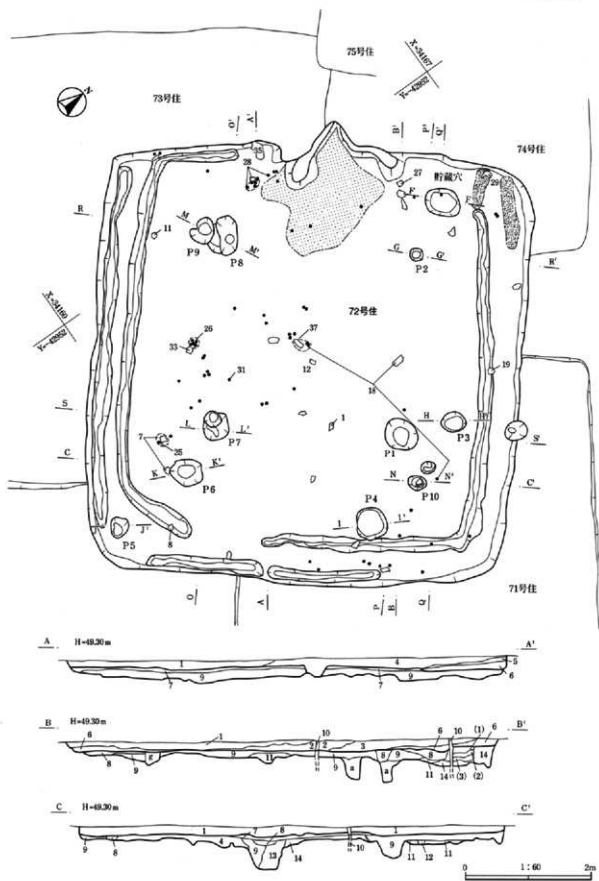
規模に比べ小型の貯蔵穴であり、位置的に拡張前から使用されているものと考えられる。柱穴は検出された10穴のビット中ビット1・2・7・9が拡張前に、ビット2・8・6・10が拡張後の上屋に伴うものと考えられる。

掘り方：拡張前の段階では住居内のほぼ全域にわたり、深度5～20cmを測る不定形の掘り方をもち、拡張部は浅い掘り方となる。

出土遺物：土師器小型甕 (No.28) が床面直上より、土師器坏 (No.14)・土師器甕 (No.23) がカマド使用面直上より、土師器坏 (No.13)・土師器甕 (No.22・24) がカマド掘り方内より、土師器坏 (No.4・9)・土師器高坏 (No.17)・須恵器大甕片 (No.35) が住居掘り方内よりそれぞれ出土する。

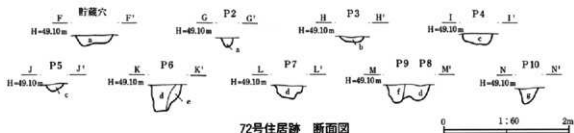
重複遺構：東側に71号住居跡、西側に73号住居跡、北西に74号住居跡と重複し、新旧関係は遺構平面確認時および堀土断面の様相から、本住居跡がいずれの遺構より新しいものと判断される。(下掲載の重複関係図を参照)





72号住居跡 平・断面図

IV 遺構と遺物



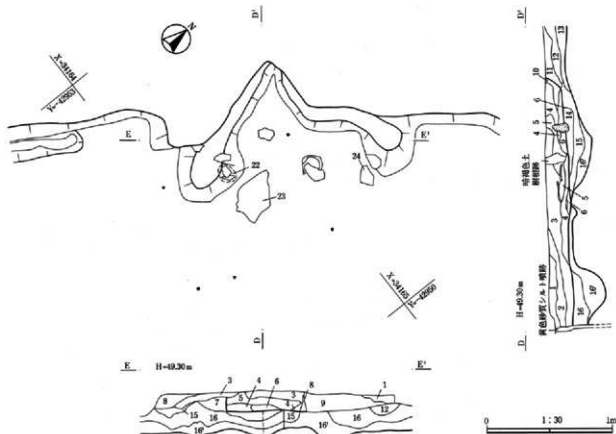
72号住居跡 断面図

72号住居跡 埋土

- 1: 暗褐色砂質土 少量の棕名白色軽石・砂質ローム小ブロック・炭化物を含む
- 2: 暗褐色砂質土 多量の砂質ロームブロックと少量の炭化物を含む
- 3: 暗褐色砂質土 少量の砂質ローム小ブロック・炭化物・焼土粒子を含む部分的に棕名白色軽石を含む
- 4: 暗褐色砂質土 多量の焼土粒子・炭化物と少量の棕名白色軽石・砂質ローム小ブロックを含む
- 5: 暗褐色砂質土 多量の砂質ロームブロックと少量の焼土粒子・炭化物を含む
- 6: 暗褐色土 少量の砂質ローム小ブロック・炭化物を含む
- 7: 暗褐色土 多量の砂質ロームブロック・炭化物を含み、所々に黒色土を帯状に含む(貼り床面)
- 8: 暗褐色土 少量の砂質ローム小ブロックを含む(掘り方埋土)
- 9: 暗褐色土 多量の砂質ロームブロックを含む(掘り方埋土)
- 10: 黄白色砂質シルト土=噴砂
- 11: 黄色砂質ローム 少量の暗褐色土ブロックを含む(掘り方埋土)

72号住居跡柱穴 埋土

- 12: 暗褐色土 少量の砂質ローム小ブロックを含む(掘り方埋土)
 - 13: 暗褐色砂質土 微量の炭化物を含む(掘り方埋土)
 - 14: 暗褐色土 多量の砂質ロームブロックを含む(掘り方埋土)
- (1): 72号住カマド埋土16層に同じ
 (2): 72号住カマド埋土17層に同じ
 (3): 72号住カマド埋土17層に同じ
- a: 暗褐色土 少量の砂質ロームブロック・炭化物を含む(ビット1-2)
 - b: 黒褐色土 少量の砂質ローム小ブロックを含む(ビット3)
 - c: 暗褐色土 少量の砂質ローム小ブロック・焼土粒子・炭化物を含む(ビット4-5)
 - d: 暗褐色土 多量の炭化物と少量の砂質ローム小ブロックを含む(ビット6-7-8)
 - e: 黒褐色土 多量の砂質ロームブロックを含む(ビット6)
 - f: 暗褐色土 多量の炭化物・砂質ロームブロックと少量の焼土粒子を含む(ビット9)
 - g: 黒褐色土 少量の砂質ローム粒子・炭化物を含む(ビット10)



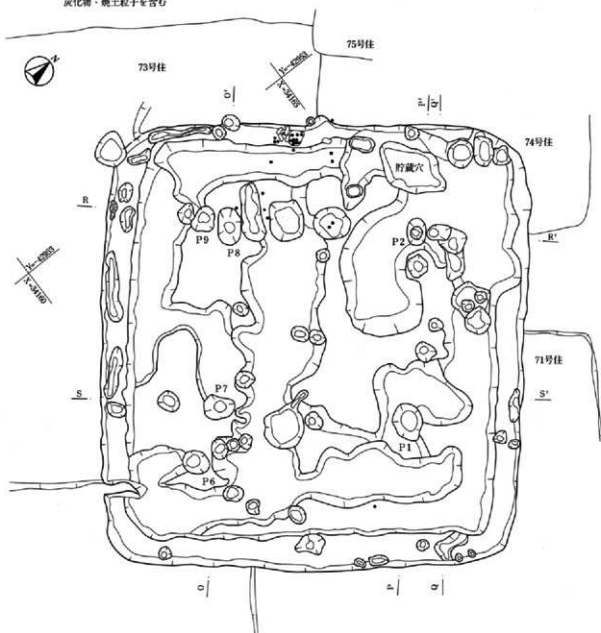
72号住居跡 カマド平・断面図

2. 遺構と遺物

72号住居跡カマド 埋土

- 1: 暗褐色砂質土 多量の黄白色粘土ブロックと少量の焼土粒子・炭化物、微量の播名白色軽石を含む
- 2: 暗褐色砂質土 少量の黄白色粘土ブロック・焼土塊小ブロック・炭化物を含む
- 3: 黄白色粘土 全体に暗褐色土を混入し少量の焼土ブロック・微量の播名白色軽石を含む
- 4: 黄白色粘土 下方に少量の焼土小ブロックを含む(天井部崩落土)
- 5: 黒褐色土 少量の黄白色粘土小ブロック・焼土粒子・炭化物を含む
- 6: 暗褐色土 5層土+灰層
- 7: 黄白色粘土 少量の黒色土を含み、酸化鉄分凝固
- 8: 暗褐色砂質土 黒褐色土ブロック・黄白色粘土ブロック・炭化物を含む
- 9: 褐色土 少量の暗褐色土ブロック・黄白色粘土小ブロック・炭化物・焼土粒子を含む

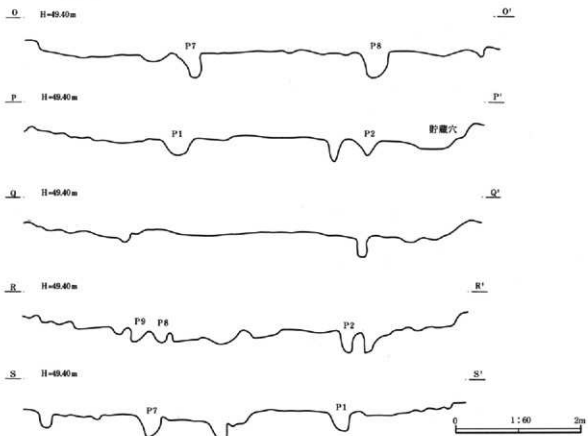
- 10: 褐色土 多量の焼土小ブロックと灰を含む
※通常、灰層の上層を使用面とするが、灰層が乱れているため、6・10層下を使用面と判断する
- 11: 暗褐色土 多量の黄白色粘土ブロックと少量の焼土粒子を含む(旧掘り方埋土)
- 12: 暗褐色土 少量の黄白色粘土ブロックを含む(旧掘り方埋土)
- 13: 74号住居跡 ②埋土
- 14: 褐色土 少量の黄白色粘土ブロック・焼土粒子・炭化物を含む(掘り方埋土)
- 15: 黄白色粘土 少量の褐色土ブロック・焼土粒子・炭化物を含む(掘り方埋土)
- 16: 暗褐色土 少量の黄白色粘土ブロック・焼土粒子・炭化物を含む(掘り方埋土)
- 16': 16層土に類似、色調やや暗い



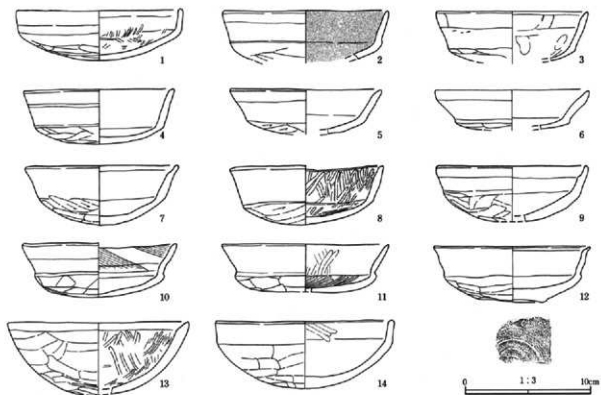
72号住居跡 掘り方平面図

0 1:60 2m

IV 遺構と遺物

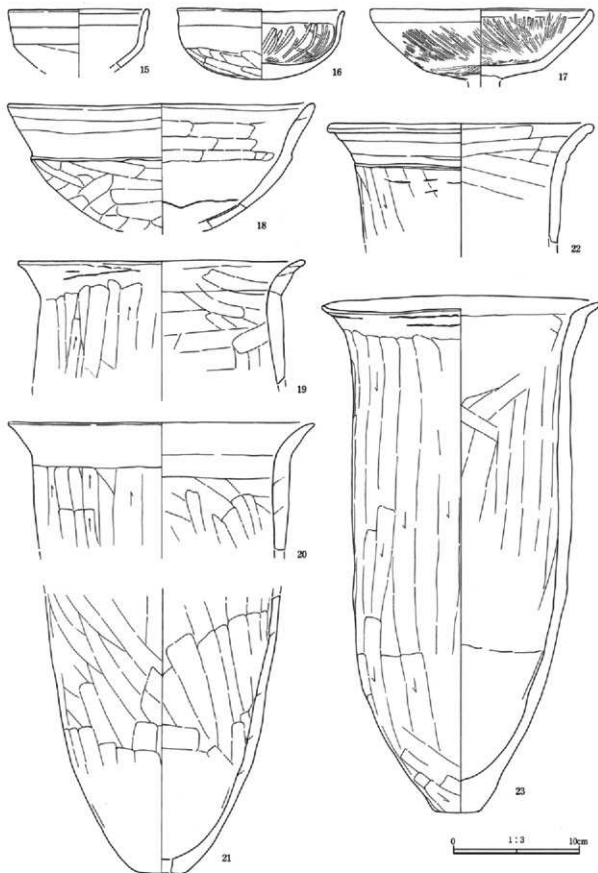


72号住居跡 掘り方断面図



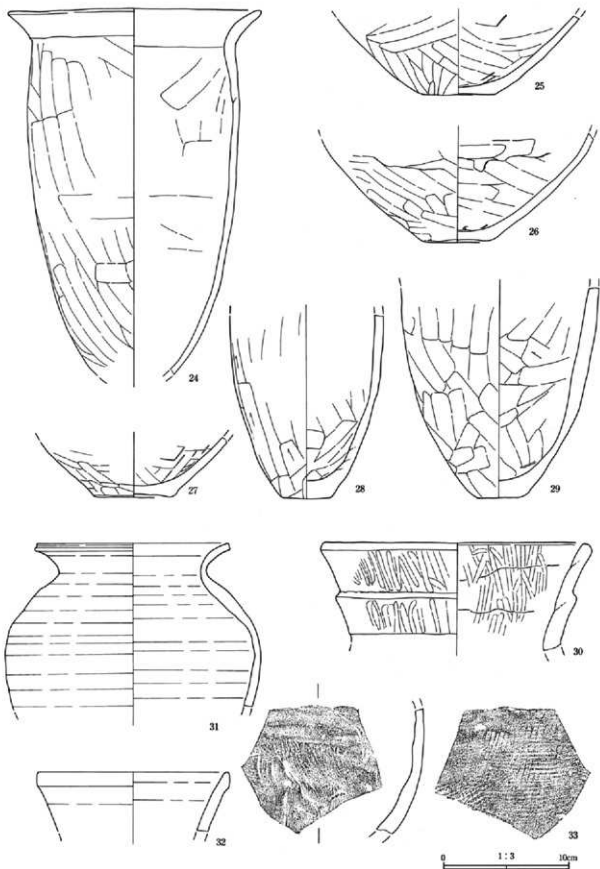
72号住居跡 出土遺物図一

2. 遺構と遺物



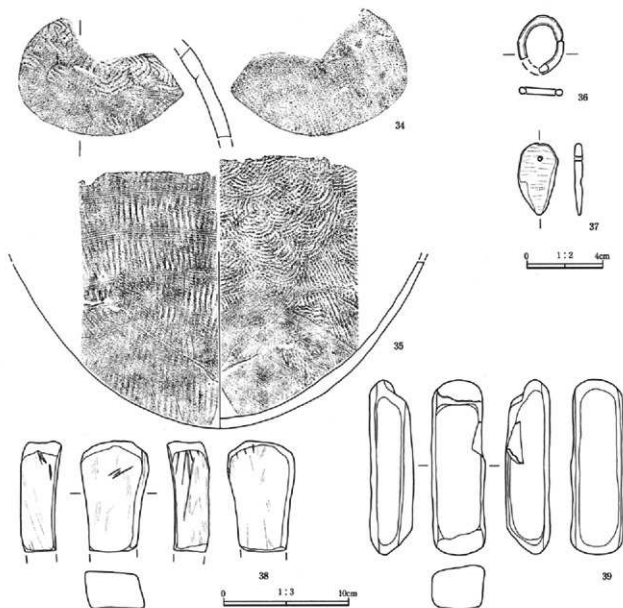
72号住居跡 出土遺物図一2

IV 遺構と遺物



72号住居跡 出土遺物図一 3

2. 遺構と遺物



72号住居跡 出土遺物図-4

7区 72号住居跡 遺物観察表-1

遺構名 遺物番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考
72号住居 1	土師器 坏	断面+6cm 1/2割	口径 (13.0) 底径 - 高さ 4.0	①灰・細砂少 ②酸化塩、良好 ③明赤褐色	外面=口縁部横ナデ、体部上位ナデ、体部下位 ~底部へラ削り。内面=口縁部横ナデ、体部ナ デ依程いへラ磨き。	内面=黒 色付着物 有り
72号住居 2	土師器 坏	埋土中 口~体部片	口径 (13.0) 底径 - 高さ -	①灰・細砂少 ②酸化塩、良好 ③にぶい黄褐色	外面=口縁部横ナデ、体部へラ削り。内面=口縁 部~体部上位横ナデ、体部ナデ。	
72号住居 3	土師器 坏	カマド埋土 口縁片	口径 (12.0) 底径 - 高さ 4.0	①灰・細砂少 ②酸化塩、良好 ③にぶい褐色	外面=口縁部横ナデ、体部へラ削り。内面=口縁 部横ナデ、体部ナデ。	
72号住居 4	土師器 坏	掘方埋土 1/3	口径 (12.0) 底径 - 高さ 4.2	①灰・細砂少 ②酸化塩、やや良好 ③にぶい赤褐色	外面=口縁部横ナデ、体部へラ削り。内面=口縁 部横ナデ、体部ナデ。	
72号住居 5	土師器 坏	埋土中 口縁片	口径 (12.0) 底径 - 高さ -	①灰・細砂少 ②酸化塩、やや良好 ③にぶい赤褐色	外面=口縁部横ナデ、体部へラ削り。内面=口縁 部横ナデ、体部ナデ。	

IV 遺構と遺物

7区 72号住居跡 遺物観察表-2

遺構名 遺物番号	類別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考
72号住居 6	土師器 坏	埋土中 1/5	口径 (12.1) 底径 - 高さ -	①微・細砂少 ②酸化塩、やや良好 ③褐色	外面=口縁部横ナデ、体部ヘラ削り。内面=口縁部横ナデ、体部ナデ。	
72号住居 7	土師器 坏	床面+4cm 1/2	口径 (12.2) 底径 - 高さ 4.7	①微・細砂やや多 ②酸化塩、良好 ③にぶい褐色	外面=口縁部横ナデ、体部ヘラ削り。内面=口縁部横ナデ、体部ヘラナデ。	
72号住居 8	土師器 坏	床面+5cm	口径 12.1 底径 - 高さ 4.6	①微・細砂少 ②酸化塩、良好 ③褐色	外面=口縁部横ナデ、体-底部ヘラ削り。内面=口縁部-底部横ナデの後軽いヘラ磨き。	
72号住居 9	土師器 坏	掘方埋土 1/4	口径 (12.0) 底径 - 高さ (4.3)	①微・細砂やや多 ②酸化塩、良好 ③明赤褐色	外面=口縁部横ナデ、体部ヘラ削り。内面=口縁部横ナデ、体部ナデ。	
72号住居 10	土師器 坏	埋土中 略丸形	口径 12.2 底径 - 高さ 4.3	①微・細砂少 ②酸化塩、良好 ③褐色	外面=口縁部横ナデ、体部上位ヘラナデ、下位ヘラ削り。内面=全面ナデ。	
72号住居 11	土師器 坏	床面+7cm 1/5	口径 (13.1) 底径 - 高さ 3.3	①微・細・粗砂少 ②酸化塩、やや良好 ③にぶい赤褐色	外面=口縁部横ナデ、体部上位ヘラナデ、下位ヘラ削り。内面=口縁部、体部ナデの後ヘラ磨き。	
72号住居 12	土師器 坏	床面+10cm 1/4	口径 (12.2) 底径 (5.0) 高さ 4.4	①微・細砂少 ②酸化塩、良好 ③褐色	外面=口縁部横ナデ、体部粗雑なナデ、底部回転車削り痕。内面=口縁部横ナデ、体-底部ナデ。赤ロクロ皮、整形。	特異遺物
72号住居 13	土師器 坏	カマド 使用面-7cm 口-体部片	口径 (14.0) 底径 - 高さ -	①微・細砂やや多 ②酸化塩、やや良好 ③明赤褐色	外面=口縁部横ナデ、体部上位ヘラナデ、体部下位-底部ヘラ削り。内面=口縁部横ナデ、体部ナデの後ヘラ磨き。	
72号住居 14	土師器 坏	カマド 使用面-2cm 1/8	口径 (14.0) 底径 - 高さ 5.3	①微・細砂やや多 ②酸化塩、良好 ③褐色	外面=口縁部横ナデ、体部ヘラ削り。内面=口縁部横ナデ、体部ナデ。	
72号住居 15	土師器 坏	埋土中 口縁片	口径 (11.0) 底径 - 高さ -	①微・細砂少 ②酸化塩、良好 ③灰黄褐色	外面=口縁部横ナデ、体部ヘラ削り。内面=ナデ。	
72号住居 16	土師器 坏	カマド+6cm 完形	口径 13.2 底径 - 高さ 5.4	①微・細砂やや多 ②酸化塩、やや良好 ③褐色	外面=口縁部横ナデ、体部上位ヘラナデ、下位ヘラ削り。内面=口縁部横ナデ、体部ナデの後ヘラ磨き。	
72号住居 17	土師器 高坏	掘方埋土 坏部	口径 (17.6) 底径 - 高さ -	①微・細砂少 ②酸化塩、良好 ③明赤褐色	外面=口唇部横ナデ、坏体部ナデ後ヘラ磨き。内面=口唇部横ナデ、体部全面ナデの後丁寧なヘラ磨き。	
72号住居 18	土師器 大钵	床面+6cm 1/3	口径 (24.2) 底径 - 高さ -	①微・細砂やや多 ②酸化塩、良好 ③灰褐色	外面=口縁部横ナデ、体部ヘラ削り。内面=口縁部横ナデ、体部ナデ。	
72号住居 19	土師器 羹	床面+7cm 口縁片	口径 (22.7) 底径 - 高さ -	①微・細・粗砂やや多 ②酸化塩、良好 ③にぶい黄褐色	外面=口縁部横ナデ、胴部縦方向のヘラ削り。内面=口縁部横ナデ、胴部上位ナデ。	No.20と同一整体か
72号住居 20	土師器 羹	埋土中 口縁片	口径 (24.2) 底径 - 高さ -	①微・細・粗砂やや多 ②酸化塩、良好 ③にぶい黄褐色	外面=口縁部横ナデ、胴部縦方向のヘラ削り。内面=口縁部横ナデ、胴部上位ナデ。	No.21と同一整体か
72号住居 21	土師器 長柄羹	カマド 使用面-3cm 下位2/3	口径 - 底径 3.4 高さ -	①微・細砂多 ②酸化塩、やや良好 ③褐色	外面=胴部縦方向のヘラ削り。内面=胴部ヘラナデ。	
72号住居 22	土師器 羹	カマド 使用面-9cm 口-胴上片	口径 (21.0) 底径 - 高さ -	①微・細・粗砂やや多 ②酸化塩、良好 ③にぶい黄褐色	口縁やや歪む。外面=口縁部横ナデ、胴部縦方向のヘラ削り。内面=口縁部横ナデ、胴部上位ナデ。	
72号住居 23	土師器 長柄羹	カマド 使用面直上 略丸形	口径 22.0 底径 3.6 高さ 40.4	①微・細・粗砂やや多 ②酸化塩、良好 ③にぶい褐色	外面=口縁部粗雑な横ナデ、胴部縦方向のヘラ削り。内面=口縁部横ナデ、胴部縦方向のナデ。	
72号住居 24	土師器 長柄羹	カマド 使用面-3cm 底部欠	口径 20.0 底径 - 高さ -	①微・細砂多 ②酸化塩、やや良好 ③浅黄褐色	外面=口縁部横ナデ、胴部縦方向ヘラ削り。内面=ヘラナデ。	
72号住居 25	土師器 羹	床面+9cm 底部片	口径 (5.6) 底径 (5.6) 高さ -	①微・細砂やや多 ②酸化塩、やや良好 ③明赤褐色	外面=胴部下位ヘラ削り。内面=胴部下位ヘラナデ。	

7区 72号住居跡 遺物観察表-3

遺構名 遺物番号	種別 器種	出土位置 残存状況	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考
72号住居 26	土師器 甕	床面+19cm 底部片	口径 - 底径 5.2 高さ -	①微・細砂やや多 ②酸化塩、良好 ③にぶい橙色	外面=胴部下位ヘラ削り、底部ヘラ削り。内面=胴部ナデ。	
72号住居 27	土師器 甕	床面+13cm 底部片	口径 - 底径 6.1 高さ -	①微・細砂やや多 ②酸化塩、やや良好 ③明赤褐色	外面=胴部下位ヘラナデ。内面=胴部下位ヘラナデ。	
72号住居 28	土師器 小型甕	床面直上 胴下半片	口径 - 底径 3.8 高さ -	①微・細・粗砂やや多 ②酸化塩、良好 ③にぶい黄褐色	外面=胴下半縦方向のヘラ削り。内面=胴部下半ナデ。	
72号住居 29	土師器 長胴甕	床面+4cm 下位1/3	口径 - 底径 3.4 高さ -	①微・粗砂多 ②酸化塩、やや良好 ③橙色	外面=胴部ヘラ削り。内面=胴部ヘラナデ。内外面の器面剥落。	
72号住居 30	土師器 甕	埋土中 口縁破片	口径 (21.4) 底径 - 高さ -	①微・細・粗砂少 ②酸化塩、良好 ③にぶい黄褐色	外面=口縁部横ナデの後粗いヘラ磨き。内面=口縁部横ナデ後に粗いヘラ磨き。	
72号住居 31	須恵器 甕	床面+9cm 口~胴中片	口径 (15.5) 底径 - 高さ -	①微・細砂少 ②還元塩、良好 ③暗灰色	ロクロ成・整形。	
72号住居 32	須恵器 甕	埋土中 口縁破片	口径 (15.0) 底径 - 高さ -	①微・細砂少 ②還元塩、良好 ③灰色	ロクロ成・整形。	
72号住居 33	須恵器 大甕	床面+10cm 胴部片	口径 - 底径 - 高さ -	①微・細砂少 ②還元塩、良好 ③灰色	外面=明き痕、明き後に一部ナデ。内面=一部ナデ。	
72号住居 34	須恵器 大甕	カマド 使用面+2cm 胴部片	口径 - 底径 - 高さ -	①微・細砂少 ②還元塩、良好 ③暗灰色	外面=明き痕、明き後に一部ナデ。内面=一部ナデ。	
72号住居 35	須恵器 大甕	床面-7cm 胴部片	口径 - 底径 - 高さ -	①微・細砂少 ②還元塩、良好 ③灰白色	外面=明き痕、明き後に一部ナデ。内面=一部ナデ。	83・86号 住埋土と 接合
72号住居 36	青銅製 金環	埋土中 完形	長さ 3.1 巾 2.4 厚さ 0.4	重量 4.22g	表面腐食。金メッキ剥落。	
72号住居 37	滑石製 模造品 剣形	床面+13cm 完形	長さ 3.80 巾 2.00 厚さ 0.40	石材 蛇紋岩 重量 5.487g	1穴穿孔。孔径0.25cm。	
72号住居 38	砥石	ビット6 1/2	長さ 8.7 巾 5.3 厚さ 3.0	石材 砥沢石 重量 204.2g	4面使用。刃傷多。	
72号住居 39	砥石	埋土中 完形	長さ 13.2 巾 4.2 厚さ 3.4	石材 流紋岩 重量 340.0g	4面使用。非金属の研ぎに使用可。	

73号住居跡 (遺構写真P.L52、遺物写真P.L94)

位置: X=34162 Y=-42953

主軸方位: N-34° - E

規模・形状: 平面形状は6.4m×7.1mを測る大型の隅丸長方形形状を呈し、北東部を72号住居跡との重複により欠失する。

カマド: 残存範囲内においては検出されず、恐らくは重複により欠失した東壁または北壁に存在していたものと推察される。

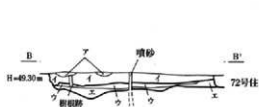
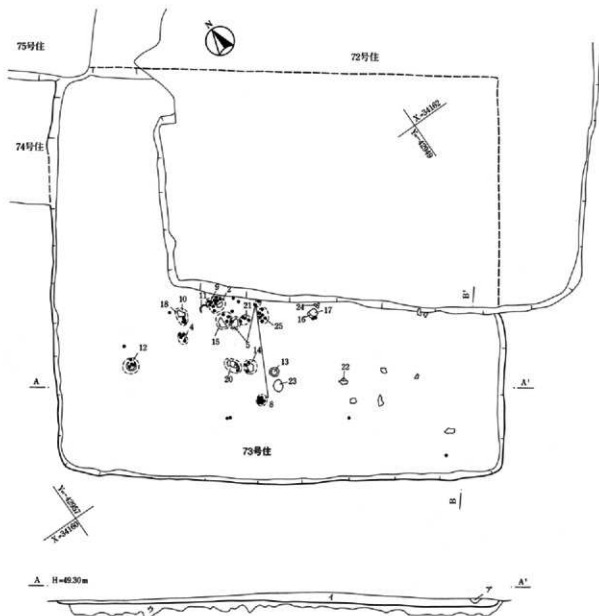
内部施設: 床面調査時においては柱穴等が明瞭に検出し得なかったが、掘り方調査において径30～

39cmを測る柱穴3穴が検出された。

掘り方: 全体に不規則な5～15cmほどの掘り方を有する。

出土遺物: 土師器杯(No.2・5・8・9・16・17)・土師器高坏(No.21・24)が床面直上より出土する。
重複遺構: 北東部において72号住居跡と重複し、新旧関係は遺構平面確認時及び埋土断面の状態から、本住居跡の方が古いものと、また、北西部において74号住居跡と重複し、本住居跡の方が新しいものとそれぞれ判断される。(124頁掲載の重複関係図を参照)

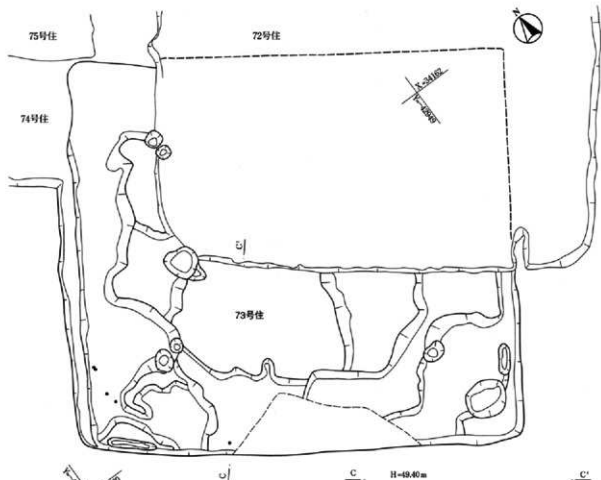
IV 遺構と遺物



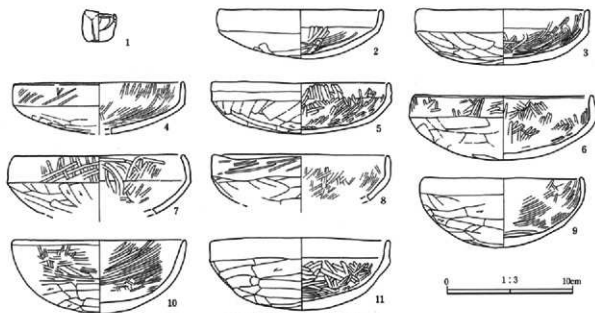
73号住居跡 堆土

- ア：黒褐色砂質土 暗褐色砂質土を底状に含み少量の白色塵粒軽石（洗間C軽石か）を含む
 イ：暗褐色土 少量の砂質ローム粒子・ブロックを含む
 ウ：黒褐色土 多量の砂質ロームブロック・炭化物を含む（掘り方埋土）
 エ：暗褐色土 多量の砂質ローム粒子・砂質ローム小ブロックを含む（掘り方埋土）

73号住居跡 平・断面図

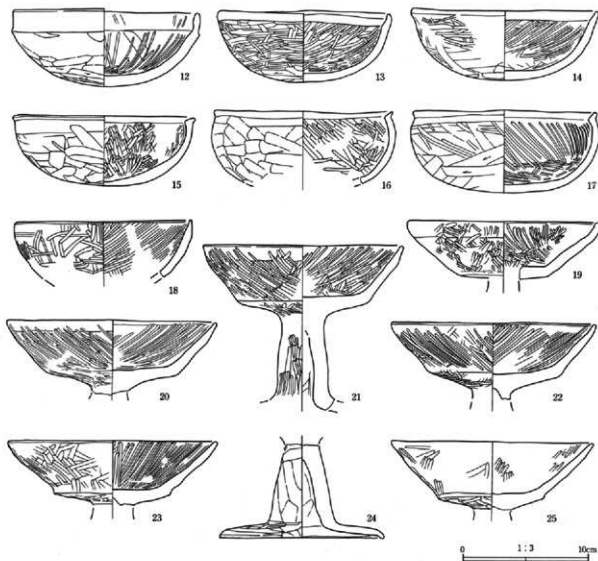


73号住居跡 掘り方平・断面図



73号住居跡 出土遺物図-1

IV 遺構と遺物



73号住居跡 出土遺物図-2

7区 73号住居跡 遺物観察表-1

遺構名 遺物番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考
73号住居 1	手捏ね	壇土中 完形	口径 2.5 底径 1.6 高さ 2.5	①細砂 ②酸化焰、良好 ③にぶい黄褐色-灰黄褐色	手捏ね成形。体部口縁下に対一の焼成前穿孔。	
73号住居 2	土師器 坏	床面直上 4/5	口径 (13.0) 底径 - 高さ 2.9	①微・細砂少 ②酸化焰、良好 ③橙色	外面=口縁部横ナデ、底部ヘラ削り。内面=口縁部ナデ、体-底部粗いヘラ磨き。	
73号住居 3	土師器 坏	壇土中 4/5	口径 13.4 底径 - 高さ 4.5	①微・細砂少 ②酸化焰、良好 ③橙色	外面=口縁部ナデ、体-底部ヘラ削り。内面=体部-底部ヘラ磨き。	
73号住居 4	土師器 坏	床面+2cm 1/2	口径 (13.4) 底径 - 高さ (4.0)	①微・細砂少 ②酸化焰、良好 ③明赤褐色	外面=口縁部横ナデ後粗いヘラ磨き、体部ヘラナデ、底部ヘラ削り。内面=口縁-体-底部放射状ヘラ磨き。	
73号住居 5	土師器 坏	床面直上 4/5	口径 14.0 底径 - 高さ 4.0	①微・細砂少 ②酸化焰、やや良好 ③明赤褐色	外面=口縁部横ナデ、体部上位ヘラナデ、下位ヘラ削り。内面=口縁部から体部ナデの後ヘラ磨き。	
73号住居 6	土師器 坏	壇土中 1/3	口径 (14.0) 底径 - 高さ 5.0	①微・細砂やや多 ②酸化焰、やや良好 ③橙色	外面=口縁部横ナデの後粗いヘラ磨き、体部上位ヘラナデ、下位ヘラ削り。内面=口縁-体部ナデの後粗いヘラ磨き。	

7区 73号住居跡 遺物観察表-2

遺構名 遺物番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①粘土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考
73号住居 7	土師器 坏	埋土中 口縁片	口径 (13.4) 底径 - 高さ (4.5)	①微・細砂少 ②酸化塩、良好 ③明赤褐色	外面=口縁部横ナデ後にヘラ磨き、体=底部ヘラ磨き。内面=口縁部=体部やや粗いヘラ磨き。	
73号住居 8	土師器 坏	床面直上 1/3	口径 13.8 底径 - 高さ (3.5)	①微・細砂少 ②酸化塩、良好 ③明赤褐色	外面=口縁部横ナデ後に粗いヘラ磨き、体=底部ヘラ磨き。ヘラナデ。内面=口縁部横ナデ、体部粗いヘラ磨き。	
73号住居 9	土師器 坏	床面直上 1/2	口径 (12.3) 底径 - 高さ 5.4	①微・細砂少 ②酸化塩、良好 ③明赤褐色	外面=口縁部横ナデ後にヘラ磨き、体=底部ヘラ磨き。内面=口縁部=体部ヘラ磨き。	
73号住居 10	土師器 坏	床面+6cm 1/4	口径 (13.6) 底径 - 高さ 5.9	①微・細砂少 ②酸化塩、良好 ③明赤褐色	外面=口縁部横ナデ、体部粗いヘラ磨き、底部ヘラ磨き。内面=口縁部=体部ヘラ磨き、底部ナデ。	
73号住居 11	土師器 坏	床面+3cm 略定形	口径 14.1 底径 - 高さ 5.6	①微・細砂やや多 ②酸化塩、やや良好 ③橙褐色	外面=口縁部横ナデ、体=底部ヘラ磨き。内面=口縁部横ナデ、体部ナデの後粗いヘラ磨き。	
73号住居 12	土師器 坏	床面+4cm 略定形	口径 14.6 底径 - 高さ 6.1	①微・細砂少 ②酸化塩、良好 ③にぶい赤褐色	外面=口縁部横ナデ、体=底部ヘラ磨き後一部ヘラナデ。内面=口縁部ナデ、体=底部粗い放射状ヘラ磨き。	
73号住居 13	土師器 坏	床面+3cm 定形	口径 13.4 底径 - 高さ 5.6	①微・細砂少 ②酸化塩、良好 ③明赤褐色	口唇部内湾。外面=口縁部横ナデ、体部やや粗いヘラ磨き、底部ヘラ磨き。内面=口縁部横ナデ、体部ヘラ磨き。	
73号住居 14	土師器 坏	床面+4cm 略定形	口径 14.6 底径 - 高さ 5.4	①微・細砂少 ②酸化塩、良好 ③明赤褐色	口縁部内湾。外面=口縁部横ナデ、体部上位粗いヘラ磨き、下位=底部ヘラ磨き。内面=口縁部横ナデ、体部ヘラ磨き、底部ヘラナデ。	
73号住居 15	土師器 坏	床面+3cm 4/5	口径 14.3 底径 - 高さ 5.5	①微・細砂やや多 ②酸化塩、やや良好 ③明赤褐色	口縁内斜。外面=口唇部横ナデ、体部上位ヘラナデ、下位ヘラ磨き。内面=口縁部横ナデ、体部ナデの後ヘラ磨き。	
73号住居 16	土師器 坏	床面直上 1/4	口径 (14.0) 底径 - 高さ 5.4	①微・細砂やや多 ②酸化塩、やや良好 ③赤褐色	口縁内斜。外面=口唇部横ナデ、体部上位ヘラナデ、下位ヘラ磨き。内面=口縁部横ナデ、体部ナデの後ヘラ磨き。	
73号住居 17	土師器 坏	床面直上 3/4	口径 14.3 底径 - 高さ 6.5	①微・細砂少 ②酸化塩、良好 ③明赤褐色	口縁部内斜。外面=口縁部横ナデ、体部上位ヘラナデ、体部下位=底部ヘラ磨き。内面=口縁部横ナデ、体部ヘラ磨き。	外面=体部剥落
73号住居 18	土師器 高坏	床面+6cm 坏部片	口径 (14.0) 底径 - 高さ 5.4	①微・細砂少 ②酸化塩、やや良好 ③にぶい橙褐色	外面=口唇部横ナデ、体部ヘラ磨きの後粗いヘラ磨き。内面=口縁部=体部ナデの後丁寧なヘラ磨き。	
73号住居 19	土師器 高坏	埋土中 坏部片	口径 (15.1) 底径 - 高さ 5.4	①微・細砂少 ②酸化塩、やや良好 ③明赤褐色	外面=口縁部=体部ナデの後ヘラ磨き。内面=口縁部=体部ナデの後ヘラ磨き。	
73号住居 20	土師器 高坏	床面+2cm 坏部4/5	口径 16.5 底径 - 高さ 5.4	①微・細砂少 ②酸化塩、良好 ③明赤褐色	外面=口縁部=体部=底部ナデの後ヘラ磨き。内面=全面ナデの後丁寧なヘラ磨き。	
73号住居 21	土師器 高坏	床面直上 坏脚片	口径 15.7 底径 - 高さ 12.8	①微・細砂少 ②酸化塩、やや良好 ③明赤褐色	外面=口縁部=体部=脚部ナデの後ヘラ磨き。坏部内面=ナデの後ヘラ磨き。脚部内面=ヘラナデ。	
73号住居 22	土師器 高坏	床面+6cm 坏部	口径 16.2 底径 - 高さ 5.4	①微・細砂少 ②酸化塩、やや良好 ③橙褐色	外面=口縁部=体部=底部ナデの後ヘラ磨き。内面=全面ナデの後丁寧なヘラ磨き。	
73号住居 23	土師器 高坏	床面+3cm 坏部	口径 16.5 底径 - 高さ 5.4	①微・細砂少 ②酸化塩、良好 ③橙褐色	外面=口縁部=体部ナデの後ヘラ磨き、底部ヘラナデ。内面=全面ナデの後丁寧なヘラ磨き。	
73号住居 24	土師器 高坏	床面直上 脚部1/2	口径 (12.9) 底径 - 高さ 5.4	①粗・細砂少 ②酸化塩、やや良好 ③橙褐色	外面=ヘラナデ。裏面ナデ。	
73号住居 25	土師器 高坏	床面+3cm 坏部3/4	口径 16.0 底径 - 高さ 5.4	①微・細砂やや多 ②酸化塩、やや良好 ③明赤褐色	外面=口縁部から体部ナデの後粗いヘラ磨き、底部ヘラナデ。内面=口縁部ナデの後ヘラ磨き、体部ナデ。	

IV 遺構と遺物

74号住居跡 (遺構写真P.L.52、遺物写真P.L.-)

位置：X=34167 Y=-42952

主軸方位：N-38° -E

規模・形状：重複が激しく遺構の遺存状態が悪いが、平面形状は5.1m×6.4mを測る隅丸長方形を呈すものと思われる。床面までの残存深度は僅かに1~10cmほどを測るのみである。

カマド：残存部からは検出できず、重複により削平された壁のいずれかに位置していたものと推察される。
内部施設：床面調査段階では柱穴等を明瞭に検出し得なかったが、掘り方調査段階で西部より径20~30cm、深度50cmを測るピットが検出され、また、重複する遺構の掘り方調査の結果、72号住居北コーナー部および75号住居内中央南東よりに検出されたピットが、位置的に本住居跡の柱穴になるものと考えられる。

掘り方：重複のため本住居の掘り方は南西コーナー付近のみであり、ここでは深度5cmほどの不定形の掘り込みが検出されるが、全容は明らかではない。
出土遺物：僅かに遺物の出土があるものの、特筆すべき遺物の出土はみられない。

重複遺構：北側において75号住居跡と、南東側において72号住居跡と、南側において73号住居跡と北東側において77号住居跡とそれぞれ重複する。新旧関係は遺構平面確認時および埋土断面の状況より、77号住居跡を除き他の住居跡より本住居跡の方が古いものと判断される。77号住居跡との新旧関係は、遺構の遺存状態が悪いため不明である。(124頁掲載の重複関係図を参照)

75号住居跡 (遺構写真P.L.52、遺物写真P.L.95)

位置：X=34169 Y=-42953

主軸方位：N-40° -E

規模・形状：重複と上面の削平により壁が残るのは南西コーナー部のみであるが、4.1m×4.8mを測る隅丸長方形を呈するものと思われる。床面までの残存深度は3~10cmほどを測る。

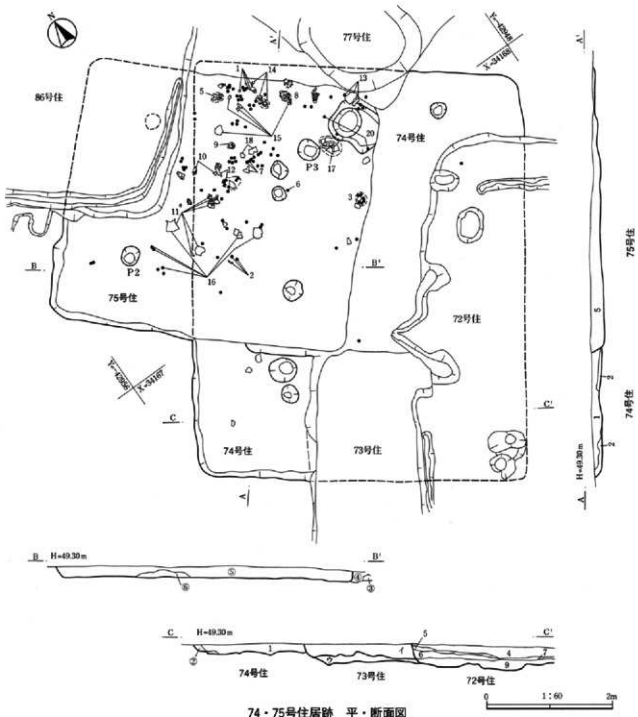
カマド：残存範囲内においては検出し得ず、恐らくは貯蔵穴の位置より、北東壁の東寄りに在ったものが削平により欠失したものと考えられる。

内部施設：床面調査時には明瞭ではなかった施設は、掘り方調査時に検出できた。柱穴は径28~36cm、深度40~60cmを測るピット3穴が検出され、残る北西側は重複遺構により欠失。また、貯蔵穴は北東コーナー部に位置し、径40~48cm、深度38cmを測り、楕円形を呈する。

掘り方：北西コーナー部は重複のため明らかではないが、全体に掘り込みは浅く、住居中央部より壁際がやや低く窪む。

出土遺物：土師器環 (No.1・2・3)・土師器高環 (No.5・7)・土師器小型甕 (No.8・10)・土師器甕 (No.12・14・15・17) が床面直上から、土師器小型甕 (No.9)・土師器甕 (No.16・18) が住居掘り方内から出土する。

重複遺構：北側において86号住居跡と、南側において74号住居跡とそれぞれ重複し、新旧関係は遺構平面確認時および埋土断面の状況より、本住居跡は86号住居跡より古く74号住居跡より新しいものと判断された。(124頁掲載の重複関係図を参照)

**74号住居跡 礎土**

- ①: 黒褐色土 少量の焼土粒子・炭化物を含む
- ②: 黒褐色土 多量のロームブロックを含む
- ③: 褐色土 少量の炭化物を含む
- ④: 黒褐色土 微量のローム粒子を含む

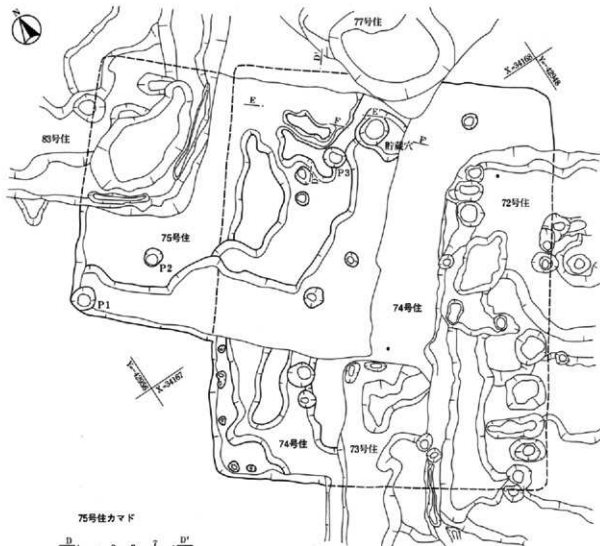
75号住居跡 礎土

- ⑤: 黒褐色土 少量のローム粒子・炭化物を含む
- ⑥: 黒褐色土 多量のローム粒子を含む

75号住居跡柱穴 礎土

- P1 黒褐色土 少量の砂質ローム小ブロックを含む
- P2 黒褐色土 少量の砂質ローム小ブロックを含む
- P3 暗褐色土 少量の砂質ローム小ブロック・焼土粒子・炭化物を含む

IV 遺構と遺物



75号住カマド



75号住カマド



75号住貯蔵穴



75号住居跡カマド 埋土

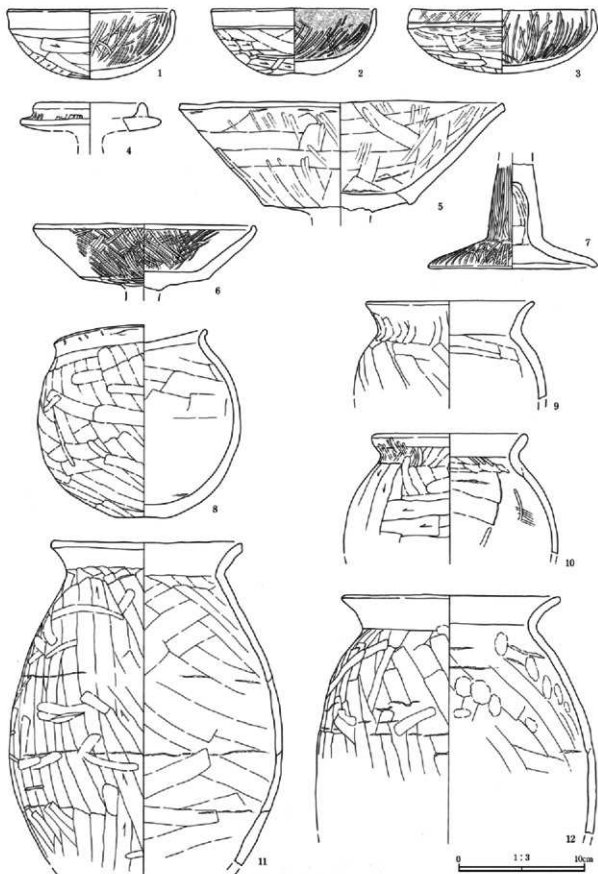
- 1: 明褐色土 少量の乳白色粘土小ブロック・焼土小ブロックを含む
- 2: 褐色土 多量の乳白色粘土小ブロック・焼土小ブロックを含む
- 3: 褐色土 少量の焼土小ブロックと微量の乳白色粘土小ブロックを含む
- 4: 褐色土 多量の焼土小ブロックを含む
- 5: 褐色土 多量の炭化物・灰と少量の焼土小ブロックを含む
- 6: 乳白-灰白色粘土 少量の褐色土を含む (袖部)
- 7: 灰褐色土 少量の焼土小ブロックを含む
- 8: 炭化物層
- 9: 暗褐色土 多量の黒色土・砂質ロームブロックを含む (掘り方埋土)

75号住居跡貯蔵穴 埋土

- 1: 黒褐色土 少量の砂質ローム小ブロック・焼土粒子を含む
- 2: 暗褐色土 多量の砂質ロームブロックを含む (住居掘り方埋土)

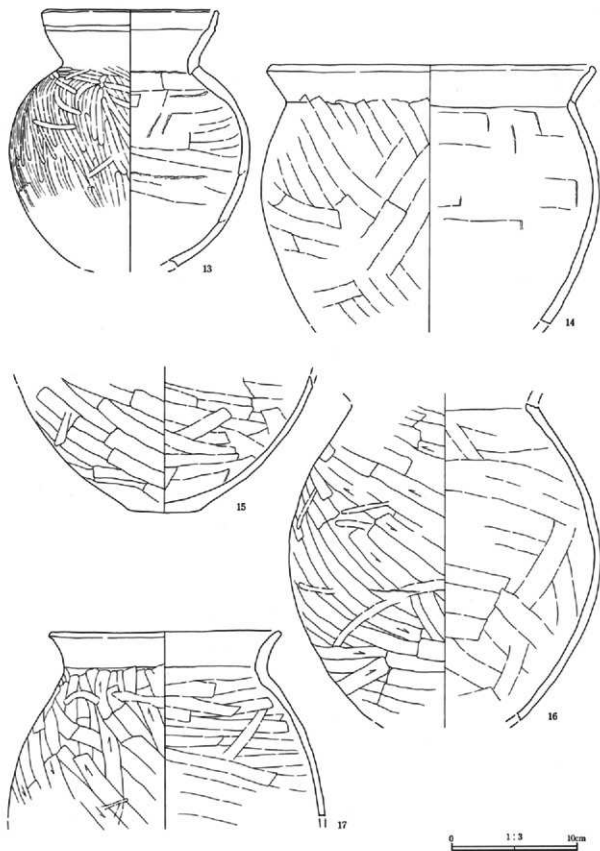


74・75号住居跡 掘り方・断面図

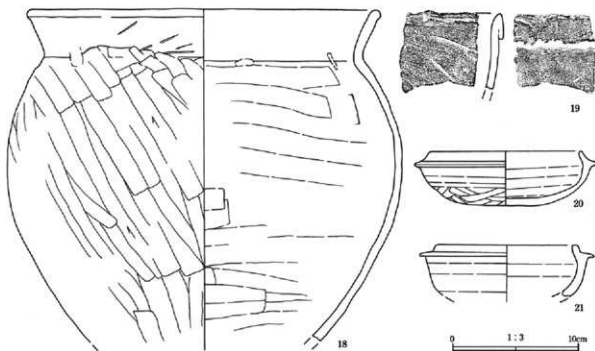


75号住居跡 出土遺物図一1

IV 遺構と遺物



75号住居跡 出土遺物図一 2



75号住居跡 出土遺物図-3

7区 75号住居跡 遺物観察表-1

遺物番号	種別	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①粘土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考
75号住居 1	土師器 環	床面直上 1/2	口径 13.2 底径 - 高さ 5.5	①微・細砂やや多 ②酸化焰、やや良好 ③橙色	外面=口縁部横ナデ、体部ヘラ削り。内面=口縁部横ナデ、体部ナデ後にヘラ磨き。	
75号住居 2	土師器 環	床面直上 略方形	口径 13.0 底径 3.6 高さ 5.2	①微・細砂やや多 ②酸化焰、やや良好 ③明赤褐色	外面=口縁部横ナデ、体部ヘラ削り後粗いヘラナデ。内面=口縁部横ナデ、体部ナデ後にヘラ磨き。	
75号住居 3	土師器 環	床面直上 1/2	口径 14.2 底径 - 高さ 5.0	①微・細砂少 ②酸化焰、良好 ③明赤褐色	外面=口縁部横ナデ、体部上位ヘラナデ、下位~底部ヘラ削り。内面=口縁部横ナデ、体部ナデ後に放射状ヘラ磨き。	
75号住居 4	土師器 器台?	掘方糠土 破片	口径 (11.0) 底径 - 高さ -	①微・細砂少 ②酸化焰、やや良好 ③橙色	内外面共にナデ。	
75号住居 5	土師器 高環 (大型)	床面直上 坏部2/3	口径 25.7 底径 - 高さ -	①微・細砂少 ②酸化焰、やや良好 ③明赤褐色	内外面口縁部~体部ヘラナデ後に粗雑なヘラ磨き。	
75号住居 6	土師器 高環	床面直上 坏部1/4	口径 (17.4) 底径 - 高さ -	①微・細砂少 ②酸化焰、良好 ③明赤褐色	内外面口縁部~体部ヘラナデ後に丁寧なヘラ磨き。底部外面=ヘラナデ。	
75号住居 7	土師器 高環	床面直上 胴部	口径 - 底径 13.4 高さ -	①微・細砂少 ②酸化焰、良好 ③橙色	外面=ナデ後に丁寧なヘラ磨き。裏面丁寧なナデ。	
75号住居 8	土師器 小型甕	床面直上 胴一部欠	口径 12.0 底径 4.0 高さ 15.1	①微・細砂少 ②酸化焰、良好 ③橙色	器形やや歪。外面=口縁部横ナデ、胴部ヘラナデ。内面=口縁部横ナデ、胴部ヘラナデ。	
75号住居 9	土師器 小型甕	床面-5cm 上位1/3	口径 13.4 底径 - 高さ -	①微・細砂少 ②酸化焰、良好 ③明赤褐色	外面=口縁部横ナデ、肩部ヘラナデ、胴部ヘラ削り。内面=口縁部横ナデ、胴部ヘラナデ。	
75号住居 10	土師器 小型甕	床面直上 上位1/4	口径 12.0 底径 - 高さ -	①微・細砂やや多 ②酸化焰、やや良好 ③にぶい黄褐色	外面=口縁部横ナデ、肩部ヘラナデ、胴部ヘラ削り。内面=口縁部横ナデ、胴部ヘラナデ。	
75号住居 11	土師器 甕	埋土中 上部1/2	口径 15.0 底径 - 高さ -	①微・細砂やや多 ②酸化焰、良好 ③にぶい橙色	外面=口縁部横ナデ、胴部ヘラ削り。内面=口縁部横ナデ、胴部ヘラナデ。	

IV 遺構と遺物

7区 75号住居跡 遺物観察表-2

遺構名 遺物番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考
75号住居 12	土師器 甕	床面直上 口～胴部片	口径 (17.1) 底径 - 高さ -	①灰・細砂やや多 ②酸化塩、やや良好 ③にぶい藍色	口縁～胴部やや歪。外面＝口縁部横ナデ、 肩～胴部ヘラ削り。内面＝口縁部横ナデ、胴部 ヘラナデで指頭状跡残る。	
75号住居 13	土師器 甕	床面直上 口～胴部片	口径 14.0 底径 - 高さ -	①灰・細砂やや多 ②酸化塩、良好 ③にぶい藍色	外面＝口縁部横ナデ、中位に凹線。肩～胴部中 位細かいヘラナデ、下位ナデ。内面＝口縁部横 ナデ、胴部ヘラナデ。	
75号住居 14	土師器 甕	床面直上 口～胴部片	口径 (26.0) 底径 - 高さ -	①灰・細砂やや多 ②酸化塩、やや良好 ③にぶい藍色	外面＝口縁部ナデ、肩～胴部上位ヘラナデ。内 面＝口縁部横ナデ、胴部ヘラナデ。	
75号住居 15	土師器 甕	床面直上 底部片	口径 - 底径 5.6 高さ -	①灰・細砂やや多 ②酸化塩、やや良好 ③にぶい藍色	外面＝胴部下位ヘラ削り。内面＝ヘラナデ。	
75号住居 16	土師器 甕	床面～4cm 胴部片	口径 - 底径 - 高さ -	①灰・細砂やや多 ②酸化塩、やや良好 ③にぶい藍色	外面＝胴部ヘラ削り。内面＝胴部ヘラナデ。	
75号住居 17	土師器 甕	床面直上 上位1/2	口径 18.4 底径 - 高さ -	①灰・細砂やや多 ②酸化塩、良好 ③にぶい藍色	外面＝口縁部横ナデ、胴部上位ヘラ削り。内面＝ 口縁部横ナデ、胴部ヘラナデ。	
75号住居 18	土師器 甕	床面～4cm 口～胴部片	口径 (28.0) 底径 - 高さ -	①灰・細砂やや多 ②酸化塩、やや良好 ③にぶい藍色	外面＝口縁部横ナデ、胴部縦方向のヘラ削 り。内面＝口縁部横ナデ、胴部縦方向のヘラナ デ。	
75号住居 19	土師器 小型甕	埋土中 口縁片	口径 - 底径 - 高さ -	①灰・細砂やや多 ②酸化塩、やや良好 ③明赤褐色	粗雑な折り返し口縁、外面＝体部縦方向の刷毛 目。内面＝ナデ。	
75号住居 20	須恵器 坏	床面直上 1/2	口径 (12.0) 底径 - 高さ 4.2	①灰・細砂少 ②還元塩、良好 ③暗赤灰色	ロクロ成・整形。外面＝底部のみ手持ちヘラ調 整。	
75号住居 21	須恵器 坏	埋土中 破片	口径 (11.0) 底径 - 高さ -	①灰・細砂少 ②酸化塩、良好 ③灰色	ロクロ成・整形。	

76号住居跡 (遺構写真P.L53、遺物写真P.L96)

位置：X=34170 Y=-42943

主軸方位：N-41° -W

規模・形状：上面を削平され、カマドと床面の一部
が残るのみで、住居の平面形状および規模は不明。

カマド：南東壁の南寄りに位置し、遺存状態は不良。
芯材を用いず粘土のみで構築される。

内部施設：カマド脇の南コーナー部に径1m、深度
50cmを測る貯蔵穴を一基、推定住居範囲より径30～

50cm、深度15～30cmを測るピット4穴が検出される。
掘り方：5cm程の平坦な掘り込みに貼り床を持つ

のみで、深い土坑状の掘り込みは持たない。

出土遺物：土師器坏(No.5)・土師器鉢(No.8・9)・土師器
甕(No.10・12)・土師器壺(No.15)がカマド使用面直上よ
り、土師器甕(No.14)が貯蔵穴内より、土師器甕(No.13・
16)が住居・カマド掘り方内よりそれぞれ出土する。

重複遺構：北西側に77号住居跡と重複するが、両遺

構共に上面が削平され遺存状態が悪いため、新旧関
係は不明である。

77号住居跡 (遺構写真P.L94、遺物写真P.L96)

位置：X=34170 Y=-42949

主軸方位：N-17° -E

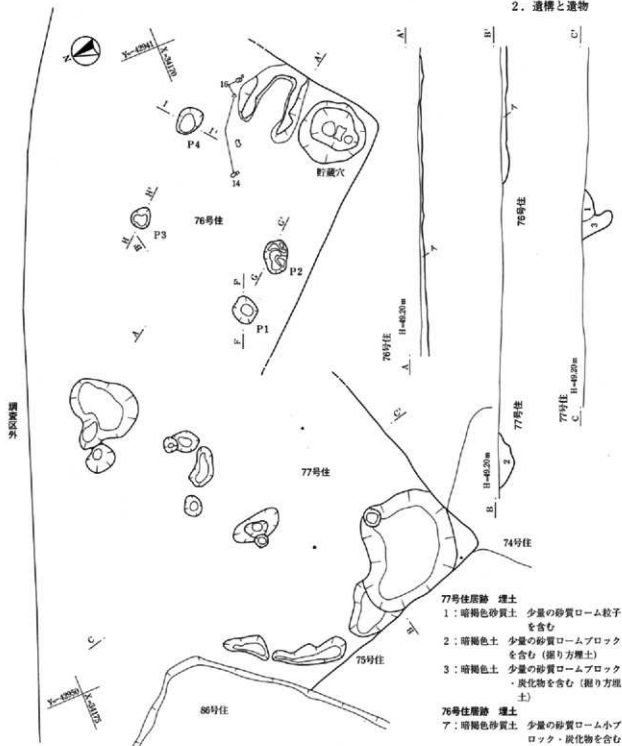
規模・形状：調査区端に位置し、検出段階で既に上
面の削平により掘り方の一部を残すのみとなり、規
模・形状は不明である。

カマド：不明。

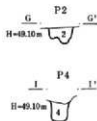
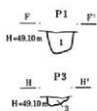
内部施設・掘り方：住居範囲内と思われる部分か
ら、幾つかの土坑状の掘り込みを検出するが、柱
穴・貯蔵穴と断定できるものはない。

出土遺物：土師器坏が掘り方埋土内より出土する。
重複遺構：西側に86号住居跡、南側に74号住居跡、
東側に76号住居跡とそれぞれ重複するが、残念なが
ら新旧関係は明らかではない。

2. 遺構と遺物



- 77号住居跡 埋土**
- 1: 暗褐色砂質土 少量の砂質ローム粒子を含む
 - 2: 暗褐色土 少量の砂質ロームブロックを含む (掘り方埋土)
 - 3: 暗褐色土 少量の砂質ロームブロック・炭化物を含む (掘り方埋土)
- 76号住居跡 埋土**
- ア: 暗褐色砂質土 少量の砂質ローム小ブロック・炭化物を含む

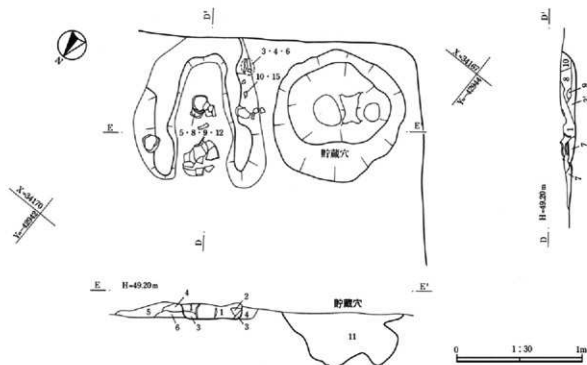


- 76号住居跡柱穴 埋土**
- 1: 暗褐色砂質土 多量の砂質ロームブロックを含む
 - 2: 暗褐色砂質土 少量の砂質ローム粒子を含む
 - 3: 暗褐色砂質土 黒褐色土を炭状に含む
 - 4: 黒褐色砂質土 多量の砂質ローム小ブロックを含む

0 1:60 2m

76・77号住居跡 平・断面図

IV 遺構と遺物

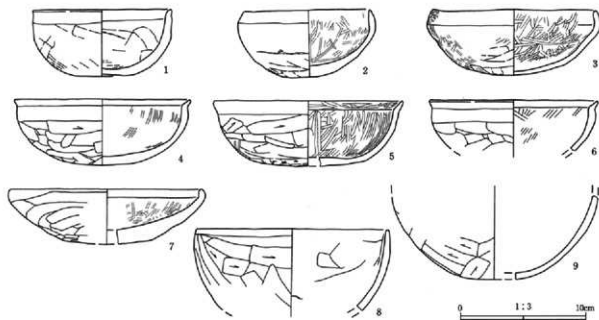


76号住居跡 カマド平・断面図

76号住居跡カマド・貯蔵穴 埋土

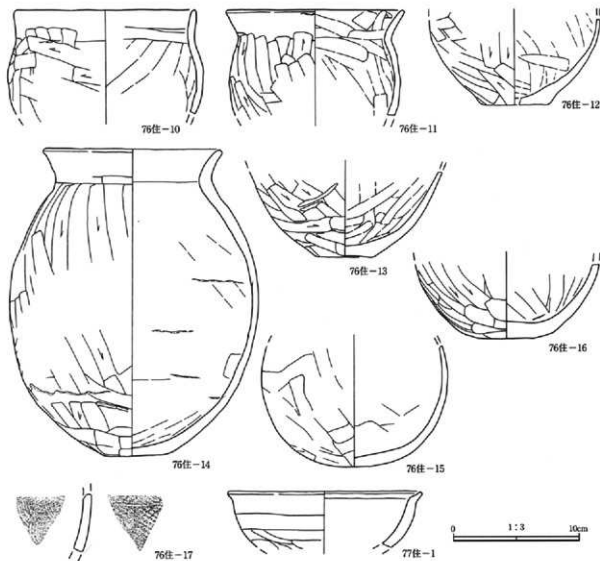
- 1: 暗灰褐色土 多量の焼土小ブロックと少量の黄白色粘土小ブロック・炭化物を含む
- 2: 暗灰褐色土 多量の黄白色粘土ブロック・焼土ブロックを含む(天井部崩落土)
- 3: 暗灰褐色土 少量の砂質ローム粒子を含む
- 3': 暗灰褐色土 少量の砂質ローム粒子・焼土小ブロックを含む
- 4: 黄白色粘土 袖部。燃焼部に少量の焼土小ブロックを含む
- 5: 暗褐色土 少量の砂質ローム小ブロック・炭化物を含む

- 6: 暗褐色土 ローム漸移層上に少量の砂質ローム小ブロックを含む
- 7: 暗褐色砂質土 少量の炭化物を含む
- 8: 黄白色粘土 少量の焼土小ブロックを含む
- 9: 暗褐色土 混入物を含まない
- 10: 褐色土 少量の黄白色粘土小ブロック・焼土粒子・炭化物を含む
- 11: 暗褐色砂質土 少量の炭化物・焼土小ブロックを含む(貯蔵穴埋土)



76号住居跡 出土遺物図

2. 遺構と遺物



76・77号住居跡 出土遺物図

7区 76号住居跡 遺物観察表-1

遺構名 遺物番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考
76号住居 1	土師器 坏	壘土中 1/3	口径 11.3 底径 - 高さ 5.2	①灰・細・粗砂少 ②酸化塩、やや良好 ③にぶい黄褐色	外面=口縁部横ナデ、体部上位ヘラナデ、下位から底部ヘラ削り。内面=ナデ。器面やや摩滅。	
76号住居 2	土師器 坏	壘土中 完形	口径 11.0 底径 - 高さ 5.2	①灰・細・粗砂少 ②酸化塩、良好 ③にぶい橙褐色	外面=口縁部横ナデ、体部ナデ、底部ヘラ削り。内面=ナデの後に粗いヘラ磨き。	
76号住居 3	土師器 坏	カマド 使用面+2cm 4/5	口径 13.0 底径 - 高さ 5.2	①灰・細・粗砂少 ②酸化塩、やや良好 ③橙褐色	外面=口縁~底部全面ナデの後に粗いヘラ磨き。内面=口縁~底部全面ナデの後に粗いヘラ磨き。	
76号住居 4	土師器 坏	カマド 使用面+2cm 1/3	口径 (13.9) 底径 - 高さ 5.2	①灰・細・粗砂少 ②酸化塩、やや良好 ③にぶい橙褐色	口縁内斜。外面=口縁部横ナデ、体部ヘラ削り。内面=口縁部横ナデ、体部ナデの後に粗いヘラ磨き。器面やや摩滅。	
76号住居 5	土師器 坏	カマド 使用面直上 1/5	口径 14.9 底径 - 高さ 5.1	①灰・細砂やや多 ②酸化塩、良好 ③赤褐色	外面=口縁部横ナデ、体部上位ヘラ削り、体部下位~底部ヘラナデ。内面=全面ナデの後にヘラ磨き。	
76号住居 6	土師器 坏	カマド 使用面+2cm 口縁破片	口径 (13.2) 底径 - 高さ -	①灰・細・粗砂少 ②酸化塩、やや良好 ③橙褐色	口縁内斜。外面=口縁部横ナデ、体部ヘラ削り。内面=口縁部横ナデ、体部ナデの後に粗いヘラ磨き。器面やや摩滅。	

IV 遺構と遺物

7区 76号住居跡 遺物観察表-2

遺構名 遺物番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考
76号住居 7	土師器 高坏	埋土中 坏部破片	口径 (15.4) 底径 - 高さ -	①灰・細砂少 ②酸化塩、やや良好 ③明赤褐色	成・整形やや粗雑。坏部外面=口縁粗雑なナデ、 体部へう割り。坏部内面=口縁粗雑なナデ、体部 ナデ後に雑なへう磨き。	
76号住居 8	土師器 鉢	カマド 使用面直上 1/4	口径 (15.2) 底径 - 高さ -	①灰・細砂やや多 ②酸化塩、良好 ③褐色	外面=口縁~体部上位ナデ、下位~底部丁寧な へう割り。内面=全面ナデ。	
76号住居 9	土師器 鉢?	カマド 使用面直上 底部片	口径 - 底径 - 高さ -	①灰・細砂やや多 ②酸化塩、やや良好 ③明赤褐色	外面=へう割り。内面=ナデ。	
76号住居 10	土師器 壺	カマド 使用面直上 口縁破片	口径 (14.4) 底径 - 高さ -	①灰・細砂やや多 ②酸化塩、やや良好 ③にぶい赤褐色	外面=口縁部横ナデ、胴部上位へうナデ。内面= ナデ。	
76号住居 11	土師器 壺	埋土中 口縁片	口径 (14.0) 底径 - 高さ -	①灰・細砂少 ②酸化塩、良好 ③褐色	外面=口縁部横ナデ、胴部上位縦方向のへう割 り。内面=ナデ。	
76号住居 12	土師器 甕	カマド 使用面直上 底部片	口径 - 底径 5.2 高さ -	①灰・細砂やや多 ②酸化塩、やや良好 ③にぶい褐色	外面=へう割り。内面=ナデ。	
76号住居 13	土師器 甕	カマド横方 底部片	口径 - 底径 4.6 高さ -	①灰・細砂やや多 ②酸化塩、やや良好 ③にぶい褐色	外面=へう割り。内面=ナデ。	
76号住居 14	土師器 甕	貯蔵穴 床面+2cm 2/3	口径 (14.2) 底径 5.0 高さ 24.0	①灰・細砂やや多 ②酸化塩、やや良好 ③灰黄褐色	外面=口縁部ナデ、胴部縦方向の丁寧なへう割 り。内面=口縁部横ナデ、胴部ナデ。	
76号住居 15	土師器 甕?	カマド 使用面直上 底部片	口径 - 底径 - 高さ -	①灰・細砂やや多 ②酸化塩、やや良好 ③明赤褐色	外面=胴部ナデ。内面=胴部ナデ。器面やや摩 減。	
76号住居 16	土師器 甕	床面-2cm 底部片	口径 - 底径 4.4 高さ -	①灰・細砂やや多 ②酸化塩、やや良好 ③明赤褐色	外面=底部へう割り。内面=底部ナデ。	
76号住居 17	須恵器 甕	埋土中 破片	口径 - 底径 - 高さ -	①灰・細砂少 ②還元塩、良好 ③灰色	外面=叩き痕。内面=当て具痕。	

7区 77号住居跡 遺物観察表

遺構名 遺物番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考
77号住居 1	土師器 坏	南方埋土 口縁破片	口径 (15.4) 底径 - 高さ -	①灰・細砂やや多 ②酸化塩、やや良好 ③褐色	外面=口縁部横ナデ、体部上位横ナデ。下位~底 部丁寧なへう割り。内面=口縁部横ナデ、体部上 位横ナデ、下位~底部ナデ。器面やや摩減。	

81号住居跡 (遺構写真P.L53、遺物写真P.L96)

位置: X=34170 Y=-42961

主軸方位: N-58°-W

規模・形状: 調査区西端部に位置し、住居北東コー
ナーのみ調査範囲内に在るため、形状・規模の全
容は不明。調査範囲内において北壁長3.4m、東壁
長4.9m、床面までの残存深度10cmほどを測る。

カマド: 住居内より焼土の散乱を検出するが、カマ
ド跡には至らず、調査区内の壁には煙道の掘り込み
も確認できないことから、調査区外の南西・北西壁
のいずれかに位置するものと推察される。

内部施設: 調査区内の二壁下に壁溝が巡り、北東部
柱穴が1基検出され、径55~70cm、深度60cmほど
を測る。また、この柱穴の南側の床面がおよそ1m
四方7~8cmほど浅く窪む。

掘り方: 全体に5~10cmほど浅く掘り窪むものの、
顕著な掘り方は持たない。

出土遺物: 出土遺物は僅かに埋土内からの出土であ
り、土師器坏の出土があるのみである。

重複遺構: 北東部において82号住居跡と重複し、新
旧関係は遺構平面確認時の状況より、本住居跡の方
が新しいものと判断される。

82号住居跡 (遺構写真PL54、遺物写真PL96)

位置: X=34173 Y=-42959

主軸方位: N-30° -W

規模・形状: 平面形状は北西壁長3.7m、北東壁長2.9mを測り、南東壁カマド脇が40cmほど大きくせり出す不定形を呈する。床面までの残存深度は15cmほどを測る。

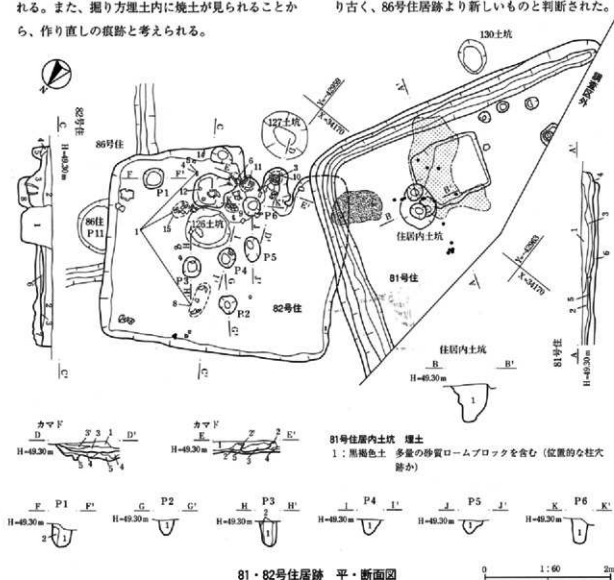
カマド: 南東壁中央南寄りに位置し、袖部は住居壁の延長として地山を掘り残し、粘土を貼り構築される。検出時は上面の削平により全長70cmほどの小規模なカマドではあるが、カマド脇の壁が大きく外側へせり出しており、恐らくは欠失されたカマド上部煙道端は屋外に向け長く延びていたものと推察される。また、掘り方埋土内に焼土が見られることから、作り直しの痕跡と考えられる。

内部施設: 住居中央部からカマド周辺にかけて、深度22~51cmを測るピット・土坑が検出されるが、位置的にいずれも柱穴とは断定できなかった。

掘り方: 住居中央部を残し、壁に沿って5~10cmほど帯状に掘り窪める。

出土遺物: 土師器環(No.3)・土師器小型甕(No.9)・土師器甕(No.10・11)がカマド使用面直上より、土師器環(No.6)が住居掘り方内より出土する。また、用途不明の焼成粘土塊が出土する。

重複遺構: 南西側において81号住居跡と重複し、北東側において86号住居跡と重複する。新旧関係は遺構平面確認時の状況より、本住居跡は81号住居跡より古く、86号住居跡より新しいものと判断された。



IV 遺構と遺物

81号住居跡 埋土

- 1: 暗褐色砂質土 多量の砂質ロームブロックと焼土小ブロックを含む
- 2: 暗褐色砂質土 少量の砂質ローム粒子を含む
- 3: 暗褐色砂質土 少量の砂質ロームブロックを含む
- 4: 褐色砂質土 少量の砂質ロームブロックを含む
- 5: 褐色砂質土 多量の砂質ローム小ブロックを含む
- 6: 暗褐色土 少量の砂質ローム小ブロック・炭化物を含む(掘り方埋土)

2: 明灰色粘土 袖部

- 2: 橙~赤褐色土 2層粘土の焼土化部
- 3: 暗褐色土 多量の焼土小ブロック・灰・炭化物を含む
- 3': 明灰色粘土 下部は焼土化(天井部垂落粘土)
- 4: 暗褐色土 少量の焼土小ブロックを含む(カマド掘り方埋土)
- 5: 暗褐色土 全体にローム漸移層土を含み、少量の砂質ローム小ブロックを含む(住居掘り方埋土)

※天井部崩落土の3層・3層土下が使用面となるが、3層土内に灰・炭化物が混入し、明確な使用面として残らない

82号住居跡 埋土

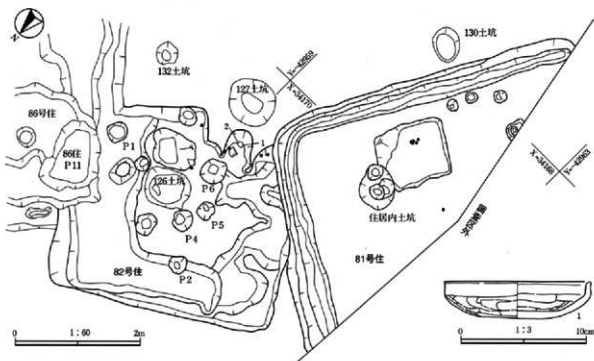
- 1: 暗褐色砂質土 黒色砂質土ブロックと少量の砂質ローム粒子・炭化物を含む(126号土埋埋土)
- 2: 褐色砂質土 微量の砂質ローム粒子・炭化物を含む
- 3: 暗褐色砂質土 少量の砂質ローム小ブロック・炭化物を含む
- 4: 暗褐色砂質土 多量の砂質ローム小ブロックを含む
- 5: 暗褐色砂質土 少量の砂質ローム小ブロックを含む
- 6: 暗褐色砂質土 多量の砂質ロームブロックを層状に含む(掘り方貼り床)
- 7: 暗褐色砂質土 多量の砂質ロームブロック・明褐色ローム漸移層土ブロックを含む(掘り方埋土)

82号住居跡柱穴 埋土

- P 2: 暗褐色土 少量の焼名白色軽石・ロームブロック・ローム粒子を含む
 - P 3-1: 暗褐色土 少量の焼名白色軽石と多量のロームブロック・ローム粒子を含む
 - P 3-2: 明黄褐色土 ローム土に少量の暗褐色土を含む
 - P 4: 暗褐色土 少量の焼名白色軽石と微量のロームブロック・焼土粒子を含む
 - P 5: 暗褐色土 少量の焼名白色軽石・焼土粒子・炭化物を含む
 - P 6: 暗褐色土 少量の焼名白色軽石・ローム粒子を含む
- P 1: P 3に同じ

82号住居跡カマド 埋土

- 1: 暗褐色砂質土 少量のローム漸移層土・焼土粒子・炭化物を含む



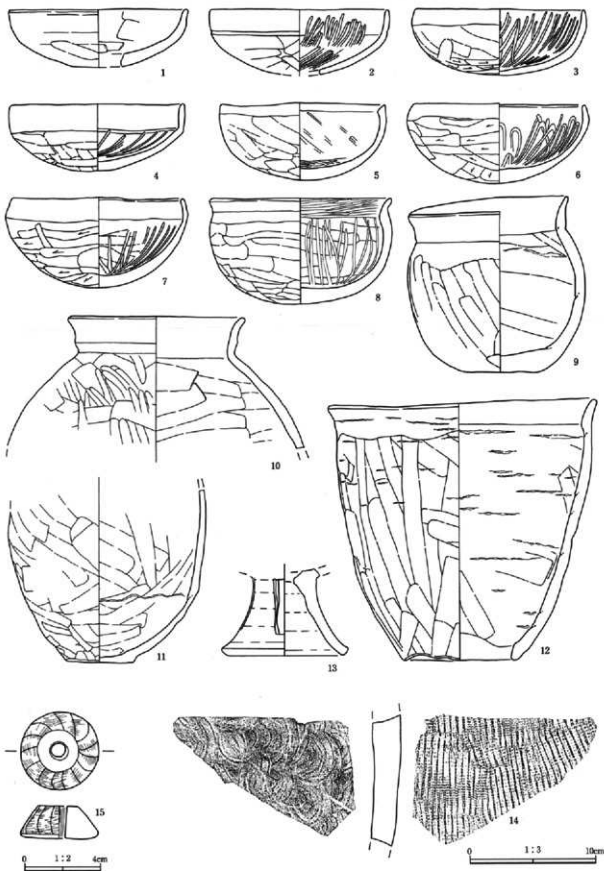
81・82号住居跡 掘り方平面図

81号住居跡 出土遺物図

7区 81号住居跡 遺物観察表

遺物番号	種別	出土位置	計測値	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考
81号住居跡 1	土師器 杯	埋土中 3/4	口径 11.5 底径 - 高さ 2.8	①微・細砂少 ②酸化焰、良好 ③にぶい橙色	外面=口縁部横ナデ、体部丁寧ナデ。内面=全面丁寧ナデ。	

2. 遺構と遺物



82号住居跡 出土遺物図

IV 遺構と遺物

7区 82号住居跡 遺物観察表

遺構名 遺物番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考
82号住 1	土師器 坏	カマド 使用面+9cm	口径 (14.2) 底径 - 高さ -	①灰・細砂やや多 ②酸化塩、良好 ③にぶい藍色	外面=口縁部横ナデ、体部ヘラナデ、底部ヘラ 削り。内面=口縁部横ナデ、体部~底部ヘラナ デ。	
82号住 2	土師器 坏	カマド 使用面+9cm	口径 (14.0) 底径 - 高さ 5.3	①灰・細砂やや多 ②酸化塩、良好 ③明赤褐色	外面=口縁部横ナデ、体部丁寧なヘラ削り。内 面=口縁部~底部ナデの後にヘラ磨き。	
82号住 3	土師器 坏	カマド 使用面直上	口径 (13.9) 底径 - 高さ 5.2	①灰・細砂少 ②酸化塩、良好 ③藍色	外面=口縁部横ナデ、体部削り後指ナデ、底部 ヘラ削り。内面=ナデの後にやや粗いヘラ磨き。	
82号住 4	土師器 坏	床面+16cm 4/5	口径 13.8 底径 - 高さ 5.3	①灰・細砂少 ②酸化塩、良好 ③明赤褐色	外面=口縁部横ナデ、体部~底部削りの後に指 ナデ。内面=口縁部横ナデ、体部~底部ナデの 後にヘラ磨き。	
82号住 5	土師器 坏	床面+16cm 略丸形	口径 13.0 底径 - 高さ 6.0	①灰・細砂やや多 ②酸化塩、良好 ③藍色	口縁部内斜。外面=口縁部横ナデ、体部~底部 削り後に指ナデ。内面=ヘラナデの後にヘラ 磨き。器面荒れる。	
82号住 6	土師器 坏	カマド 使用面-4cm 完形	口径 13.5 底径 - 高さ 6.3	①灰・細砂やや多 ②酸化塩、良好 ③藍色	外面=口縁部横ナデ、体部~底部丁寧なヘラ削 り。内面=ナデの後に粗峻状ヘラ磨き。	
82号住 7	土師器 坏	カマド 使用面+5cm 略丸形	口径 13.5 底径 - 高さ 7.1	①灰・細砂やや多 ②酸化塩、良好 ③明赤褐色	外面=口縁部横ナデ、体部~底部丁寧なヘラ削 り。内面=ナデの後にヘラ磨き。	
82号住 8	土師器 坏	床面+5cm 完形	口径 14.3 底径 - 高さ 8.4	①灰・細砂少 ②酸化塩、良好 ③藍色	外面=口縁部横ナデ、体部ヘラ削り後ヘラナ デ、底部ヘラ削り。内面=ナデの後にヘラ磨 き。	
82号住 9	土師器 小型壺	カマド 使用面直上 完形	口径 12.6 底径 6.2 高さ 13.9	①灰・細砂多 ②酸化塩、良好 ③藍色	器形やや歪む。外面=口縁部横ナデ、胴部粗 雑なヘラナデ。底部ナデ。内面=口縁部横ナデ、 胴部ナデ。	
82号住 10	土師器 壺	カマド 使用面直上 口~胴片	口径 (14.0) 底径 - 高さ -	①灰・細砂多 ②酸化塩、良好 ③にぶい藍色	外面=口縁部横ナデ、ヘラナデの後に棒状工具 によるナデ。内面=口縁部横ナデ、胴部ナデ。	
82号住 11	土師器 壺	カマド 使用面直上 胴~底片	口径 - 底径 5.2 高さ -	①灰・細砂やや多 ②酸化塩、良好 ③にぶい赤褐色	器形歪。外面=胴部粗いヘラナデ。内面=胴部 ヘラナデ。	
82号住 12	土師器 瓶 (一穴)	床面+16cm 略丸形	口径 21.2 底径 9.0 高さ 20.6	①灰・細砂少 ②酸化塩、良好 ③藍色	全体に輪組み後削りナデ整形。輪組み痕を残 す。外面=口縁部横ナデ、胴部縦方向のヘラナ デ。内面=口縁部横ナデ、胴部ナデ。	
82号住 13	須恵器 高坏	塚土中 胴部片	口径 - 底径 (9.2) 高さ -	①灰・細砂少 ②還元塩、良好 ③灰褐色	口タロ成・整形。透かし部角をヘラ調整面取り。 外面=自然輪付着。	
82号住 14	須恵器 大壺	床面+7cm 胴部片	口径 - 底径 - 高さ -	①灰・細砂少 ②還元塩、良好 ③灰褐色	外面=細かい格子目叩き。内面=青海成当て具 痕。破断面変色のため、二次的利用か。	
82号住 15	石製 紡錘車	床面+5cm 完形	長さ 2.2 巾 4.1 厚さ 1.7	石材 総純岩 重量 36.237g	成・整形時の細かい肌痕を残す。	
82号住 16	焼成粘土塊	塚土中			径15~56mm大の不定形粘土塊が20個出土。焼成は 不良。	写真採取 のみ掲載

86号住居跡 (遺構写真P.155、遺物写真P.197)

調査当初は、後述のカマドの存在から直交する住居
2軒の重複と判断し、83・86号住居跡の名称を付与
するが、後に1軒であることが判明したため、83号
住居跡を欠番とした。

位置：X=34173 Y=-42955

主軸方位：N-38°-W

規模・形状：平面形状は6.4m×6.5mを測る隅丸方
形状を呈し、北コーナー部が調査区外にかかる。床
面までの残存深度は20cmほどを測る。

カマド：遺構確認時に南西壁と北西壁の両壁にカマ
ドらしき焼土を確認したが、当初直交する2軒の
住居跡を想定したが、調査の結果、南西壁中央南寄
りに位置するカマドは遺存状況が悪く、煙道端の一

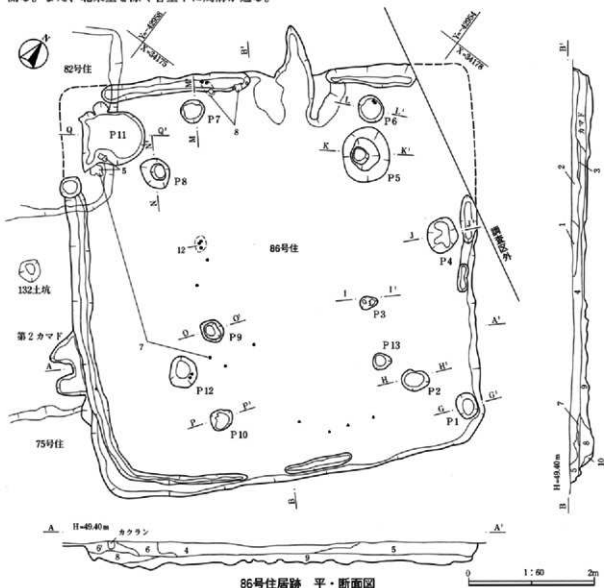
部を残すのみで使用面や袖を残していないことから、カマドの移設に伴う旧カマド跡と判断された。掘り方埋土内にも焼土・粘土のブロックが見られることから、この位置にあって造り直しが行われたものと考えられる。また、北西壁中央や北よりに位置するカマドは、比較的遺存状態も良く、燃焼部灰層下の部分が強く焼土化するほど使い込まれたカマドである。煙道端部は壁からあまり突出せず、掘り方調査の結果、両袖部内の相対する位置から逆位に掘られた土師器甕が出土しており、芯材として埋められたものと考えられる。

内部施設：床面調査時には南東側が不明瞭であった柱穴は掘り方調査時に検出され、深度35～43cmを測る。また、北東壁を除く各壁下に周溝が巡る。

掘り方：住居中央部にほぼ床面を残し、周囲を掘り窪める。南東コーナー付近に見られる土坑状の掘り込みは、深度40cm程を測り、位置的に移設前のカマド脇に当たるため、貯蔵穴である可能性が高い。

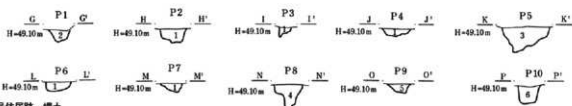
出土遺物：土師器甕 (No.7)・土師器鉢 (No.5)が住居掘り方内より、土師器甕 (No.6・9)・土師器杯 (No.3)がカマド掘り方内より出土する。

重複遺構：南西コーナー部において82号住居跡と重複し、新旧関係は遺構平面確認時の状況から、本住居跡の方が古いものと判断される。また、住居南東コーナー部に125号土坑と重複し、埋土の上層が住居埋土内に見られたため、本住居跡の方が古いものと判断される。



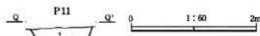
86号住居跡 平・断面図

IV 遺構と遺物



86号住居跡 埋土

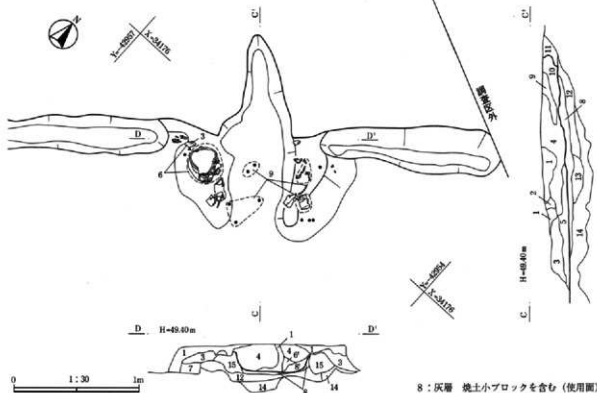
- 1: 灰褐色砂質土 攪乱土
- 2: 暗褐色砂質土 多量の焼土ブロック・炭化物と少量の砂質ロームブロックを含む
- 3: 暗褐色砂質土 多量の砂質ロームブロックを含む
- 4: 暗褐色砂質土 多量の砂質ロームブロックと炭化物を含む
- 5: 暗褐色砂質土 少量の砂質ローム粒子を含む
- 6: 暗褐色砂質土 多量の砂質ローム粒子と少量の焼土粒子・炭化物を含む
- 6': 暗褐色砂質土 6層土+砂質ローム小ブロック
- 7: 灰褐色砂質土 少量の炭化物を含む
- 8: 暗褐色土 少量の砂質ローム小ブロックと黒色土を塊状を含む (掘り方埋土)
- 9: 黒褐色土 多量の砂質ロームブロックを含む (掘り方埋土)
- 10: 黄土色 砂質ローム土に少量の黒色土を含む



86号住居跡 断面図

86号住居跡ピット 埋土

- 1: 黒褐色土 多量の砂質ロームブロックを含む
- 2: 黒褐色土 少量の砂質ローム小ブロック・焼土小ブロックを含む
- 3: 暗褐色土 多量の砂質ローム小ブロック・焼土小ブロックと少量のローム大粒ブロックを含む
- 4: 暗褐色土 多量の砂質ローム小ブロックを含む
- 5: 暗褐色土 少量の砂質ローム小ブロックを含む
- 6: 暗褐色土 多量の砂質ロームブロックと少量の炭化物を含む

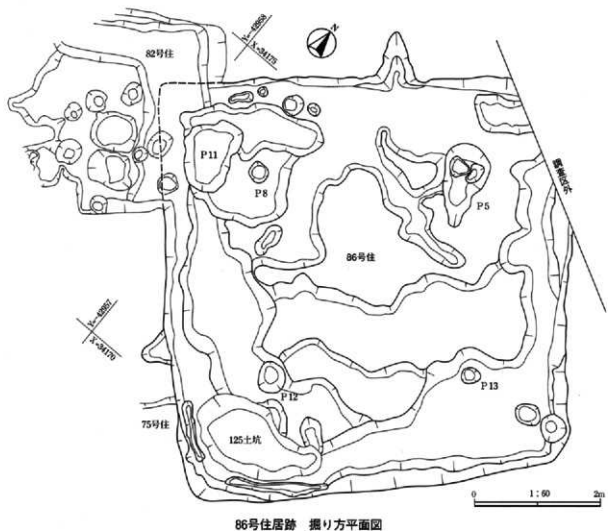
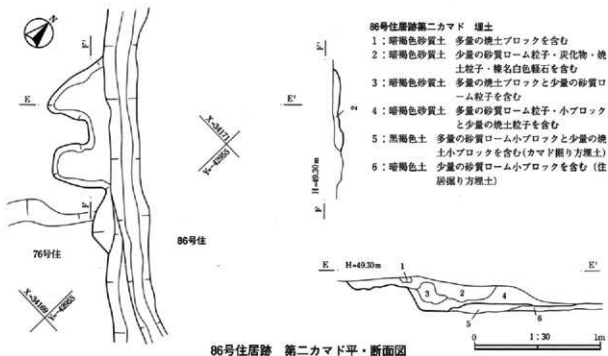


86号住居跡 カマド平・断面図

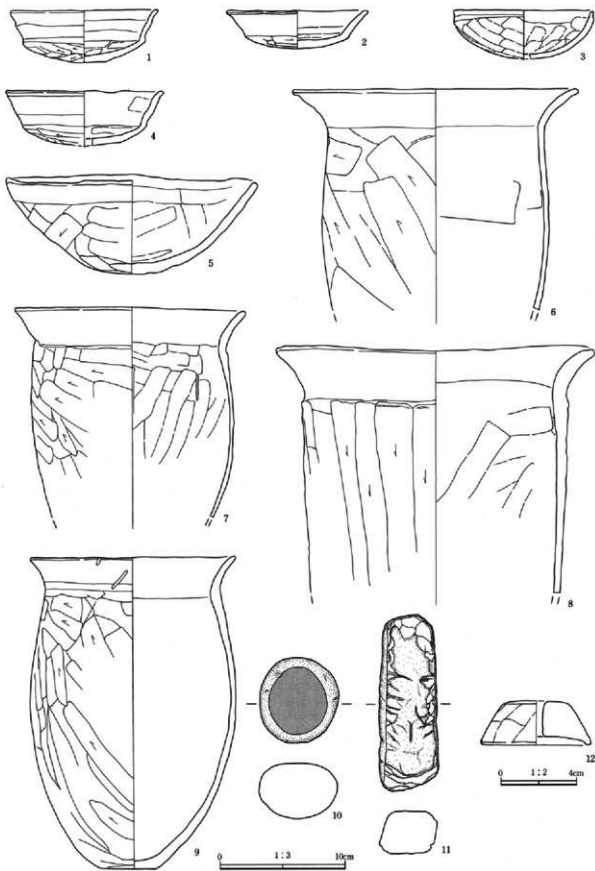
86号住居跡カマド 埋土

- 1: 暗褐色砂質土 多量の砂質ローム粒子・焼土粒子と少量の標名白色軽石を含む
- 2: 暗褐色砂質土 1層土+黄白色粘土ブロック
- 3: 黒褐色砂質土 多量の砂質ローム小ブロックと少量の焼土粒子・標名白色軽石を含む
- 4: 黄白色粘土 (天井部崩落土)
- 5: 黒褐色砂質土 多量の砂質ローム小ブロック・焼土ブロックを含む
- 6: 黄白色粘土 一部焼土化 (天井部崩落土)
- 7: 黒褐色土 少量の砂質ローム小ブロックを含む

- 8: 灰層 焼土小ブロックを含む (使用層)
- 8' 灰層 やや乱れた8層土
- 9: 暗灰褐色土 多量の焼土小ブロック・黄白色粘土小ブロックを含む (煙道部天井崩落土)
- 10: 黄褐色土 砂質ローム土に多量の焼土ブロック・黄白色粘土小ブロックを含む (煙道部天井崩落土)
- 11: 黄褐色土 砂質ローム土に少量の焼土小ブロック・黄白色粘土小ブロックを含む (カマド掘り方埋土)
- 12: 褐色土 多量の砂質ローム粒子・小ブロックと少量の焼土小ブロックを含む (カマド掘り方埋土)
- 13: 赤褐~橙色土 12・14層土の焼土化 (熱焼部)
- 14: 暗褐色土 黒色土を塊状に含み、砂質ロームブロックを含む (住居掘り方埋土)
- 15: 黄白~乳白色粘土 (楡部)



IV 遺構と遺物



86号住居跡 出土遺物図

7区 86号住居跡 遺物観察表

遺構名 遺物番号	種別 器種	出土位置 残存状況	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考
86号住 1	土師器 坏	埋土中 1/2	口径 11.7 底径 - 高さ 4.1	①微・細・粗砂少 ②酸化焰、良好 ③浅黄褐色	外面=口縁部横ナデ、体部丁寧なヘラ削り。内面=全面ナデ。	
86号住 2	土師器 坏	埋土中 1/6	口径 (11.2) 底径 - 高さ 3.0	①微・細・粗砂少 ②酸化焰、良好 ③にぶい褐色	外面=口縁部横ナデ、体部丁寧なヘラ削り。内面=全面ナデ。	
86号住 3	土師器 坏	カマド 使用面-12cm 3/4	口径 11.0 底径 - 高さ (3.8)	①微・細・粗砂少 ②酸化焰、良好 ③灰黄褐色	外面=口縁部横ナデ、体部丁寧なナデ。内面=全面丁寧なナデ。	
86号住 4	土師器 坏	埋土中 1/4	口径 (12.6) 底径 - 高さ -	①微・細・粗砂少 ②酸化焰、良好 ③にぶい褐色	外面=口縁部横ナデ、体部丁寧なヘラ削り。内面=全面ナデ。	
86号住 5	土師器 鉢	床面-5cm 3/4	口径 19.9 底径 - 高さ 7.9	①微・細・粗砂多 ②酸化焰、良好 ③橙色	外面=口縁部横ナデ、体部丁寧なヘラ削り。内面=全面丁寧なナデ。内外器面やや荒れる。	
86号住 6	土師器 甕	カマド 使用面-14cm 口-胴部	口径 22.5 底径 - 高さ -	①微・細・粗砂多 ②酸化焰、良好 ③にぶい褐色	外面=口縁部横ナデ、胴部ヘラ削り。内面=口縁部横ナデ、胴部ナデ。	
86号住 7	土師器 甕	床面-5cm 口-胴部	口径 18.2 底径 - 高さ -	①微・細・粗砂多 ②酸化焰、良好 ③にぶい褐色	外面=口縁部横ナデ、体部ヘラ削り。内面=口縁部横ナデ、胴部ヘラナデ。	
86号住 8	土師器 甕	床面+7cm 口-胴部	口径 (25.1) 底径 - 高さ -	①微・細・粗砂多 ②酸化焰、良好 ③にぶい褐色	外面=口縁部横ナデ、胴部上から下への縦方向のヘラ削り。内面=口縁部横ナデ、胴部ヘラナデ。	
86号住 9	土師器 甕	カマド 使用面-12cm 口-底部	口径 16.2 底径 4.1 高さ 24.4	①微・細・粗砂多 ②酸化焰、良好 ③にぶい褐色	外面=口縁部横ナデ、胴部丁寧なヘラ削り。内面=全面ナデ。	
86号住 10	石製品 摺り石	埋土中 兜形	長さ 6.7 巾 6.2 厚さ 4.3	石材 粗粒輝石安山岩 重量 220g	小円盤の一面を研磨。	
86号住 11	石製品 こも刷石	埋土中 兜形	長さ 13.8 巾 4.7 厚さ 3.4	石材 チャート 重量 388g	加工痕なし。平坦面を二面有す。	
86号住 12	土製 紡錘車	床面+12cm 1/2	口径 (3.4) 底径 (5.6) 高さ 3.3	①微・細・粗砂少 ②酸化焰、良好 ③にぶい褐色	外面=全体に丁寧なナデ。	

1号竪穴状遺構 (遺構写真P L58、遺物写真P L-)

位置: X=34115 Y=-42876

主軸方位: N-52°-W

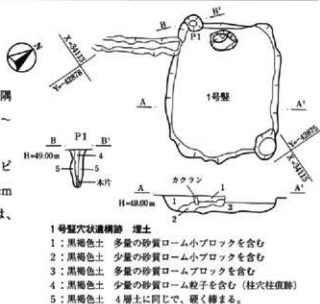
規模・形状: 平面形状は、170cm×210cmを測る隅丸長方形形状を呈し、床面までの残存深度は20~25cmほどを測る。

内部施設: 東西のコーナー部に柱穴と考えられるビット2穴を検出。径25~50cm、深度27cm・62cmを測る。特に西側コーナー部ビット埋土断面には、柱痕と柱材の一部が遺存していた。

掘り方: なし。

出土遺物: なし。

重複遺構: 溝跡と重複するが、新旧関係は不明。



1号竪穴状遺構 平・断面図

0 1:60 2m

(2) 掘立柱建物跡

7号掘立柱建物跡 (遺構写真PL9、遺物写真PL-)

位置：X=33708 Y=-42601

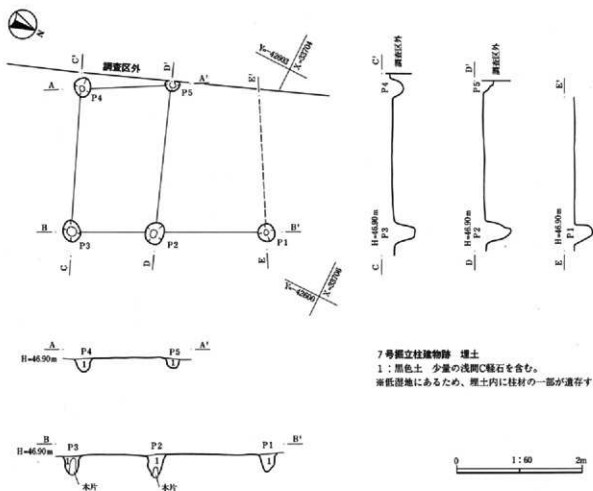
主軸方位：N-52°-W

規模・形状：平面形状は西側が調査区外にかかるため、全容は不明。調査範囲内において5穴の柱穴を検出し、東側(南北軸方向)は2間、南側(東西軸方

向)は1間のみ確認できる。柱穴径は25~50cm、深度27cm・62cmを測る。また、遺構が低湿地に在るため、柱穴埋土内には柱材の一部が遺存していた。

出土遺物：なし。

重複遺構：なし。



7号掘立柱建物跡 埋土

1：黒色土 少量の浅間C軽石を含む。

※低湿地にあるため、埋土内に柱材の一部が遺存する

7号掘立柱建物跡 平・断面図

(3) 井戸跡

4号井戸跡 (旧称7区7号井戸)

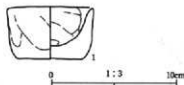
(遺構写真P L59, 遺物写真P L98)

位置: X=34140 Y=-42915

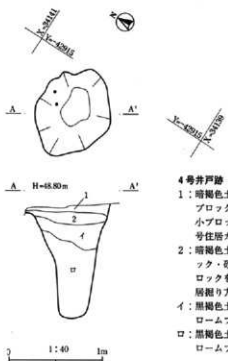
規模・形状: 平面形状は0.7m×1.0mを測る楕円形を呈し、検出面である58号住居掘り方床面からの残存深度は1.1mを測る。

出土遺物: 埋土中より手捏ね小型土器1点出土する。

重複遺構: 本井戸跡は58号住居跡のカマド袖下より検出され、カマドの遺存状態と住居調査中には井戸埋土が見られなかったことから、本井戸の方が住居跡より古いものと判断された。



4号井戸跡 出土遺物図



4号井戸跡 埋土

- 1: 暗褐色土 灰・焼土小ブロック・黄白色粘土小ブロックを含む (58号住居カマド使用面)
- 2: 暗褐色土 黒色土ブロック・砂質ローム小ブロックを含む (58号住居掘り方埋土)
- 4: 黒褐色土 多量の砂質ロームブロックを含む
- 5: 黒褐色土 少量の砂質ロームブロックを含む

4号井戸跡 平・断面図

7区 4号井戸出土 遺物観察表

遺構名 遺物番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考
4号井戸 1	手捏ね	埋土中 2/3	口径 4.0 底径 3.4 高さ 2.7	①微・細砂少 ②酸化塩、やや良好 ③にふい・橙色	丁寧な手捏ね成・整形。	

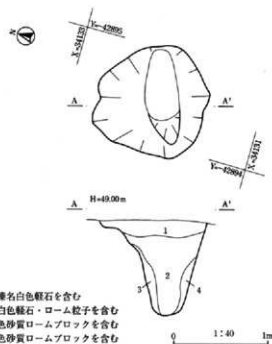
6号井戸跡 (遺構写真P L60, 遺物写真P L98)

位置: X=34132 Y=-42894

規模・形状: 上端の平面形状は径1.2mの歪な円形状を呈し、残存深度は1.0m程を測る。底面形状は35cm×75cmほどの東西に長い楕円形を呈し、西側が緩い傾斜となるため、西側から水桶を引き上げたものと考えられる。

出土遺物: 埋土中位より木器、中～下層より土師器杯・甕・小型壺等が出土する。

重複遺構: 重複ではないが52号住居跡が近接し、両者の新旧関係は明らかではない。

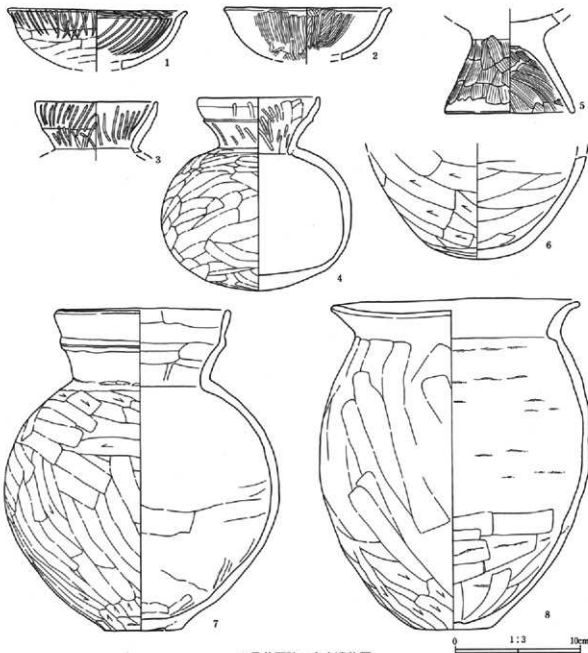


6号井戸跡 埋土

- 1: 暗褐色砂質土 多量の燻名白色軽石を含む
- 2: 暗褐色土 微量の燻名白色軽石・ローム粒子を含む
- 3: 暗褐色土 多量の黄白色砂質ロームブロックを含む
- 4: 暗褐色土 少量の黄白色砂質ロームブロックを含む

6号井戸跡 平・断面図

IV 遺構と遺物



6号井戸跡 出土遺物図

7区 6号井戸出土 遺物観察表-1

遺構名 遺物番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①粘土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考
6号井戸 1	土師器 坏	埋土下層 1/3	口径 (14.2) 底径 - 高さ -	①灰・細砂少 ②酸化焙、良好 ③明赤褐色	外面=口縁部ナデの後に粗いヘラ磨き、体部丁寧なヘラナデ。内面=口縁部細かいヘラ磨き、体部ナデの後に丁寧なヘラ磨き。	
6号井戸 2	土師器 坏	埋土下層 破片	口径 (13.2) 底径 - 高さ -	①灰・細砂少 ②酸化焙、良好 ③褐色	内外面共にナデの後に丁寧なヘラ磨き。	
6号井戸 3	土師器 小型壺 (片)	埋土下層 口縁片	口径 (9.7) 底径 - 高さ -	①灰・細砂少 ②酸化焙、良好 ③にぶい褐色	内外面口縁部共に横ナデの後に粗いヘラ磨き。	
6号井戸 4	土師器 小型壺 (片)	埋土下層 略兜形	口径 9.4 底径 - 高さ 15.1	①灰・細砂やや多 ②酸化焙、良好 ③褐色	外面=口縁部横ナデの後に粗いヘラ磨き、胴部~底部丁寧なヘラナデ。内面=ナデの後に粗いヘラ磨き、胴部ナデ。	
6号井戸 5	土師器 S字状口縁 台付甕	埋土中 胴部片	口径 - 底径 10.4 高さ -	①灰・細砂少 ②酸化焙、良好 ③褐色	脚部内外面共にやや粗目の刷毛目調整。	

7区 6号井戸出土 遺物観察表-2

遺構名 遺物番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考
6号井戸 6	土師器 壺	埋土中 底部片	口径 - 底径 - 高さ -	①微・細砂少 ②酸化塩、良好 ③灰黄褐色	外面=胴部丁寧なヘラ削り・ヘラナデ。内面=丁寧なナデ。	
6号井戸 7	土師器 甕	埋土下層 完形	口径 13.0 底径 6.4 高さ 25.2	①微・細砂やや多 ②酸化塩、良好 ③灰黄褐色	口縁部中に横あり。外面=口縁部横ナデ、胴部~底部丁寧なヘラ削り・ヘラナデ。穿孔あり。内面=口縁部横ナデ、胴部丁寧なナデ。	
6号井戸 8	土師器 甕	埋土下層 略完形	口径 19.6 底径 5.8 高さ 25.9	①微・細砂多 ②酸化塩、良好 ③にぶい褐色	外面=口縁部横ナデ、胴部上位ヘラ削り後に粗いヘラナデ、胴部下位ヘラ削り。内面=口縁部横ナデ、胴部ヘラナデ。	

5号井戸跡(旧称S5号土坑) (遺構写真P.L.59, 遺物写真P.L.98)

位置: X=34147 Y=-42953

規模・形状: 平面形状は1.0m×1.2mを測る楕円形を呈し、残存深度は1.6mほどを測る。

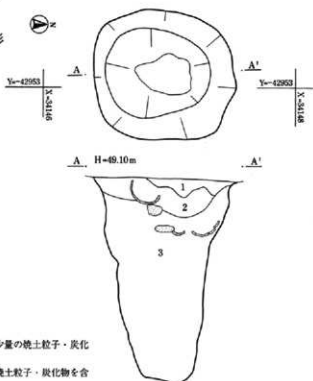
出土遺物: 本井戸は、上端に近い位置から底部付近に至るまでの埋土中に数多くの遺物の出土が見られる。遺物は土師器甕等の完形品~半完形品が多く、宗教的な意義を持った埋納行為を思わせるが、出土状況が乱雑であり、かつ、間に円礫をも含むため、土器の単純な廃棄であり、また、間層土が少ないことから、これらの遺物廃棄は一括性の高いものと考えられる。

重複遺構: なし。

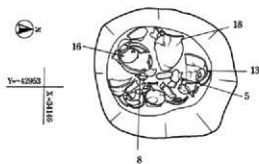
5号井戸跡 埋土

- 1: 暗褐色砂質土 多量の標名白色軽石と少量の焼土粒子・炭化物を含む
- 2: 暗褐色砂質土 少量の標名白色軽石・焼土粒子・炭化物を含む
- 3: 暗褐~黒褐色土 微量の白色小粒軽石(浅間C軽石)を含む

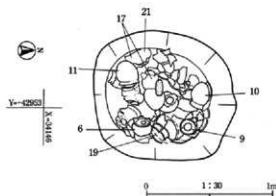
※ 3層以下の埋土については、遺物の出土が底部にまで至り、遺物の出土状況を優先し、断面観察を断念した



5号井戸跡 平・断面図

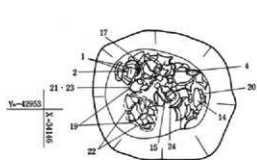


第1面遺物出土平面図

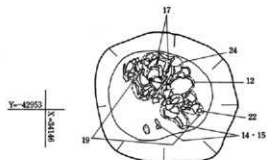


第2面遺物出土平面図

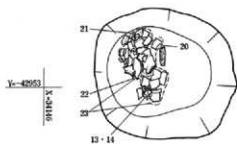
IV 遺構と遺物



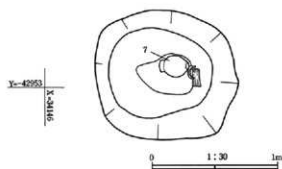
第3面遺物出土平面図



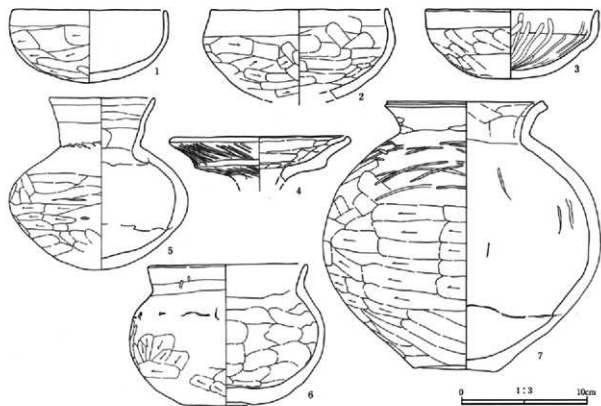
第4面遺物出土平面図



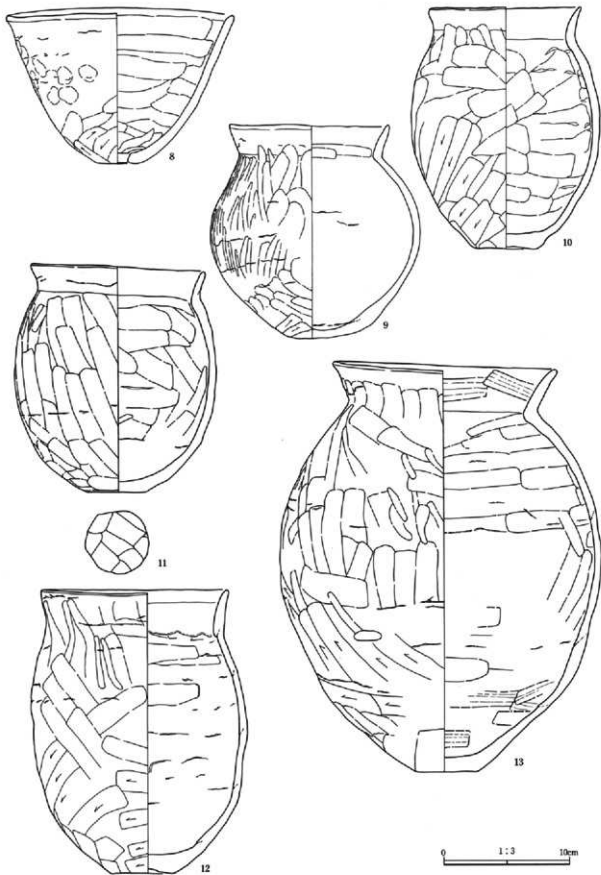
第5面遺物出土平面図



第6面遺物出土平面図

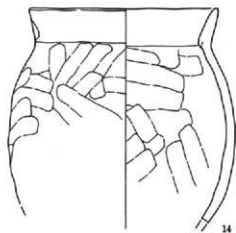


5号井戸跡 出土遺物図-1

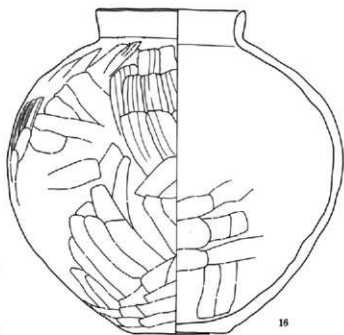


5号井戸跡 出土遺物図-2

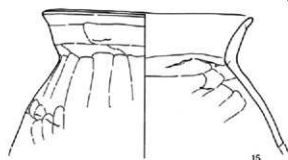
IV 遺構と遺物



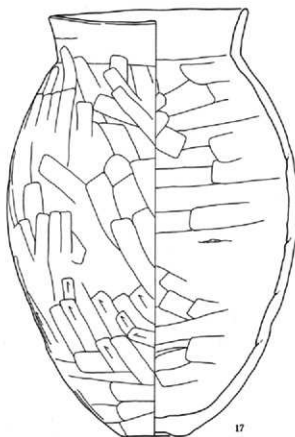
14



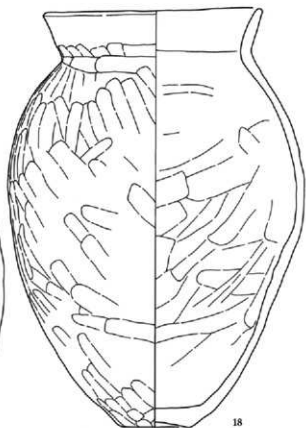
15



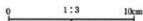
16



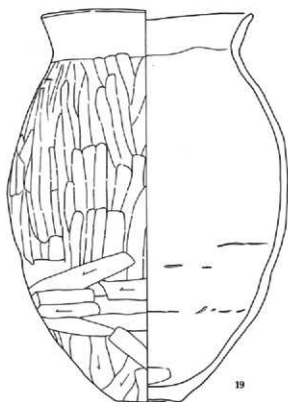
17



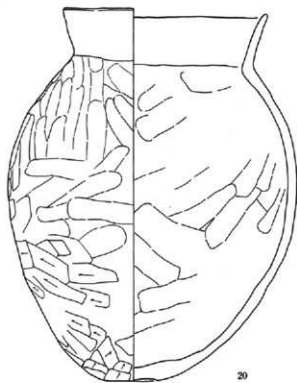
18



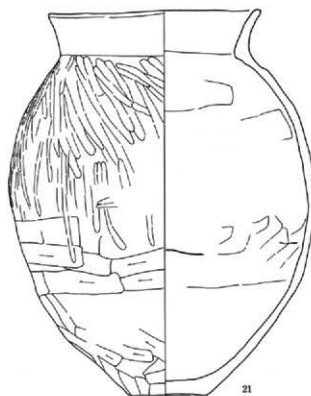
5号井戸跡 出土遺物図-3



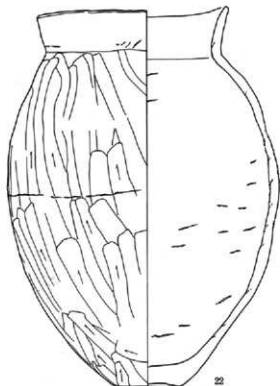
19



20



21

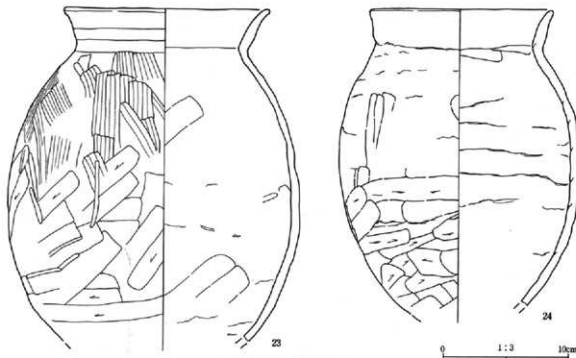


22

0 1:3 10cm

5号井戸跡 出土遺物図一4

IV 遺構と遺物



5号井戸跡 出土遺物図—5

7区 5号井戸出土 遺物観察表—1

遺構名 遺物番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考
5号井戸 1	土師器 坏	底+120cm 2/3	口径 12.0 底径 - 高さ 5.8	①灰・細・粗砂多 ②酸化塩、良好 ③白色	外面=口縁部横ナデ、体部=底部丁寧なヘラ削り。内面=ナデ。内外共に器面荒れる。	
5号井戸 2	土師器 坏	底+123cm 1/3	口径 14.0 底径 - 高さ -	①灰・細・粗砂少 ②酸化塩、良好 ③にぶい橙色	外面=口縁部横ナデ、体部=底部丁寧なヘラ削り。内面=口縁部横ナデ、体部=底部丁寧な指ナデ。	
5号井戸 3	土師器 坏	底+103cm 略完形	口径 13.6 底径 - 高さ 5.4	①灰・細砂やや多 ②酸化塩、良好 ③にぶい橙色	外面=口縁部横ナデ、体部=底部ヘラナデ・指ナデ。内面=口縁部横ナデ、体部ナデの後に粗いヘラ磨き。	
5号井戸 4	土師器 高坏	底+107cm 坏部1/4	口径 (14.2) 底径 - 高さ -	①灰・細砂少 ②酸化塩、良好 ③にぶい黄褐色	坏部外面=丁寧なナデの後にヘラ磨き。坏部内面=指ナデ。	
5号井戸 5	土師器 小型壺 (埋)	底+96cm 略完形	口径 8.4 底径 - 高さ 13.6	①灰・細砂少 ②酸化塩、良好 ③赤褐色	外面=口縁部=胴部上位丁寧な横ナデ、胴部下位=底部丁寧なヘラナデ。内面=口縁部横ナデ、体部ナデ。	
5号井戸 6	土師器 小型壺	底+117cm 略完形	口径 12.6 底径 6.0 高さ 11.0	①灰・細砂やや多 ②酸化塩、良好 ③にぶい黄褐色	外面=口縁部横ナデ、胴部輪積み底を残す粗雑な指ナデ。内面=口縁部横ナデ、胴部丁寧な指ナデ。底部内厚。	
5号井戸 7	土師器 壺	底面直上 完形	口径 12.8 底径 6.0 高さ 21.0	①灰・細砂少 ②酸化塩、良好 ③にぶい橙色	口唇部段をもつ。外面=口縁部横ナデ、胴部上位ナデの後に粗雑なヘラ磨き、胴部下半丁寧な横方向のヘラ削り。内面=丁寧なナデ。	
5号井戸 8	土師器 瓶 (一穴)	底+121cm 完形	口径 18.0 底径 - 高さ 12.2	①灰・細砂少 ②酸化塩、良好 ③橙色	孔径2.1cm。外面=口縁部横ナデ、体部輪積み底を残すやや粗雑な指ナデ。底部付近ヘラ削り。内面=丁寧な横ナデ。	
5号井戸 9	土師器 小型壺	底+105cm 略完形	口径 12.7 底径 4.4 高さ 16.7	①灰・細砂少 ②酸化塩、良好 ③にぶい橙色	外面=口縁部横ナデ、胴部上位やや粗雑な細いヘラナデ、下半部ヘラ削り・指ナデ。内面=口縁部横ナデ、胴部丁寧なナデ。	
5号井戸 10	土師器 小型壺	底+106cm 略完形	口径 12.0 底径 5.0 高さ 19.0	①灰・細砂少 ②酸化塩、良好 ③にぶい赤褐色	外面=口縁部横ナデ、胴部上位やや粗雑なヘラナデ、下位ヘラ削り。内面=口縁部横ナデ、胴部ナデ。	
5号井戸 11	土師器 小型壺	底+130cm 略完形	口径 13.8 底径 5.0 高さ 17.8	①灰・細砂やや多 ②酸化塩、良好 ③にぶい黄褐色	外面=口縁部輪積み底を残す横ナデ、胴部ヘラ削り後にヘラナデ、底部ヘラ削り。内面=口縁部横ナデ、胴部ナデ。	

7区 5号井戸出土 遺物観察表-2

遺構名 遺物番号	種別 器種	出土位置 残存状況	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考
5号井戸 12	土師器 甕	底+95cm 略完形	口径 14.9 底径 5.2 高さ 22.2	①微・細・粗砂やや多 ②酸化塩、良好 ③褐色	外面=口縁部~胴部上位輪積み直を残すやや粗雑なヘラ削り後に指ナデ、胴部下位ヘラ削り。 内面=口縁部横ナデ、胴部ナデ。	
5号井戸 13	土師器 甕	底+102cm 略完形	口径 17.7 底径 4.8 高さ 31.8	①微・細・粗砂やや多 ②酸化塩、良好 ③にぶい褐色	外面=口縁部横ナデ、胴部上位指ナデ、中位ヘラ削り、下位ヘラ削り後にヘラナデ。内面=口縁部及び胴部下位粗い刷毛目状工具のナデ。	
5号井戸 14	土師器 甕	底+102cm 2/3	口径 15.0 底径 - 高さ -	①微・細・粗砂やや多 ②酸化塩、良好 ③にぶい褐色	外面=口縁部横ナデ、胴部ヘラ削り後にヘラナデ。内面=口縁部横ナデ、胴部ナデ。	
5号井戸 15	土師器 甕	底+99cm 口~胴片	口径 16.8 底径 8.0 高さ -	①微・粗砂少 ②酸化塩、良好 ③にぶい褐色	外面=口縁部輪積み直を残す粗雑な指ナデ、胴部上位指ナデ。内面=口縁部横ナデ、胴部上位ナデ。	
5号井戸 16	土師器 甕	底+140cm 5/6	口径 11.8 底径 8.0 高さ 25.5	①微・細・粗砂やや多 ②酸化塩、良好 ③褐色	外面=口縁部横ナデ、胴部上位やや目の粗いハケ目調整、胴下半ヘラナデ。内面=全面ナデ。外器面全体にやや磨減。	
5号井戸 17	土師器 甕	底+108cm 完形	口径 15.8 底径 4.8 高さ 33.3	①微・細・粗砂少 ②酸化塩、良好 ③褐色	外面=口縁部横ナデ、胴部上位ナデ、胴部下位ヘラ削り後に一部ヘラナデ。内面=口縁部横ナデ、胴部ナデ。	
5号井戸 18	土師器 甕	底+115cm 略完形	口径 17.0 底径 5.4 高さ 32.6	①微・細・粗砂やや多 ②酸化塩、良好 ③にぶい褐色	外面=口縁部横ナデ、胴部ヘラ削り後にヘラナデ。内面=口縁部横ナデ、胴部ナデ。	
5号井戸 19	土師器 甕	底+95cm 略完形	口径 16.8 底径 5.0 高さ 30.9	①微・細砂やや多 ②酸化塩、良好 ③にぶい褐色	外面=口縁部横ナデ、胴部上位やや粗雑な細いヘラナデ、下半部ヘラ削り。内面=口縁部横ナデ、胴部丁重なナデ。	
5号井戸 20	土師器 甕	底+95cm 略完形	口径 16.0 底径 4.5 高さ 29.1	①微・細・粗砂少 ②酸化塩、良好 ③にぶい褐色	外面=口縁部横ナデ、胴部上位指ナデ、胴部下位ヘラ削り。内面=口縁部横ナデ、胴部ナデ。	
5号井戸 21	土師器 甕	底+103cm 3/4	口径 16.8 底径 6.2 高さ 30.4	①微・粗砂やや多 ②酸化塩、良好 ③褐色	口縁部やや波打つ。外面=口縁部横ナデ、胴部上位粗いヘラナデ、下半部方向のヘラナデ。内面=口縁部横ナデ、胴部ナデ。	
5号井戸 22	土師器 甕	底+97cm 略完形	口径 15.2 底径 5.2 高さ 29.7	①微・細砂やや多 ②酸化塩、良好 ③褐色	口縁部やや波打つ。外面=口縁部横ナデ、胴部縦方向のヘラ削り。内面=口縁部横ナデ、胴部ナデ。	
5号井戸 23	土師器 甕	底+95cm 底部欠	口径 16.2 底径 - 高さ -	①微・粗砂やや多 ②酸化塩、良好 ③にぶい褐色	外面=口縁部横ナデ、胴部上半粗い刷毛目状工具のナデ、胴下半ヘラ削り。内面=口縁部横ナデ、胴部ナデ。	
5号井戸 24	土師器 甕	底+115cm 底部欠	口径 14.6 底径 - 高さ -	①微・細・粗砂やや多 ②酸化塩、良好 ③褐色	外面=口縁部横ナデ、胴部上位ヘラナデ、胴部下位ヘラ削り。内面=口縁部横ナデ、胴部やや粗いナデ。	

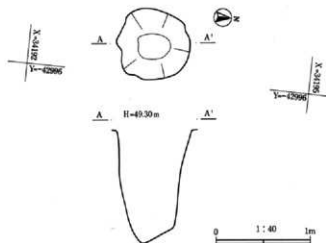
7号井戸跡 (遺構写真PL73)

位置: X=34193 Y=-42996

規模・形状: 平面形状は径78~76cmを測るほぼ円形状を呈し、残存深度は119cmほどを測る。

出土遺物: なし。

重複遺構: なし。



7号井戸跡 平・断面図

IV 遺構と遺物

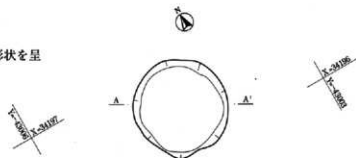
8号井戸跡 (遺構写真PL-)

位置：X=34196 Y=-43004

規模・形状：平面形状は径10cmを測る円形状を呈し、残存深度は75cmほどを測る。

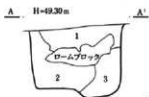
出土遺物：なし。

重複遺構：なし。



8号井戸跡 埋土

- 1：暗褐色土 少量のロームブロック・浅間白輝石を含む
- 2：暗褐色土 少量の黒褐色土小ブロック・ローム小ブロックを含む
- 3：暗褐色土 多量のロームブロックを含む



8号井戸跡 平・断面図



(4) 土坑跡

本遺跡から検出された土坑跡の総数は109基におよぶ。その大半である106基は7区の台地集落部に集中し、残る3基は8区より検出され、4・5・6区からの土坑跡の検出はない。

この集中する7区の土坑群についても、当該区の一部において、遺構残存状態が現代の農地改良（ほ場整備）事業により表土から竪穴住居跡の床面をも欠失するに至るまで削平されていることから、掘削深度の浅い土坑跡などは、この時点で消失してしまったものと推察される。

また、検出された土坑跡のうち、出土遺物や埋土・重複関係などから、その時期を特定し得る遺構は少なく、僅かに40基程を数えるのみであり、その大半は、少量の土師器片を出土し、その時期は周辺の集落跡とほぼ同時期の古墳時代後期にあたるものと推察される。

特徴ある土坑跡としては、97号土坑跡は60号住居跡に重複し検出され、埋土断面の観察から住居跡よりも古い遺構であろうと考えられる。110号土坑跡も65号住居跡に重複し検出され、同じく埋土断面の観察から住居跡よりも古い遺構であろうと考えられる。

また、98号土坑跡は後に詳しく記載するが、65号住居跡内より検出され、埋土断面の観察から、65号住居跡の廃絶後、埋没途上の窪地に掘削が成され、掘削時の排出土を土坑の周囲に土手状に放置している。特殊な例では有るが、掘削～使用時の様相を測り知る遺構と言える。

122号土坑は埋土内より五輪塔水輪を始め、軟質陶器内耳鍋片を出土し、7区においては数少ない中・近世遺構である。

土坑跡一覧表

区	土坑番号	位置 形状	長径×短径 深度	出土遺物	備 考
	1号～29号				1号～29号土坑=1～3区(年保遺跡)
7区	30号土坑	X=34097 Y=-42850 楕円形	47cm×43cm 18cm	土師器片少量	
7区	31号土坑	X=34097 Y=-42851 楕円形	34cm×27cm 76cm	土師器片少量	
7区	32号土坑	X=34098 Y=-42851 楕円形	35cm×31cm 22cm	土師器片少量	
7区	33号土坑	X=34098 Y=-42850 楕円形	34cm×30cm 18cm	土師器片少量	
7区	34号土坑				
7区	35号土坑	X=34111 Y=-42872 不定形	57cm×37cm 53cm	土師器片少量	
7区	36号土坑	X=34110 Y=-42873 ほぼ円形	33cm×31cm 50cm	土師器片少量	
	37号土坑	欠番			7区25号住居跡柱穴に変更
	38号土坑	欠番			7区25号住居跡柱穴に変更
7区	39号土坑	X=34109 Y=-42871 楕円形	50cm×40cm 73cm	土師器片少量 須恵器坏片	
7区	40号土坑	X=34119 Y=-42888 楕円形	25cm×17cm 27cm	土師器片少量	
7区	41号土坑	X=34121 Y=-42888 不定形	58cm×40cm 54cm		

IV 遺構と遺物

区	土坑番号	位置 形状	長さ×幅 深さ	出土遺物	備 考
7区	42号土坑	X=34112 Y=-42889 円形	65cm×63cm 26cm	土師器片少量	
7区	43号土坑	X=34120 Y=-42891 楕円形	60cm×37cm 27cm		
	44号土坑	欠番			7区25号住居跡柱穴に変更
7区	45号土坑	X=34135 Y=-42923 楕円形	58cm×48cm 72cm	土師器片少量	
7区	46号土坑	X=34135 Y=-42924 楕円形	44cm×41cm 65cm		
7区	47号土坑	X=34136 Y=-42925 楕円形	58cm×49cm 67cm	土師器片少量	
7区	48号土坑	X=34137 Y=-42928 楕円形	66cm×55cm 54cm		
7区	49号土坑	X=34139 Y=-42927 楕円形	64cm×55cm 69cm	土師器片少量	
7区	50号土坑	X=34138 Y=-42927 楕円形	60cm×50cm 51cm	土師器片少量	
7区	51号土坑	X=34136 Y=-42928 楕円形	46cm×39cm 34cm	土師器片少量	
7区	52号土坑	X=34138 Y=-42928 楕円形	43cm×37cm 58cm		
7区	53号土坑	X=34136 Y=-42929 円形?	60cm×(18)cm 66cm		
7区	54号土坑	X=34138 Y=-42933 隅丸方形	38cm×38cm 32cm		
	55号土坑	欠番			7区5号井戸跡に名称変更
7区	56号土坑	X=34143 Y=-42928 不定形	72cm×67cm 43cm		
	57号土坑	欠番			7区37号住居跡柱穴に変更
7区	58号土坑	X=34123 Y=-42881 ほぼ円形	69cm×62cm 65cm		
7区	59号土坑	X=34128 Y=-42901 円形	35cm×36cm 23cm		
	60号土坑	欠番			
	61号土坑	欠番			
7区	62号土坑	X=34128 Y=-42904 不定形	27cm×23cm 20cm		
7区	63号土坑	X=34128 Y=-42905 不定形	44cm×32cm 46cm		
7区	64号土坑	X=34128 Y=-42905 楕円形	34cm×30cm 33cm		
7区	65号土坑	X=34129 Y=-42904 円形	29cm×27cm 24cm		
7区	66号土坑	X=34130 Y=-42902 ほぼ円形	38cm×34cm 44cm		
7区	67号土坑	X=34128 Y=-42902 円形	25cm×25cm 16cm		
7区	68号土坑	X=34131 Y=-42903 隅丸方形	32cm×31cm 60cm		
7区	69号土坑	X=34131 Y=-42902 隅丸方形	34cm×30cm 40cm		

2. 遺構と遺物

区	土坑番号	位置 形状	長径×短径 深度	出土遺物	備 考
7区	70号土坑	X=34132 Y=-42902 円形	25cm×25cm 18cm		
7区	71号土坑	X=34108 Y=-42867 楕円形	45cm×40cm 64cm		
7区	72号土坑	X=34163 Y=-42923 ほぼ円形	70cm×64cm 35cm	土師器片少量	3号堅穴状遺構と重複するが、新旧関係は不明
	73号土坑	欠 番			7区24号住居跡旧カマド掘り方に変更
7区	74号土坑				
7区	75号土坑				
7区	旧76号土坑				樹木根の攪乱と判明
7区	77号土坑	X=34131 Y=-42897 ほぼ円形	41cm×35cm 31cm		
7区	78号土坑	X=34138 Y=-42903 円形	41cm×33cm 55cm	土師器 小型壺	
7区	79号土坑	X=34139 Y=-42906 不定形	47cm×45cm 35cm		
7区	80号土坑	X=34136 Y=-42908 不定形	42cm×34cm 45cm		
7区	81号土坑	X=34136 Y=-42909 円形	36cm×30cm 40cm		
7区	82号土坑	X=34137 Y=-42910 楕円形	41cm×34cm 39cm		
7区	83号土坑	X=34137 Y=-42910 円形	37cm×35cm 36cm		
7区	84号土坑	X=34139 Y=-42914 円形	51cm×45cm 26cm		
7区	85号土坑	X=34141 Y=-42911 楕円形	113cm×80cm 10cm		
7区	86号土坑	X=34142 Y=-42910 楕円形	57cm×35cm 32cm		
7区	87号土坑	X=34141 Y=-42908 楕円形	28cm×25cm 63cm		
7区	88号土坑	X=34141 Y=-42908 楕円形	60cm×50cm 26cm	土師器 砂台 土師器 台付壺	
7区	89号土坑	X=34124 Y=-42882 円形	28cm×26cm 55cm		
7区	90号土坑	X=34145 Y=-42915 楕円形	39cm×32cm 15cm	土師器ハケ目薬片	
7区	91号土坑	X=34141 Y=-42913 隅丸方形	47cm×43cm 19cm	土師器片少量	
7区	92号土坑	X=34141 Y=-42920 楕円形	53cm×48cm 37cm		
7区	93号土坑	X=34148 Y=-42919 楕円形	40cm×35cm 50cm		59号住居跡と重複するが、新旧関係は不明
7区	94号土坑	X=34149 Y=-42920 楕円形	45cm×30cm 30cm		
7区	95号土坑	X=34146 Y=-42923 ほぼ円形	34cm×33cm 30cm		66号住居跡と重複
7区	96号土坑	X=34145 Y=-42924 ほぼ円形	108cm×103cm 25cm	土師器坏口縁片	66号住居跡と重複
7区	97号土坑	X=34151 Y=-42920 不定形	160cm×150cm 50cm	丹器窓口縁片	60号住居跡内に位置し、新旧関係は本土坑跡の方が古いものと判明する

IV 遺構と遺物

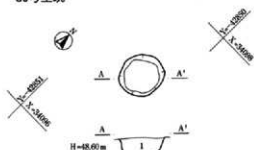
区	土坑番号	位置 形状	長径×短径 深度	出土遺物	備 考
7K	98号土坑	X=34161 Y=-42929 不定形	151cm×119cm 69cm	土師器 坏	65号住居跡内に位置し、住居埋設途中に本土坑と接削(別途詳細記述)
	99号土坑	欠 番			
7K	100号土坑	X=34139 Y=-42910 不定形	47cm×37cm 23cm		57号住居跡と重複し、新田関係は本土坑跡の方が新しいものと判明する
7K	101号土坑	X=34140 Y=-42910 不定形	55cm×38cm 49cm		57号住居跡と重複し、新田関係は本土坑跡の方が新しいものと判明する
7K	102号土坑	X=34140 Y=-42911 楕円形	29cm×21cm 25cm		57号住居跡と重複し、新田関係は本土坑跡の方が新しいものと判明する
7K	103号土坑	X=34152 Y=-42930 隅丸長方形	176cm×96cm 26cm	土師器壺片	N-55° E
7K	104号土坑	X=34160 Y=-42922 楕円形	48cm×38cm 17cm	土師器壺片 S字台付壺片	45号溝と重複
7K	105号土坑	X=34157 Y=-42942 不定形	44cm×44cm 40cm		
7K	106号土坑	X=34158 Y=-42942 楕円形	72cm×57cm 70cm		
7K	107号土坑	X=34158 Y=-42945 不定形	53cm×45cm 48cm		
7K	108号土坑	X=34147 Y=-42930 ほぼ円形	58cm×52cm 58cm	土師器小型壺片	
7K	109号土坑	X=34146 Y=-42931 楕円形	78cm×60cm 38cm		
7K	110号土坑	X=34148 Y=-42926 楕円形	118cm×80cm 40cm	土師器 壺	66号住居跡と重複し、本土坑跡の方が古いものと判明する
7K	111号土坑	X=34177 Y=-42957 隅丸方形	32cm×32cm 25cm	土師器片少量	
7K	112号土坑	X=34178 Y=-42959 楕円形	65cm×51cm 41cm	土師器片少量	
7K	113号土坑				
7K	114号土坑	X=34175 Y=-42960 ほぼ円形	47cm×45cm 43cm	土師器片少量	
7K	115号土坑	X=34174 Y=-42962 ほぼ円形	47cm×45cm 30cm		
7K	116号土坑	X=34175 Y=-42962 楕円形	43cm×37cm 40cm	土師器片少量	
7K	117号土坑	X=34175 Y=-42962 円形	35cm×34cm 20cm	土師器 埴	
7K	118号土坑	X=34176 Y=-42962 楕円形	43cm×38cm 32cm	土師器高坏片少量	
7K	119号土坑	X=34177 Y=-42962 円形	29cm×28cm 43cm		
7K	120号土坑	X=34178 Y=-42963 円形	42cm×39cm 38cm		
7K	121号土坑	X=34179 Y=-42962 ほぼ円形	40cm×36cm 40cm	土師器片少量	
7K	122号土坑	X=34179 Y=-42961 ほぼ円形	75cm×70cm	軟質陶器 内耳鍋 五輪塔 水輪	小型の井戸跡となる可能性有り
7K	123号土坑	X=34176 Y=-42959 楕円形	74cm×53cm 43cm	土師器片少量	
7K	124号土坑	X=34180 Y=-42961 楕円形	74cm×62cm 37cm		
7K	125号土坑	X=34170 Y=-42954 不定形	210cm×70cm 35cm	土師器壺片少量	86号住居跡と重複し、新田関係は本土坑跡の方が新しいものと判明

2. 遺構と遺物

区	土坑番号	位置 形状	長径×短径 深度	出土遺物	備 考
7区	126号土坑	X=34173 Y=-42959 楕円形	70cm×62cm 50cm		82号住居跡と重複
7区	127号土坑	X=34171 Y=-42958 ほぼ円形	79cm×70cm 22cm		
7区	128号土坑	X=34168 Y=-42957 ほぼ円形	36cm×35cm 54cm		
7区	129号土坑	X=34165 Y=-42956 楕円形	30cm×25cm 17cm		
7区	130号土坑	X=34168 Y=-42960 楕円形	50cm×40cm 10cm		
7区	131号土坑	X=34167 Y=-42958 楕円形	55cm×36cm 40cm		
7区	132号土坑	X=34171 Y=-42957 ほぼ円形	35cm×33cm 38cm		
7区	133号土坑	X=34167 Y=-42942 楕円形	63cm×54cm 18cm	土師器片少量	
7区	134号土坑	X=34167 Y=-42942 ほぼ円形	55cm×52cm 18cm	土師器 坏	
7区	135号土坑	X=34168 Y=-42946 ほぼ円形	58cm×55cm 26cm		
7区	136号土坑	X=34165 Y=-42941 不定形	65cm×60cm 78cm	須恵器 鉢	
	137号土坑	欠 番			
8区	138号土坑	X=34179 Y=-42987 ほぼ円形	65cm×61cm 33cm		
8区	139号土坑	X=34128 Y=-42979 ほぼ円形	129cm×115cm 25cm		
8区	140号土坑	X=34140 Y=-42979 不定形	54cm×43cm 38cm		
	141号～509号				141号～509号土坑・9・10区(鳥山下遺跡)
7区	510号土坑	X=34131 Y=-42993 ほぼ円形	30cm×21cm 50cm		
7区	511号土坑	X=34132 Y=-42993 円形	27cm×25cm 50cm		
7区	512号土坑	X=34134 Y=-42994 円形	28cm×28cm 24cm		
7区	513号土坑	X=34134 Y=-42995 ほぼ円形	25cm×23cm 25cm		
7区	514号土坑	X=34134 Y=-42996 楕円形	36cm×29cm 55cm		
7区	515号土坑	X=34134 Y=-42996 ほぼ円形	28cm×26cm 54cm		
7区	516号土坑	X=34132 Y=-42911 楕円形	50cm×43cm 64cm		
7区	517号土坑	X=34136 Y=-42998 楕円形	38cm×29cm 42cm		
7区	518号土坑	X=34136 Y=-42967 円形	38cm×33cm 35cm		
7区	519号土坑	X=34133 Y=-42917 楕円形	32cm×23cm 43cm		
7区	520号土坑	X=34133 Y=-42916 楕円形	33cm×21cm 35cm		
7区	521号土坑	X=34141 Y=-42996 隅丸長方形	165cm×80cm 36cm		7区55号住居跡内に重複し、新旧関係は本土坑跡の方が新しいものと判明

IV 遺構と遺物

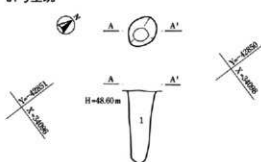
30号土坑



30号土坑 埋土

1: にぶい黄褐色土 少量の砂質ローム粒子と微量の黒褐色ブ
ロックを含む

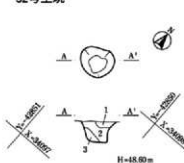
31号土坑



31号土坑 埋土

1: 黒色土 少量の砂質ローム土を部分的に含む

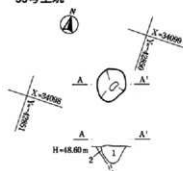
32号土坑



32号土坑 埋土

- 1: 黒色土 少量のローム層積層土と微量のローム粒子・榛名白色軽石を含む
- 2: にぶい黄褐色土 少量の砂質ロームブロックを含む
- 3: にぶい黄褐色土 多量の砂質ロームブロックを含む

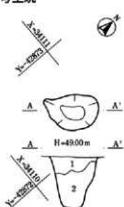
33号土坑



33号土坑 埋土

- 1: 黒色土 少量の砂質ローム土を部分的に含む
- 2: 黄灰色シルト土 噴砂

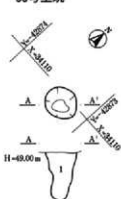
35号土坑



35号土坑 埋土

- 1: 暗褐色土 少量の砂質ローム粒子・榛名白色軽石を含む
- 2: 黒褐色土 少量の砂質ローム小ブロック・榛名白色軽石を含む

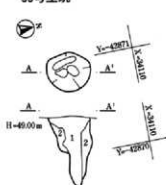
36号土坑



36号土坑 埋土

1: 黒褐色土 少量の砂質ローム小ブロック・榛名白色軽石を含む

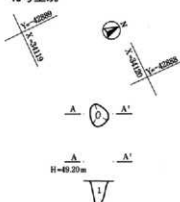
39号土坑



39号土坑 埋土

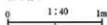
- 1: 黒褐色土 少量の榛名白色軽石を含む
- 2: にぶい黄褐色土 砂質ローム土に少量の黒褐色土ブロックを含む

40号土坑

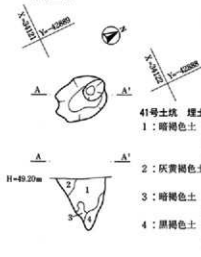


40号土坑 埋土

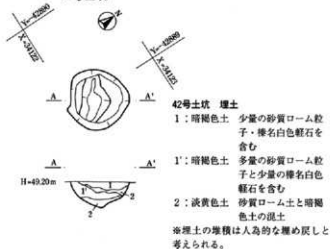
1: 暗褐色土 少量の砂質ローム粒子・榛名白色軽石を含む



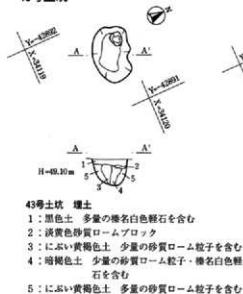
41号土坑



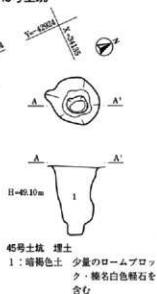
42号土坑



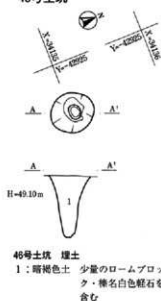
43号土坑



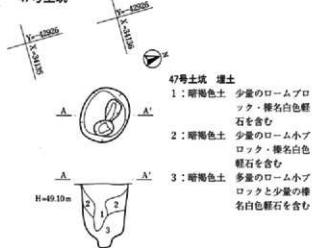
45号土坑



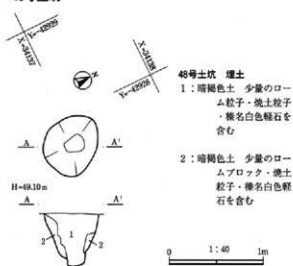
46号土坑



47号土坑



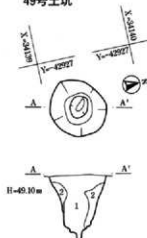
48号土坑



0 1:40 1m

IV 遺構と遺物

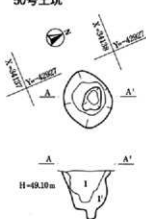
49号土坑



49号土坑 埋土

- 1: 暗褐色土 少量のローム粒子・焼土粒子・標名白色軽石を含む
 2: 暗褐色土 少量のロームブロック・焼土粒子・標名白色軽石を含む

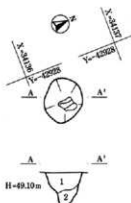
50号土坑



50号土坑 埋土

- 1: 暗褐色土 少量のローム粒子・標名白色軽石を含む
 1': 暗褐色土 1層土の硬化

51号土坑



51号土坑 埋土

- 1: 暗褐色土 少量のローム粒子・標名白色軽石・焼土粒子を含む
 2: 暗褐色土 少量のローム小ブロック・標名白色軽石・焼土粒子を含む

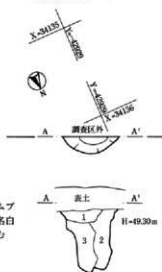
52号土坑



52号土坑 埋土

- 1: 暗褐色土 少量のロームブロック・標名白色軽石を含む

53号土坑



53号土坑 埋土

- 1: 暗褐色土 少量のローム小ブロック・標名白色軽石を含む
 2: 暗褐色土 少量の標名白色軽石と微量のローム小ブロックを含む
 3: 暗褐色土 少量の標名白色軽石とローム粒子を含む

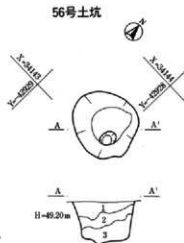
54号土坑



54号土坑 埋土

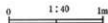
- 1: 暗褐色土 少量のローム小ブロック・標名白色軽石を含む

56号土坑



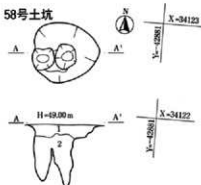
56号土坑 埋土

- 1: 暗褐色土 少量のローム粒子と微量の標名白色軽石を含む
 2: 暗褐色土 少量のローム小ブロックと微量の標名白色軽石を含む
 3: 暗褐色土 少量のロームブロックと微量の標名白色軽石を含む



2. 遺構と遺物

58号土坑



58号土坑 埋土

- 1: 暗褐色土 少量の播名白色軽石・ロームブロックを含む
2: 黒褐色土 少量の播名白色軽石と微量のロームブロックを含む

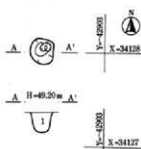
59号土坑



59号土坑 埋土

- 1: 暗褐色土 多量の播名白色軽石を含む

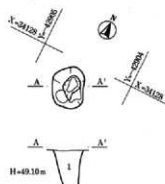
62号土坑



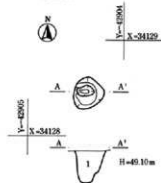
62・63・64号土坑 埋土

- 1: 暗褐色土 少量の播名白色軽石・ローム小ブロックを含む

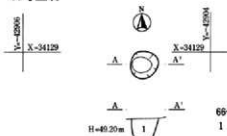
63号土坑



64号土坑



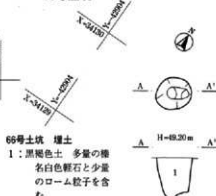
65号土坑



65号土坑 埋土

- 1: 黒褐色土 多量の播名白色軽石と少量のローム粒子を含む

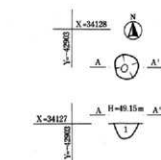
66号土坑



66号土坑 埋土

- 1: 黒褐色土 多量の播名白色軽石と少量のローム粒子を含む

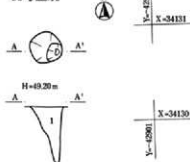
67号土坑



67号土坑 埋土

- 1: 黒褐色土 多量の播名白色軽石と少量の焼土粒子を含む

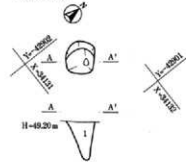
68号土坑



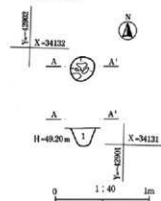
68・69・70号土坑 埋土

- 1: 黒褐色土 少量のロームブロック・播名白色軽石を含む

69号土坑

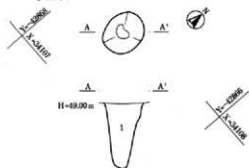


70号土坑



IV 遺構と遺物

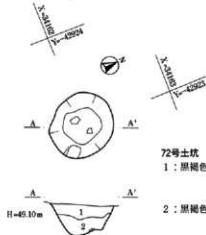
71号土坑



71号土坑 埋土

1: 黒褐色土 少量の雑名白色軽石と微量のローム粒子を含む

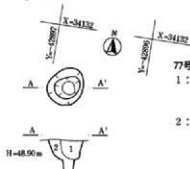
72号土坑



72号土坑 埋土

1: 黒褐色土 微量の灰青褐色粘土小ブロックを含む
2: 黒褐色土 微量のローム粒子を含む

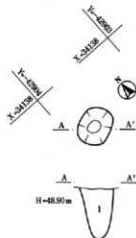
77号土坑



77号土坑 埋土

1: 褐色土 少量のローム粒子・雑名白色軽石を含む
2: 褐色土 少量の暗褐色土粒子・雑名白色軽石を含む

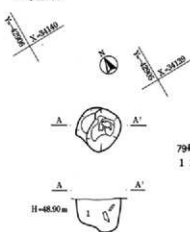
78号土坑



78号土坑 埋土

1: 黒褐色土 微量のローム粒子・焼土粒子・雑名白色軽石を含む

79号土坑



79号土坑 埋土

1: 黒褐色土 微量のローム粒子・雑名白色軽石を含む



0 1:40 1m

0 1:3 10cm

7区 79号土坑出土 遺物観察表

遺構名 遺物番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考
79号土坑 1	土師器 小型壺 (底部丸底)	埋土中 1/2	口径 12.0 底径 - 高さ -	①微・細・粗砂少 ②酸化偏、良好 ③にぶい赤褐色	外面=口縁部横ナデ、胴部ハケ目整形・ナデの後1へラ磨き。内面=ハケ目ナデ整形。	

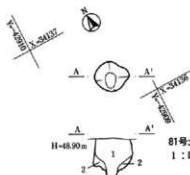
80号土坑



80号土坑 埋土

- 1: 暗褐色土 少量の褐色土
小ブロック・
標名白色軽石
を含む
- 2: 褐色土ブロック

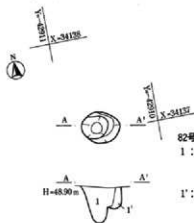
81号土坑



81号土坑 埋土

- 1: 暗褐色土 少量の焼土粒
子・標名白色
軽石を含む
- 2: 暗褐色土 少量の褐色土
ブロック・標
名白色軽石を
含む

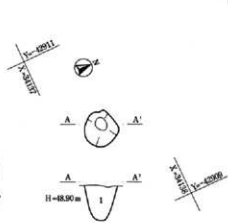
82号土坑



82号土坑 埋土

- 1: 黒褐色土 少量のローム
粒子・標名白
色軽石を含む
- 1': 黒褐色土 1層土に類似、
色調やや明る
い

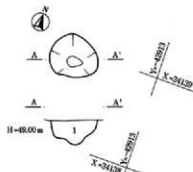
83号土坑



83号土坑 埋土

- 1: 暗褐色土 多量の褐色土小ブロックと微量の標名白
色軽石を含む

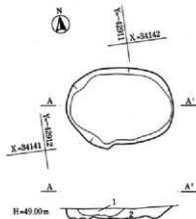
84号土坑



84号土坑 埋土

- 1: 黒褐色土 少量の褐色土粒子
と標名白色軽石を
含む

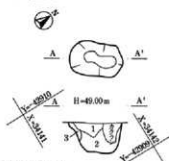
85号土坑



85号土坑 埋土

- 1: 黒褐色土 少量の褐色土粒子と微量の標名白
色軽石を含む
- 2: 褐色土 少量のローム粒子・黒褐色土小ブ
ロックと微量の標名白色軽石を含む

86号土坑



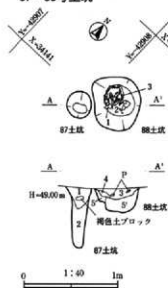
86号土坑 埋土

- 1: 黒色土 少量の黒褐色土小ブロック
と微量のローム粒子・標名
白色軽石を含む
- 2: 黒褐色土 多量のローム粒子と微量
の標名白色軽石を含む
- 3: 褐色土 微量のローム粒子・標名白
色軽石を含む

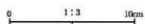
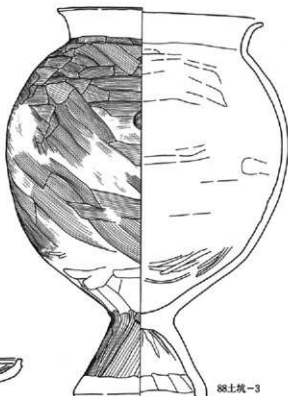
0 1:40 1m

IV 遺構と遺物

87・88号土坑



- 87・88号土坑 埋土
- 1: 黒褐色土 多量の褐色土小ブロック・棕名白色軽石を含む
 - 2: 黒褐色土 多量のローム粒子と少量の棕名白色軽石を含む
 - 3: 黒褐色土 少量の焼土粒子・棕名白色軽石を含む
 - 4: 黒褐色土 多量の焼土小ブロックと少量の棕名白色軽石を含む
 - 5: 黒褐色土 多量の褐色土小ブロックと少量の棕名白色軽石を含む
- 5': 黒褐色土 5層土に類似、締まり無く軟質



7区 88号土坑出土 遺物観察表

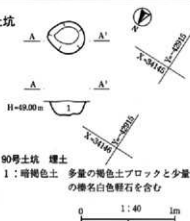
遺物番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考
88号土坑 1	土師器 砂台	確認-8cm 3/4	口径 7.4 底径 8.1 高さ 11.9	①微・細・粗砂少 ②酸化焙、良好 ③明赤褐色	坏部~脚部外面=ヘラナデ。坏部内面=ナデの後にヘラ磨き。脚部内面=ナデ。	
88号土坑 2	土師器 砂台	確認-10cm 2/3	口径 8.0 底径 (12.0) 高さ 7.9	①微・粗砂少 ②酸化焙、良好 ③黄褐色	外面=口縁端部横ナデ、坏体部~脚部ヘラ磨き。内面=坏部ナデの後に粗雑なヘラ磨き、脚部内ヘラナデ。	
88号土坑 3	土師器 台付甕	確認-13cm 一部欠	口径 16.4 底径 10.0 高さ 30.6	①微・細砂少 ②酸化焙、良好 ③にぶい黄褐色	外面=口縁~胴部下端細かい目の刷毛目調整、脚部外面=粗い目の刷毛目調整。内面=口縁部刷毛目調整、胴部ナデ、脚内ヘラナデ。	

89号土坑



- 89号土坑 埋土
- 1: 黒褐色土 少量の棕名白色軽石を含む
 - 2: 黒褐色土 少量の棕名白色軽石・砂質ロームブロックを含む
 - 3: 黒褐色土 微量の棕名白色軽石を含む

90号土坑

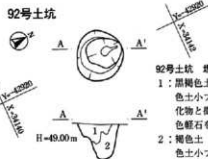


- 90号土坑 埋土
- 1: 暗褐色土 多量の褐色土ブロックと少量の棕名白色軽石を含む

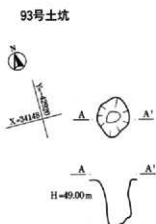
2. 遺構と遺物



91号土坑 埋土
1: 黒褐色土 少量の暗褐色土
小ブロック・ロ
ーム粒子・棒名
白色軽石を含む



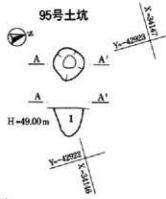
92号土坑 埋土
1: 黒褐色土 少量の褐
色土小ブロック・炭
化物和微量の棒名白
色軽石を含む
2: 褐色土 少量の黒褐
色土小ブロックと微
量の棒名白色軽石を
含む



93号土坑



94号土坑

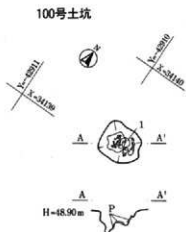


95号土坑

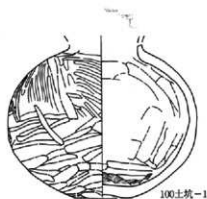
94・95号土坑 埋土
1: 黒褐色土 微量のローム粒子・棒名白色軽石を含む



96号土坑



100号土坑



100土坑-1

96号土坑 埋土
1: 暗褐色土 少量のローム小ブロック・焼土粒子・棒名白色
軽石を含む
2: 黒褐色土 少量のロームブロック・棒名白色軽石を含む
3: 黒褐色土 少量のローム小ブロック・棒名白色軽石を含む

0 1:40 3m

0 1:3 10cm

7区 100号土坑出土 遺物観察表

遺構名 遺物番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考
100号土坑 1	土師器 壺	壺土中 胴～底部	口径 - 底径 4.0 高さ -	①微・細砂少 ②酸化塩、やや不良 ③にぶい黄褐色	外面＝胴部上位ナデの後にヘラ磨き、胴部下位 ～底部丁寧なヘラナデ。内面＝胴部上位指ナ デ、底部付近ハケ目状のヘラナデ。	

IV 遺構と遺物

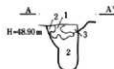
101号土坑



101号土坑 埋土

- 1: 暗褐色土 少量のローム粒子・標名白色軽石を含む
- 2: 黒褐色土 少量のロームブロックを含む
- 3: 暗褐色砂質土 少量のローム小ブロックを含む

※57号住居跡内に在り、住居より新しいと判明



102号土坑



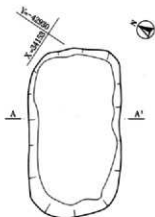
102号土坑 埋土

- 1: 暗褐色土 微量のローム大ブロック・ローム粒子を含む
- 2: 明褐色土 ローム土に少量の黒褐色土ブロック・標名白色軽石を含む

※57号住居跡内に在り、住居より新しいと判明



103号土坑

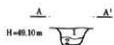
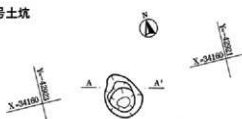


103号土坑 埋土

- 1: 黒褐色砂質土 少量の標名白色軽石・炭土粒子・炭化物を含む
- 2: 暗褐色砂質土 多量の砂質ロームブロック・黒色土ブロックを含む

H=49.10m

104号土坑



104号土坑 埋土

- 1: 黒褐色砂質土 少量の標名白色軽石を含む
- 2: 黒褐色土 酸化鉄分凝固あり

H=49.10m

105号土坑



105号土坑 埋土

- 1: 黒褐色土 少量のローム粒子と微量の標名白色軽石を含む
- 2: 黒褐色土 多量のローム粒子と微量の標名白色軽石を含む
- 3: 明褐色土 ローム土に少量の黒褐色土と微量の標名白色軽石を含む

H=48.80m

106号土坑



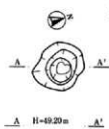
106号土坑 埋土

- 1: 黒褐色砂質土 少量の炭化物・標名白色軽石を含む
- 2: 黒褐色砂質土 少量の標名白色軽石と微量の黒色土を含む
- 3: 暗褐色土 少量のローム小ブロック・標名白色軽石を含む
- 4: 明褐色土 ローム土に少量の黒褐色砂質土・標名白色軽石を含む
- 5: 明褐色土 ローム土に少量の標名白色軽石と微量の黒褐色土を含む

H=49.20m

0 1:40 1m

107号土坑



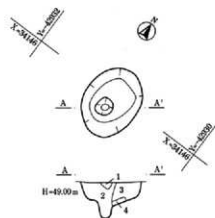
H=49.20m



107号土坑 埋土

- 1: 黒褐色砂質土 少量のローム小ブロック・標名白色軽石を含む
2: 黒褐色砂質土 少量のローム小ブロックと少量の標名白色軽石を含む

109号土坑

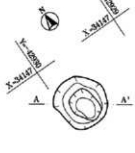


H=49.00m

109号土坑 埋土

- 1: 明褐色砂質土 白色小粒軽石 (As-C?) を含む
2: 黒褐色土 少量のローム粒子を含む
3: 黒褐色土 少量のローム粒子を含む
4: 黒褐色土 少量のローム粒子・ロームブロックを含む

108号土坑



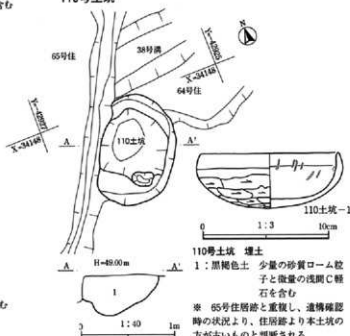
H=49.00m



108号土坑 埋土

- 1: 暗褐色土 少量の砂質ローム小ブロックを含む
2: 黒褐色土 少量の砂質ロームブロックを含む
3: 黒褐色土 少量の砂質ロームブロック・褐色土ブロックを含む
3': 黒褐色土 3層土よりロームブロックの混入量が多い
4: 黒褐色土 微量のローム粒子を含む

110号土坑



H=49.00m

110号土坑 埋土

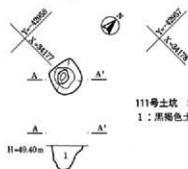
- 1: 黒褐色土 少量の砂質ローム粒子と微量の浅間C軽石を含む

※ 65号住居跡と重複し、遺構確認時の状況より、住居跡より本土坑の方が古いものと判断される

7区 110号土坑出土 遺物観察表

遺構名 遺物番号	種別 部種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①粘土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考
110号土坑 1	土師器 坏	埋土中 1/2	口径 - 底径 4.0 高さ -	①微・細砂少 ②酸化磁、良好 ③橙色	外面=口縁部横ナデ、体部~底部丁寧なヘラ削り。内面=全面ヘラナデ。	

111号土坑

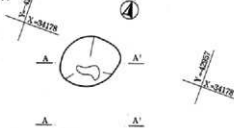


H=49.40m

111号土坑 埋土

- 1: 黒褐色土 微量のローム粒子・ロームブロック・標名白色軽石を含む

112号土坑



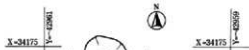
H=49.40m

112号土坑 埋土

- 1: 黒褐色土 少量のローム粒子・ロームブロック・薪移層土・標名白色軽石を含む

IV 遺構と遺物

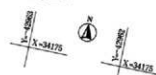
114号土坑



114号土坑 埋土

- 1: 黒褐色土 少量のローム粒子・ロームブロック・炭化物・標名白色軽石を含む
2: 黒褐色土 多量のローム粒子・ロームブロック・標名白色軽石を含む

116号土坑

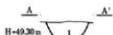
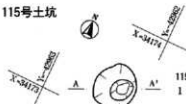


116号土坑 埋土

- 1: 黒褐色土 少量のローム粒子・ロームブロック・漸移層土標名白色軽石を含む



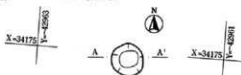
115号土坑



115号土坑 埋土

- 1: 黒褐色土 多量のロームブロックと少量の標名白色軽石と微量の黒色土ブロックを含む(人為的埋設土)

117号土坑



117号土坑 埋土

- 1: 黒褐色土 多量のローム大ブロックと少量の標名白色軽石を含む



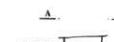
117土坑-1



7区 117号土坑出土 遺物観察表

遺構名 遺物番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考
117号土坑 1	土師器 埴	埋土中 1/5	口径 (11.0) 底径 - 高さ -	①胎土・細砂やや多 ②酸化塩、良好 ③にぶい暗色	外面=口縁部横ナデ。体部=底部丁寧ナデ。 内面=全面ナデ。	

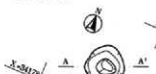
118号土坑



118号土坑 埋土

- 1: 黒褐色土 少量のローム粒子・ローム小ブロック・標名白色軽石を含む

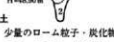
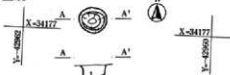
120号土坑



120号土坑 埋土

- 1: 黒褐色土 少量の標名白色軽石と微量のローム粒子を含む
2: 明褐色土 砂質ローム土に微量の黒色土ブロックを含む

119号土坑



119号土坑 埋土

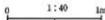
- 1: 黒褐色土 少量のローム粒子・炭化物・標名白色軽石と微量のロームブロックを含む
2: 黒褐色土 少量のローム小ブロック・標名白色軽石を含む

121号土坑

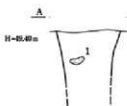
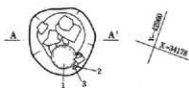


121号土坑 埋土

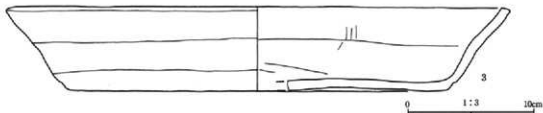
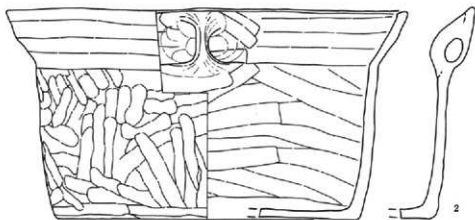
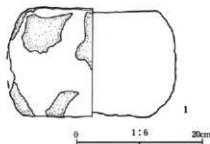
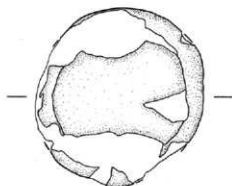
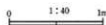
- 1: 黒褐色土 少量の標名白色軽石と微量のローム粒子を含む



122号土坑



122号土坑 埋土
1: 黒褐色砂質土 少量の礫名白色軽石と微量のローム粒子を含む



7区 122号土坑出土 遺物観察表

遺構名 遺物番号	種別 部種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①粘土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考
122号土坑 1	五輪帯 水輪	確認-37cm 略完形	長さ 26.3 巾 - 厚さ 17.1	石材 凝灰岩 重量 1.250g	笠懸町馬見岡凝灰岩製。上下面平頭。全体に丁寧な水磨きを施すが、露出面は剥落甚大。	
122号土坑 2	軟質陶器 内耳鍋 (破壊)	確認-45cm 1/4	口径 (31.7) 底径 (24.0) 高さ 16.6	①微・細砂ややま多 ②酸化焙、良好 ③凝灰色	外面=口縁部横ナデ、胴部指ナデ、底部一部ナデ。内面=口縁部横ナデ、底部ナデ。外面全体にスス付着。	
122号土坑 3	軟質陶器 内耳鍋 (破壊)	確認-45cm 1/5	口径 (38.0) 底径 (30.0) 高さ 6.7	①微・細砂ややま多 ②酸化焙、良好 ③灰褐色	外面=口縁部-体部横方向のナデ、底部横状敷物任気・一部へラ削り。内面=口縁-底部ナデ。	

IV 遺構と遺物

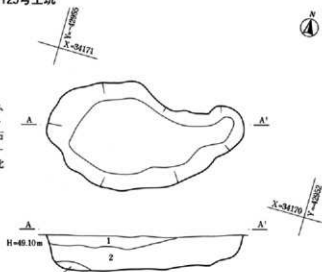
123号土坑



123号土坑 埋土

1: 黒褐色土 少量のローム小ブロック・種名白色軽石と微量のローム粒子・炭化物を含む

125号土坑



125号土坑 埋土

1: 暗灰褐色砂質土 多量の炭化物と少量の砂質ローム小ブロックを含む
2: 暗褐色砂質土 多量の砂質ロームブロック・黒色土ブロックを含む
3: 褐色土 多量の砂質ロームブロック・黒色土ブロックを含む
※ 86号住居跡と重複し、埋土の状況から本土坑跡の方が新しいものと判断される

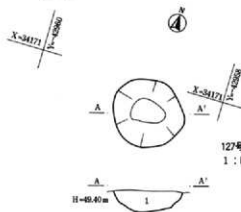
124号土坑



124号土坑 埋土

1: 黒褐色土 少量の種名白色軽石と微量のローム粒子を含む

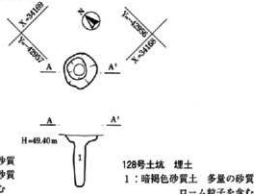
127号土坑



127号土坑 埋土

1: 暗褐色砂質土 多量の砂質ローム粒子と少量の砂質ロームブロックを含む

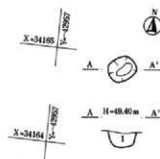
128号土坑



128号土坑 埋土

1: 暗褐色砂質土 多量の砂質ローム粒子を含む

129号土坑



129号土坑 埋土

1: 暗褐色砂質土 多量の砂質ローム粒子を含む

130号土坑

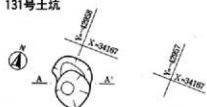


130号土坑 埋土

1: 黒褐色砂質土 少量の砂質ローム粒子を含む

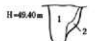
0 1:40 1m

131号土坑



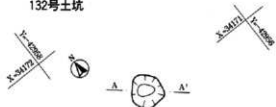
131号土坑 埋土

- 1: 暗褐色砂質土 多量の砂質ローム
小ブロックを含む
2: 黒褐色砂質土 多量の砂質ローム
ブロックを含む



H=49.40m

132号土坑



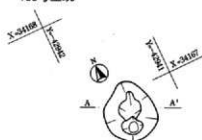
132号土坑 埋土

- 1: 暗褐色砂質土 少量の砂質
ローム粒子
と炭化物を
含む



H=49.40m

133号土坑



133号土坑 埋土

- 1: 黒色土 少量の褐色土ブロック・
焼土粒子・礫名白色軽石
を含む



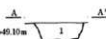
H=49.10m

134号土坑

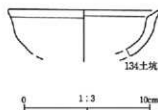


134号土坑 埋土

- 1: 黒色土 少量の褐色土ブロック・
焼土粒子・礫名白色軽石
を含む



H=49.10m



134土坑-1

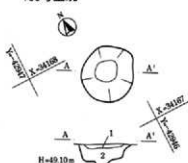
0 1:3 10cm

0 1:40 1m

7区 134号土坑出土 遺物観察表

遺構名 遺物番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考
134号土坑 1	土師器 坏	埋土中 破片	口径 (12.0) 底径 - 高さ -	①灰・細・粒砂少 ②酸化弱、良好 ③明赤褐色	口縁内斜。外面=口縁部~体部ナア。内面=器面 寬れ甚大のため整形不詳。	

135号土坑



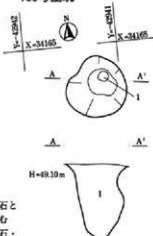
135号土坑 埋土

- 1: 黒色土 多量の礫名白色軽石と
少量の炭化物を含む
2: 褐色土 少量の礫名白色軽石・
ローム粒子を含む

H=49.10m

0 1:40 1m

136号土坑



136号土坑 埋土

- 1: 45号溝3層土と同じ

H=49.10m



136土坑-1

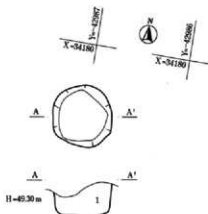
0 1:3 10cm

IV 遺構と遺物

7区 136号土坑出土 遺物観察票

遺構名 遺物番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考
136号土坑 1	須恵器 鉢	確認-18cm 完形	口径 12.9 底径 8.0 高さ 13.0	①灰・細砂やや多 ②還元焼、良好 ③灰色	ロクロ成・整形。外面=底部回転へラ調整。内面=器面摩成なし。	

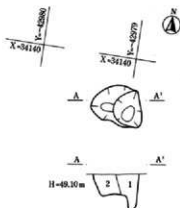
138号土坑



138号土坑 埋土

1: 黒褐色土 微量のローム粒子を含む

140号土坑



140号土坑 埋土

1: 黒色土 多量のローム小ブロックと少量の棕名白色軽石を含む
2: 黒色土 少量のローム小ブロック・棕名白色軽石を含む

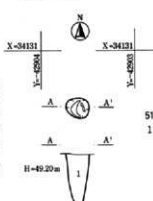
139号土坑



139号土坑 埋土
1: 暗褐色砂質土

少量のロームブロックと焼土粒子を含む

510号土坑



510号土坑 埋土

1: 黒褐色土 多量の棕名白色軽石と少量のローム小ブロック・焼土粒子を含む

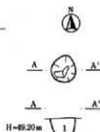
511号土坑



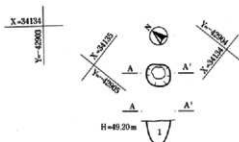
511号土坑 埋土

1: 黒褐色土 多量の棕名白色軽石と少量のローム層移層土ブロックを含む

512号土坑

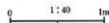


513号土坑

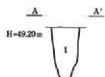
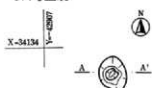


512・513号土坑 埋土

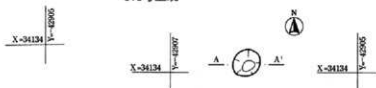
1: 暗褐色土 多量の棕名白色軽石と少量のローム小ブロック・焼土粒子を含む



514号土坑

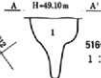
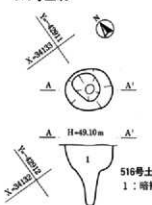


515号土坑

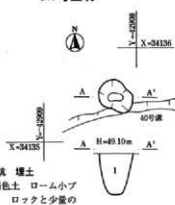


514・515号土坑 埋土
1: 暗褐色土 少量の棕色白色軽石・ローム
小ブロック・焼土粒子を含む

516号土坑

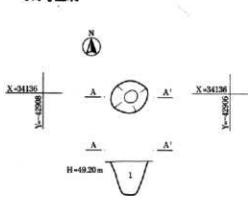


517号土坑



516号土坑 埋土
1: 暗褐色土 ローム小ブ
ロックと少量の
焼土粒子を含む

518号土坑



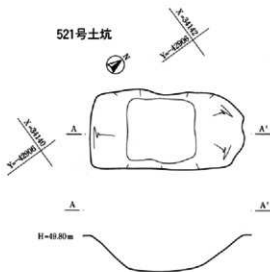
517・518号土坑 埋土
1: 暗褐色土 少量のローム小ブロックを含む

519号土坑

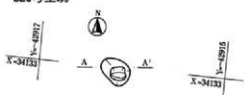


519号土坑 埋土
1: 黒褐色土 少量のロー
ム小ブロッ
クを含む

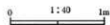
521号土坑



520号土坑



520号土坑 埋土
1: 暗褐色土 少量のローム小ブロックを含む



(5) 溝跡・水田跡

4・5・6区の溝跡

4号溝跡 (遺構図214頁-制図19 写真図版P.L15)

方位：N-8° -W

規模・形状等：5区中央部に位置し、ほぼ南北方向に直線的に走行する。幅14~210cm、残存深度7~19cmを測る。埋土に特徴も無く、出土遺物も無いため、時期は不明である。

出土遺物：なし。 重複遺構：なし。

6号溝跡 (遺構図202頁-制図7 写真図版P.L15)

方位：N-16° -W

規模・形状等：5区北端部付近に位置し、幅14~126cm、残存深度6~9cmを測るが、不定形を呈し、蛇行する。埋土内に水流の痕跡を示す細粒砂とヘドロ状粘質土の堆積が見られるが、人工的な溝跡とは考えられず、自然の水流跡と考えられる。

出土遺物：なし。 重複遺構：なし。

7号溝跡 (遺構図220頁-制図24 写真図版P.L18)

方位：N-19~68° -W

規模・形状等：6区中央付近の南側台地部に沿うように蛇行し、後に直線的に北へと走行する。上幅1.1~3.5m、深度40~70cm程を測る。埋土下層には水性堆積の細砂層が見られ、また、一部の溝岸に護岸のためのシガラを組んだと思われる打設杭列が検出されていることから、通水を目的とした溝跡であると判断される。遺構の時期については埋土内に僅かに榛名白色軽石が見られるのみで、出土遺物も重複遺構も無いため明らかではないが、6区下面の試掘トレンチ調査の結果、当該地下において古墳時代初頭の河道跡が検出されていることから、早くても古墳時代後期以降の溝跡であろうと推察される。

出土遺物：なし。 重複遺構：なし

8号溝跡 (遺構図197頁-制図2 写真図版P.L9)

方位：N-32° -W

規模・形状等：4区北端部、6区に接する所に位置し、幅120~280cm、残存深度5~13cmを測る。9・11号溝跡と並行し走行する。途中に未調査区(現道下)を挿むため明らかではないものの、位置関係から6区12号溝跡に接続するものと推察される。出土遺物：陶磁器・古銭・馬歯等出土。269頁参照。重複遺構：9・11号溝と重複し、新旧関係は埋土断面の状況から、本溝の方が新しいものと判断される。本溝の時期は、埋土内よりビニール片を伴うことから、土地改良事業時に埋没した溝跡と考えられる。

9号溝跡 (遺構図197頁-制図2 写真図版P.L9)

方位：N-37° -W

規模・形状等：4区から6区にかけて8・11・12・17号溝と並行して走行する。幅60~210cm、残存深度12~23cmを測る。

出土遺物：なし。 重複遺構：8号溝と重複し、埋土断面の状況より、本溝の方が古いものと判断され、また、埋土内に浅間B軽石を多量に含むため、本溝の時期は軽石降下後と判断される。

10号溝跡 (遺構図196頁-制図1 写真図版P.L9)

方位：N-45° -W

規模・形状等：4区北端部、6区に接する所に位置し、幅80~200cm、残存深度5~18cmを測る。21号溝と分岐し、途中に未調査区(現道下)を挿むため明らかではないものの、位置関係から6区19号溝跡に接続するものと推察される。

出土遺物：なし。 重複遺構：埋土断面及び断ち割り精査の結果、本溝跡は浅間B軽石堆積後しばらくした後に掘削されていることが判明した。また、11号溝と重複し、新旧関係は埋土断面の状況から、本溝の方が新しいものと判断される。

2. 遺構と遺物

11号溝跡 (遺構図198頁-削図3 写真図版P.L.9)

方位：N-39°-W

規模・形状等：4区北寄りに位置し、幅80~250cm、残存深度9~27cmを測り、8・9・10号溝に並行し走行する。

出土遺物：磁器碗出土。271頁参照。

重複遺構：8号・10号溝と重複し、埋土断面の状況より、本溝の方が古いものと判断され、また、本溝の時期は浅間B軽石層を直接切って造られていることから、浅間B軽石堆積後と判断される。

12号溝跡 (遺構図230頁-削図34 写真図版P.L.19)

方位：N-39°-W

規模・形状等：6区南端部、4区に接する場所に位置し、幅250~380cm、残存深度10~44cmを測り、9・17・19・20号溝跡に並行し走行する。途中で未調査区(現道下)を挿むため明らかではないものの、位置関係から4区8号溝跡に接続するものと推察される。

出土遺物：なし。重複遺構：14・17・19号溝跡と重複するが、新旧関係は明らかではない。

13号溝跡 (遺構図227頁-削図31 写真図版P.L.19)

方位：N-58°-E

規模・形状等：6区台地部より北東に走行し、上幅で1.3~3m、残存深度12~15cmほどを測り、断面形状はU字状から皿状を呈する。

出土遺物：埋土中より須恵器碗・土師器高環・土師器壺等が出土する。(270頁参照) また、埋土中にも榛名白色軽石が少量見られるため、古墳時代後期の溝跡と推察される。

重複遺構：15・16号溝跡の端部と重複をするが15・16号溝側の遺存状態が悪いため、新旧関係は不明である。

14号溝跡 (遺構図228頁-削図32 写真図版P.L.19)

方位：N-24°-W

規模・形状等：6区12号溝より分岐し、後に15号溝跡とほぼ並行し、やや蛇行しながら北西に向け走行

する。溝の上幅は1.5~3m、残存深度は20~30cmほどを測り、断面形状は皿状を呈する。

出土遺物：なし。重複遺構：12・15・16号溝跡と重複し、埋土の状況から15号溝よりは新しく、16号溝よりは古いものと判断される。

15号溝跡 (遺構図228頁-削図32 写真図版P.L.19)

方位：N-32°-W

規模・形状等：6区14号・16号溝に挟まれるように位置し、幅90~220cm、残存深度14~18cmを測り、両溝と並行し走行する。埋土内には水性堆積の砂層が確認され、水路としての用途を持つものと考えられる。

出土遺物：なし。重複遺構：埋土断面の観察から、本溝は同一の流域内で2時期の使用が認められ、重複する14号溝跡とは多少の前後はあるものの、同時存在していたものと推察される。

16号溝跡 (遺構図228頁-削図32 写真図版P.L.19)

方位：N-21°-W

規模・形状等：6区19号溝に接続し、幅220~420cm、残存深度18~37cmを測り、14・15号溝に並行し走行する。

出土遺物：なし。重複遺構：13・14号溝跡と重複するが、新旧関係は明らかではない。

17号溝跡 (遺構図232頁-削図36 写真図版P.L.19)

方位：N-36°-W

規模・形状等：6区12号溝に並行・重複し走行する。出土遺物：なし。重複遺構：12号溝に重複し、新旧関係は遺構平面確認時の状況から、12号溝跡より古いものと判断される。

18号溝跡 (遺構図211頁-削図16 写真図版P.L.10)

方位：N-20°-W

規模・形状等：4区調査区内を南北に横断する。上幅で50~73cm、下幅で25~45cm、深度50cmを測る。上層部で遺物の集積が見られ、当初29号土坑と

IV 遺構と遺物

して取り扱う。調査区内での延長は22.4mを測り、北側底面と南側底面の比高差は僅かに北側が高い。断面形状は箱形に近いU字形を呈し、底面は凹凸無く傾斜する。埋土内には極細砂堆積が見られるが、水流の痕跡を示す程ではない。本溝は33号溝と交差した後に立ち上がる。33号溝とは新旧関係が有り、分岐とは考えられず、水路としての可能性も低いことから、本溝は単独の境界区画溝と推察される。

出土遺物：土師器坏・壳・長胴壳・壺、須恵器蓋等を出土する。(271頁～を参照。)

重複遺構：33号溝跡と重複し、埋土断面の状況より、本溝の方が新しいものと判断される。

19号溝跡 (遺構図233頁-側面37 写真図版P.L.20)

方位：N-35° -W

規模・形状等：6区16号溝に接続し、幅115～200cm、残存深度14～20cmを測り、12号溝に並行して走行する。途中で未調査区(現道下)を挿むため明らかではないものの、位置関係から4区10号溝跡に接続する可能性もある。埋土最下層に浅間B軽石が堆積していることから、周辺水田跡と共に噴火降灰直前まで機能していたものと考えられるが、埋土のB軽石上にも若干の水性堆積層が見られることから、降灰後の通水も考えられる。

出土遺物：なし。 **重複遺構：**12号溝と重複し、新旧関係は埋土断面の観察より、本溝跡の方が古いものと判断される。

20号溝跡 (遺構図232頁-側面36 写真図版P.L.20)

方位：N-31° -W

規模・形状等：幅30～50cm、残存深度6～11cmを測り、6区19号溝に並行し走行する。断続するものの、位置関係から22号溝に接続する可能性もある。**出土遺物：**なし。 **重複遺構：**16・21号溝に重複し、遺構平面確認時の状況から、本溝跡の方が新しいものと判断される。

21号溝跡 (遺構図196頁-側面1 写真図版P.L.10)

方位：N-0° -53° -E

規模・形状等：4区10号溝跡から分岐し、幅40～115cm、残存深度3～5cmを測り、調査区外へ向かい走行する。

出土遺物：なし。 **重複遺構：**20号溝に重複し、遺構平面確認時の状況から、本溝跡の方が古いものと判断される。

22号溝跡 (遺構図196頁-側面1 写真図版P.L.10)

方位：N-14° -W

規模・形状等：4区北端部に位置し、幅40～52cmを測り、直線的に走行するが、北側が上面の削平を受け欠失する。時期は不明。

出土遺物：なし。 **重複遺構：**21号溝跡と重複し、遺構平面確認時の状況より、本溝跡の方が新しいものと判断される。

23号溝跡 (遺構図198頁-側面3 写真図版P.L.10)

方位：N-57° -E

規模・形状等：4区北端部に位置し、幅58～190cm、残存深度8～18cmを測り、他の溝と異なり東西方向に走行する。時期は不明。

出土遺物：なし。 **重複遺構：**24号溝と直交し重複する。遺構平面確認時の状況より、本溝跡の方が新しいものと判断される。

24号溝跡 (遺構図200頁-側面5 写真図版P.L.11)

方位：N-30° -W

規模・形状等：4区北端部に位置し、幅80～110cm、残存深度4～6cmを測り、南北方向に走行する。上面の削平により南側が欠失する。時期は不明。

出土遺物：なし。 **重複遺構：**11・23号溝跡と重複し、遺構平面確認時の状況より、両溝跡より古いものと判断される。

25号溝跡 (遺構図200頁-側面5 写真図版P.L.11)

方位：N-20° -W

規模・形状等：4区中央部北寄りに位置し、幅45～150cm、残存深度5～9cmを測り、調査区に沿って走行する。等高線に沿うように走行し、26号溝跡とはほぼ並行する。

出土遺物：なし。重複遺構：埋土断面及び断ち割り精査の結果、本溝跡は浅間B軽石堆積後しばらくした後に掘削されていることが判明した。

26号溝跡 (遺構図201頁-削図6 写真図版P.L11)

方位：N-17°-E

規模・形状等：4区中央部北寄りに位置し、幅40～130cm、残存深度7～22cmを測り、その走行は等高線に沿うように25号溝跡とはほぼ並行する。25号溝跡とは埋土・形状・走行が類似しているため、恐らくは通水ルートも同じであろうと推察される。

出土遺物：なし。重複遺構：埋土断面及び断ち割り精査の結果、本溝跡は浅間B軽石堆積後しばらくした後に掘削されていることが判明した。

27号溝跡 (遺構図208頁-削図13 写真図版P.L11)

方位：N-78°-E

規模・形状等：4区中央南寄りに位置し、幅100～195cm、残存深度15～18cmを測り、東西方向に走行する。溝岸部にしがらを組んだ枕列が残る。

出土遺物：なし。重複遺構：4区浅間B軽石直下水田の大畔跡と重複し、新旧関係は遺構平面確認時の状況より、本溝跡の方が新しいものと判断される。

28号溝跡 (遺構図208頁-削図13 写真図版P.L13)

方位：N-78°-E

規模・形状等：4区中央南寄りに位置し、幅25～55cm、残存深度1～4cmを測り、27号溝に沿うように東西方向に走行する。

出土遺物：なし。重複遺構：4区浅間B軽石直下水田の大畔跡と重複し、新旧関係は遺構平面確認時の状況より、本溝跡の方が新しいものと判断される。

29号溝跡 (遺構図210頁-削図15 写真図版P.L12)

方位：N-4°-E

規模・形状等：4区南端部に位置し、幅90～190cm、残存深度7～11cmを測り、南北方向に直線的に走行する。

出土遺物：なし。重複遺構：なし。

30号溝跡 (遺構図210頁-削図15 写真図版P.L12)

方位：N-0°-E

規模・形状等：4区南端部に位置し、幅28～75cm、残存深度5～10cmを測り、南北方向に直線的に走行する。時期は不明。

出土遺物：なし。重複遺構：31号溝跡と重複するが、新旧関係は明らかではない。

31号溝跡 (遺構図211頁-削図16 写真図版P.L12)

方位：N-50°-E

規模・形状等：4区南端部に位置し、幅110～290cm、残存深度5～18cmを測り、等高線に直交し東西方向に走行。調査区端において分岐の様相も見られる。

出土遺物：なし。重複遺構：30号溝跡と重複するが、新旧関係は明らかではない。

32号溝跡 (遺構図211頁-削図16 写真図版P.L12)

方位：N-37°-E

規模・形状等：4区南端部に位置し、幅65～80cm、残存深度14～27cmを測り、東西方向に走行する。埋土に多量の浅間C軽石を含む。

出土遺物：なし。重複遺構：なし。

33号溝跡 (遺構図211頁-削図16 写真図版P.L12)

方位：N-24°-E

規模・形状等：4区南端部に位置し、幅85～140cm、残存深度13～33cmを測り、埋土に浅間C軽石を含む。

出土遺物：なし。重複遺構：18号溝跡(古墳時代)と重複し、新旧関係は埋土の堆積状況より、本溝跡の方が古いものと判断される。

IV 遺構と遺物

34号溝跡 (遺構図206頁-削図11 写真図版P L12)

方位: N-22° -W

規模・形状等: 4区中央部に位置し、残存深度39~65cmを測り、路線に沿って走行する。調査時には8号溝跡として調査される。昭和40年代の圃場整備客土で埋められていることから、当時まで使用された溝跡と判断される。

出土遺物: なし。 重複遺構: なし。

4区・5区水田跡

畔跡A (遺構図200頁-削図5 写真図版P L13)

方位: N-24° -W

規模・形状等: 4区中央部北寄りに位置し、幅45~80cm、残存盛土高1~3cmを測る。A・B・D地点の畔は一連のものと思われ、地形変換点の等高線に沿って造られている。残念ながらA地点の北側は上面の削平により検出し得なかった。

検出時には浅間B軽石純層に覆われており、断ち割り調査の結果、水田耕作土と同一土壌によって構築されていることが判明した。

重複遺構: なし。

畔跡B (遺構図203頁-削図8 写真図版P L13)

方位: N-26° -W

規模・形状等: 4区中央部北寄りに位置し、幅50~80cm、残存盛土高1~3cmを測る。

重複遺構: なし。

畔跡C (遺構図203頁-削図8 写真図版P L13)

方位: N-68° -E

規模・形状等: 4区中央部北寄りに位置し、幅90~150cm、残存盛土高2~5cmを測る。B・D地点の中間に位置し、これより分岐、等高線に直交し東西方向に走行するが、調査区端での検出のため、延長の様相は明らかではない。

重複遺構: なし。

畔跡D (遺構図203頁-削図8 写真図版P L13)

方位: N-3° -W

規模・形状等: 4区中央部北寄りに位置し、幅70~100cm、残存盛土高2~10cmを測る。

重複遺構: なし。

4区大畔跡 (遺構図208頁-削図13 写真図版P L13)

方位: N-18° -E

規模・形状等: 4区中央南寄りに位置し、幅105~200cm、残存盛土高5~14cmを測る。並行する2条の畔の間全幅は355~500cmを測る。やや蛇行しながら等高線に交差し東西方向に走行する。両畔の間は水路跡と考えられるが、調査範囲内においては畔を切った取水または排水の水口は確認できなかった。水路幅は西側の方がやや広い。検出時には浅間B軽石純層に覆われており、断ち割り調査の結果、水田耕作土と同一土壌によって構築されていることが判明した。また、一部小畔への分岐が見られるが、遺存状態が悪く、その延長は検出し得なかった。

重複遺構: 27・28号溝跡と重複し、新旧関係は遺構確認時の状況より、本畔跡の方が古いものと判断された。

5区大畔跡 (遺構図209頁-削図14 写真図版-)

方位: N-78° -E

規模・形状等: 5区南端部に位置し、幅65~210cm、残存盛土高5~15cmを測る。やや蛇行しながら等高線に交差し東西方向に走行し、並行する2条の畔の間全幅は175~235cmを測る。両畔の間は水路跡と考えられ、検出時には浅間B軽石純層に覆われており、その規模と形状が隣接する4区側の大畔跡と酷似することから、その延長と推察される。

重複遺構: なし。

4・5区溝跡全体図（割図索引）

